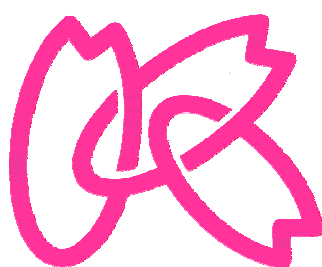


北区男女共同参画に関する意識・意向調査
報 告 書



平成 20 年 10 月

北 区

はじめに

北区では、平成 15 年 6 月に男女共同参画社会をめざす行動計画「第 3 次北区アゼリアプラン」を策定し、平成 18 年 6 月には、基本理念を定めた「北区男女共同参画条例」を策定するなど、男女共同参画に関する施策を総合的に推進しております。

また、国においては、平成 11 年に「男女共同参画社会基本法」が制定され、平成 17 年 12 月には、「第 2 次男女共同参画基本計画」が策定されました。さらに、平成 18 年 6 月には、「男女雇用機会均等法」の一部改正、平成 19 年 7 月には、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が一部改正されるなど、男女共同参画に向けた社会づくりが着実に進められています。

こうした中で、区民の皆さまの男女共同参画に関する意識や意向、さらには地域団体、企業、学校での男女共同参画の現状を把握し、今後の「第 4 次北区アゼリアプラン」策定の基礎資料とするとともに、これからの男女共同参画施策に反映させるため本調査を実施いたしました。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただきました区民の皆さまに心からお礼申し上げます。

平成 20 年 10 月

子ども家庭部男女共同参画推進課

目 次

第1章 調査の概要

I 調査の目的	1
II 調査の概要	1
1. 調査の種類および対象者	
2. 調査の設計	
3. 調査方法	
4. 調査期間	
5. 回収結果	
6. 調査項目	
III 調査結果の見方	3

第2章 調査結果の概要

I 一般男女	5
II 企業経営者	11
III 町会・自治会	15
IV 区立中学校2年生男女	17

第3章 調査結果【一般男女】

I あなた自身について	21
II 家庭生活について	23
*内閣府調査との比較（「男は仕事、女は家庭」という考え方）	
III 子育て・教育について	31
IV 職業・職場について	39
*内閣府調査との比較（女性が職業を持つことについて）	
*内閣府調査との比較（仕事と私生活の両立について）	
V 介護について	54
VI 健康について	60
VII 地域活動について	63
VIII 人権について	69
*内閣府調査との比較（ドメスティック・バイオレンスの経験）	
*内閣府調査との比較（被害を受けたときの相談相手）	
*内閣府調査との比較（相談しなかった理由）	
IX 男女共同参画について	84
*内閣府調査との比較（行政が力を入れるべきこと）	
X 男女共同参画センターについて	89

第4章 調査結果【企業経営者】

I 事業所について	101
II 女性の役職者について	106
III ワークライフバランスについて	108
IV セクハラ及びパワハラについて	120

第5章 調査結果【町会・自治会】

I あなた自身について	127
II 団体構成について	129
III 男女共同参画について	134

第6章 調査結果【区立中学校2年生男女】

I あなた自身について	141
II 家庭での生活について	142
III 学校での生活について	144

《参考資料》

資料 アンケート票【一般男女】	159
【企業経営者】	175
【町会・自治会】	183
【区立中学校2年生男女】	187

第 1 章

調査概要

第1章 調査の概要

調査の目的

本調査は、男女共同参画社会をめざす行動計画「アゼリアプラン」の見直しにあたっての基礎資料とすることを目的に実施したものです。

調査の概要

1. 調査の種類および対象者

調査種別	調査対象者
一般男女	区内在住の18歳以上の男女
企業経営者	区内に事業所があり従業員数が10人以上の企業の経営者
町会・自治会	区内の全町会・自治会会長、副会長もしくは役員
区立中学校2年生男女	区立中学校2年生男女

2. 調査の設計

調査種別	項目	内容
一般男女	ア．対象者数	2,000名
	イ．抽出方法	住民基本台帳から年代・地域別に層化二段無作為抽出
企業経営者	ア．対象者数	104社
	イ．抽出方法	企業名簿から無作為抽出
町会・自治会	ア．対象者数	会長179名、副会長等358名
	イ．抽出方法	全会長および副会長もしくは役員の中から男女1名ずつ抽出
区立中学校2年生男女	ア．対象者数	1,469名
	イ．抽出方法	区立中学校2年生男女全員

3. 調査方法

調査種別	方法
一般男女	郵送配付・郵送回収（督促状：1回送付）
企業経営者	
町会・自治会	地域振興室を通じて配付・回収
区立中学校2年生男女	学校を通じて配付・回収

4. 調査期間

調査種別	期間
一般男女	平成20年6月20日~7月6日
企業経営者	
町会・自治会	平成20年6月13日~7月7日
区立中学校2年生男女	平成20年6月6日~7月7日

5. 回収結果

調査種別	配付数	回収数	有効回収数	有効回収率
一般男女	2,000	898	895	44.8%
企業経営者	104	46	46	44.2%
町会・自治会	537	425	421	78.4%
区立中学校2年生男女	1,469	1,364	1,364	92.9%

6. 調査項目

調査種別	大項目
一般男女	あなた自身について 家庭生活について 子育て・教育について 職業・職場について 介護について 健康について 地域活動について 人権について 男女共同参画について 男女共同参画センターについて
企業経営者	事業所について 女性の役職者について ワークライフバランスについて セクハラ及びパワハラについて
町会・自治会	あなた自身について 団体の構成について 男女共同参画について
区立中学校2年生男女	あなた自身について 家庭での生活について 学校での生活について

調査結果の見方

- (1) 集計した数値(%)は小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値(%)をすべて合計しても、四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
- (2) 回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- (3) 図表に「-」と表示してあるのは、回答者がいなかった場合です。
- (4) 図表に「*」と表示してあるのは、対象者がいなかった場合です。
- (5) 図表の中でアンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、要約して短く表現している場合があります。
- (6) 帯グラフの場合、割合が小さい項目はグラフの中に数値を表示すると見にくいため、グラフの下段に表示してあります。
- (7) 表では、特別の表記がない限り、%(小数点以下第1位まで)を表示しています。

第 2 章

調査結果の概要

第2章 調査結果の概要

一般男女

1. あなた自身について

(1) 性別・年齢

男性が42.7%、女性が55.0%でした。

年齢は、30歳代以上ではそれぞれの年代で15%を上回っていますが、20歳代未満は10%程度と少なくなっています。最も多い回答者は60歳代で、21.5%でした。

(2) 既婚・未婚

結婚を「している(事実婚を含む)」が63.0%で最も多く、「していない(未婚)」が22.2%、「していない(離別・死別など)」が14.1%になっています。

(3) 共働きの状況

結婚を「している(事実婚を含む)」と回答した564人のうち、「共働き」が44.1%、次いで「夫だけ働いている」が30.5%、「妻だけ働いている」が5.5%となっています。

(4) 子どもの有無

子どもが「いない」と回答した人が35.9%で最も多く、次いで「2人」が35.5%、「1人」が17.4%となっています。

「共働き」で子どもがいると回答した人が41.4%なのに対し、子どもがいないと回答した人では57.0%で、約6割を占めています。

(5) 世帯構成

世帯構成は、「親と独身の子ども(2世代家族)」が41.6%で最も多く、次いで「夫婦のみ」が26.3%、「ひとり暮らし」が17.8%となっています。

2. 家庭生活について

(1) 性別役割分担意識

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「そう思わない」が40.1%で最も多く、「どちらかといえばそう思う」が22.9%、「どちらともいえない」が17.2%で続いています。

70歳以上の男性は、「そう思う」という回答が最も多く、50歳代以下の男性および60歳代以下の女性は、「そう思わない」が最も多くなっています。

*内閣府調査との比較 (「男は仕事、女は家庭」という考え方)

内閣府調査の類似質問と比較すると、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、内閣府調査では44.8%なのに対し、本区調査では38.4%と6ポイント程度低くなっています。

一方、「そう思わない」あるいは「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合は、内閣府調査では52.1%なのに対し、本区調査では59.2%で7ポイント程度高くなっています。

(2) 家事分担の状況

家庭での男女の役割で望ましいと思うものは、「男女とも仕事をし、家事・育児は男女が分担する」が最も高く、過半数を占めています。次いで「男性が仕事、女性は家事・育児を分担する」が27.0%、「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする」が6.9%になっています。また、年齢が高くなるにつれ「男性が仕事、女性は家事・育児を分担する」という回答が多くなっていることが分かります。

3. 子育て・教育について

(1) 男の子・女の子の育て方

“a) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい”は、「そう思う」と回答した人が38.3%で最も多くなっています。

“b) 女の子も経済的に自立ができるように育てるのがよい”“f) 子育てには地域社会の支援も必要である”は、「そう思う」と回答した人が6割を占めています。

“c) 男の子も家事ができるように育てるのがよい”“d) 男の子も女の子も同じ程度の学歴を持つほうがよい”は、「そう思う」と回答した人が半数を占めています。

“e) 父親は現在よりもっと子育てに関わるほうがよい”は、「そう思う」が47.5%で半数を下回っていますが、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、8割を超えています。

(2) 学校教育の場で必要なこと

学校教育で力を入れる必要があるかことは、「日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をする」が61.8%で最も多く、次いで「人権尊重の立場にたった性教育の充実」が41.8%、「教職員への男女平等研修の充実」が29.8%になっています。

4. 職業・職場について

(1) 職業とのかかわり方

「常勤の勤め」が33.2%で最も多く、「自営業・自由業・家族従業員」が15.8%、「パート・アルバイト・内職等の勤め」が14.5%と続いています。そのうち女性は、「常勤の勤め」「パート・アルバイト・内職等の勤め」「無職」が20%台で多くなっています。

また、「自営業・自由業・家族従業員」「常勤の勤め」「パート・アルバイト・内職等の勤め」と回答した人の働いている理由は、「生計を維持するため」が67.4%で最も多く、以下「働くのがあたりまえだと思うから」が37.9%、「将来に備えて貯蓄するため」が30.5%となっています。

仕事をやめた女性が再就職を希望する場合にどのような支援や対策が必要かは、「保育所等の施設を整備すること」が66.8%で最も高く、次いで「出産・育児などで退職しても、同一企業に採用されるようにすること」が61.1%、「パート労働条件の向上させること」が44.6%となっています。

仕事と私生活の両立についての考え方は、「仕事と私生活をバランスよく両立させる」が49.8%で約半数を占めています。以下「どちらかという仕事を優先する」が18.8%、「どちらかという私生活を優先する」が14.7%で続いています。男性は「どちらかという仕事を優先する」、女性は「どちらかという私生活を優先する」がやや多くなっています。

＊内閣府調査との比較（仕事と私生活の両立について）

内閣府調査では「家庭生活を優先」、「仕事、家庭生活を優先」が27.7%で最も多くなっており、本区調査とは傾向が大きく異なります。

（2）育児休業

男性が育児休業を取得することについて、「どちらかという取ったほうがよい」が37.3%で最も多く、次いで「取ったほうがよい」が33.6%で、合わせるとほぼ7割を占めています。

また「取ったほうがよい」という回答は、子どもがいる人が29.6%なのに対し、子どもがいない人は41.1%で、10ポイント以上高くなっています。

育児休業を男性が取りやすくするためには、「上司や同僚などの理解や協力があること」が76.1%で最も多く、次いで「復帰後の仕事が保障されること」が67.8%、「職場に利用しやすい雰囲気があること」が67.3%となっています。

「上司や同僚などの理解や協力があること」「昇進や昇格に影響がないこと」「復帰後の仕事が保障されること」では、男女間で大きな差があることがわかります。

（3）働きやすい職場とは

男女ともに働きやすい職場にしていくために重要なことは、「育児・介護休業などの両立支援制度が整うこと」が59.6%で最も多く、次いで「仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること」が54.7%、「社員の能力を適正に評価する仕組みが整うこと」が51.3%となっており、いずれも半数を上回っています。

「育児・介護休業などの両立支援制度が整うこと」「職場内保育所などの保育環境が整うこと」「契約・派遣社員などの労働条件が向上すること」「仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること」は、男性より女性の方が高くなっています。

5．介護について

（1）介護者の有無

介護を必要とする人は、「いない」が72.8%で最も多く、「過去にいた」が17.1%、「現在いる」が7.0%になっています。女性・50歳代では16.7%の人が「現在いる」と回答しています。また、男性・50歳代～70歳代以上、女性・40歳代～60歳代では20%前後の人が「過去にいた」と回答しています。

介護を必要とする人が現在いる、過去にいたという場合、主に介護している（いた）のは、「息子の配偶者」が20.4%で最も多く、以下「その他の親族」が18.1%、「妻」が17.6%で続きます。

（2）介護してほしい場所・人

介護が必要になった場合にどのように介護してもらいたいかについて、「施設に入り介護を受けたい」が48.8%、「在宅で介護を受けたい」が42.8%でした。

50歳代～70歳代以上の男性は、「在宅で介護を受けたい」という人が半数を占めており、女性は年齢に関係なく、「施設に入り介護を受けたい」という回答が半数を上回っています。

在宅で介護を受けたいという場合、主に誰に介護して欲しいかは、「妻」が27.9%で最も多く、次いで「有料の介護サービス」が23.5%、「娘」が16.7%で続いています。

男性は「妻」が最も多いのに対し、女性は「有料の介護サービス」となっています。

6. 健康について

(1) 健康診断

最近1年の健康診断の受診について、「勤務先」が33.0%で最も多く、次いで「区の健康診断」が24.9%、「受けなかった」が18.9%で続いています。

「区の健康診断」は、40歳代から徐々に増えていき、70歳代以上では約半数の人がそう回答しています。

また、20歳代以下～30歳代の女性は、約4割の人が「受けなかった」と回答しています。

(2) 日頃のストレス

日頃の生活でどの程度ストレスを感じているかは、「やや感じている」が約半数を占めており、以下「あまり感じていない」が22.6%、「非常に感じている」が20.7%になっています。

7. 地域活動について

(1) 地域活動への参加状況

地域活動への参加状況は、「町会や自治会の活動」が22.3%、次いで「趣味・学習・スポーツ活動」が13.4%、「保護者会やPTA活動」が7.5%となっています。

一方、「参加している活動はない」と回答した人は57.3%でほぼ6割を占めています。

参加している地域活動はないと回答した人のその理由は、「家事や仕事が忙しいから」が40.7%で最も多く、次いで「地域活動に関する情報が少ないから」が34.1%、「参加したい活動がないから」が25.9%で続いています。

また、50歳代以上の男性と60歳代以上の女性では、「自分の健康上の理由から」「人間関係がわずらわしいから」がそれぞれ多くなっています。

(2) 地域活動に参加しやすくするためには

地域活動に参加しやすくするために、必要なことは、「参加しやすい日時や場所を設定する」が60.7%で最も多く、以下「地域団体の取組みの広報」が34.0%、「労働時間の短縮やボランティア休暇など、就労環境を整備する」が22.7%となっています。

8. 人権について

(1) セクシャル・ハラスメントの経験

セクシャル・ハラスメントの経験について、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が5.0%、「容姿について傷つくようなことを言われた」が4.5%、「嫌がっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた」が2.6%で続いています。一方、「特になし」はほぼ8割に達しています。

セクシャル・ハラスメントとは、相手を不快にさせる性的言動のこと。女性が被害者に限定されることはなく、男性も被害者になりえます。発言も含め、身体をさわる、しつこく性的関係を強要する行為などのほか、性的経験や下着の色を聞く、異性関係のうわさを流すなども差します。

(2) 相談の有無

不快な経験があった人のその時の相談の有無については、「相談しなかった(できなかった)」が53.0%、「相談した」が35.9%でした。

その相談先は、「友人・知人に相談した」が59.5%で約6割に達しており、次いで「家族に相談した」が31.0%、「公共の機関に相談した」が7.1%となっています。

また、相談しなかった（できなかった）と回答した人の理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が46.8%で最も高く、「相談しても無駄だと思ったから」が38.7%、「自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけると思ったから」が24.2%で続いています。

（3）ドメスティック・バイオレンスの経験

ドメスティック・バイオレンスの経験は、「まったくない」が7割を超えており、“大声で怒鳴られた”“何を言っても無視された”などの項目は、「何度もあった」「1・2度あった」が10%程度になっています。

ドメスティック・バイオレンスとは、配偶者や恋人から振るわれる暴力のこと。（結婚の有無は問いません。）身体的暴力に限らず、精神的、経済的、性的等、あらゆる形の暴力が含まれます。

＊内閣府調査との比較（ドメスティック・バイオレンスの経験）

内閣府調査の“身体に対する暴力を受けた”では、「何度もあった」が3.8%、「1・2度あった」が17.1%、「まったくない」が77.7%となっており、本区調査より若干多くなっています。

（4）相談の有無

ドメスティック・バイオレンスの経験がある人のその時の相談の有無については、「相談しなかった（できなかった）」が54.1%、「相談した」が29.3%でした。

その相談先は、「友人・知人に相談した」が55.0%で最も多く、次いで「家族（親戚）に相談した」が45.0%、「医師に相談した」が10.0%となっています。

＊内閣府調査との比較（被害を受けたときの相談相手）

本区調査、内閣府調査ともに、「友人・知人に相談した」が最も多く、次いで「家族（親戚）に相談した」になっています。

また、相談しなかった（できなかった）と回答した人の理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」がほぼ7割に達しており、以下「自分にも悪いところがあると思ったから」が23.4%、「相談しても無駄だと思ったから」が19.8%で続いています。

＊内閣府調査との比較（相談しなかった理由）

本区調査、内閣府調査ともに、「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が過半数を占めており、「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけると思ったから」が2割程度となっています。

（5）ドメスティック・バイオレンスを防止するために必要なこと

ドメスティック・バイオレンス防止に必要なことは、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」が56.6%で過半数に達しており、次いで「緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援策」が44.1%、「カウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援策」が40.7%となっています。

共働きの女性では、「緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援策」が61.7%と6割を上回っています。

(6) メディアにおける性・暴力の表現

メディアにおける性・暴力の表現については、「性・暴力表現を見たくない人や、子どもの目にふれないような配慮が足りない」が 55.8%で最も多く、次いで「社会全体の性や暴力に関する倫理観が損なわれている」が 54.7%、「性暴力や性犯罪の増加につながる」が 42.2%となっています。

9. 男女共同参画について

(1) 北区の施策の認知度

“北区アゼリアプラン”の認知度は、「知らない」が 88.9%、「知っている」が 9.4%でした。

“北区男女共同参画条例”の認知度は、「条例を制定したことは知らない」がほぼ 8 割を占めており、「条例を制定したことは知っているが、条例の内容については知らない」が 16.3%、「条例を制定したことも、条例の内容についても知っている」は 2.6%でした。

北区男女共同参画条例は、平成 18 年 6 月に、すべての人が等しく尊重される豊かで暮らしやすい地域社会を実現することを目的に制定しました。

“北区苦情解決委員会”の認知度は、「北区苦情解決委員会を設置したことは知らない」がほぼ 9 割を占めており、「北区苦情解決委員会を設置したことは知っているが、内容については知らない」が 7.2%、「北区苦情解決委員会を設置したことも、内容についても知っている」は 1.0%でした。

北区苦情解決委員会は、平成 19 年 1 月に設置し、区民や区内事業者から、男女共同参画の推進に影響及び阻害するような事項に関する苦情の申出を受け付けています。

(2) 男女が共同で参画することを推進するために、北区が今後力を入れるべき施策

男女共同参画のために、北区が今後力を入れるべき施策は、「保育サービスの充実や子育て支援策の充実」が 44.5%で最も多く、「施設・在宅介護サービスの充実」が 42.2%、「育児・介護休業制度の普及など多様な働き方に向けた取組み」が 41.9%と続いています。

* 内閣府調査との比較（行政が力を入れるべきこと）

内閣府調査では、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が 57.0%で最も多く、「保育施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が 56.5%、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」が 55.7%でした。

10. 男女共同参画センターについて

(1) 北区男女共同参画センターの利用状況

男女共同参画センターの利用状況は、「施設があることを知らない」がほぼ 8 割を占めており、「知っているが利用したことはない」が 12.6%、「利用したことがある」が 2.8%でした。

利用目的は、「プラネタリウムの観覧」が過半数を占めており、次いで「図書コーナーの利用」が 32.0%、「学習・交流のための会議室利用」が 24.0%となっています。特に 30 歳代～50 歳代の女性が多く利用していることがわかります。

(2) 北区男女共同参画センターで力を入れて欲しいこと

北区男女共同参画センターで今後力を入れるべき事業は、「高齢者の問題に関する講座」がほぼ半数に達しており、以下「カウンセラー、弁護士などによる相談業務」が33.2%、「親子の問題に関する講座」が27.4%と続いています。特に子どもがいる人は、「子どもの問題に関する講座」「親子の問題に関する講座」「高齢者の問題に関する講座」に関心があることがわかります。

(3) 自由記述

北区の施策について：「“北区アゼリアプラン”や“北区男女共同参画推進条例”などを全く知らなかった」という意見が目立ちました。そこで「区の実施計画をもっとわかりやすく広報すべきだ」「情報を充実させて欲しい/入手しやすくして欲しい」という意見がある一方、「関心を持てた/一から勉強しようと思う」という意見も多数ありました。

男女共同参画社会について：「男女は同権であるが、同一ではない」「必要以上に意識せず、向いている人が向いていることをすればいいのでは」というような、個人の能力や個性を尊重し自然体で、という意見が多くありました。また、「行き過ぎた“男女平等”、“平等”や“共同”という言葉がひとり歩きしないように、本質がどこにあるのかを考えなければならない」という意見もありました。

意識改革・啓発について：「簡単に情報に触れる機会が欲しい」「看板や垂れ幕をつくってみては」という日頃の生活に関わることや、「地域交流ができるようなスペースやイベントを行って欲しい」「男女平等に対する小中学校からの教育/家庭内での教育」といったものまで幅広い意見がありました。

家庭生活、就業、社会参加について：「子どもが小学生になると急にサービスが低下するので、安心して働けるような学童環境の整備をして欲しい」「地域活動・ボランティアの充実」「様々な年代が交流できるようなセミナーや時間帯の設定」など地域のコミュニティーに関する意見や、「家庭と仕事が両立できるように」「男女の差がなくなるように」「結婚・出産後の職場復帰や再就職について」など企業の経営者の意識改革に関する意見などがありました。

その他：「色々な問題や悩みを相談できる場所や人の充実」「区健康診断を受けられる条件を広くして欲しい」というような意見がありました。

企業経営者

1. 事業所について

(1) 業種・従業員数

業種は「製造業」が39.1%で最も多く、以下「建設業」が15.2%、「卸売・小売業」が10.9%で続いています。

正社員数は、「30～49人」が28.3%で最も多く、次いで「100人以上」が26.1%、「10～29人」が19.6%で続いています。そのうち男性は「10～29人」が34.8%で最も多く、女性は「1～9人」が60.9%で過半数を占めています。

(2) 平均年齢・勤続年齢

男女別の平均年齢は、男性が45.8歳、女性が40.3歳でした。

また男性は「40~49歳」が67.4%で最も多く、以下「50歳以上」が19.6%、「30~39歳」が6.5%で続いています。女性は「30~39歳」が37.0%と最も多く、次いで「40~49歳」が34.8%、「50歳以上」が15.2%となっています。

男女別の勤続年数は、男性が17.0年、女性が10.0年でした。

男性は「10~19年」が45.7%で最も多く、以下「20~29年」が26.1%、「~9年」が13.0%で続いています。女性は「10~19年」が47.8%で最も多く、次いで「~9年」が39.1%となっており、平均勤続年数19年以下が8割を超えています。

(3) 事業所の性格

事業所の性格は、「本社・本店」が67.4%で最も多く、以下「単独事業所」が23.9%、「支店・営業所」が6.5%となっています。

労働組合の有無は、「無」が67.4%、「有」が30.4%となっています。

2. 女性の役職者について

(1) 役職者の人数、うち女性役職者

役職者数合計、うち女性の割合をみると、「役職者数合計」は1,205人、うち女性の割合は5.9%（71人）でした。同様に「役員」は221人、うち女性の割合は12.2%（27人）。「部長相当職」は214人、うち女性の割合は3.3%（7人）。「課長相当職」は770人、うち女性の割合は4.8%（37人）でした。

全体の平均役職者数は、「役職者合計」が27.4人、うち女性数は1.6人。「役員」が5.0人、うち女性数は0.6人。「部長相当職」が4.9人、うち女性数は0.2人。「課長相当職」が17.5人、うち女性数は0.8人でした。いずれの項目も女性数は2人を下回っています。

女性の役職者が少ないあるいは、全くいないという場合、その理由を聞いたところ、「必要な知識や経験、判断力等を有する女性がいらない」が41.3%で最も多く、次いで「将来役職者に就く可能性のある女性はいるが、現在役職に就くための在職年数を満たしているものがいらない」が37.0%、「女性が少ない、いない」が28.3%と続いています。

3. ワークライフバランスについて

(1) ワークライフバランスへの関心/取組み

ワークライフバランスの関心度は、「どちらかといえば関心がある」が37.0%、「関心がある」が23.9%になっており、合わせて6割程度が関心があると回答しています。一方、「どちらかといえば関心がない」は8.7%、「関心がない」は2.2%にとどまっています。

取組み状況は、「有給休暇を半日単位で取得できる」が60.9%で最も多く、次いで「短時間勤務制度」が45.7%、「始業、就業時刻の繰上げ、繰下げ」が43.5%となっています。

また、推進のために重要なことは、「上司・同僚の理解」が63.0%で最も多く、次いで「企業のトップの意識」が52.2%、「保育園等、社会環境の整備」が47.8%となっています。

ワークライフバランスとは、個人が子育て期、中高年期といった生涯の各段階に応じて、仕事と家庭・地域生活の調和が図れるよう働く環境を整備すること。

(2) 育児休業・介護休業制度

育児休業制度の有無は、「法定どおりの制度がある」が 89.1%、「法定を超える制度がある」が 4.3%になっています。また、法定を超える制度がある場合、その場合の子どもの年齢についてきたところ、「1.5歳」「2歳」がともに 50.0%でした。

平成 19 年度の育児休業制度の対象者の有無は、「対象者がいた」が 23.9%、「対象者がいなかった」が 73.9%になっています。また、対象者がいた場合の対象者数は、「1人」が 72.7%で最も多くなっています。

育児休業制度対象者がいた場合の利用者の有無は、全員が「利用した」と回答しました。

また、育児休業制度を利用した場合の代替要員の有無は、「代替要員の採用をした」が 63.6%で最も多く、次いで「社内の配置転換により代替した」が 27.3%、「代替はなかった」が 9.1%になっています。

介護休業制度の有無は、「法定どおりの制度がある」は 82.6%になっていますが、「法定を超える制度がある」という回答はありませんでした。

平成 19 年度の介護休業制度の対象者の有無は、「対象者がいた」が 10.9%、「対象者がいなかった」が 87.0%になっています。また、対象者がいた場合の対象者数は、全員が「1人」と回答しました。

介護休業制度対象者がいた場合の利用者の有無は、全員が「利用した」と回答しました。

また、介護休業制度を利用した場合の代替要員の有無は、全員が「代替はなかった」と回答しました。

(3) 配偶者出産休暇制度・看護休暇制度

配偶者出産休暇制度の有無は、「制度あり」が 43.5%、「制度なし」が 47.8%でした。また、制度あり場合の日数は、「3日」が 30.0%で最も多く、次いで「2日」が 20.0%、「98日」が 10.0%となっています。

配偶者出産休暇制度について制度がある場合、平成 19 年度の利用者の有無は、「利用者がいた」が 25.0%、「利用者がいなかった」が 65.0%でした。

また、利用者がいた場合の利用者数は、「1人」が 40.0%で、「2人」「10人」「26人」が 20.0%になっています。

看護休暇制度の有無は、「制度あり」が 34.8%、「制度なし」が 58.7%でした。また、制度ありの場合の日数は、「5日」が 56.3%で最も多く、「3日」「90日」「93日」「98日」が 6.3%になっています。

看護休暇制度について制度がある場合、平成 19 年度の利用者の有無は、「利用者がいた」が 12.5%、「利用者がいなかった」が 68.8%でした。また、利用者がいた場合の利用者数は、「1人」「2人」がともに 50%でした。

4. セクハラ及びパワハラについて

(1) セクシャル・ハラスメント防止の取組み状況

セクハラ防止の取組み状況は、「就業規則等に禁止を明文化」が 47.8%で最も多く、以下「特に取組みは行っていない」が 32.6%、「相談窓口の設置」が 30.4%で続いています。

(2) パワー・ハラスメント防止の取組み状況

パワハラ防止の取組み状況は、「特に取組みは行っていない」が45.7%で最も多く、以下「就業規則等に禁止を明文化」が26.1%、「相談窓口の設置」が13.0%で続いています。

パワー・ハラスメントとは、会社などで上司が部下に権力や地位を利用して、相手の人格を傷つける行為のこと。

(3) 一般事業主行動計画

“一般事業主行動計画”の策定については、「知っていた」が39.1%、「知らなかった」が54.3%でした。

また、策定の有無については、「策定する予定はない」が39.1%で最も多く、次いで「検討中」が24.0%で続いています。「策定済み」が13.0%、「策定中」が6.5%、「近いうちに策定」が8.7%で、策定に前向きに取り組んでいる事業所は3割弱にとどまっています。

一般事業主行動計画とは、「次世代育成対策推進法」では、国、地方公共団体とともに企業等にも仕事と家庭生活との両立が図れるよう、必要な雇用環境を整備することを求められました。ここで、「301人以上の労働者を雇用する事業主は、『一般事業主行動計画』を策定し、その旨を都道府県労働局へ届けること」を義務づけました。(300人以下は努力義務)

(4) 北区の施策の認知度

“北区男女共同参画条例”の認知度は、「条例を制定したことは知らない」が50.0%で最も多く、「条例を制定したことは知っているが、内容については知らない」が39.1%、「条例を制定したことも、内容についても知っている」が8.7%になっています。

“北区苦情解決委員会”の認知度は、「北区苦情解決委員会を設置したことは知らない」が73.9%で最も多く、「北区苦情解決委員会を設置したことは知っているが、内容については知らない」が19.6%、「北区苦情解決委員会を設置したことも、内容についても知っている」が4.3%になっています。

(5) 自由記述

「家庭的な経営のため、特段の問題は抱えていない」「言葉の説明がわかりにくい。一番利用したい人々に、もっとわかりやすく利用できるようにしてほしい」「ワークライフバランス：主婦ではなく主夫が増えると、こんなことはたいした問題にはならないと思うが、現実にはまだまだ専業主婦というかたちが多い」というような意見がありました。

町会・自治会

1. あなた自身について

(1) 性別・年齢

性別は、男性が59.4%、女性が38.2%でした。全体では男性の方が多く役職についています。また、会長/副会長では男性が多く、会計/その他の役職では女性の方が多くなっています。

年齢は、「70歳代」が43.9%で最も多く、次いで「60歳代」の34.9%になっており、60歳代以上の人が約8割を占めています。一方、20歳代～50歳代ではいずれも10%未満にとどまっています。

(2) 職業

職業は、「職業にはついていない」が29.9%で最も多く、次いで「自営業・自由業・家族従業員」が29.5%、「臨時・非常勤・パート・アルバイト・内職などの勤め」が13.5%となっています。

(3) 役職

回答者の役職は、「会長」が30.6%、「副会長」が34.9%、それ以外の方が29.7%でした。

(4) 住まい

回答者の住まいは、「王子地区」が34.4%、「赤羽地区」が38.7%、「滝野川地区」が24.7%でした。

2. 団体構成について（会長のみ回答）

(1) 町会・自治会に加入している世帯数

会長のみに対し、町会・自治会に加入している現在の世帯数をきいたところ、「499世帯以下」が35.7%で最も多く、「1000世帯以上」が31.0%、「500～999世帯以下」が25.6%でした。

(2) 副会長の人数

会長のみに対し、副会長の人数をきいたところ、「4人」が27.9%と最も多く、次いで「5人以上」が21.7%となっており、4人以上が約半数を占めています。

(3) 役員の選出方法

会長のみに対し、役員の選出方法をきいたところ、会長の選出方法は、「役員内で互選する」が38.8%で最も多く、「話し合い」が28.7%、「投票等の選挙」が14.0%で続きます。

また、副会長の選出方法は、「会長の指名」が35.7%で最も多く、「役員内で互選する」が28.7%、「話し合い」が19.4%で続きます。

(4) 役員の年齢

役員の年代別人数を男女別にみると、男性の20～40歳代は「0人」という回答が約半数を占めています。50～60歳代は「10人以上」が4割程度を占めており、70～80歳代では「1～4人」が半数を占めています。女性も男性と同様に、20～40歳代は「0人」という回答が約半数を占めており、50～60歳代は「10人以上」が4割程度、70～80歳代では「1～4人」が半数を占めています。

(5) リーダーに女性が少ない原因

会長のみに対し、女性リーダーが少ない原因をきいたところ、「女性自身がリーダーに就きたがらないから」が49.6%で最も多く、約半数を占めています。次いで「仕事や家事、育児が忙しく、地域活動に専念していないから」が22.5%、「学校や幼稚園等で役員を行っているから」が0.8%でした。

3. 男女共同参画について（全員が回答）

(1) 北区の施策の認知度

“北区男女共同参画条例”の認知度は、「条例を制定したことは知っているが、内容については知らない」が約半数を占めています。次いで「条例を制定したことも、条例の内容についても知っている」が20.4%で、約7割の人が北区男女共同参画条例を制定されたことを知っているということが分かります。一方、「条例を制定したことは知らない」と回答した人は16.4%となっています。

北区男女共同参画条例を制定されたことを知っているとは回答した場合、条例を何で知ったかをきいたところ、「北区ニュース」が84.8%と最も多く、8割に達しています。以下「町会・自治会や民生委員協議会などの会議の場」が18.6%、「条例のパンフレット」が11.7%と続いています。

“北区苦情解決委員会”の認知度は、「北区苦情解決委員会を設置したことは知らない」が約半数を占めています。次いで「北区苦情解決委員会を設置したことは知っているが、内容については知らない」が35.6%、「北区苦情解決委員会を設置したことも、内容についても知っている」が12.0%となっています。

(2) 男女共同参画についての話し合いの有無

男女共同参画について話し合いをしたことがあるかについては、「特に研修や懇談会で取り上げたことはない」が最も多く、8割を占めています。次いで「男女共同参画について話し合いをしたことがある」が7.8%、「女性の人権や配偶者やパートナーのような親密な関係にある人からの暴力について話し合いをしたことがある」が4.0%、「北区男女共同参画条例について話し合いをしたことがある」が3.1%となっていますが、話し合いをしたことがあるという項目はいずれも10%未満にとどまっています。

(3) 男女共同参画推進のための取組み

男女共同参画を推進するために、町会・自治会として既に取り組みられていることについて、「男女に関わらず、誰でも意見が言えるようにし、よい意見は取り上げていく」が57.2%で最も多く、次いで「男女に関わりなく、できるだけ多くの世代が行事に参加できるように工夫する」が55.6%、「役員等は、男女に関わりなく適性で選ぶようにする」が50.1%で続いており、いずれの項目も過半数を占めています。

(4) 自由記述

男女の特性について：「男女に関わらず個性を活かしたい」「男女共同参画には賛成だが、男女が同質でないのは明らか」という意見が多かった一方、「町会・自治会においては、まだ男性が優位なところも残っている」という意見もありました。

女性の起用について：「役員はほとんど男性が占めている」「役員の男女数を同数にして欲しい」という意見がある一方、「自治会やPTAは女性が多い」「自治会の役員をお願いすると、たいてい奥様が出てくるため、女性が多い」という意見も多く、最近では女性の進出が進んでいることがうかがえます。

意識改革・啓発・PRについて：「PR不足」「具体的にわかりやすくして欲しい」「子どもからお年寄りまで、みんながわかるよう周知方法をとって欲しい」「“男女共同参画”という言葉が堅苦しく、わかりづらい」といったPR・周知方法に関する意見が多数ありました。

また、「講習会や座談会をもっと開いて欲しい」「北とぴあ中心ではなく、地域の会館でも行って欲しい」といった参加に対する積極的な意見もありました。

高齢化/さまざまな世代の参加について：「自治会役員も高齢化が進み、若年層に声をかけているが、なかなか実現しない」「若い人はサラリーマンが多いため、参加は難しい」という意見がある一方、「若者の建設的な意見も取り入れたいが、年功序列や事例がないなどでなかなか進展しない」「役職間、老若間での厚い壁があり、若い人が入ってきにくいのも事実」というような意見もありました。

特に問題ない：「意識して取り上げなくても、当然のように男女共同参画がなされている」「町会役員会には女性が半数近く出席しているため、暗黙のうちに共同参画がなされている様子」「日頃、意識せず男女平等の行動をしている」といった意見がありました。

その他：「今まで知らなかったが、これを機に勉強したい」「自治会・町会でも取り上げ、推進していきたい」といった前向きな意見が多数ありました。

区立中学校2年生男女

1. あなた自身について

(1) 性別

性別は、男子が50.8%、女子が46.1%でした。

(2) 家族構成

一緒に住んでいる人は、「母親」が92.9%で最も多く、次いで「父親」が79.3%、「兄弟」が53.4%、「姉妹」が42.7%となっています。

2. 家庭での生活について

(1) 両親の職業の有無

回答者の両親の就労状況は「父・母は共働きである」が59.5%で最も多く、次いで「父親のみが働いている」が22.9%、「母親のみが働いている」が11.8%となっています。

(2) 家庭でしている仕事

家庭でしている仕事は、「食事の片づけ」が55.9%で最も多く、以下「そうじ」40.1%、「食事のしたく」35.3%と続いています。

3. 学校での生活について

(1) リーダーにふさわしいと思う人

リーダーにふさわしいと思う人は、「男女どちらでもかまわない」が84.2%で最も多く、以下「男子がふさわしい」が9.6%、「女子がふさわしい」が4.5%となっています。また、女子よりも男子の方がより同性がリーダーにふさわしいと考えていることがわかります。

(2) クラス・学校の様子

クラスのリーダーを決めるとき、「できればやりたくない」が56.6%で最も多く、以下「誰かに推薦されれば、立候補する」が29.2%、「自分から立候補する」が8.4%となっています。

クラスの様子については、「授業で手をあげて答えるのは男子が多い」が64.0%で最も多く、次いで「クラスの話し合いで発言するのは男子が多い」が33.9%となっています。

部活動に同性の仲間がいない場合、「あきらめる」が45.4%で最も多く、次いで「同性の仲間がいなくても希望する」が28.9%、「まわりの大人（親・先生など）に相談してみる」が14.5%となっています。

(3) 感じるストレス

ストレスを感じていることは、「特にストレスは感じない」が20.6%で最も多く、次いで「勉強」が19.2%、「友人関係（同性）」が14.1%となっています。男子は「特にストレスは感じない」が26.6%で最も多く、次いで「勉強」が22.4%となっています。一方、女子は「友人関係（同性）」が19.9%と最も多くなっています。

また、ストレスを感じたときの過ごし方は、「音楽を聴く」が56.1%で最も多く、以下「寝る」が49.0%、「マンガや雑誌を読む」が40.8%となっています。男子は「寝る」が47.8%で最も多く、次いで「ゲームをする」が46.5%、「音楽を聴く」が45.4%となっています。一方、女子は「音楽を聴く」が68.8%で最も多く、次いで「友だちとおしゃべりをする」が51.9%、「マンガや雑誌を読む」が43.6%となっています。

(4) 男らしさ・女らしさ

「男（女）だから しなさい。」と言われることについて調査したところ、「ときどき言われる」が42.4%、「言われたことがない」が41.9%でともに多くなっています。男子は「言われたことがない」が50.4%で最も多く、女子は「ときどき言われる」が49.4%で最も多くなっています。

「よく言われる」「ときどき言われる」と回答した場合、誰から言われたことがあるかをきいたところ、「母親」が71.3%で最も多くなっています。以下「父親」が34.1%、「祖父母」が18.9%と続いています。言われたときどのように思ったかをきいたところ、「いやだなと思った」が47.8%、「そのとおりだと思った」が28.8%となっています。

また、注意された内容については、「勉強のこと」が47.7%で最も多く、次いで「部屋の整理整頓」が43.3%、「ことばづかいや話し方」が39.4%となっています。

(5) 将来つきたい職業

“具体的な職業”は、全体では「プロのスポーツ選手」が16.6%で最も多く、次いで「保育士/幼稚園の先生」が11.8%、「医者・看護師・薬剤師」が6.1%となっています。男子は「プロのスポーツ選手」が29.6%で最も多く、以下「大工などの職人・技術者」が7.2%、「会社員・OL」が6.3%となっています。一方、女子は、「保育士/幼稚園の先生」が21.3%で最も多く、以下「医者・看護師・薬剤師」が8.8%、「美容師・理容師」が7.1%となっています。

“職種・条件”は、全体では「人の役に立つ仕事」が13.2%で最も多く、次いで「スポーツ関係の仕事」が12.7%、「動物関係の仕事」が9.1%となっています。男子は「スポーツ関係の仕事」が20.2%で最も多く、次いで「人の役に立つ仕事」が11.3%、「ある程度の収入がある仕事」が6.4%となっています。一方、女子は、「動物関係の仕事」が14.7%で最も多く、次いで「人の役に立つ仕事」が14.3%、「スポーツ関係の仕事」「音楽関係の仕事」がともに6.7%となっています。

(6) 女性が働くこと

女性が働くことについては、「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったらまた仕事をする」が24.9%で最も多く、次いで「結婚したり子どもができて、ずっと仕事を続ける」が18.2%、「結婚するまでは仕事をして、結婚したらやめる」が10.0%となっています。

(7) 「男女共同参画」の認知度

男女共同参画の認知度は、「知らなかった」が75.3%で圧倒的に多くなっています。「よく知っていた」「少し知っていた」は合わせて20%未満となっています。

第 3 章

調査結果【一般男女】

第3章 調査結果【一般男女】

あなた自身について

F1 あなたの性別をお答えください。

F2 あなたの年齢はおいくつですか。
(平成20年6月1日現在)

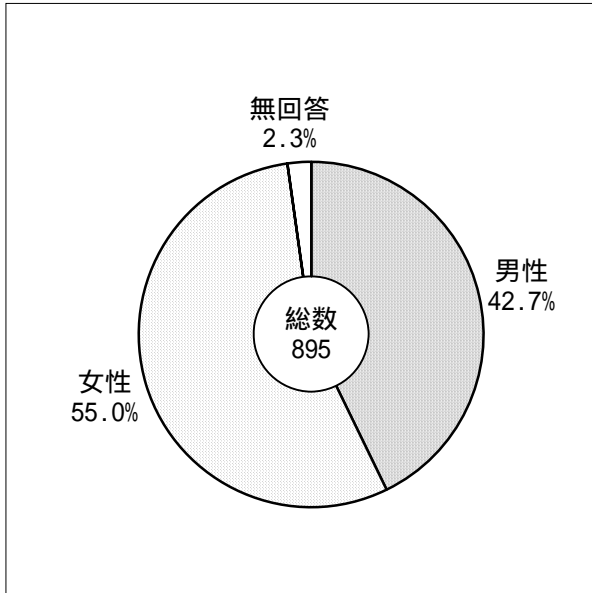


図 3-1 性別

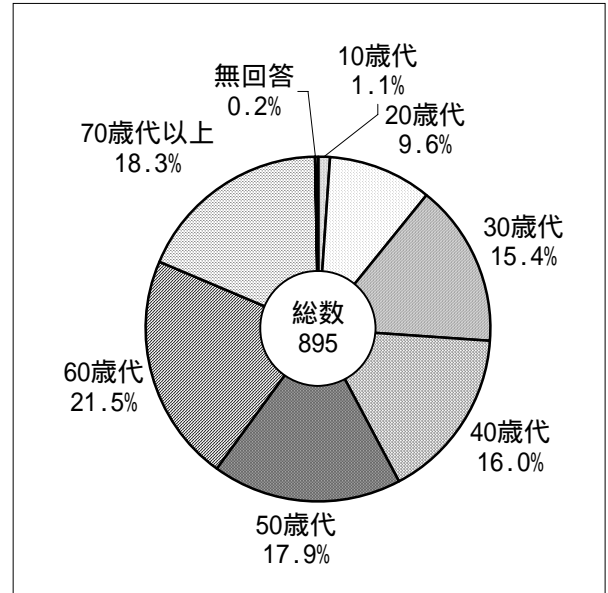


図 3-2 年齢

単位: % (5%未満非表示)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答
全体(895)	9.6	15.4	16.0	17.9	21.5	21.5	18.3	18.3
男性(382)	8.1	14.1	18.1	17.0	24.6	24.6	16.8	16.8
女性(492)	11.2	16.7	15.0	18.3	18.7	18.7	18.9	18.9

(注) 5%未満数値: 全体(1.1 0.2)男性(1.0 0.3)女性(1.2 -)

図 3-3 年齢/性別

F3 あなたは今、結婚していますか。

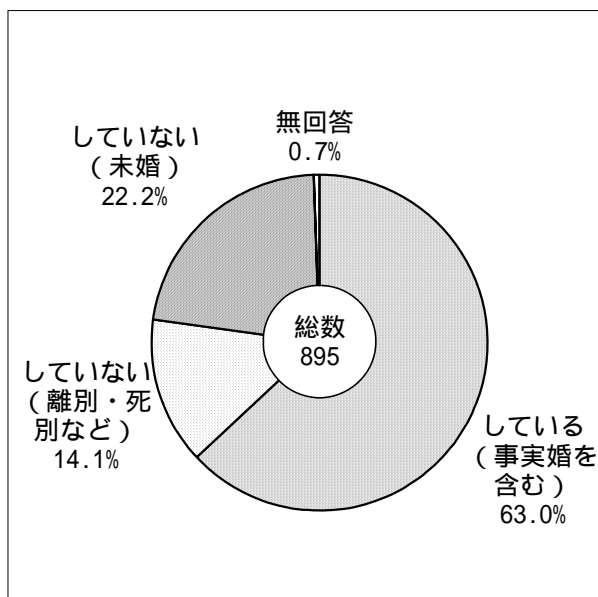


図 3-4 結婚の有無

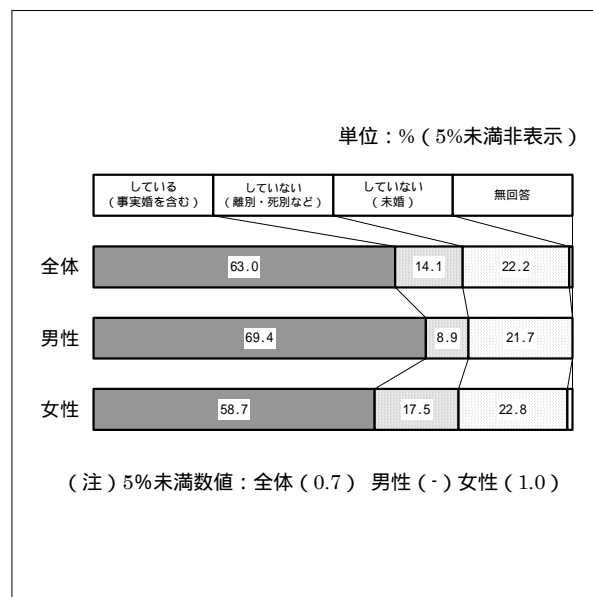


図 3-5 結婚の有無/性別

F3-1 F3で「1. している (事実婚を含む)」とお答えの方にお聞きします。あなたの世帯の働き方を教えてください。

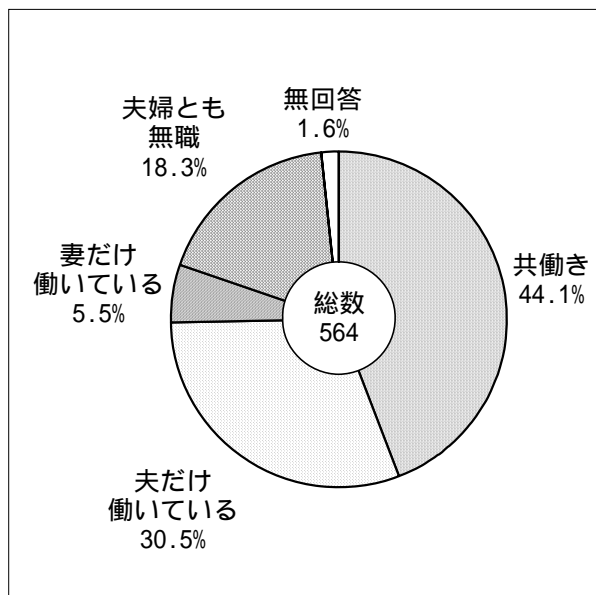


図 3-6 世帯の働き方

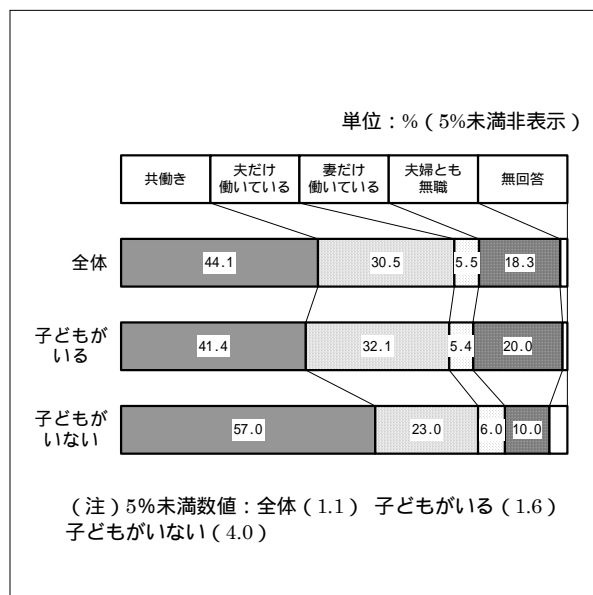


図 3-7 世帯の働き方/子どもの有無

F4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

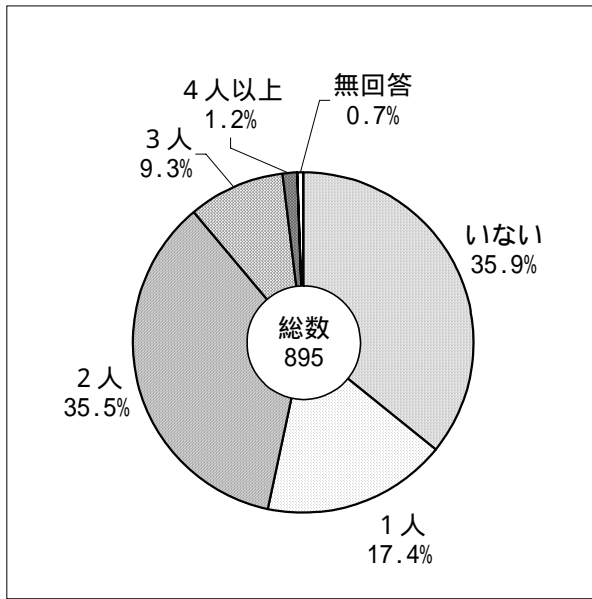


図 3-8 子どもの有無

F5 あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか

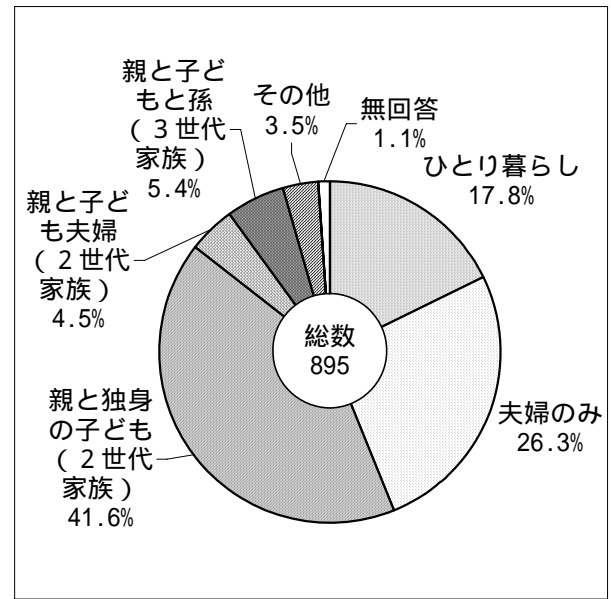


図 3-9 世帯構成

家庭生活について

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

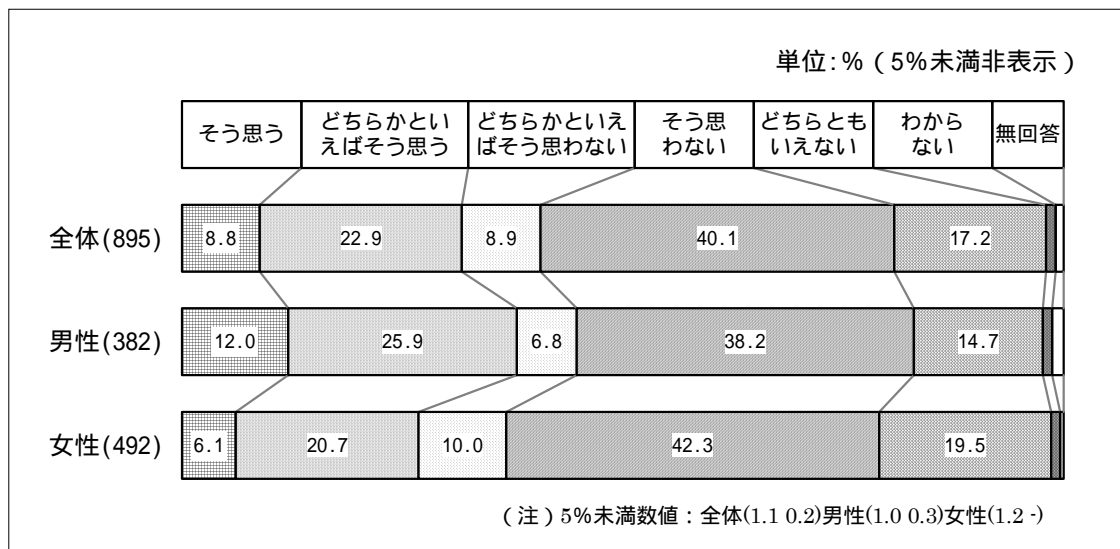


図 3-10 「男は仕事、女は家庭」という考え方/性別

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「そう思わない」が40.1%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が22.9%、「どちらともいえない」が17.2%が続いています。

◆ 性・年齢別でみると、男性・70歳代以上では「そう思う」が31.3%で最も多く、その他の年代より20ポイントほど高くなっています。一方、男性・50歳代、女性・40歳代、女性・50歳代では「そう思わない」が最も高く、いずれも過半数を占めています。

◆ 性・世帯の働き方別でみると、男性・共働き、女性・共働き、女性・それ以外では「そう思わない」が最も多くなっているのに対し、男性・それ以外では「どちらかといえばそう思う」「そう思わない」がいずれも28.7%になっています。

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえば思わない	思わない	どちらともいえない	わからない	無回答	
全体(N=895)		8.8	22.9	8.9	40.1	17.2	1.1	0.9	
性・年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	5.7	20.0	11.4	42.9	17.1	2.9	-
		30歳代(n= 54)	9.3	24.1	5.6	42.6	18.5	-	-
		40歳代(n= 69)	2.9	21.7	4.3	42.0	26.1	2.9	-
		50歳代(n= 65)	4.6	32.3	4.6	55.4	3.1	-	-
		60歳代(n= 94)	13.8	34.0	10.6	29.8	9.6	-	2.1
		70歳代以上(n= 64)	31.3	17.2	4.7	23.4	17.2	1.6	4.7
	女性	20歳代以下(n= 61)	8.2	14.8	8.2	49.2	19.7	-	-
		30歳代(n= 82)	-	24.4	13.4	39.0	23.2	-	-
		40歳代(n= 74)	1.4	14.9	8.1	58.1	17.6	-	-
		50歳代(n= 90)	4.4	20.0	10.0	51.1	13.3	-	1.1
		60歳代(n= 92)	8.7	18.5	9.8	39.1	21.7	2.2	-
70歳代以上(n= 93)		12.9	29.0	9.7	22.6	21.5	3.2	1.1	
無回答(n= 22)		18.2	18.2	22.7	22.7	9.1	4.5	4.5	
全体(N=564)		9.6	25.0	8.0	39.7	16.1	0.5	1.1	
性・世帯の働き方別	男性	共働き(n=110)	9.1	21.8	8.2	51.8	8.2	-	0.9
		それ以外(n=150)	18.0	28.7	4.0	28.7	18.0	-	2.7
	女性	共働き(n=133)	3.0	18.8	12.0	48.9	17.3	-	-
		それ以外(n=152)	7.9	29.6	6.6	36.2	17.8	1.3	0.7
	無回答(n= 19)		5.3	21.1	21.1	21.1	26.3	5.3	-

表 3-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方/性・年齢別/性・世帯の働き方別

＊ 内閣府調査との比較① [男女共同参画に関する世論調査：平成19年8月
全国20歳以上の男女5,000人 調査員による個別面接聴取]

問. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

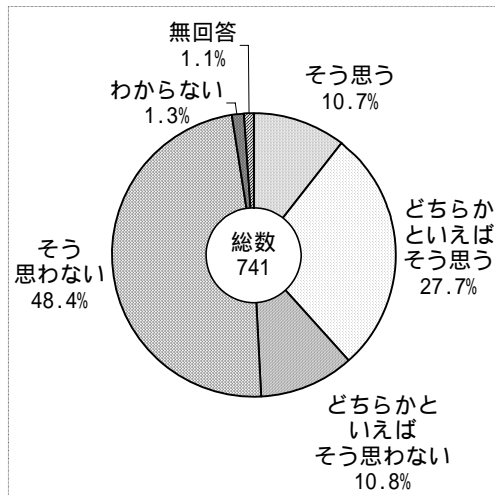


図3-11 【本区調査】

問. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。

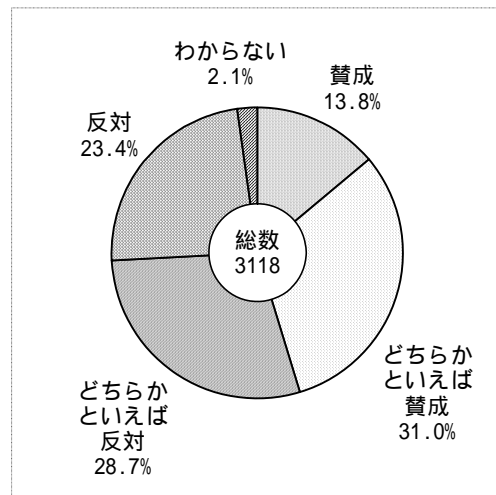


図3-12 【内閣府調査】

(注) 選択肢の「そう思う」を「賛成」、「どちらかといえばそう思う」を「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえばそう思わない」を「どちらかといえば反対」、「そう思わない」を「反対」と対応させて比較。本区調査で「どちらともいえない」という設問は除き、新たに計算し直した。

平成19年8月の内閣府調査の類似質問と比較すると、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は、内閣府調査では44.8%なのに対し、本区調査では38.4%と6ポイント程度低くなっています。

一方、「そう思わない」あるいは「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合は、内閣府調査では52.1%なのに対し、本区調査では59.2%で7ポイント高くなっています。「そう思わない」と回答した人だけを比較すると、内閣府調査では23.4%にとどまっているのに対し、本区調査では48.4%で約半数を占めています。

問2 家庭での男女の役割について、次のうちどれが望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つ0をつけてください。

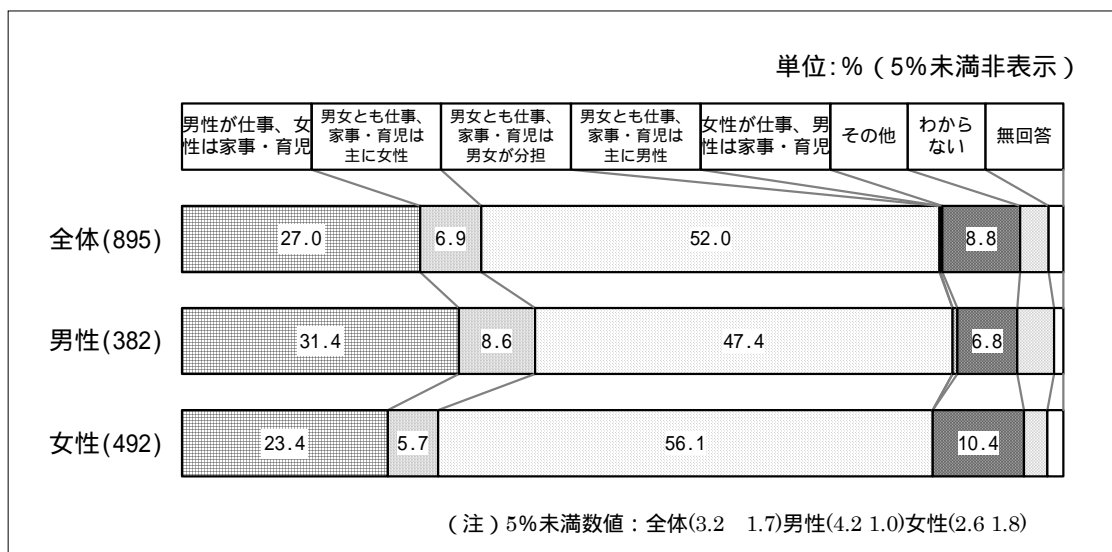


図 3-13 家庭での男女の役割/性別

家庭での男女の役割について、望ましいと思うものを調査したところ、「男女とも仕事をし、家事・育児は男女が分担する」が 52.0%で最も高く、過半数を占めており、次いで「男性が仕事、女性は家事・育児を分担する」が 27.0%、「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする」が 6.9%になっています。

◆ 性・年齢別で見ると、男性・20歳代以下～50歳代、女性・20歳代以下～60歳代では「男女とも仕事をし、家事・育児は男女が分担する」が最も多く、いずれも半数以上となっています。

一方、男性・60歳代、男性・70歳代以上、女性・70歳代以上では「男性が仕事、女性は家事・育児を分担する」がいずれもほぼ4割を占めています。

◆ 性・世帯の働き方別で見ると、男性・共働き、女性・共働き、女性・それ以外では「男女とも仕事をし、家事・育児は男女が分担する」が最も多くなっているのに対し、男性・それ以外では「男性が仕事、女性は家事・育児を分担する」が最も多くなっています。

		男性が仕事、 女性が家事 ・育児	男女とも仕事、 家事・育児は 主に女性	男女とも仕事、 家事・育児は 男女が分担	男女とも仕事、 家事・育児は 主に男性	女性が仕事、 男性は家事 ・育児	その他	わからない	無回答	
全体(N=895)		27.0	6.9	52.0	0.1	0.2	8.8	3.2	1.7	
性・ 年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	11.4	-	68.6	-	-	20.0	-	-
		30歳代(n= 54)	18.5	7.4	50.0	-	1.9	14.8	7.4	-
		40歳代(n= 69)	20.3	8.7	56.5	-	1.4	5.8	7.2	-
		50歳代(n= 65)	30.8	7.7	58.5	-	-	3.1	-	-
		60歳代(n= 94)	43.6	9.6	36.2	-	-	5.3	3.2	2.1
		70歳代以上(n= 64)	46.9	14.1	29.7	-	-	-	6.3	3.1
	女性	20歳代以下(n= 61)	21.3	1.6	67.2	-	-	8.2	1.6	-
		30歳代(n= 82)	13.4	2.4	63.4	-	-	20.7	-	-
		40歳代(n= 74)	14.9	5.4	63.5	-	-	14.9	1.4	-
		50歳代(n= 90)	18.9	5.6	58.9	-	-	12.2	3.3	1.1
		60歳代(n= 92)	28.3	7.6	53.3	-	-	3.3	4.3	3.3
70歳代以上(n= 93)		39.8	9.7	36.6	-	-	4.3	4.3	5.4	
無回答(n= 22)		36.4	4.5	36.4	4.5	-	9.1	-	9.1	
全体(N=564)		29.6	8.3	48.6	0.2	0.2	8.3	3.0	1.8	
性・世帯の 働き方別	男性	共働き(n=110)	18.2	11.8	60.0	-	0.9	6.4	1.8	0.9
		それ以外(n=150)	45.3	9.3	33.3	-	-	4.7	6.0	1.3
	女性	共働き(n=133)	18.0	9.8	63.2	-	-	9.0	-	-
		それ以外(n=152)	33.6	3.9	44.1	-	-	11.2	3.3	3.9
	無回答(n= 19)		21.1	5.3	36.8	5.3	-	21.1	5.3	5.3

表3-2 家庭での男女の役割/性・年齢別/性・世帯の働き方別

問3 あなたのご家庭では、次にあげる家事は主にどなたが行っていますか。あてはまる番号に1つずつ〇をつけてください。

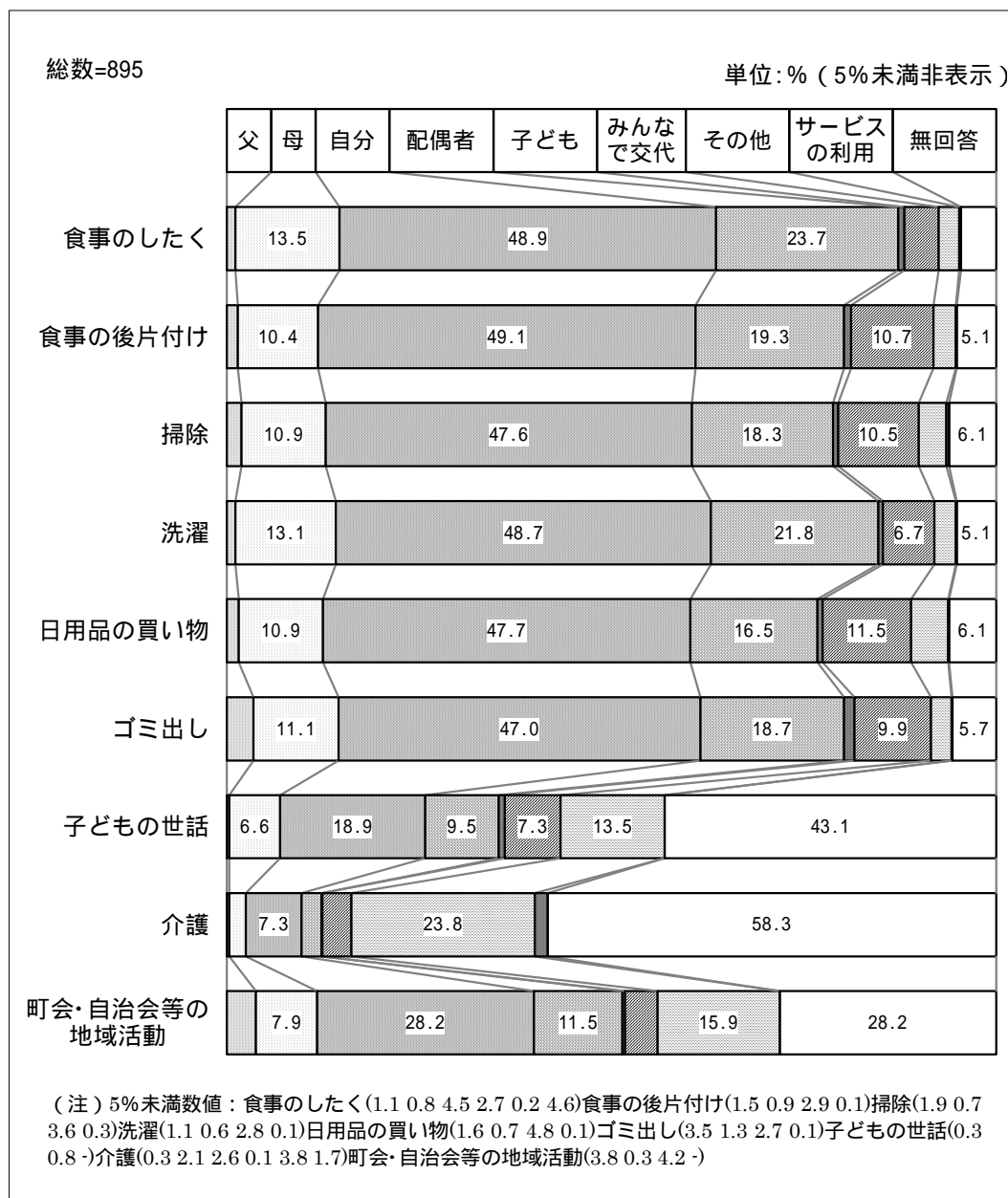


図 3-14 家庭での家事分担

家事は主にどなたが行っているかを調査したところ、ほとんどの項目で「自分」という回答が最も多くなっています。

一方、“介護”では「サービスの利用」が23.8%で最も多くなっています。

◆ 性・結婚の有無別で見ると、既婚・女性は、ほぼすべての項目において「自分」という回答が最も多く、“食事のしたく”“食事の後片付け”“掃除”“洗濯”“日用品の買い物”では7割を上回っています。

一方、“ゴミだし”では「配偶者」と回答した人が24.9%で、やや多くなっています。

◆ 既婚・男性は、“ゴミだし”では「配偶者」の34.3%と並んで、「自分」が32.1%と多くなっています。

また、ほとんどの項目において「みんなで交代」と回答した人が既婚・女性に比べ多くなっています。

◆ 未婚は女性・男性問わず、ほぼすべての項目において「自分」という回答が最も多くなっています。

また“食事のしたく”“食事の後片付け”“掃除”“洗濯”“日用品の買い物”“ゴミ出し”では、女性は過半数を占めており、男性でも約半数となっています。

	父	母	自分	配偶者	子ども	みんなで交代	その他	サービスの利用	無回答
全体 (N=289)									
食事のしたく	-	5.9	82.4	3.1	1.0	3.1	2.1	-	2.4
食事の後片付け	-	5.2	75.1	5.2	1.4	8.3	2.1	-	2.8
掃除	0.7	4.8	71.3	6.2	1.0	8.3	2.4	-	5.2
洗濯	-	5.2	77.5	4.5	1.4	5.9	2.1	-	3.5
日用品の買い物	0.3	4.5	74.4	4.5	1.0	8.7	3.1	-	3.5
ゴミ出し	1.7	4.2	54.3	24.9	1.0	9.7	1.4	-	2.8
子どもの世話	-	3.1	45.0	1.4	0.7	7.3	7.6	-	34.9
介護	-	0.7	11.4	0.3	0.3	3.8	21.5	1.0	60.9
町会・自治会等の地域活動	0.7	3.5	37.0	13.5	0.3	6.6	11.1	-	27.3

表 3-3 家庭での家事分担/既婚・女性

	父	母	自分	配偶者	子ども	みんなで交代	その他	サービスの利用	無回答
全体 (N=265)									
食事のしたく	0.8	6.4	6.4	75.8	0.4	5.3	1.9	-	3.0
食事の後片付け	1.5	5.3	12.5	59.2	0.4	14.0	2.3	-	4.9
掃除	1.1	4.5	13.6	54.7	-	15.8	3.4	0.4	6.4
洗濯	0.8	6.4	7.5	67.9	-	9.8	3.0	-	4.5
日用品の買い物	1.5	5.3	9.8	50.6	-	19.6	5.7	-	7.5
ゴミ出し	2.6	4.2	32.1	34.3	0.8	15.8	2.6	-	7.5
子どもの世話	-	2.6	3.0	29.4	1.5	14.7	12.5	-	36.2
介護	-	1.5	2.3	7.9	-	5.7	25.7	1.5	55.5
町会・自治会等の地域活動	2.3	4.5	23.0	22.6	0.4	5.3	18.1	-	23.8

表 3-4 家庭での家事分担/既婚・男性

	父	母	自分	配偶者	子ども	みんなで 交代	その他	サービスの 利用	無回答
全体 (N=198)									
食事のしたく	1.5	25.8	58.1	-	1.0	4.0	2.5	-	7.1
食事の後片付け	1.0	18.7	58.6	-	1.0	11.1	2.5	-	7.1
掃除	2.0	20.7	57.1	-	1.0	8.6	4.0	0.5	6.1
洗濯	1.0	23.2	60.1	-	0.5	6.1	2.5	-	6.6
日用品の買い物	1.0	21.2	57.1	-	1.0	6.6	7.1	0.5	5.6
ゴミ出し	4.5	24.7	51.0	-	3.5	6.6	3.5	-	6.1
子どもの世話	0.5	15.2	11.6	-	-	0.5	18.2	-	54.0
介護	0.5	2.5	8.1	-	-	2.5	25.3	2.0	59.1
町会・自治会等の地域活動	9.6	14.1	28.3	1.0	-	1.5	17.7	-	27.8

表 3-5 家庭での家事分担/未婚・女性

	父	母	自分	配偶者	子ども	みんなで 交代	その他	サービスの 利用	無回答
全体 (N=117)									
食事のしたく	4.3	26.5	46.2	0.9	0.9	6.0	6.0	1.7	7.7
食事の後片付け	6.0	20.5	49.6	0.9	0.9	8.5	6.0	0.9	6.8
掃除	6.8	22.2	49.6	0.9	0.9	6.8	5.1	0.9	6.8
洗濯	5.1	28.2	50.4	0.9	-	4.3	3.4	0.9	6.8
日用品の買い物	6.0	20.5	53.0	0.9	0.9	7.7	3.4	-	7.7
ゴミ出し	8.5	18.8	56.4	-	-	5.1	3.4	0.9	6.8
子どもの世話	1.7	10.3	5.1	1.7	0.9	2.6	21.4	-	56.4
介護	1.7	5.1	6.8	0.9	-	2.6	23.9	3.4	55.6
町会・自治会等の地域活動	6.0	14.5	17.9	-	0.9	1.7	20.5	-	38.5

表 3-6 家庭での家事分担/未婚・男性

子育て・教育について

問4 子育てに関する次の考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号に1つずつ〇をつけてください。

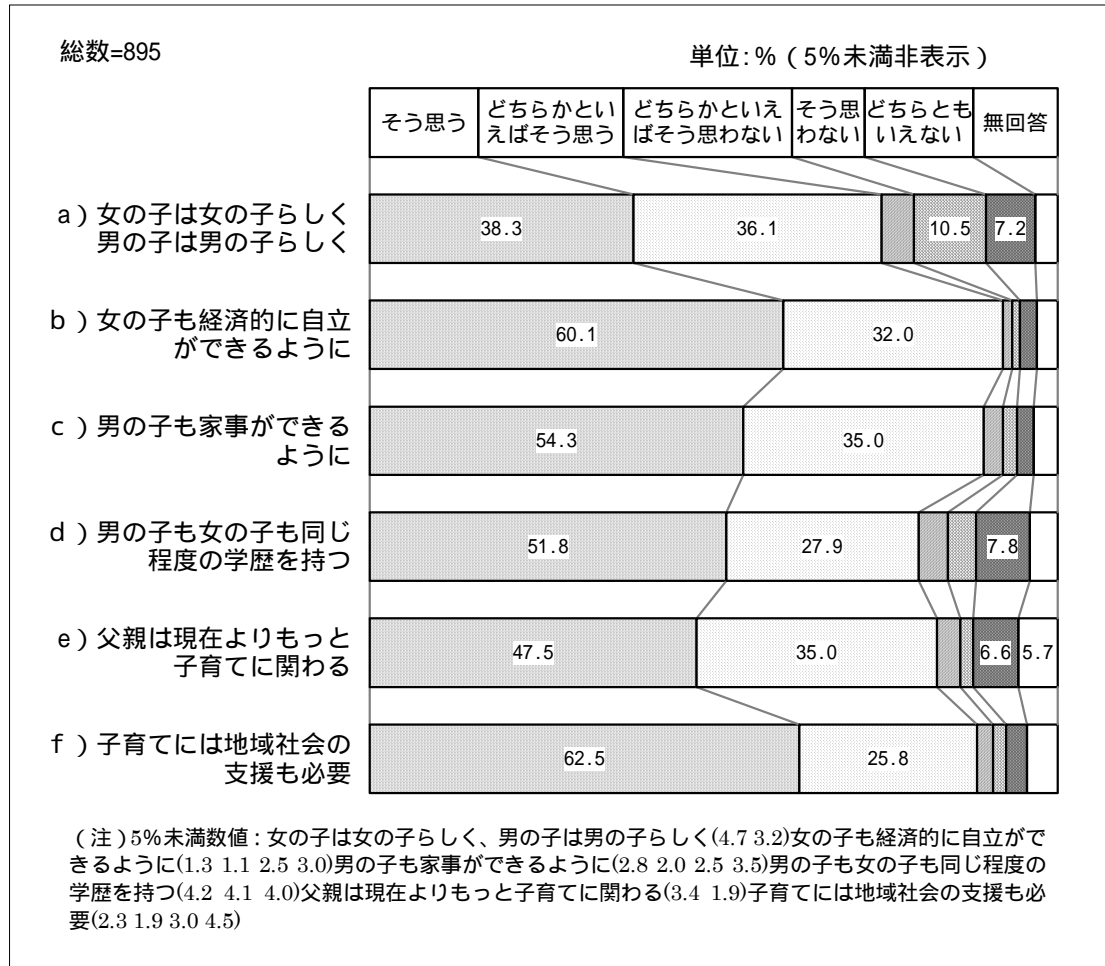


図 3-15 子育てに関する考え方

子育てに関する考え方について調査したところ、“a) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい”は、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答した人が、7割を占めています。

◆ 男女別で見ると、「そう思う」と回答した人は男性が 45.8%、女性が 31.5%で、男性の方が 14ポイント程度高くなっています。

また、子どもがいる人の方がいない人に比べ、15ポイントほど高くなっています。

“b) 女の子も経済的に自立ができるように育てるのがよい”は、「そう思う」と回答した人が6割を占めており、「どちらかといえばそう思う」と合わせると、9割を上回っています。

◆ 男女別で見ると、「そう思う」と回答した人は男性より女性の方が若干多く、世帯の働き方別で見ると、共働きの男女ともに7割以上の方が「そう思う」と回答しています。

“c) 男の子も家事ができるように育てるのがよい”は、「そう思う」と回答した人が半数を占めており、「どちらかといえばそう思う」と合わせると、ほぼ9割になります。

◆ 性別・子どもの有無に関わらず、「そう思う」が半数を占めており、世帯の働き方別でみると、共働きの女性は、「そう思う」と回答した人がほぼ7割を占めています。

“d) 男の子も女の子も同じ程度の学歴を持つほうがよい”は、「そう思う」と回答した人が半数を占めており、「どちらかといえばそう思う」と合わせると、ほぼ8割になります。

◆ 男女ともに、「そう思う」が半数を占めており、世帯の働き方別でみると、男女ともに共働きの人で、「そう思う」と回答した人は6割を上回っています。

“e) 父親は現在よりもっと子育てに関わるほうがよい”は、「そう思う」が47.5%で半数に届いていませんが、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と合わせると、ほぼ8割になります。

◆ 男女別でみると、「そう思う」と回答した人は男性より女性の方が10ポイント程度高く、世帯の働き方別では、共働きの女性は、「そう思う」と回答した人がほぼ7割を占めており、共働きの男性より10ポイント程度高くなっています。

“f) 子育てには地域社会の支援も必要である”は、「そう思う」と回答した人が6割を占めており、「どちらかといえばそう思う」と合わせると、9割程度になります。

◆ 男女別でみると、「そう思う」と回答した人は男性より女性の方が10ポイント程度高く、世帯の働き方別では、共働きの女性は、「そう思う」と回答した人が7割を上回っており、共働きの男性より12ポイント程度高くなっています。

a) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい

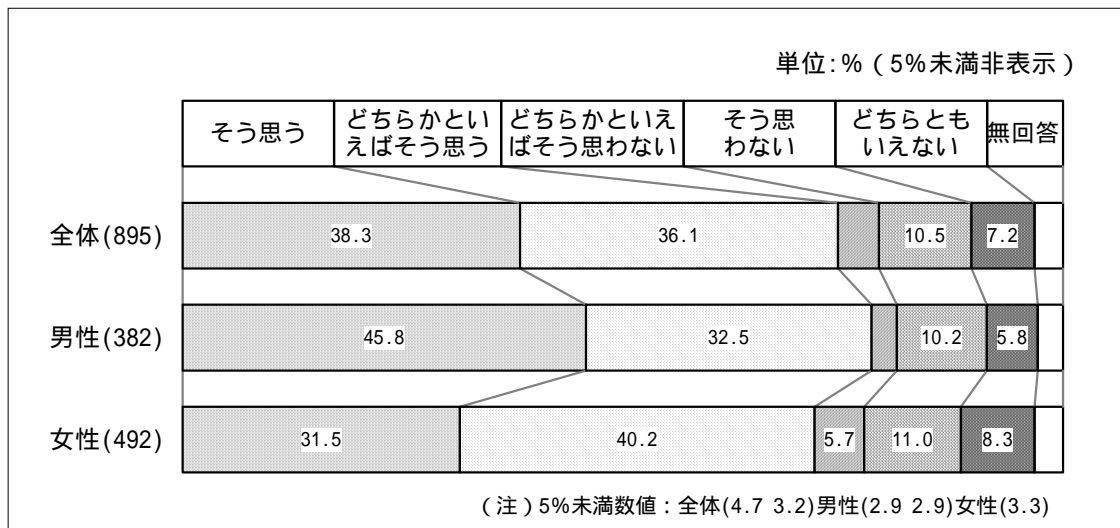


図 3-16 子育てに関する考え方/性別

		そう思う	どちらか そう思う	どちらか いえば そう 思わない	思わ ない	どちら とも いえ ない	無 回 答	
全体(N=895)		38.3	36.1	4.7	10.5	7.2	3.2	
子 ど も 有 無	子どもがいる(n=568)	43.5	36.3	4.6	8.1	5.1	2.5	
	子どもがいない(n=321)	28.7	35.8	5.0	15.0	10.9	4.7	
	無回答(n= 6)	66.7	33.3	-	-	-	-	
全体(N=564)		41.5	36.3	4.3	9.2	6.0	2.7	
性・世帯 の 働 き 方 別	男 性	共働き(n=110)	44.5	29.1	2.7	15.5	6.4	1.8
		それ以外(n=150)	56.0	32.0	2.0	2.7	4.7	2.7
	女 性	共働き(n=133)	30.8	42.9	6.0	12.8	7.5	-
		それ以外(n=152)	34.2	41.4	5.9	8.6	5.3	4.6
	無回答(n= 19)		42.1	26.3	5.3	5.3	10.5	10.5

表 3-7 子育てに関する考え方/子どもの有無/性・世帯の働き方別

b) 女の子も経済的に自立ができるように育てるのがよい

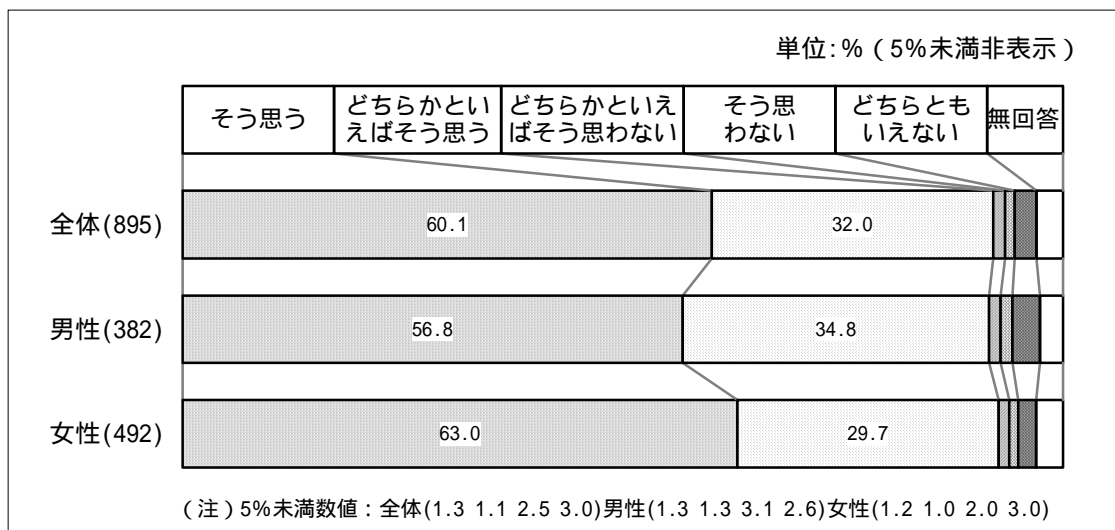


図 3-17 子育てに関する考え方/性別

		そう思う	どちらか そう思う	どちらか いえば そう 思わない	思わ ない	どちら とも いえ ない	無 回 答	
全体(N=895)		60.1	32.0	1.3	1.1	2.5	3.0	
子 ど も 有 無	子どもがいる(n=568)	60.9	32.0	1.4	0.9	2.6	2.1	
	子どもがいない(n=321)	58.9	31.5	1.2	1.6	2.2	4.7	
	無回答(n= 6)	50.0	50.0	-	-	-	-	
全体(N=564)		61.5	31.6	1.4	0.9	2.5	2.1	
性・世帯 の 働 き 方 別	男 性	共働き(n=110)	72.7	21.8	1.8	-	2.7	0.9
		それ以外(n=150)	50.0	42.0	1.3	2.0	3.3	1.3
	女 性	共働き(n=133)	72.2	25.6	2.3	-	-	-
		それ以外(n=152)	58.6	30.9	0.7	1.3	3.9	4.6
	無回答(n= 19)		36.8	52.6	-	-	-	10.5

表 3-8 子育てに関する考え方/子どもの有無/性・世帯の働き方別

c) 男の子も家事ができるように育てるのがよい

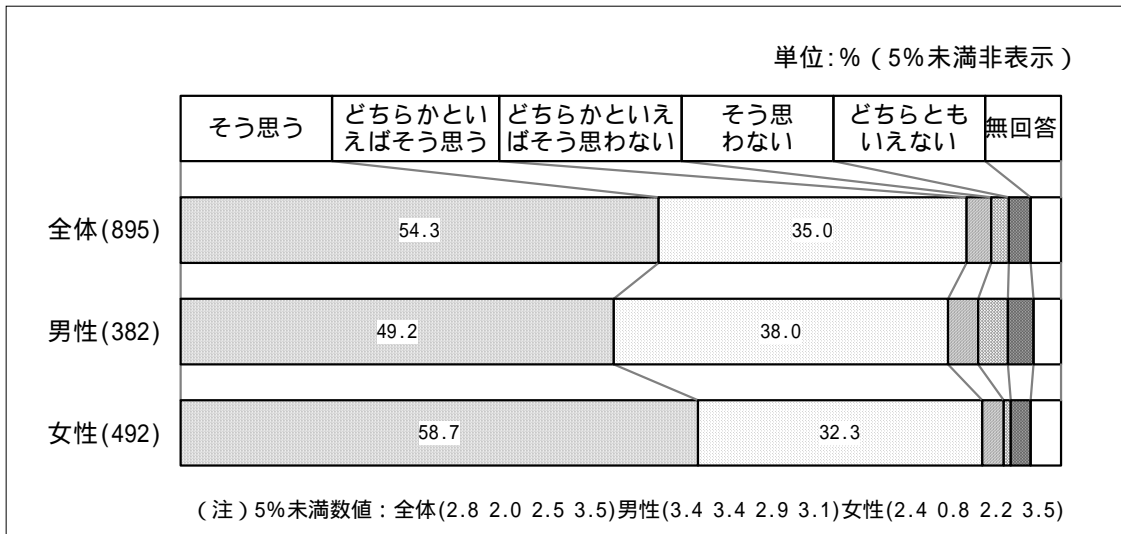


図 3-18 子育てに関する考え方/性別

		そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	無 回 答	
全体 (N=895)		54.3	35.0	2.8	2.0	2.5	3.5	
子 ど も 有 無	子どもがいる (n=568)	52.1	37.0	3.2	2.3	3.0	2.5	
	子どもがいない (n=321)	58.6	30.8	2.2	1.6	1.6	5.3	
	無回答 (n= 6)	33.3	66.7	-	-	-	-	
全体 (N=564)		54.3	34.4	3.0	2.8	3.0	2.5	
性・世帯の 働 き 方 別	男 性	共働き (n=110)	55.5	36.4	2.7	3.6	0.9	0.9
		それ以外 (n=150)	40.7	40.7	5.3	6.0	5.3	2.0
	女 性	共働き (n=133)	69.2	26.3	3.0	0.8	0.8	-
		それ以外 (n=152)	54.6	33.6	1.3	1.3	3.9	5.3
	無回答 (n= 19)		47.4	36.8	-	-	5.3	10.5

表 3-9 子育てに関する考え方/子どもの有無/性・世帯の働き方別

d) 男の子も女の子も同じ程度の学歴を持つほうがよい

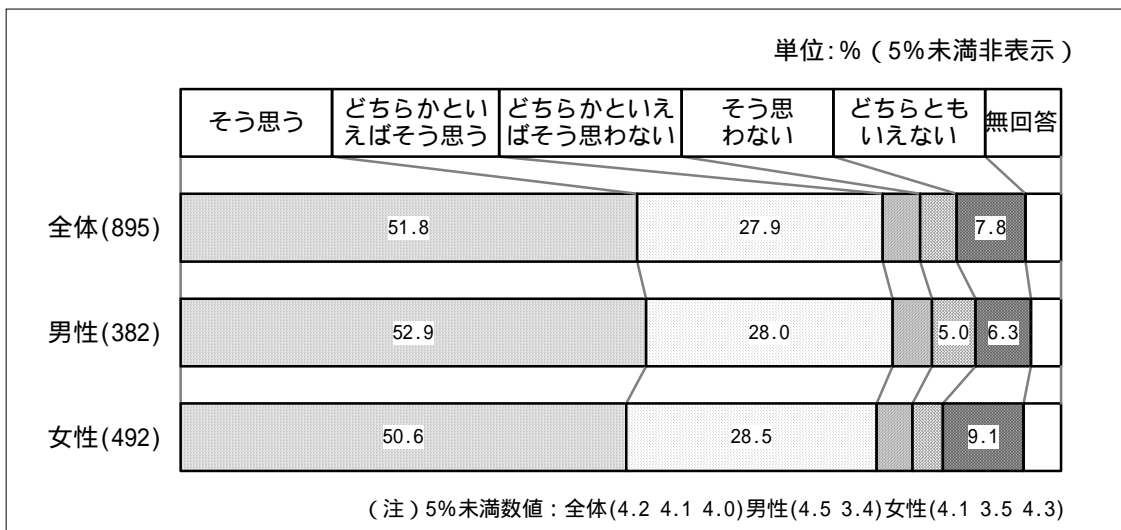


図 3-19 子育てに関する考え方/性別

		そう思う	どちらか そう 思う	どちらか いえば そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	無 回 答	
全体(N=895)		51.8	27.9	4.2	4.1	7.8	4.0	
子 ど も 有 無	子どもがいる(n=568)	53.0	29.4	3.5	3.5	7.4	3.2	
	子どもがいない(n=321)	49.8	25.2	5.3	5.3	8.7	5.6	
	無回答(n= 6)	50.0	33.3	16.7	-	-	-	
全体(N=564)		55.0	27.5	3.4	4.3	6.9	3.0	
性・世帯の 働 き 方 別	男 性	共働き(n=110)	65.5	21.8	2.7	3.6	4.5	1.8
		それ以外(n=150)	50.0	32.0	4.7	5.3	6.0	2.0
	女 性	共働き(n=133)	63.2	24.8	2.3	1.5	7.5	0.8
		それ以外(n=152)	46.7	29.6	3.3	5.3	9.2	5.9
	無回答(n= 19)		42.1	26.3	5.3	10.5	5.3	10.5

表 3-10 子育てに関する考え方/子どもの有無/性・世帯の働き方別

e)父親は現在よりもっと子育てに関わるほうがよい

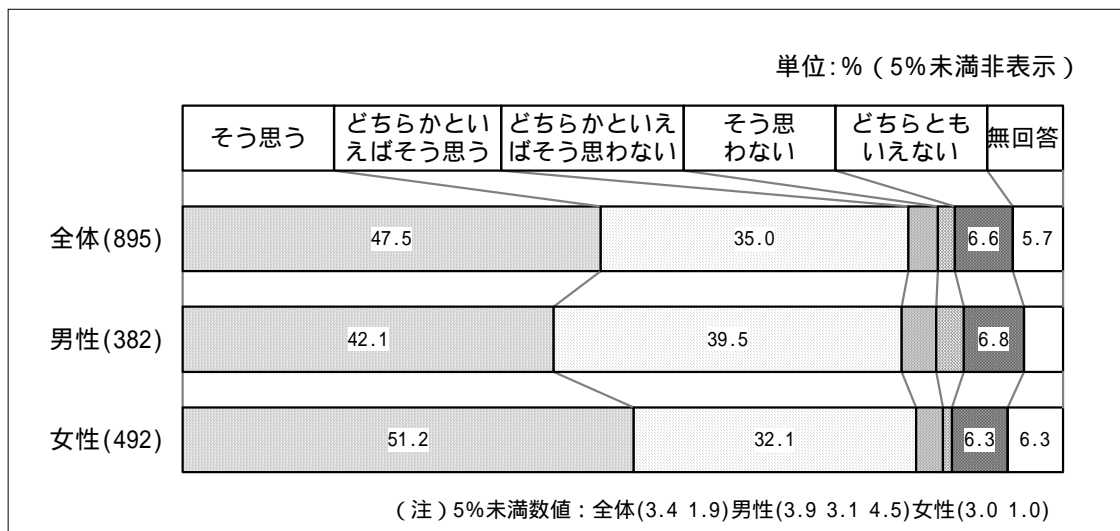


図 3-20 子育てに関する考え方/性別

		そう思う	どちらか そう 思う	どちらか いえば そう 思わない	そう 思 わ な い	どちらとも いえない	無 回 答	
全体(N=895)		47.5	35.0	3.4	1.9	6.6	5.7	
子 ど も 有 無	子どもがいる(n=568)	46.1	39.1	2.8	1.8	5.3	4.9	
	子どもがいない(n=321)	50.2	27.4	4.4	2.2	9.0	6.9	
	無回答(n= 6)	33.3	50.0	-	-	-	16.7	
全体(N=564)		46.8	37.8	2.7	2.1	6.0	4.6	
性・世帯の 働 き 方 別	男 性	共働き(n=110)	49.1	31.8	5.5	3.6	8.2	1.8
		それ以外(n=150)	38.0	48.7	2.7	3.3	4.0	3.3
	女 性	共働き(n=133)	57.1	30.8	2.3	0.8	5.3	3.8
		それ以外(n=152)	43.4	39.5	1.3	1.3	6.6	7.9
	無回答(n= 19)		57.9	21.1	-	-	10.5	10.5

表 3-11 子育てに関する考え方/子どもの有無/性・世帯の働き方別

f)子育てには地域社会の支援も必要である

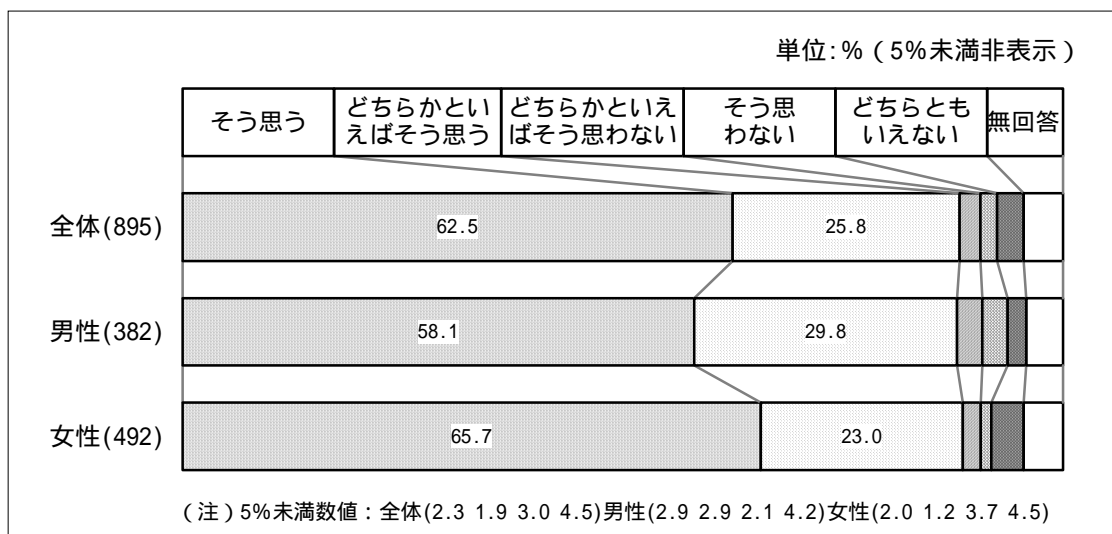


図 3-21 子育てに関する考え方/性別

		そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	ど ち ら か と も い え な い	無 回 答	
全体(N=895)		62.5	25.8	2.3	1.9	3.0	4.5	
子 ど も 有 無	子どもがいる(n=568)	63.6	26.9	1.9	1.6	2.5	3.5	
	子どもがいない(n=321)	60.4	23.7	3.1	2.5	4.0	6.2	
	無回答(n= 6)	66.7	33.3	-	-	-	-	
全体(N=564)		63.3	27.1	1.6	2.0	2.8	3.2	
性・世帯の 働き方別	男 性	共働き(n=110)	60.9	30.0	0.9	2.7	3.6	1.8
		それ以外(n=150)	56.0	32.0	4.0	3.3	0.7	4.0
	女 性	共働き(n=133)	72.9	23.3	0.8	-	2.3	0.8
		それ以外(n=152)	62.5	25.0	0.7	2.0	4.6	5.3
	無回答(n= 19)		73.7	15.8	-	-	5.3	5.3

表 3-12 子育てに関する考え方/子どもの有無/性・世帯の働き方別

問5 学校教育の場で、特にどのようなことに力を入れる必要があると思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

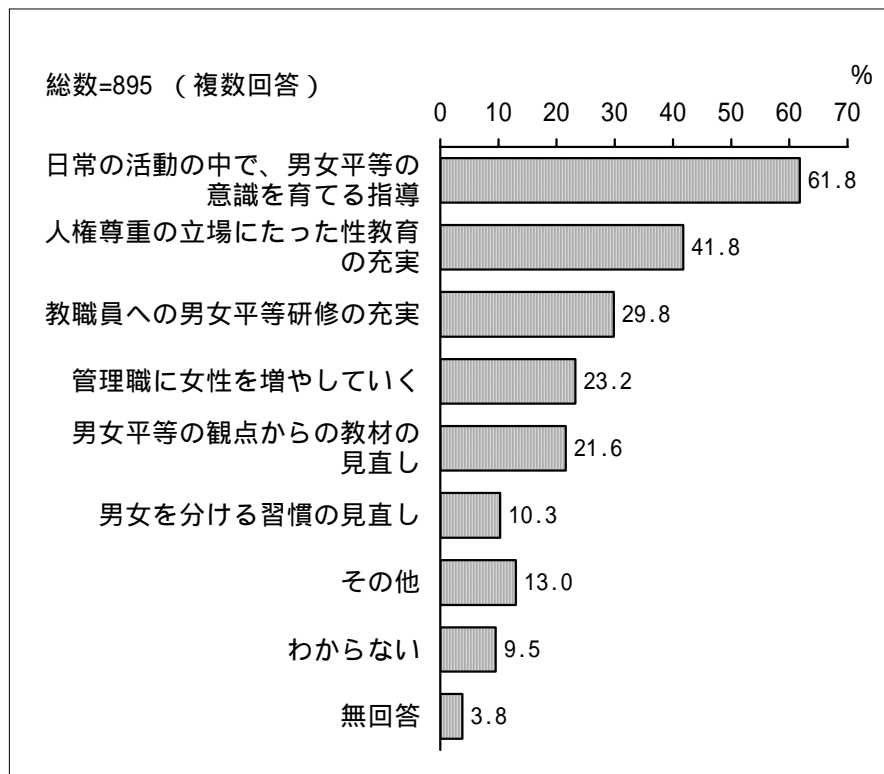


図 3-22 学校教育の場で力を入れる必要があること

学校教育の場で、特にどのようなことに力を入れる必要があるかという調査に対し、「日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をする」が 61.8%で最も多く、次いで「人権尊重の立場にたった性教育の充実」が 41.8%、「教職員への男女平等研修の充実」が 29.8%になっています。

◆ 性・年齢別で見ると、男性・40歳代～70歳代以上、女性・50歳代、女性・60歳代では、「日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をする」が最も多く、いずれも6割を超えています。そのうち、男性・50歳代、女性・50歳代では、「人権尊重の立場にたった性教育の充実」も半数を超えており、大きな割合を占めています。

また、男性・30歳代、女性20歳代以下では、「管理職（校長・副校長）に女性を増やしていく」が35%程度で、他の年代よりも高いことがわかります。

◆ 子どもの有無別で見ると、「教材の登場人物・役割など、男女平等の観点からの教材の見直し」では、子どもがいないと回答した人が15.9%なのに対し、子どもがいると回答した人は24.6%で、10ポイント程度高くなっています。

		日常の活動の中で、 男女平等の意識を 育てる指導	男女平等の観点 からの教材の 見直し	教職員への男女 平等研修の充実	管理職に女性を 増やしていく	人権尊重の立場 にたつた性教育 の充実	男女を分ける 習慣の見直し	その他	わからない	無回答	
全体 (N=895)		61.8	21.6	29.8	23.2	41.8	10.3	13.0	9.5	3.8	
性別	男性 (n=382)	65.2	20.7	33.0	21.2	38.7	10.7	15.7	7.1	3.4	
	女性 (n=492)	59.1	22.6	27.6	25.4	44.1	10.2	11.2	11.6	3.7	
	無回答 (n= 21)	61.9	14.3	23.8	9.5	42.9	4.8	4.8	4.8	14.3	
性・年齢別	男性	20歳代以下 (n= 35)	45.7	14.3	17.1	14.3	31.4	8.6	31.4	14.3	2.9
		30歳代 (n= 54)	48.1	3.7	29.6	35.2	24.1	11.1	25.9	3.7	3.7
		40歳代 (n= 69)	65.2	23.2	14.5	14.5	44.9	17.4	15.9	8.7	2.9
		50歳代 (n= 65)	64.6	20.0	49.2	26.2	53.8	10.8	7.7	4.6	1.5
		60歳代 (n= 94)	76.6	29.8	42.6	20.2	37.2	7.4	12.8	7.4	2.1
		70歳代以上 (n= 64)	75.0	23.4	34.4	17.2	35.9	9.4	10.9	6.3	6.3
	女性	20歳代以下 (n= 61)	59.0	23.0	34.4	36.1	39.3	26.2	11.5	-	3.3
		30歳代 (n= 82)	45.1	13.4	22.0	20.7	39.0	6.1	22.0	15.9	3.7
		40歳代 (n= 74)	55.4	31.1	14.9	28.4	45.9	10.8	9.5	14.9	-
		50歳代 (n= 90)	74.4	30.0	34.4	24.4	58.9	11.1	11.1	3.3	1.1
		60歳代 (n= 92)	63.0	22.8	27.2	21.7	39.1	5.4	6.5	15.2	5.4
		70歳代以上 (n= 93)	55.9	16.1	32.3	24.7	40.9	6.5	7.5	17.2	7.5
	無回答 (n= 22)		59.1	13.6	22.7	9.1	40.9	4.5	4.5	4.5	18.2
	全体 (N=895)		61.8	21.6	29.8	23.2	41.8	10.3	13.0	9.5	3.8
子ども有無	子どもがいる (n=568)	64.1	24.6	31.9	21.3	43.3	8.5	10.4	9.5	3.5	
	子どもがいない (n=321)	57.6	15.9	26.5	26.5	38.6	13.4	17.8	9.3	4.4	
	無回答 (n= 6)	66.7	33.3	16.7	33.3	66.7	16.7	-	16.7	-	

表 3-13 学校教育の場で力を入れる必要があること/性別/性・年齢別/子どもの有無

職業・職場について

問6 あなたの職業は次のうちどれですか。

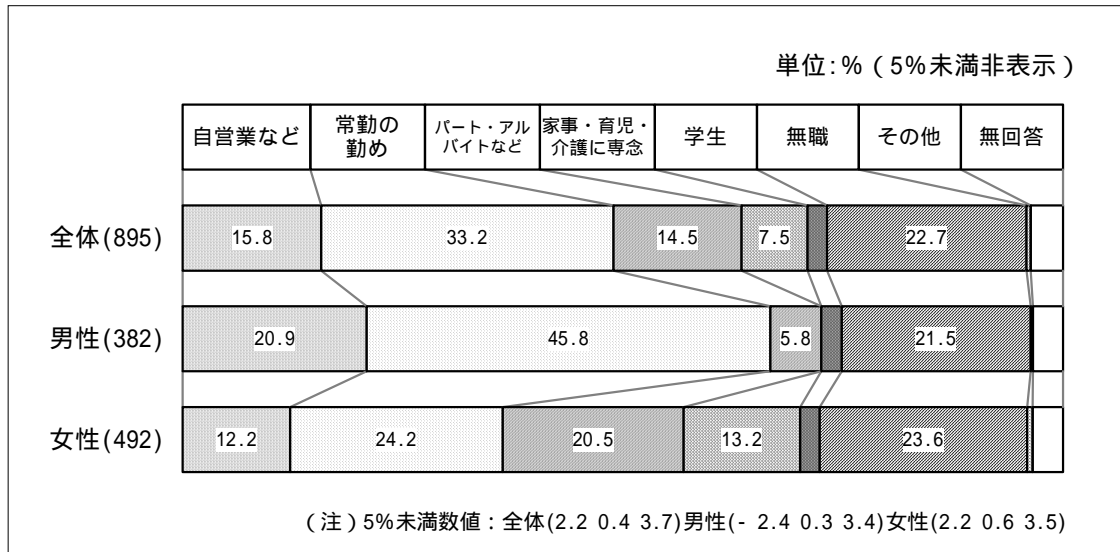


図 3-23 職業/性別

職業は「常勤の勤め」が 33.2%で最も多く、次いで「自営業・自由業・家族従業員」が 15.8%、「パート・アルバイト・内職等の勤め」が 14.5%と続いています。

◆ 男女別で見ると、「常勤の勤め」は男性が 45.8%、女性が 24.2%となっており、男性の方が 20 ポイント程度高くなっています。また、「パート・アルバイト・内職等の勤め」は男性が 5.8%、女性が 20.5%で、女性の方が 15 ポイント程度高くなっています。

◆ 性・年齢別で見ると、男性・20 歳代以下～50 歳代、女性 20 歳代以下～30 歳代では「常勤の勤め」が最も多く、そのうち男性はほぼ 6 割を占めています。

女性 20 歳代以下～30 歳代では「パート・アルバイト・内職等の勤め」、男性・60 歳代～70 歳代以上、女性・60 歳代～70 歳代以上では「無職」が多くなっています。

		家族従業員	自営業・自由業	常勤の勤め	アルバイト・内職等の勤め	家事・育児・介護に専念	学生	無職	その他	無回答
全体 (N=895)		15.8	33.2	14.5	7.5	2.2	22.7	0.4	3.7	
性・年齢別	男性	20歳代以下 (n= 35)	5.7	62.9	5.7	-	22.9	2.9	-	-
		30歳代 (n= 54)	9.3	77.8	5.6	-	1.9	3.7	-	1.9
		40歳代 (n= 69)	23.2	68.1	4.3	-	-	1.4	-	2.9
		50歳代 (n= 65)	23.1	56.9	6.2	-	-	7.7	-	6.2
		60歳代 (n= 94)	30.9	24.5	7.4	-	-	35.1	-	2.1
		70歳代以上 (n= 64)	20.3	6.3	4.7	-	-	62.5	1.6	4.7
	女性	20歳代以下 (n= 61)	1.6	50.8	18.0	-	18.0	6.6	1.6	3.3
		30歳代 (n= 82)	8.5	43.9	18.3	24.4	-	4.9	-	-
		40歳代 (n= 74)	14.9	27.0	31.1	8.1	-	14.9	1.4	2.7
		50歳代 (n= 90)	17.8	24.4	26.7	23.3	-	5.6	-	2.2
		60歳代 (n= 92)	16.3	7.6	22.8	13.0	-	35.9	1.1	3.3
		70歳代以上 (n= 93)	10.8	3.2	7.5	6.5	-	63.4	-	8.6
	無回答 (n= 22)		4.5	13.6	31.8	9.1	-	22.7	-	18.2

表 3-14 職業/性・年齢別

問6-1 問6で「1. 自営業・自由業・家族従業員」「2. 常勤の勤め」「3. パート・アルバイト・内職等の勤め」とお答えした方にお聞きします。あなたが働いている理由は主にどのようなことですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

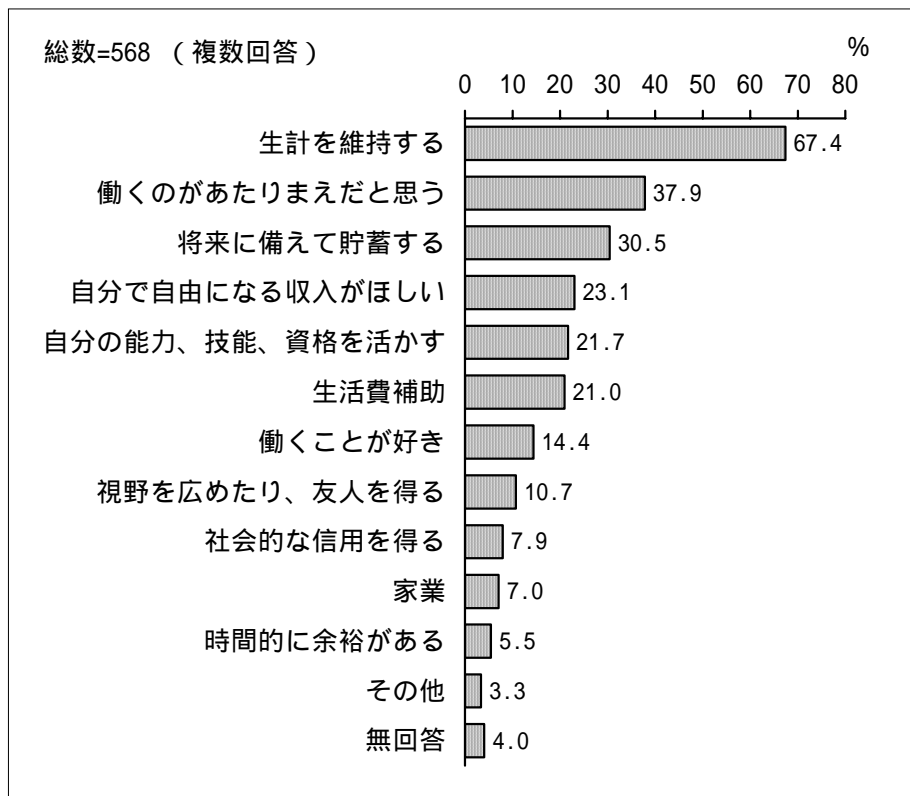


図 3-24 働いている理由

職業について、自営業・自由業・家族従業員、常勤の勤め、パート・アルバイト・内職等の勤めと回答した人に対し、働いている理由について調査したところ、「生計を維持するため」が67.4%で最も多く、次いで「働くのがあたりまえだと思うから」が37.9%、「将来に備えて貯蓄するため」が30.5%で続いています。

◆ 男女別でみると、「生計を維持するため」「働くのがあたりまえだと思う」では、女性より男性の方が15ポイント以上高くなっています。一方、「生活費補助のため」「自分で自由になる収入がほしいため」では男性より女性の方が15ポイント程度高くなっています。

◆ 子どもの有無別では、「生計を維持するため」「働くのがあたりまえだと思う」では、子どもがいると回答した人の方が10ポイント程度高く、「自分で自由になる収入がほしいため」では、子どもがいないと回答した人の方が15ポイント程度高くなっています。

◆ 性・世帯の働き方でみると、女性・共働きでは「将来に備えて貯蓄するため」が44.6%で、「生計を維持するため」と並んで多くなっています。

		生計を維持する	生活費補助	将来に備えて貯蓄する	自分で自由になる収入がほしい	自分の能力、技能、資格を活かす	働くことが好き	視野を広めたり、友人を得る	
全体(N=568)		67.4	21.0	30.5	23.1	21.7	14.4	10.7	
性別	男性(n=277)	81.6	12.3	27.1	16.2	23.8	10.8	6.5	
	女性(n=280)	55.0	28.6	33.9	30.0	20.0	17.9	15.4	
	無回答(n= 11)	27.3	45.5	27.3	18.2	9.1	18.2	-	
全体(N=568)		67.4	21.0	30.5	23.1	21.7	14.4	10.7	
子ども有無	子どもがいる(n=341)	64.5	24.6	28.2	16.7	24.6	18.8	10.3	
	子どもがいない(n=222)	72.5	15.3	34.7	33.3	16.7	8.1	11.7	
	無回答(n= 5)	40.0	20.0	-	-	40.0	-	-	
全体(N=364)		64.0	23.6	32.4	20.6	24.7	16.8	11.5	
働き方の性別・世帯別	男性	共働き(n=108)	85.2	10.2	25.0	11.1	23.1	13.9	4.6
		それ以外(n= 86)	80.2	16.3	29.1	7.0	30.2	11.6	7.0
	女性	共働き(n=130)	46.2	35.4	44.6	33.1	22.3	18.5	17.7
		それ以外(n= 29)	27.6	41.4	13.8	41.4	31.0	37.9	24.1
	無回答(n= 11)		36.4	27.3	36.4	18.2	9.1	9.1	9.1

		社会的な信用を得る	働くのがあたりまえだと思っ	家業	時間的に余裕がある	その他	無回答	
全体(N=568)		7.9	37.9	7.0	5.5	3.3	4.0	
性別	男性(n=277)	10.8	44.8	2.9	4.0	3.2	5.4	
	女性(n=280)	5.0	31.8	11.4	7.1	3.6	1.4	
	無回答(n= 11)	9.1	18.2	-	-	-	36.4	
全体(N=568)		7.9	37.9	7.0	5.5	3.3	4.0	
子ども有無	子どもがいる(n=341)	7.0	36.7	10.0	6.7	2.9	3.2	
	子どもがいない(n=222)	9.0	39.2	2.7	3.6	4.1	4.5	
	無回答(n= 5)	20.0	60.0	-	-	-	40.0	
全体(N=364)		7.4	34.9	9.3	6.3	3.0	3.8	
働き方の性別・世帯別	男性	共働き(n=108)	12.0	47.2	2.8	0.9	2.8	6.5
		それ以外(n= 86)	10.5	40.7	4.7	5.8	2.3	3.5
	女性	共働き(n=130)	3.1	26.2	17.7	5.4	2.3	0.8
		それ以外(n= 29)	-	13.8	13.8	34.5	6.9	-
	無回答(n= 11)		9.1	27.3	-	-	9.1	27.3

表 3-15 働いている理由/性別/子どもの有無/性・世帯の働き方別

問7 女性が仕事をする事について、あなたが望ましいと思うのは次のうちどれですか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

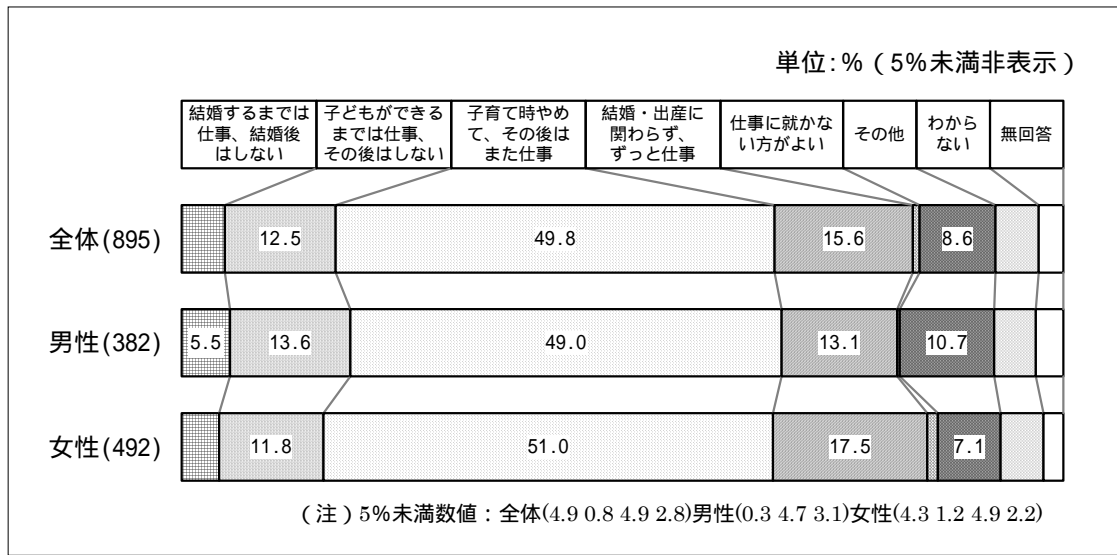


図 3-25 望ましい女性の働き方/性別

女性が仕事をする事について望ましいものを調査したところ、「子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をする」が 49.8%で最も多く、以下「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする」が 15.6%、「子どもができるまでは仕事をするが、その後はしない」が 12.5%で続いています。

◆ 性・世帯の働き方でみると、女性・共働きの 27.1%が「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする」と回答しています。

		結婚するまでは仕事、結婚後はしない	子どもができるまでは仕事、その後はしない	子育て時やめて、その後はまた仕事	結婚・出産に関わらず、ずっと仕事	仕事に就かない方がよい	その他	わからない	無回答		
全体 (N=564)		4.3	12.2	51.8	16.1	0.5	8.0	4.4	2.7		
性・世帯の働き方別	男性	共働き (n=110)		4.5	5.5	60.0	18.2	-	10.0	0.9	
		それ以外 (n=150)		8.0	20.0	43.3	8.7	-	9.3	6.7	4.0
	女性	共働き (n=133)		-	9.0	52.6	27.1	1.5	7.5	1.5	0.8
		それ以外 (n=152)		4.6	12.5	54.6	12.5	0.7	5.9	5.9	3.3
		無回答 (n= 19)		-	10.5	42.1	15.8	-	5.3	15.8	10.5

表 3-16 望ましい女性の働き方/性・世帯の働き方別

＊ 内閣府調査との比較② [男女共同参画に関する世論調査：平成 19 年 8 月
全国 20 歳以上の男女 5,000 人 調査員による個別面接聴取]

問. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。

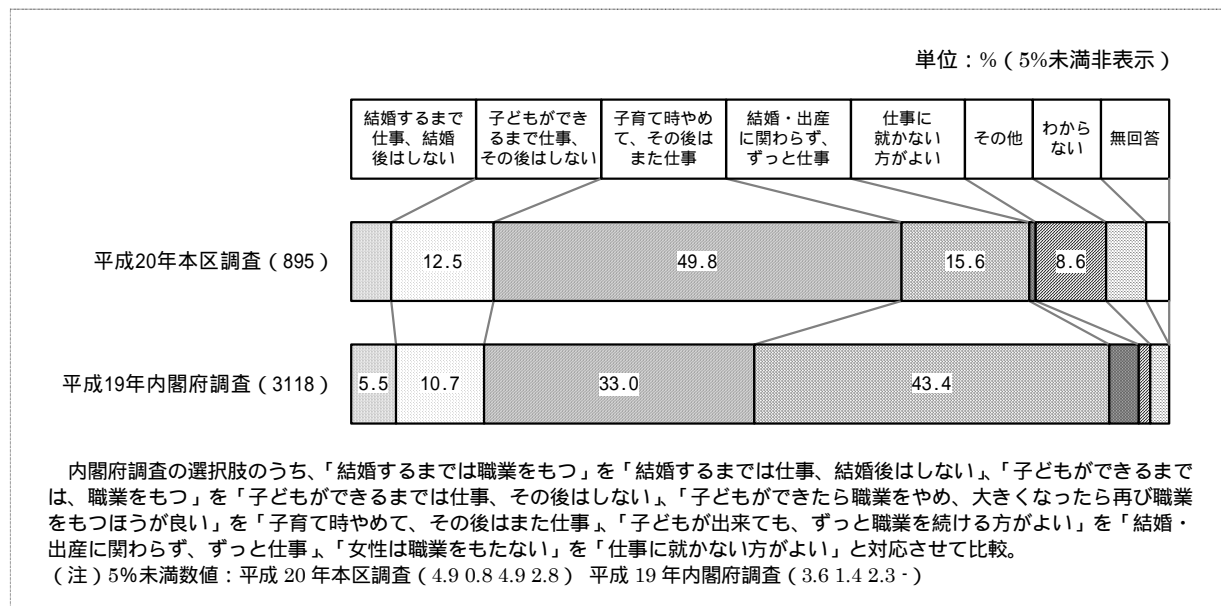


図 3-26 【本区調査】【内閣府調査】比較

平成 19 年 8 月の内閣府調査の類似質問と比較すると、本区調査では「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうが良い」が 49.8%で最も多くなっていますが、内閣府調査では 33.0%で、本区調査の方が 15 ポイント程度高くなっています。

一方、内閣府調査では「結婚・出産に関わらず、ずっと仕事」43.4%で最も多くなっていますが、本区調査では 15.6%で 30 ポイント程度低くなっています。

問8 仕事をやめた女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。
あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

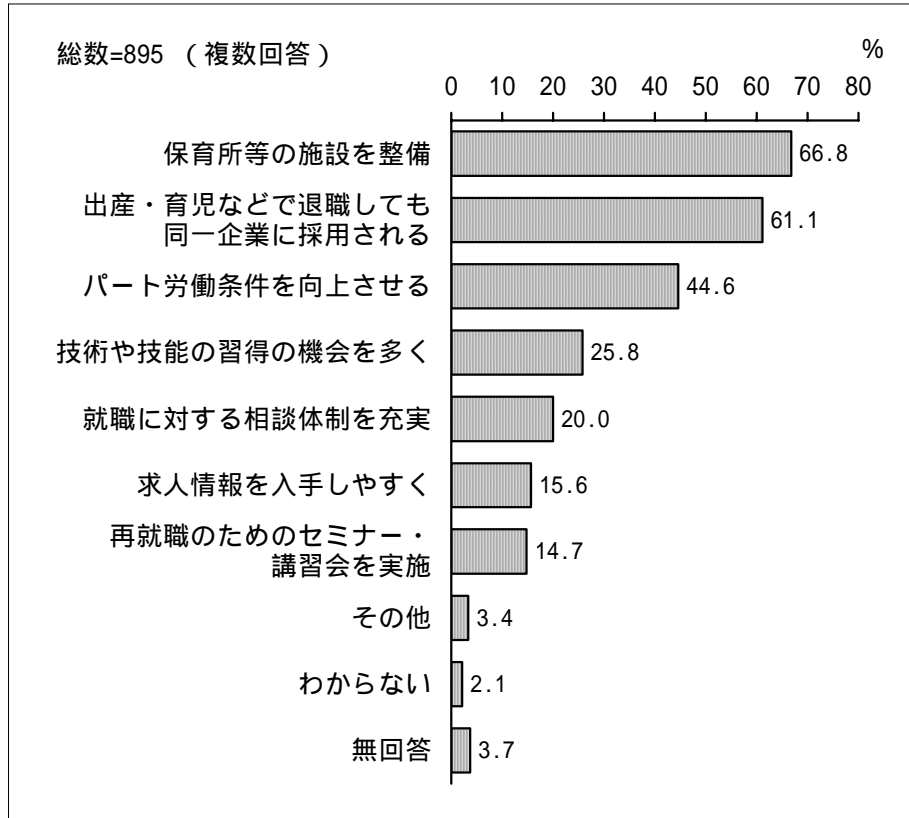


図 3-27 女性の再就職に必要な支援・対策

仕事をやめた女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要かを調査したところ、「保育所等の施設を整備すること」が66.8%で最も高く、次いで「出産・育児などで退職しても、同一企業に採用されるようにすること」が61.1%、「パート労働条件を向上させること」が44.6%で続いています。

◆ 性・世帯の働き方でみると、女性・共働きの53.4%が「パート労働条件を向上させること」と回答しています

		出産・育児などで退職しても同一企業に採用される	求人情報を入手しやすく	再就職のためのセミナー・講習会を実施	技術や技能の習得の機会を多く	パート労働条件を向上させる	就職に対する相談体制を充実	保育所等の施設を整備	その他	わからない	無回答	
全体 (N=564)		59.6	15.4	16.7	26.1	44.3	18.4	66.3	3.5	1.8	3.9	
性・世帯の働き方別	男性	共働き (n=110)	63.6	16.4	15.5	24.5	40.9	25.5	70.9	5.5	0.9	0.9
		それ以外 (n=150)	60.0	15.3	17.3	24.7	44.7	20.0	61.3	2.7	-	6.0
	女性	共働き (n=133)	58.6	15.8	16.5	28.6	53.4	12.0	76.7	3.8	-	1.5
		それ以外 (n=152)	57.2	14.5	17.1	27.6	39.5	17.8	62.5	3.3	4.6	5.3
	無回答 (n= 19)		57.9	15.8	15.8	15.8	36.8	15.8	36.8	-	10.5	10.5

表 3-17 女性の再就職に必要な支援・対策/性・世帯の働き方別

問9 あなたは仕事と私生活の両立について、どのように考えますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

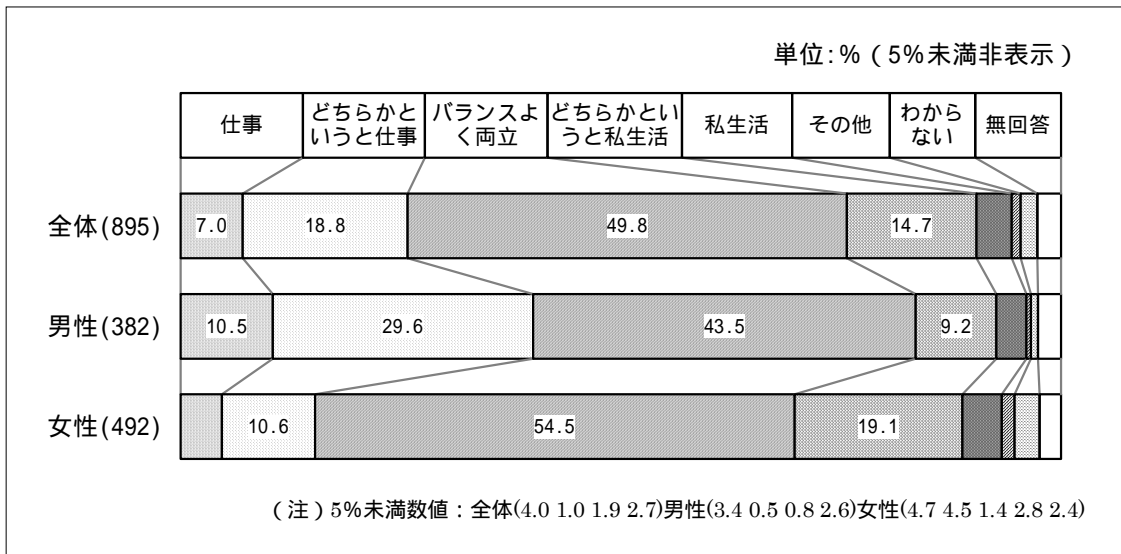


図 3-28 仕事と私生活の両立/性別

仕事と私生活の両立について、どのように考えているかについて調査したところ、「仕事と私生活をバランスよく両立させる」が 49.8%で半数を占めています。以下「どちらかという仕事を優先する」が 18.8%、「どちらかという私生活を優先する」が 14.7%で続いています。

◆ 男女別でみると、男女ともに「仕事と私生活をバランスよく両立させる」が多くなっていますが、男性は「どちらかという仕事を優先する」、女性は「どちらかという私生活を優先する」がやや多くなっています。

◆ 子どもの有無には関係なく、私生活を優先するという考え方より、仕事を優先するという考え方の方が多くなっています。

		仕事を優先	どちらかという 仕事を優先	仕事と私生活を バランスよく両立	どちらかという 私生活を優先	私生活を優先	その他	わからない	無回答	
全体(N=895)		7.0	18.8	49.8	14.7	4.0	1.0	1.9	2.7	
子 有 無	子どもがいる(n=568)	7.2	18.1	51.2	15.0	3.0	0.9	1.9	2.6	
	子どもがいない(n=321)	6.5	19.9	47.4	14.3	5.9	1.2	1.9	2.8	
	無回答(n= 6)	16.7	16.7	50.0	16.7	-	-	-	-	
全体(N=564)		7.1	18.3	49.6	16.3	3.7	0.9	1.8	2.3	
性・世帯 働き方別	男性	共働き(n=110)	11.8	27.3	51.8	7.3	1.8	-	-	-
		それ以外(n=150)	12.7	34.7	38.7	6.7	2.0	-	1.3	4.0
	女性	共働き(n=133)	2.3	9.8	53.4	27.8	2.3	3.0	0.8	0.8
		それ以外(n=152)	3.3	2.6	55.9	23.7	7.2	0.7	3.9	2.6
無回答(n= 19)		-	21.1	47.4	5.3	10.5	-	5.3	10.5	

表 3-18 仕事と私生活の両立/子どもの有無/性・世帯の働き方別

＊ 内閣府調査との比較③ [男女共同参画に関する世論調査：平成 19 年 8 月
全国 20 歳以上の男女 5,000 人 調査員による個別面接聴取]

問. 仕事と家庭生活と地域・個人の生活の両立について、あなたの希望に最も近いものを 1 つお答えください。

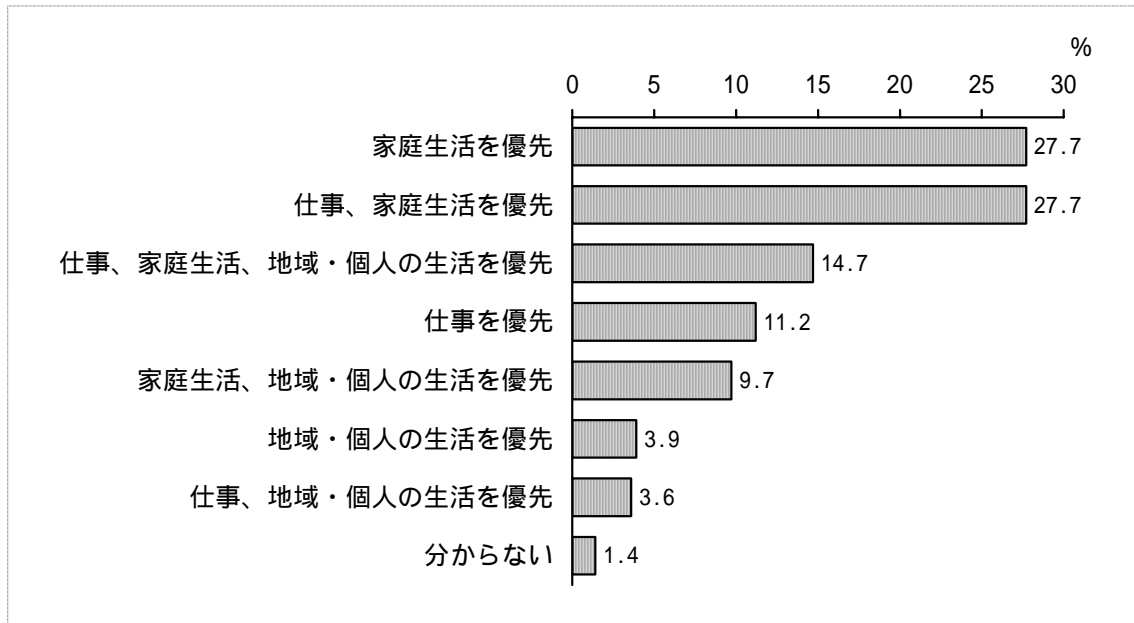


図 3-29 【内閣府調査】仕事と家庭生活と地域・個人の生活の両立について

平成 19 年 8 月の内閣府調査の類似質問と比較すると、本区調査では「仕事と私生活をバランスよく両立させる」が 49.8%で最も多く、次いで「どちらかという仕事を優先する」が 18.8%となっています。

一方、内閣府調査では「家庭生活を優先」、「仕事、家庭生活を優先」が 27.7%で最も多くなっています。

問 10 育児休業は男性も女性も取ることができる制度ですが、あなたは男性が育児休業を取得することについてどのように思いますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

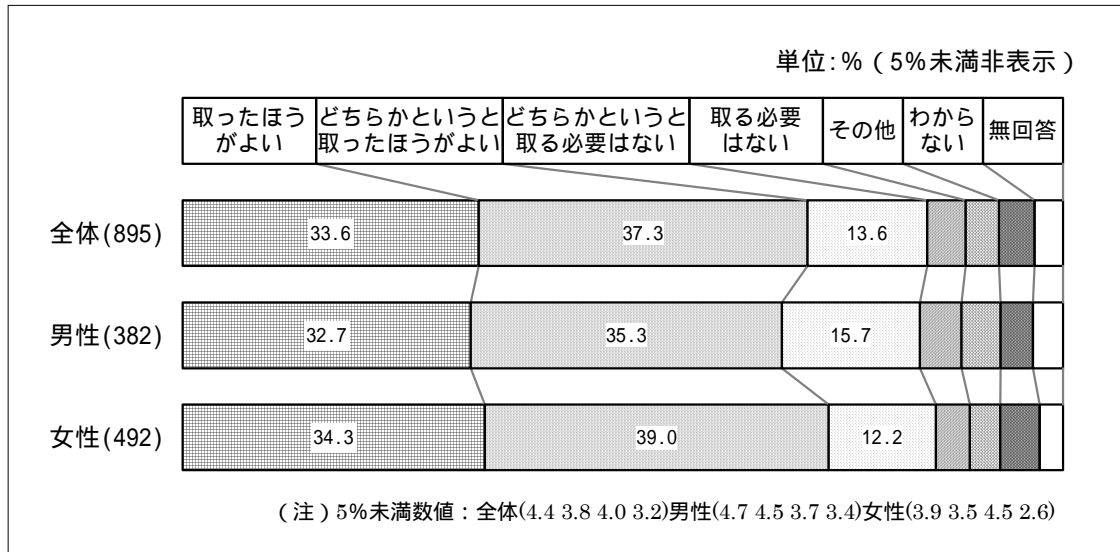


図 3-30 男性の育児休業について/性別

男性が育児休業を取得することについてどのように思うかについて調査したところ、「どちらかという取ったほうがよい」が 37.3%で最も多く、次いで「取ったほうがよい」が 33.6%で、合わせるとほぼ7割を占めています。

◆ 性・年齢別で見ると、男女ともに20歳代以下では、「取ったほうがよい」が約半数を占めているのに対し、年齢が上がるにつれ徐々に少なくなっていき、70歳代以上では2割ほどになっています。

◆ 子どもの有無で見ると、「取ったほうがよい」という回答は、子どもがいる人で29.6%なのに対し、子どもがいない人では41.1%となっており、10ポイント以上高くなっています。

		取 つ た よ い ほう	ど ち ら か と い う と 取 つ た よ い ほう	ど ち ら か と い う と 取 る 必 要 は な い	取 る 必 要 は な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
全体(N=895)		33.6	37.3	13.6	4.4	3.8	4.0	3.2	
性・年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	48.6	22.9	8.6	2.9	14.3	2.9	-
		30歳代(n= 54)	42.6	24.1	11.1	9.3	11.1	1.9	-
		40歳代(n= 69)	34.8	30.4	17.4	2.9	7.2	5.8	1.4
		50歳代(n= 65)	32.3	46.2	10.8	4.6	1.5	3.1	1.5
		60歳代(n= 94)	29.8	37.2	20.2	3.2	-	2.1	7.4
		70歳代以上(n= 64)	18.8	43.8	20.3	6.3	-	6.3	4.7
	女性	20歳代以下(n= 61)	47.5	36.1	8.2	1.6	6.6	-	-
		30歳代(n= 82)	37.8	42.7	9.8	1.2	3.7	3.7	1.2
		40歳代(n= 74)	37.8	36.5	13.5	4.1	5.4	2.7	-
		50歳代(n= 90)	36.7	38.9	14.4	2.2	1.1	5.6	1.1
		60歳代(n= 92)	32.6	40.2	9.8	5.4	1.1	8.7	2.2
		70歳代以上(n= 93)	19.4	38.7	16.1	7.5	4.3	4.3	9.7
無回答(n= 22)		31.8	31.8	9.1	9.1	-	-	18.2	
全体(N=895)		33.6	37.3	13.6	4.4	3.8	4.0	3.2	
有無 子ども	子どもがいる(n=568)	29.6	39.4	16.9	4.2	2.6	3.9	3.3	
	子どもがいない(n=321)	41.1	33.6	8.1	4.4	5.6	4.0	3.1	
	無回答(n= 6)	16.7	33.3	-	16.7	16.7	16.7	-	

表 3-19 男性の育児休業について/性・年齢別/子どもの有無

問 11 育児休業を男性が取りやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

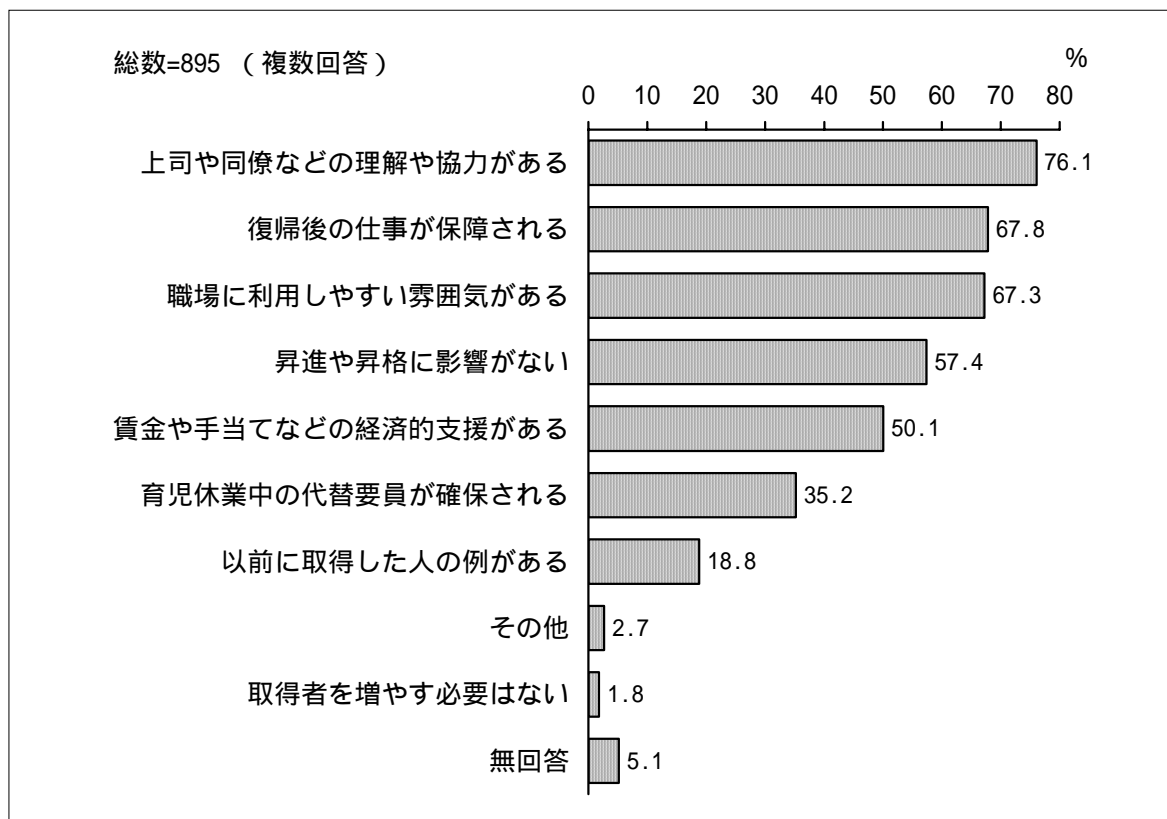


図 3-31 男性が育児休業を取りやすくするためには

育児休業を男性が取りやすくするためには、どのようなことが必要かについて調査したところ、「上司や同僚などの理解や協力があること」が 76.1%で最も多く、次いで「復帰後の仕事が保障されること」が 67.8%、「職場に利用しやすい雰囲気があること」が 67.3%となっています。

◆ 男女別でみると、「上司や同僚などの理解や協力があること」「昇進や昇格に影響がないこと」「復帰後の仕事が保障されること」と回答した人は、男性より女性の方が多くなっており、10ポイント程度高くなっています。

◆ 性・世帯の働き方別でみると、「職場に利用しやすい雰囲気があること」「以前に取得した人の例があること」では、男性・共働きと男性・それ以外では大きな差があります。

		職場に利用 しやすい雰囲気 がある	以前に取得 した人の例 がある	上司や同僚な どの理解や協 力がある	賃金や手当等 などの経済的 支援がある	昇進や昇格に 影響がない	育児休業中の 代替員が確 保される	復帰後の仕事 が保障される	その他	取得者を増や す必要はない	無回答	
全体(N=895)		67.3	18.8	76.1	50.1	57.4	35.2	67.8	2.7	1.8	5.1	
性別	男性(n=382)	65.2	15.4	69.9	47.4	49.0	34.0	58.6	4.2	2.6	5.0	
	女性(n=492)	70.3	21.7	81.5	52.6	64.6	36.4	75.0	1.6	1.2	4.9	
	無回答(n= 21)	33.3	9.5	61.9	38.1	42.9	28.6	66.7	-	-	14.3	
全体(N=564)		65.8	18.8	75.4	49.1	56.6	37.1	67.7	2.0	1.4	5.5	
性・世帯の 働き方別	男性	共働き(n=110)	72.7	26.4	74.5	47.3	50.9	35.5	58.2	2.7	1.8	1.8
		それ以外(n=150)	58.7	9.3	68.0	46.0	50.0	36.0	62.7	2.0	2.0	7.3
	女性	共働き(n=133)	71.4	24.8	78.9	56.4	65.4	39.8	77.4	1.5	0.8	3.0
		それ以外(n=152)	67.8	18.4	80.9	48.0	62.5	38.2	73.7	1.3	1.3	6.6
無回答(n= 19)		26.3	10.5	68.4	42.1	31.6	26.3	47.4	5.3	-	21.1	

表 3-20 男性が育児休業を取りやすくするためには/性別/性・世帯の働き方別

問 12 女性も男性も働きやすい職場にしていくために、どのようなことが重要だと思いますか。
あてはまる番号にすべて○をつけてください。

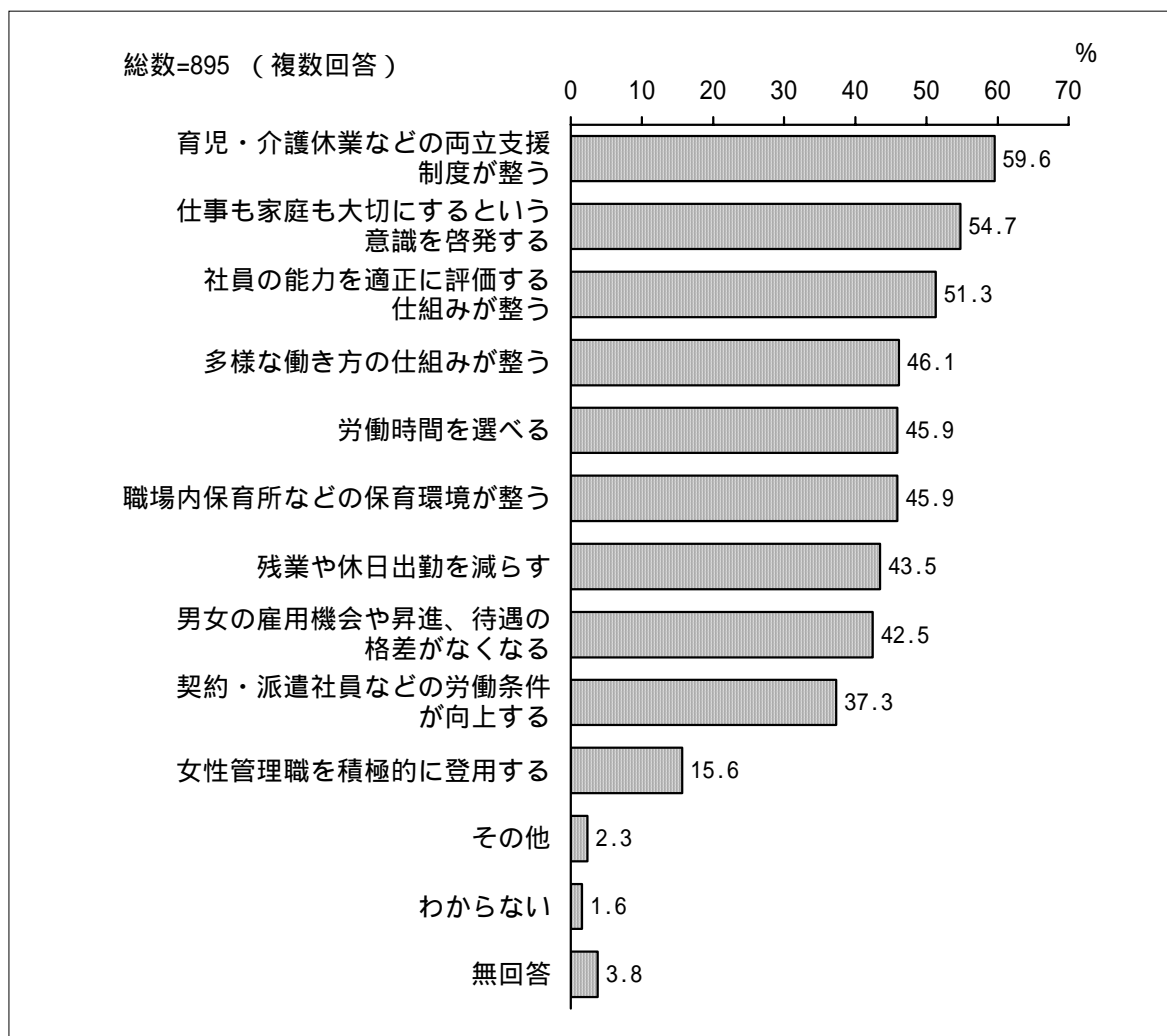


図 3-32 働きやすい職場

女性も男性も働きやすい職場にしていくために重要なことは、「育児・介護休業などの両立支援制度が整うこと」が 59.6%で最も多く、次いで「仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること」が 54.7%、「社員の能力を適正に評価する仕組みが整うこと」が 51.3%となっており、いずれも半数を上回っています。

◆ 男女別でみると、「育児・介護休業などの両立支援制度が整うこと」「職場内保育所などの保育環境が整うこと」「契約・派遣社員などの労働条件が向上すること」「仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること」と回答した人は、男性より女性の方がそれぞれ 10 ポイント以上高くなっています。

◆ 性・年齢別では、男性・60 歳代～70 歳代以上、女性・70 歳代以上で「育児・介護休業などの両立支援制度が整うこと」が他の年代に比べ、やや低くなっています。また、女性・20 歳代以下～60 歳代では、「職場内保育所などの保育環境が整うこと」が男性・20 歳代以下～60 歳代に比べ高いことがわかります。

		労働時間を選べる	多様な働き方の 仕組みが整う	残業や休日 出勤を減らす	育児・介護休業 などの両立支援 制度が整う	職場内保育所 などの保育環境 が整う	男女の雇用機会や 昇進、待遇の格差 がなくなる	積極的な管理職を 登用する	
全体 (N=895)		45.9	46.1	43.5	59.6	45.9	42.5	15.6	
性別	男性 (n=382)	43.2	42.1	40.8	54.7	36.1	39.3	11.8	
	女性 (n=492)	49.0	50.0	45.9	64.2	54.1	45.5	18.5	
	無回答 (n= 21)	23.8	28.6	33.3	38.1	33.3	28.6	19.0	
性・年齢別	男性	20歳代以下 (n= 35)	34.3	48.6	48.6	57.1	34.3	20.0	14.3
		30歳代 (n= 54)	42.6	57.4	53.7	61.1	42.6	48.1	14.8
		40歳代 (n= 69)	52.2	56.5	37.7	59.4	46.4	42.0	10.1
		50歳代 (n= 65)	50.8	47.7	40.0	61.5	41.5	43.1	9.2
		60歳代 (n= 94)	44.7	27.7	35.1	46.8	31.9	39.4	9.6
		70歳代以上 (n= 64)	29.7	26.6	39.1	48.4	21.9	35.9	15.6
	女性	20歳代以下 (n= 61)	44.3	50.8	57.4	65.6	57.4	50.8	26.2
		30歳代 (n= 82)	50.0	65.9	36.6	72.0	59.8	43.9	17.1
		40歳代 (n= 74)	62.2	59.5	44.6	74.3	58.1	50.0	21.6
		50歳代 (n= 90)	51.1	62.2	52.2	67.8	55.6	51.1	18.9
		60歳代 (n= 92)	47.8	42.4	52.2	67.4	59.8	43.5	15.2
		70歳代以上 (n= 93)	39.8	23.7	35.5	41.9	36.6	36.6	15.1
	無回答 (n= 22)		22.7	27.3	31.8	36.4	31.8	27.3	18.2

		社員の能力を 適正に評価する 仕組みが整う	契約・派遣社員 などの労働条件が 向上する	仕事も家庭も 大切にすると 意識を啓発する	その他	わからない	無回答	
全体 (N=895)		51.3	37.3	54.7	2.3	1.6	3.8	
性別	男性 (n=382)	47.9	29.3	45.8	3.1	1.6	3.7	
	女性 (n=492)	54.3	43.5	62.0	1.6	1.6	3.5	
	無回答 (n= 21)	42.9	38.1	47.6	4.8	-	14.3	
性・年齢別	男性	20歳代以下 (n= 35)	42.9	22.9	51.4	2.9	2.9	-
		30歳代 (n= 54)	53.7	24.1	55.6	7.4	-	-
		40歳代 (n= 69)	55.1	27.5	53.6	7.2	1.4	1.4
		50歳代 (n= 65)	44.6	38.5	41.5	-	-	3.1
		60歳代 (n= 94)	46.8	34.0	44.7	2.1	3.2	6.4
		70歳代以上 (n= 64)	43.8	23.4	32.8	-	1.6	6.3
	女性	20歳代以下 (n= 61)	52.5	42.6	67.2	3.3	-	-
		30歳代 (n= 82)	58.5	37.8	59.8	2.4	-	1.2
		40歳代 (n= 74)	62.2	62.2	62.2	-	1.4	-
		50歳代 (n= 90)	55.6	46.7	64.4	1.1	-	1.1
		60歳代 (n= 92)	60.9	46.7	64.1	1.1	2.2	3.3
		70歳代以上 (n= 93)	37.6	28.0	55.9	2.2	5.4	12.9
	無回答 (n= 22)		40.9	36.4	45.5	4.5	-	18.2

表 3-21 働きやすい職場/性別/性・年齢別

介護について

問 13 あなたが同居している家族（あなた自身も含みます）には、現在、介護を必要としている方がいますか。または、過去にいましたか。

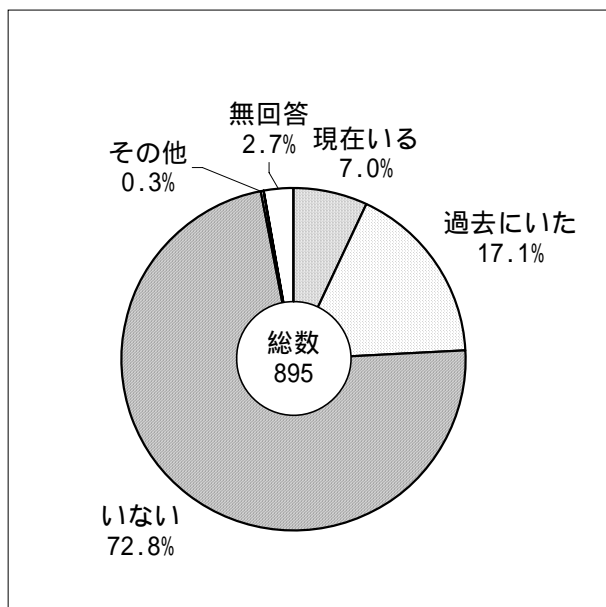


図 3-33 介護を必要とする人の有無

介護を必要とする人の有無は、「いない」が 72.8%で最も多く、「過去にいた」が 17.1%、「現在いる」が 7.0%になっています。

◆ 性・年齢別で見ると、女性・50歳代では 16.7%の人が「現在いる」と回答しています。また、男性・50歳代～70歳代以上、女性・40歳代～60歳代では 20%前後の人が「過去にいた」と回答しています。

◆ 世帯構成で見ると、親と子ども夫婦（2世代家族）では 20%の人が「現在いる」と回答しています。

		現在いる	過去にいた	いない	その他	無回答	
全体(N=895)		7.0	17.1	72.8	0.3	2.7	
性・年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	2.9	8.6	85.7	-	2.9
		30歳代(n= 54)	1.9	9.3	87.0	-	1.9
		40歳代(n= 69)	8.7	10.1	79.7	-	1.4
		50歳代(n= 65)	10.8	16.9	67.7	1.5	3.1
		60歳代(n= 94)	7.4	19.1	69.1	1.1	3.2
		70歳代以上(n= 64)	9.4	23.4	64.1	-	3.1
	女性	20歳代以下(n= 61)	6.6	4.9	88.5	-	-
		30歳代(n= 82)	1.2	8.5	89.0	-	1.2
		40歳代(n= 74)	1.4	20.3	77.0	-	1.4
		50歳代(n= 90)	16.7	25.6	56.7	-	1.1
		60歳代(n= 92)	3.3	18.5	76.1	-	2.2
		70歳代以上(n= 93)	6.5	29.0	54.8	1.1	8.6
無回答(n= 22)		22.7	9.1	63.6	-	4.5	
全体(N=895)		7.0	17.1	72.8	0.3	2.7	
世帯構成	ひとり暮らし(n=159)	1.3	19.5	74.8	0.6	3.8	
	夫婦のみ(n=235)	4.7	18.3	75.7	-	1.3	
	親と独身の子ども (2世代家族)(n=372)	9.1	16.1	71.8	0.5	2.4	
	親と子ども夫婦 (2世代家族)(n= 40)	20.0	15.0	62.5	-	2.5	
	親と子どもと孫 (3世代家族)(n= 48)	12.5	16.7	66.7	-	4.2	
	その他(n= 31)	3.2	12.9	77.4	-	6.5	
	無回答(n= 10)	10.0	10.0	70.0	-	10.0	

表 3-22 介護を必要とする人の有無/性・年齢別/世帯構成

問 13-1 問 13で「1. 現在いる」または「2. 過去にいた」とお答えした方にお聞きます。
 その方を主に介護している（した）のはその方から見てどなたですか。あてはまる番号に1
 つ〇をつけてください。

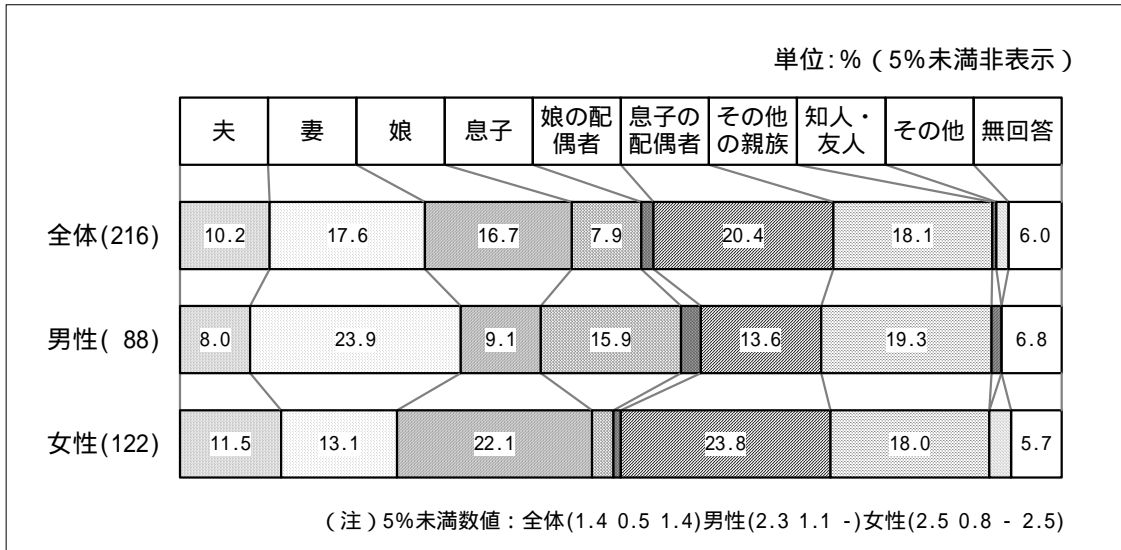


図 3-34 介護をした人/性別

介護を必要とする人の有無について、現在いる、過去にいたと回答した人に対し、主に介護している（いた）のは誰かを調査したところ、「息子の配偶者」が20.4%で最も多く、次いで「その他の親族」が18.1%、「妻」が17.6%で続きます。

◆ 男女別でみると、男性は「妻」が23.9%で最も多く、次いで「息子」が15.9%でした。一方、女性は「息子の配偶者」が23.8%で最も多く、次いで「娘」が22.1%でした。

		夫	妻	娘	息子	配 偶者 娘の	配 偶者 息子の	そ の 他 の 親 族	知 人 ・ 友 人	そ の 他	無 回 答
全体(N=216)		10.2	17.6	16.7	7.9	1.4	20.4	18.1	0.5	1.4	6.0
世帯 構成	ひとり暮らし(n= 33)	24.2	15.2	15.2	6.1	-	15.2	12.1	-	-	12.1
	夫婦のみ(n= 54)	11.1	18.5	11.1	9.3	3.7	11.1	24.1	1.9	1.9	7.4
	親と独身の子ども (2世代家族)(n= 94)	6.4	18.1	18.1	8.5	-	29.8	13.8	-	-	5.3
	親と子ども夫婦 (2世代家族)(n= 14)	-	28.6	28.6	14.3	-	14.3	14.3	-	-	-
	親と子どもと孫 (3世代家族)(n= 14)	7.1	7.1	14.3	-	7.1	21.4	28.6	-	14.3	-
	その他(n= 5)	-	-	40.0	-	-	-	60.0	-	-	-
	無回答(n= 2)	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-

表 3-23 介護をした人/世帯構成

問 14 将来、あなたに介護が必要になった場合、どのように介護してもらいたいですか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

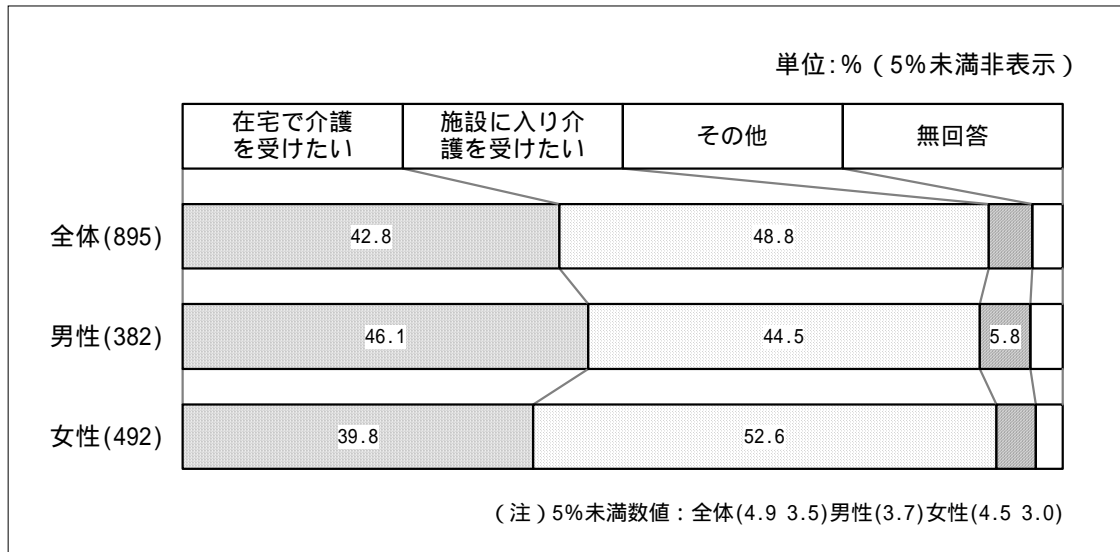


図 3-35 介護してもらいたい場所/性別

介護が必要になった場合、どのように介護してもらいたいかについて「施設に入り介護を受けたい」が48.8%、「在宅で介護を受けたい」が42.8%でした。

◆ 性・年齢別で見ると、男性は20歳代以下～40歳代では「施設に入り介護を受けたい」と回答した人が、50歳代～70歳代以上では「在宅で介護を受けたい」と回答した人が半数を占めています。

一方、女性は年齢に関係なく、「施設に入り介護を受けたい」と回答した人が半数を上回っています。

◆ 世帯構成で見ると、親と子ども夫婦（2世代家族）では「在宅で介護を受けたい」と回答した人がやや多くなっていますが、その他の世帯では「施設に入り介護を受けたい」という回答が多くなっています。

			在宅で介護を受けたい	介護施設を受け入りたい	その他	無回答	
全体(N=895)			42.8	48.8	4.9	3.5	
性・年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	34.3	48.6	14.3	2.9	
		30歳代(n= 54)	38.9	50.0	9.3	1.9	
		40歳代(n= 69)	37.7	59.4	1.4	1.4	
		50歳代(n= 65)	52.3	40.0	4.6	3.1	
		60歳代(n= 94)	53.2	35.1	6.4	5.3	
		70歳代以上(n= 64)	50.0	40.6	3.1	6.3	
	女性	20歳代以下(n= 61)	47.5	47.5	4.9	-	
		30歳代(n= 82)	30.5	62.2	6.1	1.2	
		40歳代(n= 74)	45.9	48.6	1.4	4.1	
		50歳代(n= 90)	40.0	54.4	3.3	2.2	
		60歳代(n= 92)	37.0	53.3	6.5	3.3	
		70歳代以上(n= 93)	40.9	48.4	4.3	6.5	
	無回答(n= 22)			54.5	36.4	-	9.1
	全体(N=895)			42.8	48.8	4.9	3.5
子ども有無	子どもがいる(n=568)		46.1	45.8	4.0	4.0	
	子どもがいない(n=321)		36.8	54.2	6.5	2.5	
	無回答(n= 6)		50.0	50.0	-	-	
全体(N=895)			42.8	48.8	4.9	3.5	
世帯構成	ひとり暮らし(n=159)		33.3	55.3	9.4	1.9	
	夫婦のみ(n=235)		43.8	48.5	3.0	4.7	
	親と独身の子ども (2世代家族)(n=372)		45.4	47.6	4.0	3.0	
	親と子ども夫婦 (2世代家族)(n= 40)		47.5	40.0	7.5	5.0	
	親と子どもと孫 (3世代家族)(n= 48)		39.6	54.2	2.1	4.2	
	その他(n= 31)		48.4	38.7	9.7	3.2	
	無回答(n= 10)		50.0	40.0	-	10.0	

表 3-24 介護をしてもらいたい場所/性・年齢別/子どもの有無/世帯構成

問 14-1 問 14で「1. 在宅で介護を受けたい」とお答えした方にお聞きします。主に誰に介護してほしいですか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

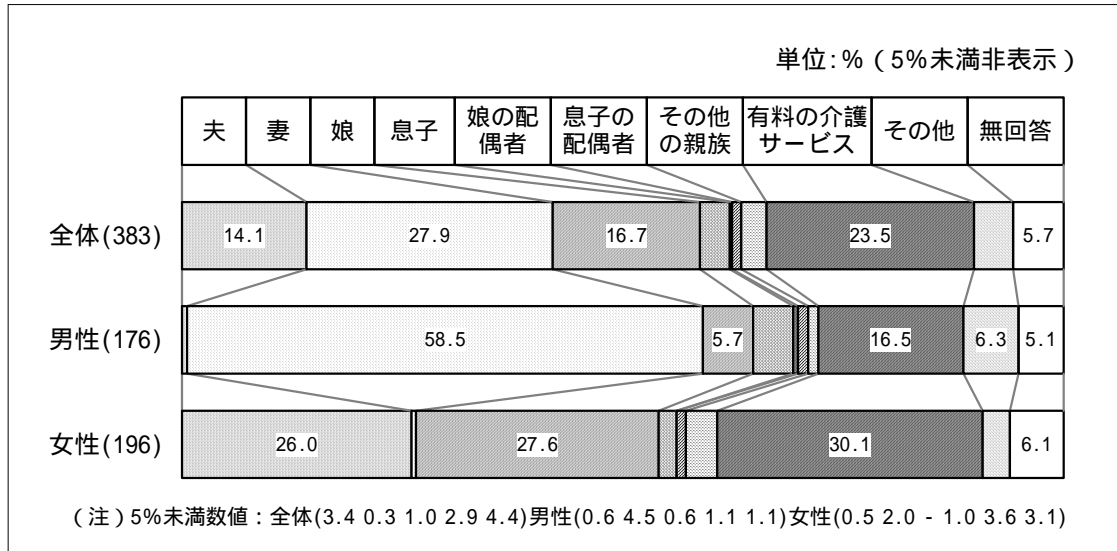


図 3-36 介護をしてもらいたい人/性別

在宅で介護を受けたいと回答した人に対し、主に誰に介護して欲しいか調査したところ、「妻」が27.9%で最も多く、次いで「有料の介護サービス」が23.5%、「娘」が16.7%が続いています。

◆ 男女別でみると、男性は「妻」が58.5%でほぼ6割と占めており、女性は「有料の介護サービス」が30.1%で最も多くなっています。

◆ 世帯構成では、ひとり暮らし、親と独身の子ども(2世代家族)では「有料の介護サービス」が最も多く、夫婦のみ、親と子ども夫婦(2世代家族)では「妻」、親と子どもと孫(3世代家族)では「娘」が最も多くなっています。

		夫	妻	娘	息子	娘の配偶者	息子の配偶者	その他の親族	有料の介護サービス	その他	無回答
全体(N=383)		14.1	27.9	16.7	3.4	0.3	1.0	2.9	23.5	4.4	5.7
性別	男性(n=176)	0.6	58.5	5.7	4.5	0.6	1.1	1.1	16.5	6.3	5.1
	女性(n=196)	26.0	0.5	27.6	2.0	-	1.0	3.6	30.1	3.1	6.1
	無回答(n= 11)	18.2	27.3	-	9.1	-	-	18.2	18.2	-	9.1
	ひとり暮らし(n= 53)	5.7	5.7	22.6	3.8	1.9	1.9	9.4	30.2	9.4	9.4
世帯構成	夫婦のみ(n=103)	25.2	36.9	11.7	1.0	-	2.9	-	13.6	2.9	5.8
	親と独身の子ども(2世代家族)(n=169)	12.4	27.2	15.4	4.7	-	-	1.2	30.8	4.1	4.1
	親と子ども夫婦(2世代家族)(n= 19)	15.8	47.4	21.1	5.3	-	-	-	5.3	-	5.3
	親と子どもと孫(3世代家族)(n= 19)	5.3	26.3	36.8	5.3	-	-	-	15.8	-	10.5
	その他(n= 15)	-	33.3	6.7	-	-	-	20.0	20.0	13.3	6.7
	無回答(n= 5)	-	20.0	40.0	-	-	-	20.0	20.0	-	-

表 3-25 介護をしてもらいたい人/性別/世帯構成

健康について

問 15 からだの健康についてお聞きします。あなたは、最近1年間にどこかで健康診断を受けましたか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

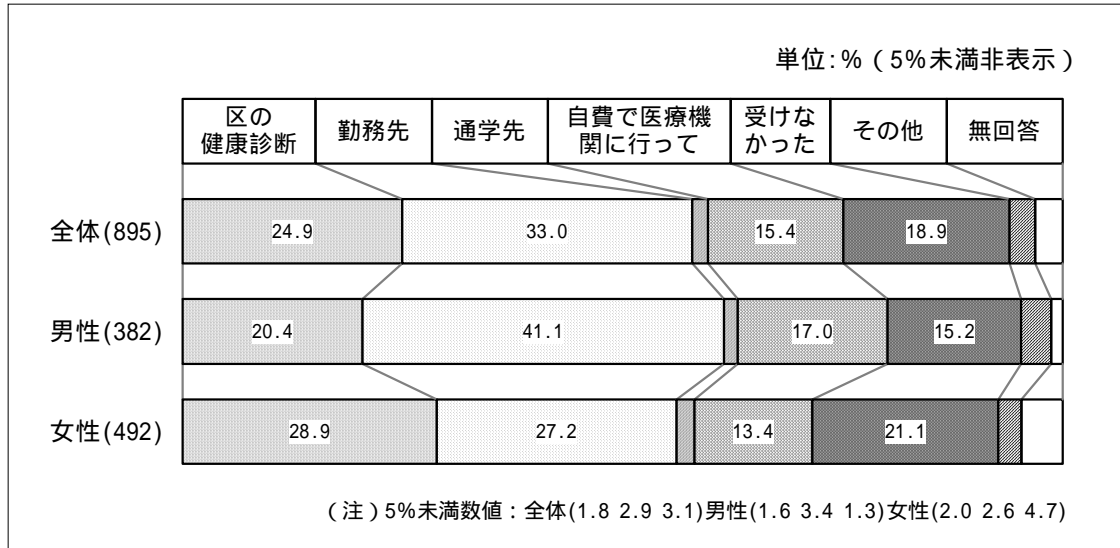


図 3-37 健康診断/性別

最近1年に健康診断を受けたかについて、「勤務先」が33.0%で最も多く、次いで「区健康診断」が24.9%、「受けなかった」が18.9%が続いています。

- ◆ 男女別でみると、男性は「勤務先」が41.1%、女性は「区健康診断」が28.9%で最も多くなっています。
- ◆ 性・年齢別でみると、「区健康診断」と回答した人は40歳代から徐々に増えていき、70歳代以上ではほぼ半数の人が区健康診断を受けています。
また、女性・20歳代以下～30歳代では、約4割の人が「受けなかった」と回答しています。
- ◆ 子どもの有無でみると、子どもがいる人の15.1%、子どもいない人の25.5%が「受けなかった」と回答しました。
- ◆ 性・世帯の働き方別では、女性・それ以外と回答した人の38.8%は「区健康診断」を受けており、25.0%が健康診断を受けていませんでした。

		健康診断	勤務先	通学先	医療機関 に自費で 行って	か受 つたな	その他	無回答	
全体 (N=895)		24.9	33.0	1.8	15.4	18.9	2.9	3.1	
性・年齢別	男性	20歳代以下 (n= 35)	-	57.1	17.1	2.9	22.9	-	-
		30歳代 (n= 54)	-	74.1	-	11.1	14.8	-	-
		40歳代 (n= 69)	14.5	60.9	-	5.8	17.4	1.4	-
		50歳代 (n= 65)	16.9	50.8	-	16.9	12.3	3.1	-
		60歳代 (n= 94)	27.7	19.1	-	22.3	21.3	8.5	1.1
		70歳代以上 (n= 64)	48.4	6.3	-	32.8	3.1	3.1	6.3
	女性	20歳代以下 (n= 61)	-	44.3	14.8	1.6	37.7	1.6	-
		30歳代 (n= 82)	3.7	43.9	-	12.2	37.8	1.2	1.2
		40歳代 (n= 74)	27.0	37.8	-	8.1	20.3	4.1	2.7
		50歳代 (n= 90)	41.1	32.2	-	12.2	10.0	1.1	3.3
		60歳代 (n= 92)	38.0	10.9	1.1	17.4	22.8	4.3	5.4
70歳代以上 (n= 93)		50.5	4.3	-	23.7	5.4	3.2	12.9	
無回答 (n= 22)		13.6	18.2	-	36.4	31.8	-	-	
全体 (N=895)		24.9	33.0	1.8	15.4	18.9	2.9	3.1	
子ども有無	子どもがいる (n=568)	31.9	28.0	0.2	17.1	15.1	3.5	4.2	
	子どもがいない (n=321)	13.1	41.4	4.7	12.1	25.5	1.9	1.2	
	無回答 (n= 6)	-	50.0	-	33.3	16.7	-	-	
全体 (N=564)		27.7	32.4	-	16.0	16.5	3.9	3.5	
働き世帯の 性別	男性	共働き (n=110)	16.4	60.0	-	11.8	10.0	1.8	-
		それ以外 (n=150)	26.7	31.3	-	23.3	10.7	6.0	2.0
	女性	共働き (n=133)	26.3	40.6	-	9.8	17.3	3.0	3.0
		それ以外 (n=152)	38.8	7.2	-	16.4	25.0	4.6	7.9
	無回答 (n= 19)		21.1	26.3	-	21.1	26.3	-	5.3

表 3-26 健康診断/性・年齢別/子どもの有無/性・世帯の働き方別

問 16 ころの健康についてお聞きします。あなたは、日頃の生活でどの程度ストレスを感じていますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

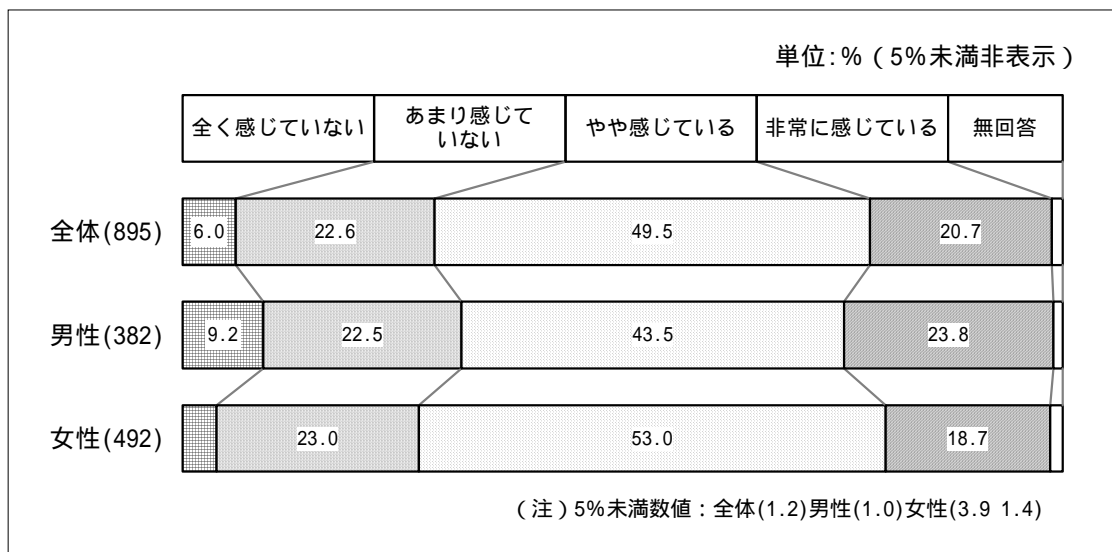


図 3-38 日頃のストレス/性別

日頃の生活でどの程度ストレスを感じているか調査したところ、「やや感じている」が49.5%で約半数を占めており、以下「あまり感じていない」が22.6%、「非常に感じている」が20.7%になっています。

		感じて全くない	感じてあまりない	感じてやや	感じて非常に	無回答	
全体(N=564)		7.3	23.2	50.7	17.6	1.2	
性・世帯の働き方別	男性	共働き(n=110)	4.5	20.9	45.5	29.1	-
		それ以外(n=150)	16.0	22.7	43.3	16.7	1.3
	女性	共働き(n=133)	2.3	23.3	60.2	13.5	0.8
		それ以外(n=152)	5.9	26.3	51.3	14.5	2.0
	無回答(n= 19)		-	15.8	68.4	10.5	5.3

表 3-27 日頃のストレス/性・世帯の働き方別

地域活動について

問 17 あなたは、現在住んでいる地元のどのような地域活動に参加していますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

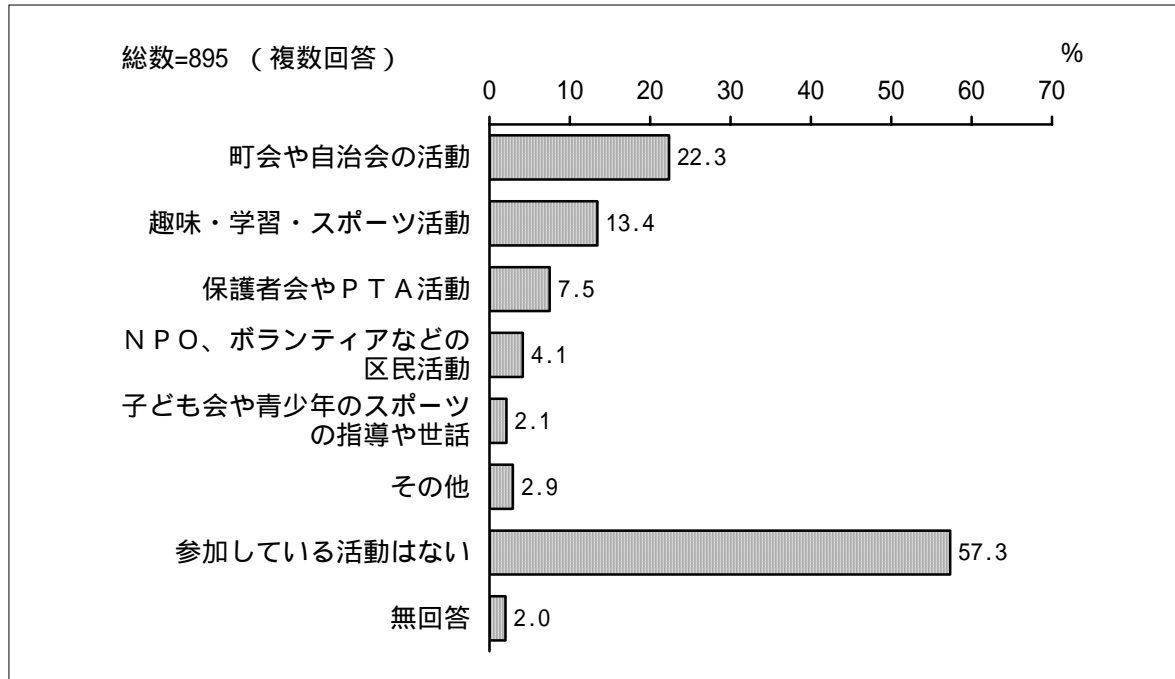


図 3-39 地域活動への参加状況

地域活動への参加状況は、「町会や自治会の活動」が 22.3%、次いで「趣味・学習・スポーツ活動」が 13.4%、「保護者会やPTA活動」が 7.5%となっています。

一方、「参加している活動はない」と回答した人は 57.3%でほぼ 6 割を占めています。

◆ 男女別でみると、「保護者会やPTA活動」に参加しているのは女性が 11.3%に対し、男性は 3.1%と大きな差があります。

◆ 子どもの有無でみると、子どもがいると回答した人の約 3 割が「町会や自治会の活動」に参加しています。

◆ 性・世帯の働き方別では、男性・共働き、男性・それ以外、女性・共働きの人は半数以上が「参加している活動はない」と回答しています。

		町会や自治会の活動	保護者会やPTA活動	子ども会や青少年のスポーツの指導や世話	趣味・学習・スポーツ活動	NPO、ボランティアなどの区民活動	その他	参加している活動はない	無回答	
全体(N=895)		22.3	7.5	2.1	13.4	4.1	2.9	57.3	2.0	
性別	男性(n=382)	20.2	3.1	1.8	10.2	3.4	4.2	62.6	2.4	
	女性(n=492)	23.6	11.2	2.4	15.9	4.7	1.6	53.9	1.8	
	無回答(n= 21)	33.3	-	-	14.3	4.8	9.5	42.9	-	
全体(N=895)		22.3	7.5	2.1	13.4	4.1	2.9	57.3	2.0	
子ども有無	子どもがいる(n=568)	28.7	11.8	3.3	15.7	4.8	3.5	46.0	2.3	
	子どもがいない(n=321)	10.9	-	-	9.3	3.1	1.9	77.3	1.6	
	無回答(n= 6)	33.3	-	-	16.7	-	-	66.7	-	
全体(N=564)		25.0	11.0	2.7	14.0	4.6	3.5	50.5	2.1	
働き方別の性・世帯	男性	共働き(n=110)	21.8	9.1	3.6	9.1	4.5	3.6	59.1	0.9
		それ以外(n=150)	25.3	1.3	1.3	12.7	4.0	5.3	55.3	3.3
	女性	共働き(n=133)	22.6	19.5	3.8	11.3	3.0	1.5	53.4	0.8
		それ以外(n=152)	28.3	15.8	2.6	21.7	7.2	2.6	38.2	2.6
	無回答(n= 19)		31.6	-	-	10.5	-	10.5	42.1	5.3

表 3-28 地域活動への参加状況/性別/子どもの有無/性・世帯の働き方別

問 17-1 問 17で「7. 参加している活動はない」とお答えした方にお聞きします。地域活動に参加していない理由はなんですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

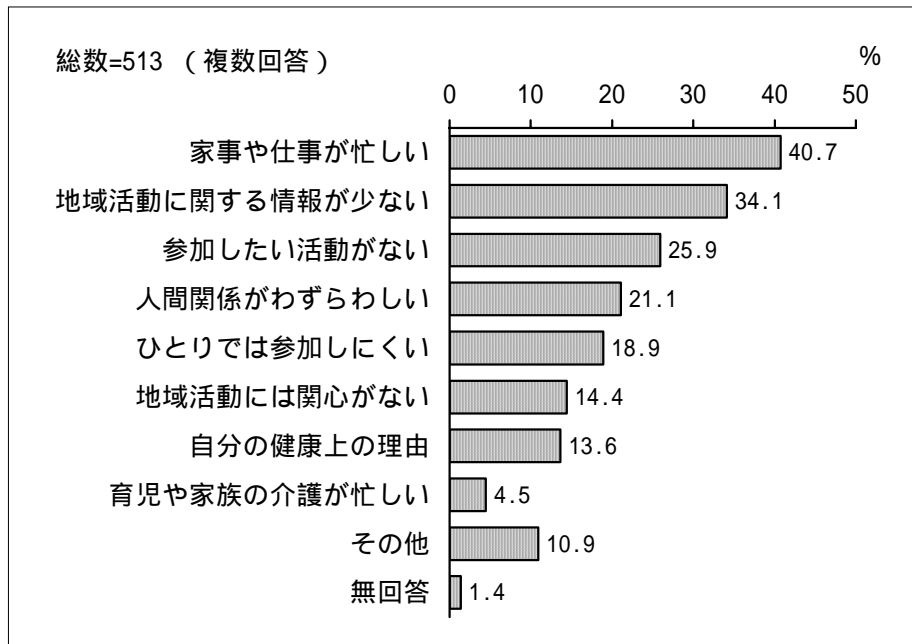


図 3-40 地域活動に参加していない理由

地域活動の参加状況で、参加している活動はないと回答した人に対し、その理由を調査したところ、「家事や仕事が忙しいから」が40.7%で最も多く、次いで「地域活動に関する情報が少ないから」が34.1%、「参加したい活動がないから」が25.9%が続いています。

◆ 性・年齢別で見ると、男女ともに20歳代以下～50歳代では「家事や仕事が忙しいから」が最も多くなっています。また、男性・50歳代～70歳代以上、女性・60歳代～70歳代以上では「自分の健康上の理由から」「人間関係がわずらわしいから」がそれぞれ多くなっています。

◆ 性・世帯の働き方別では、男性・共働きで「地域活動に関する情報が少ないから」という回答が46.2%で多くなっています。

		家事や仕事が忙しい	育児や家族の介護が忙しい	自分の健康上の理由	ひとりでは参加しにくい	人間関係がわずらわしい	参加したい活動がない	地域活動には関心がない	地域活動に関する情報が少ない	その他	無回答	
全体(N=513)		40.7	4.5	13.6	18.9	21.1	25.9	14.4	34.1	10.9	1.4	
性別	男性(n=239)	40.2	2.5	14.2	18.4	24.7	25.5	17.2	35.6	9.2	1.3	
	女性(n=265)	41.5	5.7	13.2	18.5	18.1	26.0	12.1	32.5	12.5	1.5	
	無回答(n= 9)	33.3	22.2	11.1	44.4	11.1	33.3	11.1	44.4	11.1	-	
性・年齢別	男性	20歳代以下(n= 32)	46.9	-	3.1	15.6	15.6	21.9	21.9	40.6	6.3	6.3
		30歳代(n= 38)	47.4	2.6	2.6	34.2	18.4	23.7	21.1	42.1	7.9	-
		40歳代(n= 44)	47.7	-	6.8	15.9	20.5	22.7	20.5	40.9	9.1	-
		50歳代(n= 41)	53.7	4.9	12.2	22.0	31.7	22.0	7.3	34.1	12.2	-
		60歳代(n= 57)	26.3	1.8	24.6	12.3	31.6	35.1	17.5	28.1	10.5	-
		70歳代以上(n= 27)	18.5	7.4	37.0	11.1	25.9	22.2	14.8	29.6	7.4	3.7
	女性	20歳代以下(n= 55)	43.6	-	7.3	25.5	7.3	20.0	21.8	49.1	14.5	1.8
		30歳代(n= 48)	50.0	12.5	2.1	22.9	16.7	27.1	4.2	41.7	8.3	2.1
		40歳代(n= 32)	40.6	3.1	9.4	12.5	9.4	31.3	9.4	37.5	6.3	3.1
		50歳代(n= 49)	51.0	12.2	8.2	8.2	22.4	32.7	14.3	24.5	20.4	2.0
		60歳代(n= 46)	39.1	-	21.7	21.7	28.3	26.1	8.7	26.1	13.0	-
		70歳代以上(n= 35)	17.1	5.7	37.1	17.1	25.7	20.0	11.4	8.6	8.6	-
無回答(n= 9)		33.3	22.2	11.1	44.4	11.1	33.3	11.1	44.4	11.1	-	
全体(N=285)		44.2	5.6	14.4	14.7	24.9	25.6	13.7	32.3	8.4	1.4	
性・世帯の働き方別	男性	共働き(n= 65)	58.5	1.5	9.2	13.8	23.1	21.5	10.8	46.2	6.2	-
		それ以外(n= 83)	36.1	3.6	16.9	15.7	25.3	28.9	22.9	26.5	10.8	1.2
	女性	共働き(n= 71)	56.3	5.6	2.8	18.3	15.5	28.2	11.3	35.2	5.6	1.4
		それ以外(n= 58)	25.9	10.3	29.3	10.3	37.9	22.4	8.6	19.0	12.1	3.4
	無回答(n= 8)		37.5	25.0	25.0	12.5	25.0	25.0	-	50.0	-	-

表 3-29 地域活動に参加していない理由/性別/性・年齢別/性・世帯の働き方別

問 18 男性も女性も地域活動に参加しやすくするためには、どのようなことが必要だと思えますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

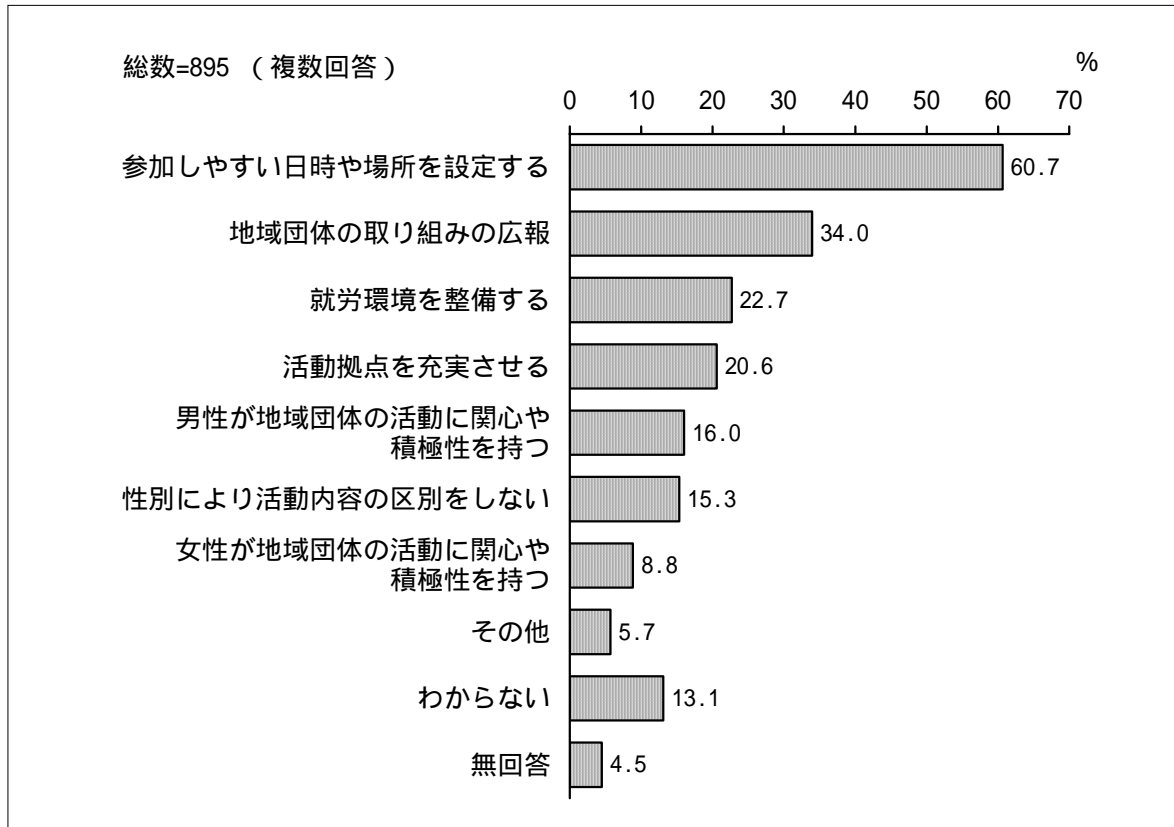


図 3-41 地域活動に参加しやすくするためには

男性も女性も地域活動に参加しやすくするためには、どのようなことが必要だと思うかを調査したところ、「参加しやすい日時や場所を設定する」が60.7%で最も多く、以下「地域団体の取り組みの広報」が34.0%、「労働時間の短縮やボランティア休暇など、就労環境を整備する」が22.7%となっています。

◆ 性・年齢別で見ると、男女ともに20歳代以下~50歳代では、「労働時間の短縮やボランティア休暇など、就労環境を整備する」が約3割程度になっているのに対し、60歳代~70歳代以上では10%程度と少なくなっています。

一方、「性別により活動内容の区別をしない」は60歳代~70歳代以上が20%程度なのに対し、20歳代以下~50歳代では10%前後となっています。

◆ 世帯構成で見ると、親と子ども夫婦（2世代家族）では「男性が地域団体の活動に関心や積極性を持つ」という回答が、他の世帯構成に比べ多くなっています。

		日時参加しやすい場所をい	性別により活動内容を区別しない	男性が地域団体の活動に関心や積極性を持つ	女性が地域団体の活動に関心や積極性を持つ	地域団体の取り組みの広報	就労環境を整備する	活動拠点を充実させる	その他	わからない	無回答	
性別	全体(N=895)	60.7	15.3	16.0	8.8	34.0	22.7	20.6	5.7	13.1	4.5	
	男性(n=382)	59.7	16.8	19.1	6.0	36.4	23.8	19.4	7.6	11.8	3.7	
	女性(n=492)	61.2	13.4	13.8	11.2	32.3	22.0	22.0	4.3	14.0	4.9	
	無回答(n= 21)	66.7	33.3	9.5	4.8	28.6	19.0	9.5	4.8	14.3	9.5	
性・年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	77.1	14.3	11.4	-	42.9	40.0	34.3	-	5.7	-
		30歳代(n= 54)	57.4	7.4	18.5	9.3	31.5	31.5	13.0	11.1	13.0	1.9
		40歳代(n= 69)	53.6	5.8	13.0	5.8	37.7	33.3	29.0	13.0	14.5	1.4
		50歳代(n= 65)	61.5	12.3	20.0	7.7	38.5	36.9	13.8	6.2	6.2	3.1
		60歳代(n= 94)	61.7	21.3	22.3	6.4	40.4	11.7	16.0	4.3	13.8	4.3
		70歳代以上(n= 64)	54.7	35.9	25.0	4.7	28.1	3.1	17.2	9.4	14.1	7.8
	女性	20歳代以下(n= 61)	59.0	9.8	4.9	6.6	36.1	23.0	29.5	8.2	13.1	1.6
		30歳代(n= 82)	58.5	6.1	12.2	1.2	32.9	28.0	19.5	8.5	14.6	2.4
		40歳代(n= 74)	64.9	10.8	16.2	12.2	32.4	32.4	20.3	2.7	10.8	4.1
		50歳代(n= 90)	66.7	15.6	14.4	12.2	36.7	34.4	18.9	1.1	13.3	-
		60歳代(n= 92)	59.8	13.0	18.5	15.2	33.7	10.9	26.1	5.4	16.3	5.4
		70歳代以上(n= 93)	58.1	22.6	14.0	17.2	23.7	6.5	19.4	1.1	15.1	14.0
	無回答(n= 22)	63.6	31.8	9.1	4.5	27.3	18.2	9.1	4.5	13.6	13.6	
	全体(N=895)	60.7	15.3	16.0	8.8	34.0	22.7	20.6	5.7	13.1	4.5	
世帯構成	ひとり暮らし(n=159)	61.0	19.5	11.9	8.8	35.8	22.6	25.2	2.5	13.8	3.8	
	夫婦のみ(n=235)	58.3	16.6	17.4	11.5	35.3	14.5	19.6	7.2	12.3	6.4	
	親と独身の子ども(2世代家族)(n=372)	62.4	12.9	14.8	7.0	33.6	27.2	21.0	5.6	12.6	3.5	
	親と子ども夫婦(2世代家族)(n= 40)	70.0	7.5	25.0	5.0	27.5	25.0	17.5	10.0	15.0	2.5	
	親と子どもと孫(3世代家族)(n= 48)	58.3	16.7	18.8	16.7	35.4	25.0	10.4	6.3	14.6	6.3	
	その他(n= 31)	48.4	16.1	19.4	3.2	22.6	25.8	16.1	6.5	19.4	3.2	
	無回答(n= 10)	60.0	30.0	30.0	10.0	40.0	20.0	30.0	-	-	10.0	

表 3-30 地域活動に参加しやすくするためには/性別/性・年齢別/世帯構成

人権について

問 19 あなたはここ 1～2 年の間に、職場・学校・地域で、次のようなセクシャル・ハラスメントや男女差別に関わる不愉快な経験をしたことがありますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

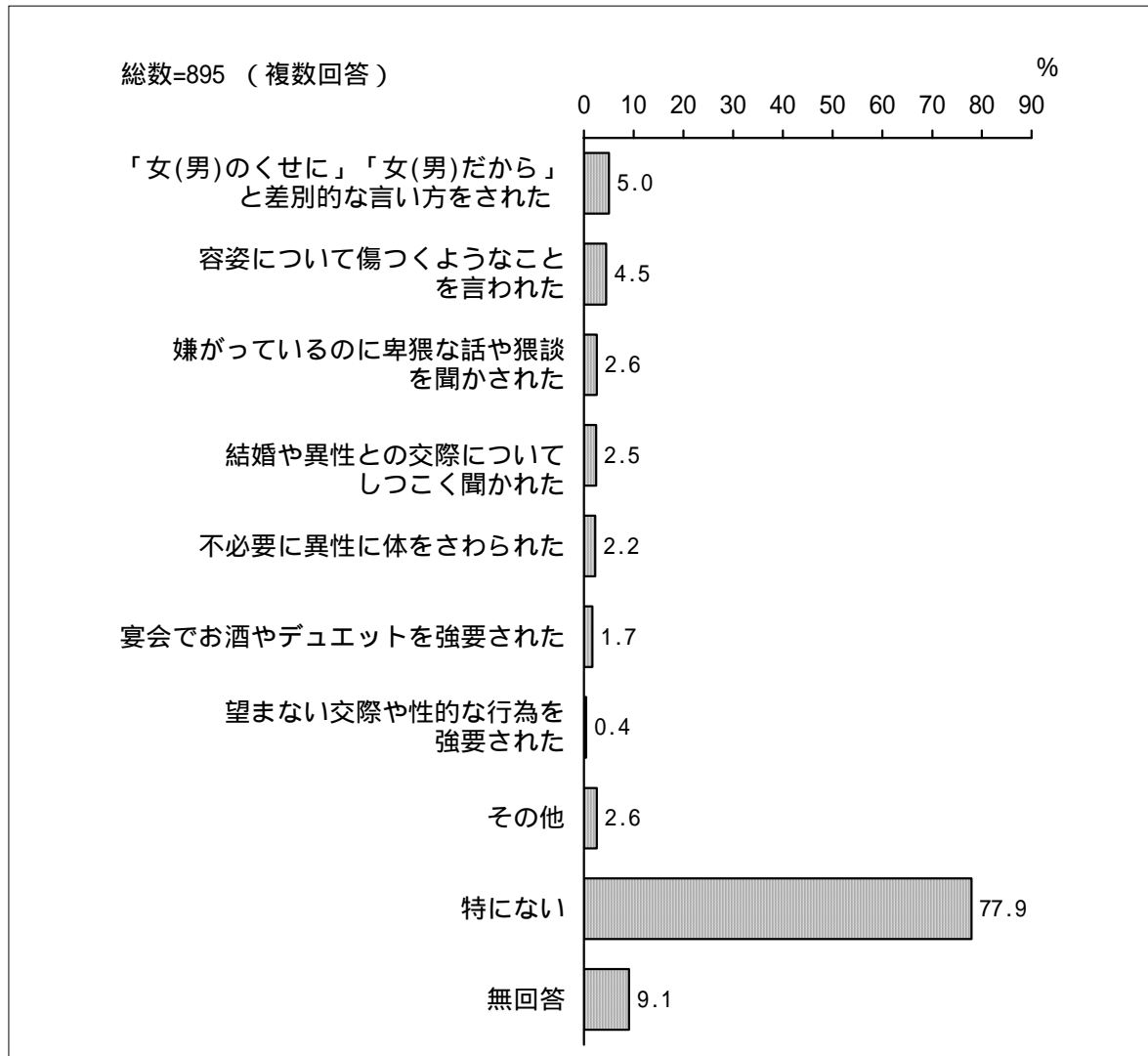


図 3-42 セクシャル・ハラスメントの経験

セクシャル・ハラスメントの経験について、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が 5.0%、「容姿について傷つくようなことを言われた」が 4.5%、「嫌がっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた」が 2.6%で続いています。

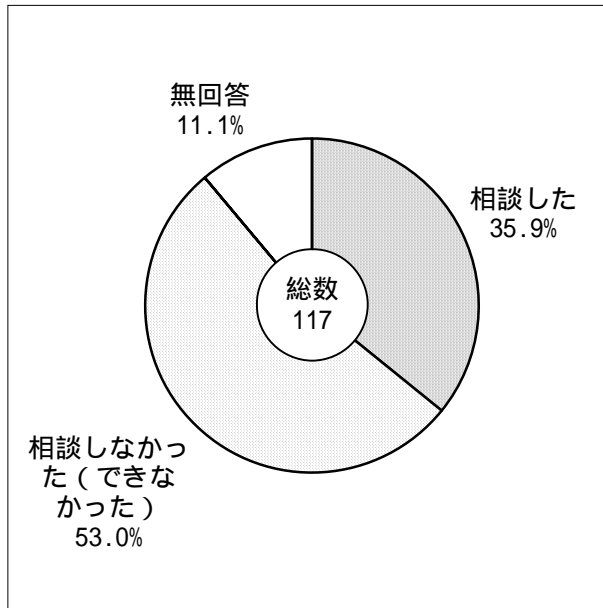
一方、「特になし」が 77.9%で、ほぼ 8 割に達しています。

◆ 性・年齢別にみると、女性・20 歳代以下の人、性・世帯の働き方別では女性・共働きの人にセクシャル・ハラスメントの経験者が多くいることがわかります。

			「女(男)のくせに「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	容姿について傷つくようなことを言われた	嫌がっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた	宴会でお酒やデューエットを強要された	不必要に異性に体をさわられた	望まない交際や性的な行為を強要された	その他	特にない	無回答
全体(N=895)			5.0	2.5	4.5	2.6	1.7	2.2	0.4	2.6	77.9	9.1
性・年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	8.6	2.9	5.7	2.9	-	-	-	-	82.9	5.7
		30歳代(n= 54)	3.7	1.9	5.6	-	1.9	1.9	-	1.9	85.2	1.9
		40歳代(n= 69)	4.3	5.8	5.8	2.9	-	-	-	1.4	81.2	4.3
		50歳代(n= 65)	1.5	-	4.6	-	1.5	-	-	1.5	87.7	3.1
		60歳代(n= 94)	3.2	-	3.2	-	1.1	-	-	1.1	83.0	9.6
		70歳代以上(n= 64)	1.6	-	-	-	-	-	-	1.6	76.6	20.3
	女性	20歳代以下(n= 61)	19.7	14.8	13.1	11.5	6.6	9.8	3.3	3.3	60.7	1.6
		30歳代(n= 82)	7.3	3.7	4.9	3.7	4.9	3.7	-	2.4	78.0	3.7
		40歳代(n= 74)	5.4	4.1	9.5	6.8	1.4	5.4	-	6.8	75.7	4.1
		50歳代(n= 90)	5.6	-	1.1	2.2	1.1	3.3	2.2	5.6	77.8	7.8
60歳代(n= 92)		3.3	1.1	3.3	3.3	2.2	1.1	-	3.3	77.2	10.9	
70歳代以上(n= 93)		1.1	-	1.1	-	-	1.1	-	-	72.0	25.8	
無回答(n= 22)		4.5	-	4.5	-	-	4.5	-	4.5	77.3	13.6	
全体(N=564)			3.2	0.9	2.8	2.0	0.9	1.8	0.4	2.5	81.0	10.1
性・世帯の働き方別	男性	共働き(n=110)	2.7	1.8	0.9	0.9	0.9	-	-	0.9	90.9	4.5
		それ以外(n=150)	1.3	-	1.3	0.7	0.7	-	-	1.3	82.7	12.7
	女性	共働き(n=133)	7.5	0.8	6.8	2.3	0.8	3.0	0.8	5.3	74.4	9.0
		それ以外(n=152)	2.0	0.7	2.0	3.9	1.3	3.3	0.7	2.6	78.3	12.5
	無回答(n= 19)		-	5.3	5.3	-	-	5.3	-	-	78.9	10.5

表 3-31 セクシャル・ハラスメントの経験/性・年齢別/性・世帯の働き方別

問 19-1 問 19で「不愉快な経験があった」とお答えした方にお聞きします。あなたはこれまでに誰かに相談しましたか。



セクシャル・ハラスメントの経験について、不快な経験があったと回答した人に対し、その時の相談の有無について調査したところ、「相談しなかった(できなかった)」が 53.0%、「相談した」が 35.9%でした。

- ◆ 男女別でみると、女性の4割が相談したと回答しているのに対し、男性は6割が相談しなかった(できなかった)と回答しています。
- ◆ 子どもの有無でみると、子どもがいる人の4割強が相談したと回答しているのに対し、子どもがいない人は7割弱が相談しなかった(できなかった)と回答しています。

		相談した	相談しなかった(できなかった)	無回答
全体(N=117)		35.9	53.0	11.1
性別	男性(n= 36)	22.2	61.1	16.7
	女性(n= 79)	41.8	49.4	8.9
	無回答(n= 2)	50.0	50.0	-
全体(N=117)		35.9	53.0	11.1
子ども有無	子どもがいる(n= 54)	46.3	37.0	16.7
	子どもがいない(n= 63)	27.0	66.7	6.3
	無回答(n= -)	*	*	*

表 3-32 相談の有無/性別/子どもの有無

問 19-2 問 19-1 で「1. 相談した」とお答えした方にお聞きします。そのとき、どこに相談しましたか。

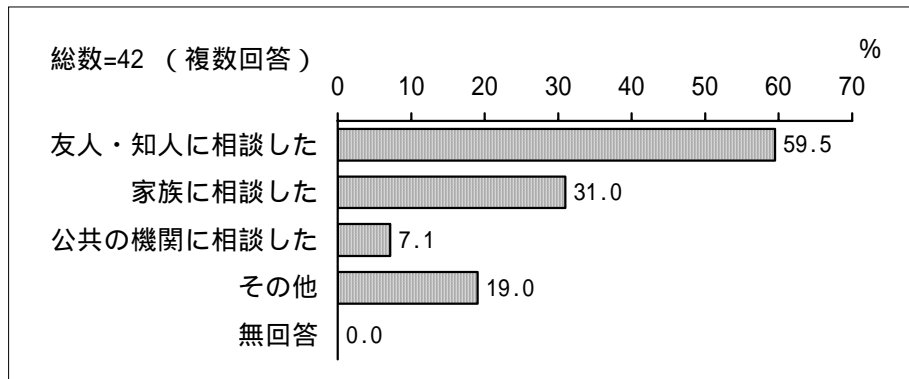


図 3-44 相談相手

セクシャル・ハラスメントについて相談したと回答した人に対し、どこ(だれ)に相談したか調査したところ、「友人・知人に相談した」が 59.5%で約 6 割に達しており、次いで「家族に相談した」が 31.0%、「公共の機関に相談した」が 7.1%となっています。

問 19-3 問 19-1 で「2. 相談しなかった（できなかった）」とお答えした方にお聞きします。だれ（どこ）にも相談しなかった、できなかった理由はなんですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

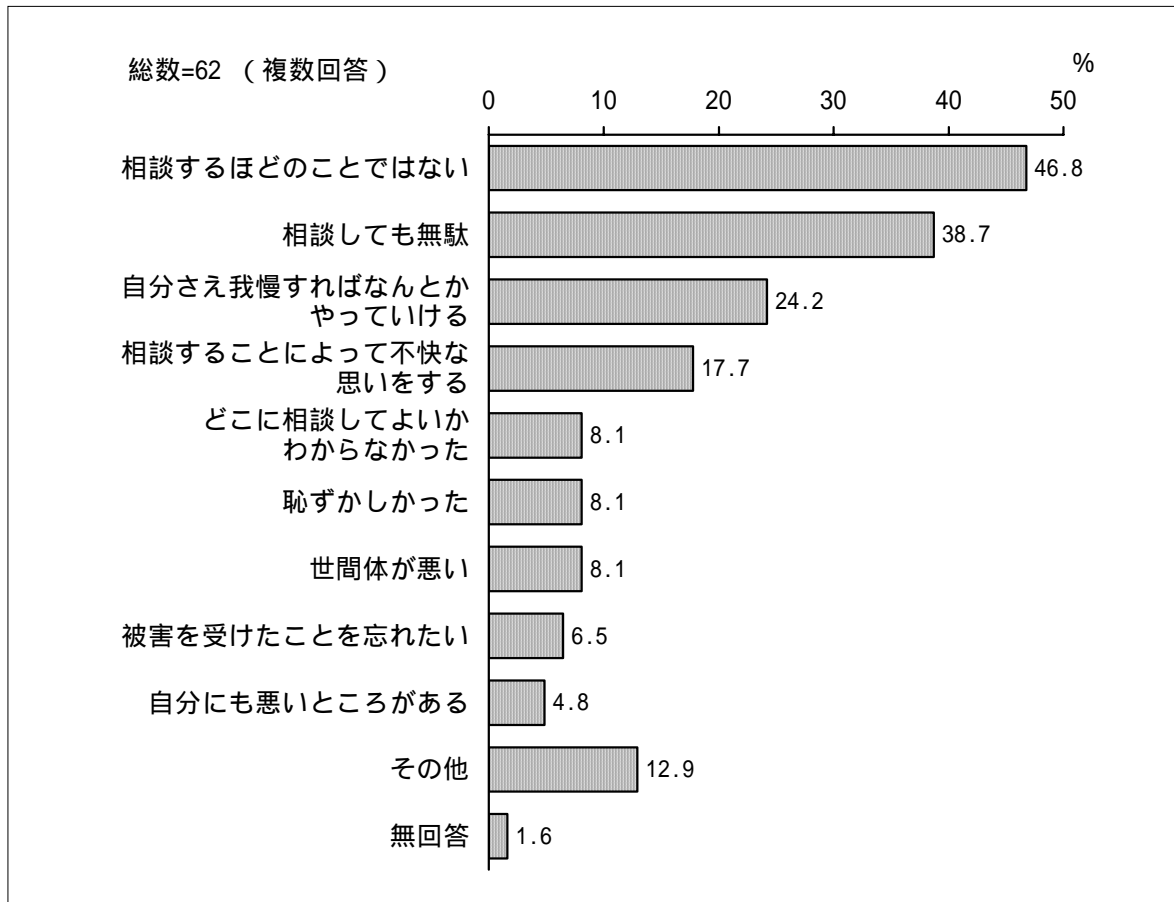


図 3-45 相談しなかった理由

セクシャル・ハラスメントについて相談しなかった（できなかった）と回答した人に対し、その理由を調査したところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が 46.8%で最も多く、「相談しても無駄だと思ったから」が 38.7%、「自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけると思ったから」が 24.2%で続いています。

◆ 男女別でみると、「相談しても無駄」という回答が男性は 22.7%に対し、女性は 46.5%で、20ポイントほど高くなっています。

性別	相談するほどのことではない	相談しても無駄	自分さえ我慢すれば、なんとかやっていける	相談することによって不快な思いをする	どこに相談してよいかわからなかった	恥ずかしかった	世間体が悪い	被害を受けたことを忘れたい	自分にも悪いところがある	その他	無回答
全体 (N= 62)	46.8	38.7	24.2	17.7	8.1	8.1	8.1	6.5	4.8	12.9	1.6
男性 (n= 22)	54.5	22.7	27.3	13.6	9.1	9.1	9.1	4.5	9.1	9.1	-
女性 (n= 39)	43.6	46.2	23.1	20.5	5.1	5.1	5.1	7.7	2.6	15.4	2.6
無回答 (n= 1)	-	100.0	-	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-

表 3-33 相談しなかった理由/性別

問20 あなたはここ1～2年の間に、配偶者（元配偶者を含む）や恋人などのパートナーから、次にあげる経験をしたことがありますか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

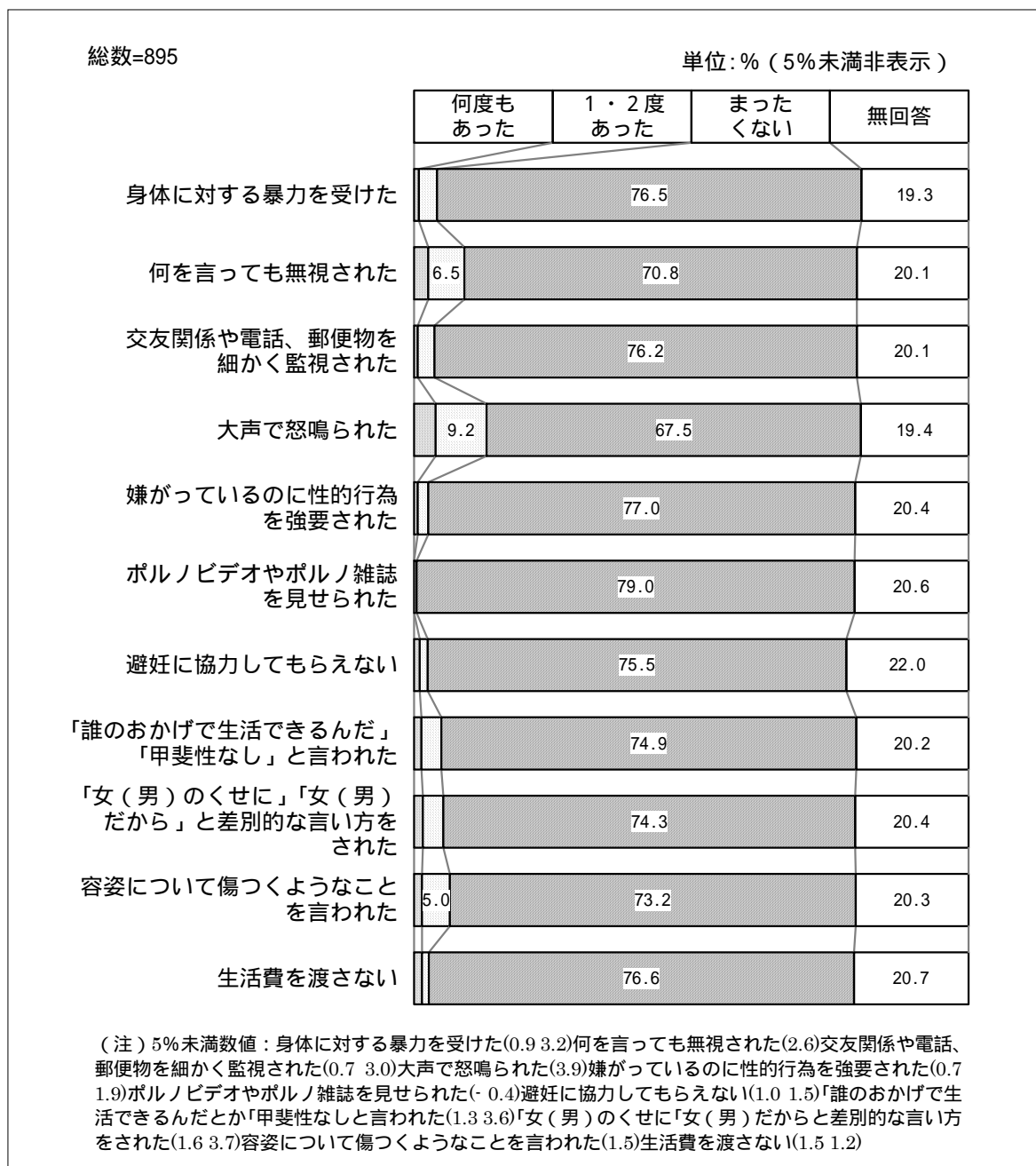


図 3-46 ドメスティック・バイオレンスの経験

ドメスティック・バイオレンスの経験について調査したところ、「まったくない」がほぼ7割を超えています。

“大声で怒鳴られた”“何を言っても無視された”“容姿について傷つくようなことを言われた”などの項目は、「何度もあった」「1・2度あった」が10%程度になっています。

		あ何 つ度 たも	あ つ た 1 ・ 2 度	ま た く な い た く	無 回 答
全体(N=895)		0.9	3.2	76.5	19.3
性別	男性(n=382)	0.5	2.9	78.3	18.3
	女性(n=492)	1.2	3.7	75.8	19.3
	無回答(n= 21)	-	-	61.9	38.1

表 3-34 身体に対する暴力を受けた

		あつたも 何度 度も	あつた 1・2 度	まっ ない たく	無 回 答
全体(N=895)		2.6	6.5	70.8	20.1
性別	男性(n=382)	1.8	7.3	72.0	18.8
	女性(n=492)	3.3	5.9	70.5	20.3
	無回答(n= 21)	-	4.8	57.1	38.1

表 3-35 何を言っても無視された

		あつたも 何度 度も	あつた 1・2 度	まっ ない たく	無 回 答
全体(N=895)		0.7	3.0	76.2	20.1
性別	男性(n=382)	1.3	3.7	76.4	18.6
	女性(n=492)	0.2	2.6	76.6	20.5
	無回答(n= 21)	-	-	61.9	38.1

表 3-36 交友関係や電話、郵便物を細かく監視された

		あつたも 何度 度も	あつた 1・2 度	まっ ない たく	無 回 答
全体(N=895)		3.9	9.2	67.5	19.4
性別	男性(n=382)	2.4	7.6	71.7	18.3
	女性(n=492)	5.3	10.6	64.6	19.5
	無回答(n= 21)	-	4.8	57.1	38.1

表 3-37 大声で怒鳴られた

		あつたも 何度 度も	あつた 1・2 度	まっ ない たく	無 回 答
全体(N=895)		0.7	1.9	77.0	20.4
性別	男性(n=382)	0.5	0.8	79.6	19.1
	女性(n=492)	0.8	2.8	75.6	20.7
	無回答(n= 21)	-	-	61.9	38.1

表 3-38 嫌がっているのに性的行為を強要された

		あつたも 何度 度も	あつた 1・2 度	まっ ない たく	無 回 答
全体(N=895)		-	0.4	79.0	20.6
性別	男性(n=382)	-	0.3	80.4	19.4
	女性(n=492)	-	0.6	78.7	20.7
	無回答(n= 21)	-	-	61.9	38.1

表 3-39 ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた

		あつたも 何度 度も	あつた 1・2 度	まっ ない たく	無 回 答
全体(N=895)		1.0	1.5	75.5	22.0
性別	男性(n=382)	0.5	0.5	77.7	21.2
	女性(n=492)	1.4	2.2	74.4	22.0
	無回答(n= 21)	-	-	61.9	38.1

表 3-40 避妊に協力してもらえない

		あつたも 何度 度も	あつた 1・2 度	まっ ない たく	無 回 答
全体(N=895)		1.3	3.6	74.9	20.2
性別	男性(n=382)	1.6	2.9	76.2	19.4
	女性(n=492)	1.2	4.1	74.6	20.1
	無回答(n= 21)	-	4.8	57.1	38.1

表 3-41 誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言われた

		あつたも 何度 度も	あつた 1・2 度	まっ ない たく	無 回 答
全体(N=895)		1.6	3.7	74.3	20.4
性別	男性(n=382)	1.6	3.4	75.9	19.1
	女性(n=492)	1.6	3.9	73.8	20.7
	無回答(n= 21)	-	4.8	57.1	38.1

表 3-42 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた

		あつたも 何度 度も	あつた 1・2 度	まっ ない たく	無 回 答
全体(N=895)		1.5	5.0	73.2	20.3
性別	男性(n=382)	0.8	5.0	75.1	19.1
	女性(n=492)	2.0	4.9	72.6	20.5
	無回答(n= 21)	-	9.5	52.4	38.1

表 3-43 容姿について傷つくようなことを言われた

		あつたも 何度 度も	あつた 1・2 度	まっ ない たく	無 回 答
全体(N=895)		1.5	1.2	76.6	20.7
性別	男性(n=382)	0.8	0.8	79.1	19.4
	女性(n=492)	2.0	1.6	75.4	20.9
	無回答(n= 21)	-	-	61.9	38.1

表 3-44 生活費を渡さない

＊ 内閣府調査との比較④

男女間における暴力に関する調査：平成18年4月
 全国20歳以上の男女4,500人 郵送留置訪問回収法

問.【これまでに結婚したことのある方】あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

※ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。

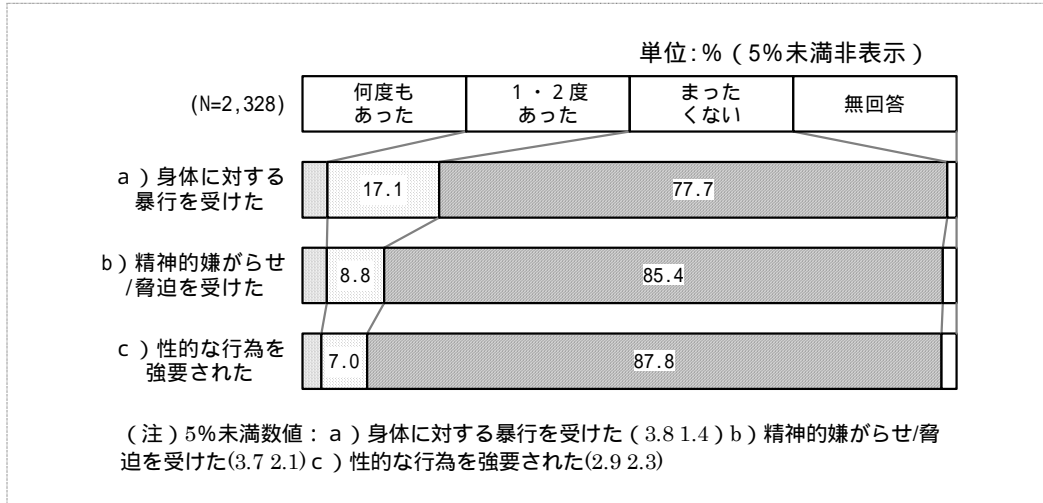


図 3-47 【内閣府調査】配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験

「a) 身体に対する暴力を受けた」と比較すると、本区調査では、「何どもあった」が0.9%、「1・2度あった」が3.2%、「まったくない」が76.5%でした。

一方、内閣府調査では、「何どもあった」が3.8%、「1・2度あった」が17.1%、「まったくない」が77.7%となっており、本区調査の方が若干少なくなっています。

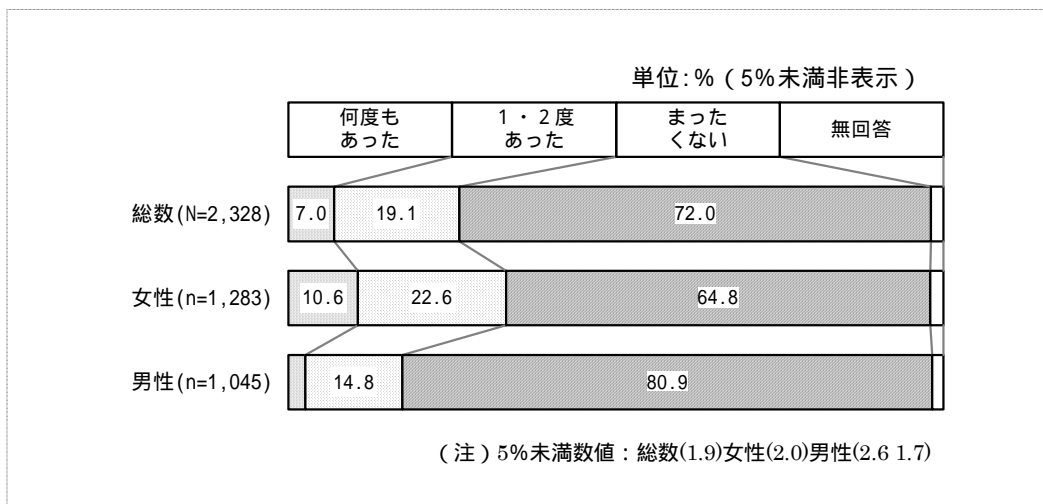


図 3-48 【内閣府調査】配偶者からのドメスティック・バイオレンスの経験

“身体的暴力”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかについて、「何どもあった」あるいは「1・2度あった」と回答した人の割合は26.1%でした。

男女別に見ると、「何どもあった」あるいは「1・2度あった」と回答した人は、男性が17.4%、女性が33.2%で、女性の方が15ポイント程度上回っています。

問20-1 問20で「1. 何度もあった」「2. 1・2度あった」とひとつでもお答えした方にお聞きします。あなたはこれまでに、誰かに相談をしましたか。

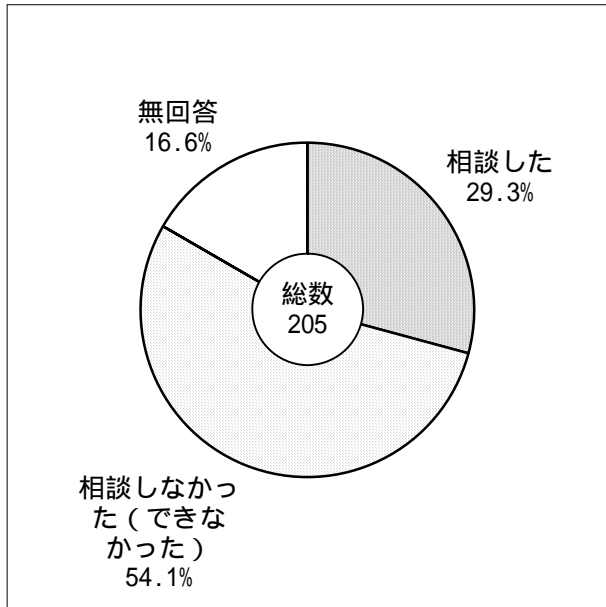


図3-49 相談の有無

ドメスティック・バイオレンスの経験について、何度もあった、1・2度あったと回答した人に対し、どこ(だれ)に相談したか調査したところ、「相談しなかった(できなかった)」が54.1%、「相談した」が29.3%でした。

- ◆ 男女別で見ると、女性の4割が相談したと回答しているのに対し、男性は6割が相談しなかった(できなかった)と回答しています。
- ◆ 世帯構成で見ると、親と子ども夫婦(2世代家族)ではほぼ8割弱が相談しなかった(できなかった)と回答しています。

		相談した	(相談しなかった) (できなかった)	無回答
全体(N=205)		29.3	54.1	16.6
性別	男性(n= 72)	12.5	62.5	25.0
	女性(n=130)	38.5	50.0	11.5
	無回答(n= 3)	33.3	33.3	33.3
全体(N=205)		29.3	54.1	16.6
世帯構成	ひとり暮らし(n= 26)	46.2	50.0	3.8
	夫婦のみ(n= 55)	16.4	49.1	34.5
	親と独身の子ども (2世代家族)(n= 96)	34.4	55.2	10.4
	親と子ども夫婦 (2世代家族)(n= 9)	22.2	77.8	-
	親と子どもと孫 (3世代家族)(n= 10)	20.0	50.0	30.0
	その他(n= 6)	16.7	83.3	-
	無回答(n= 3)	33.3	33.3	33.3

表3-45 相談の有無/性別/世帯構成

問 20-2 問 20-1 で「1.相談した」とお答えした方にお聞きします。そのとき、どこに相談しましたか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

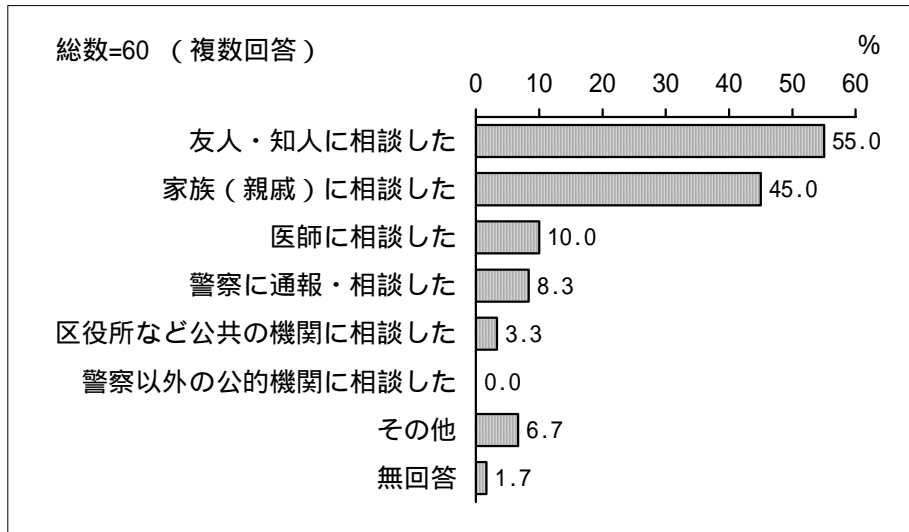


図 3-50 相談相手

ドメスティック・バイオレンスについて相談したと回答した人に対し、どこ（だれ）に相談したか調査したところ、「友人・知人に相談した」が 55.0%で最も多く、次いで「家族（親戚）に相談した」が 45.0%、「医師に相談した」が 10.0%となっています。

＊ 内閣府調査との比較⑤

男女間における暴力に関する調査：平成 18 年 4 月
全国 20 歳以上の男女 4,500 人 郵送留置訪問回収法

問. あなたはこの5年間に、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

平成 18 年 4 月の内閣府調査の類似質問と比較すると、本区調査、内閣府調査ともに、「友人・知人に相談した」が最も多く、次いで「家族（親戚）に相談した」になっています。

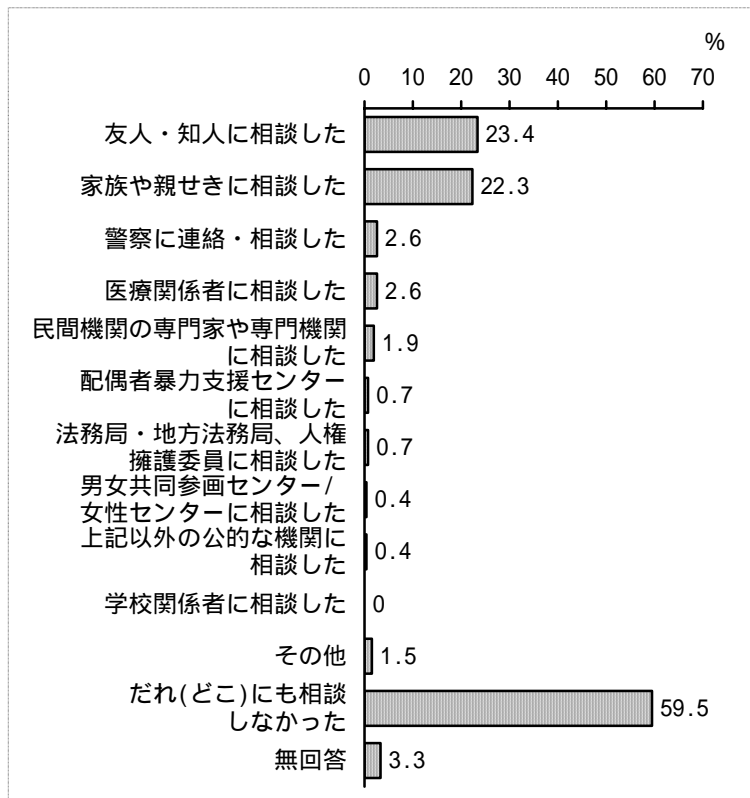


図 3-51 【内閣府調査】被害を受けたときの相談相手

問20-3 問20-1で「2. 相談しなかった(できなかった)」とお答えした方にお聞きします。だれ(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由はなんですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

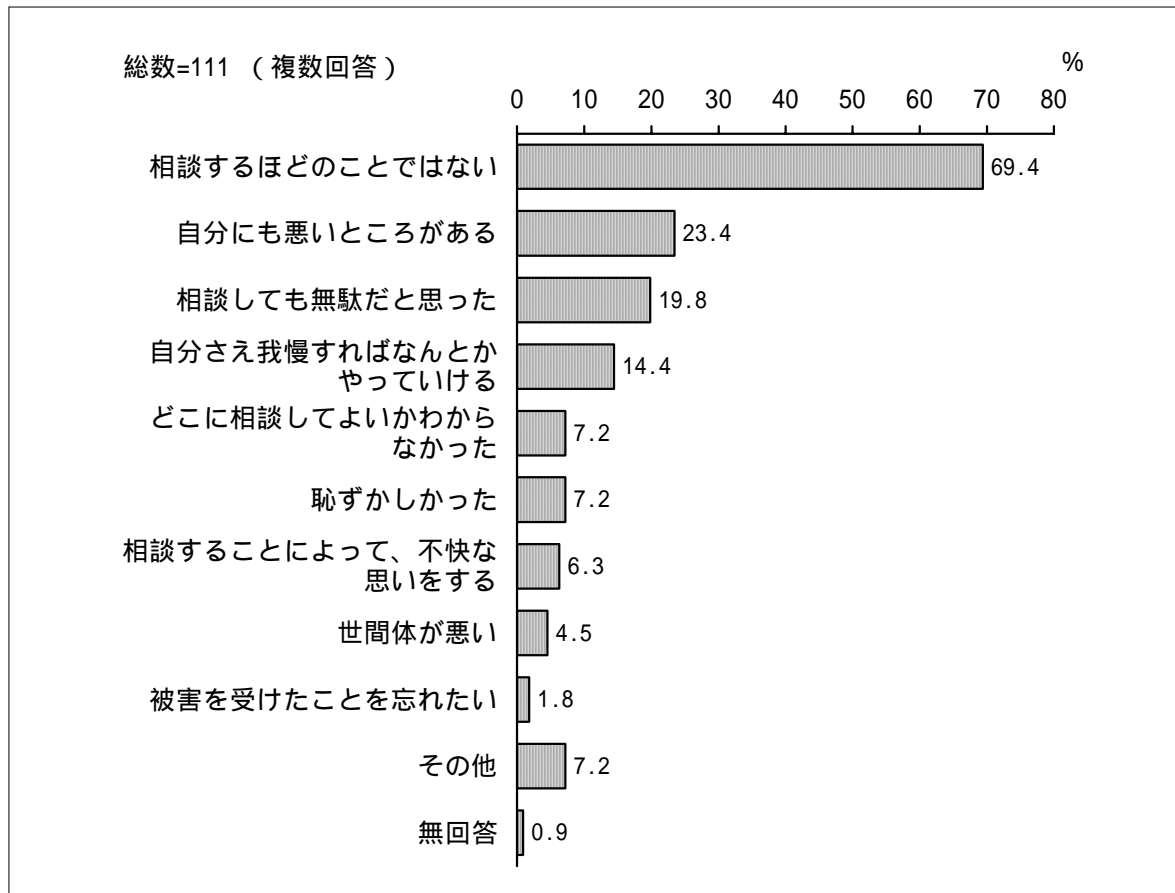


図3-52 相談しなかった理由

ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった(できなかった)と回答した人に対し、その理由を調査したところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が69.4%でほぼ7割に達しており、以下「自分にも悪いところがあると思ったから」が23.4%、「相談しても無駄だと思ったから」が19.8%で続いています。

	よどこにかかわつたか相談して	恥ずかしかった	相談しても無駄	相談することによって、不快な思いをする	自分さえ我慢すればなんとかやっていける	世間体が悪い	被害を受けたことを忘れたい	自分にも悪いところがある	相談するほどのことではない	その他	無回答
全体(N=111)	7.2	7.2	19.8	6.3	14.4	4.5	1.8	23.4	69.4	7.2	0.9
性別											
男性(n= 45)	4.4	8.9	11.1	4.4	17.8	4.4	2.2	22.2	75.6	8.9	-
女性(n= 65)	7.7	4.6	24.6	7.7	12.3	4.6	-	23.1	66.2	6.2	1.5
無回答(n= 1)	100.0	100.0	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-

表3-46 相談しなかった理由/性別

＊ 内閣府調査との比較⑥ [男女間における暴力に関する調査：平成18年4月
全国20歳以上の男女4,500人 郵送留置訪問回収法]

問. だれ（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。

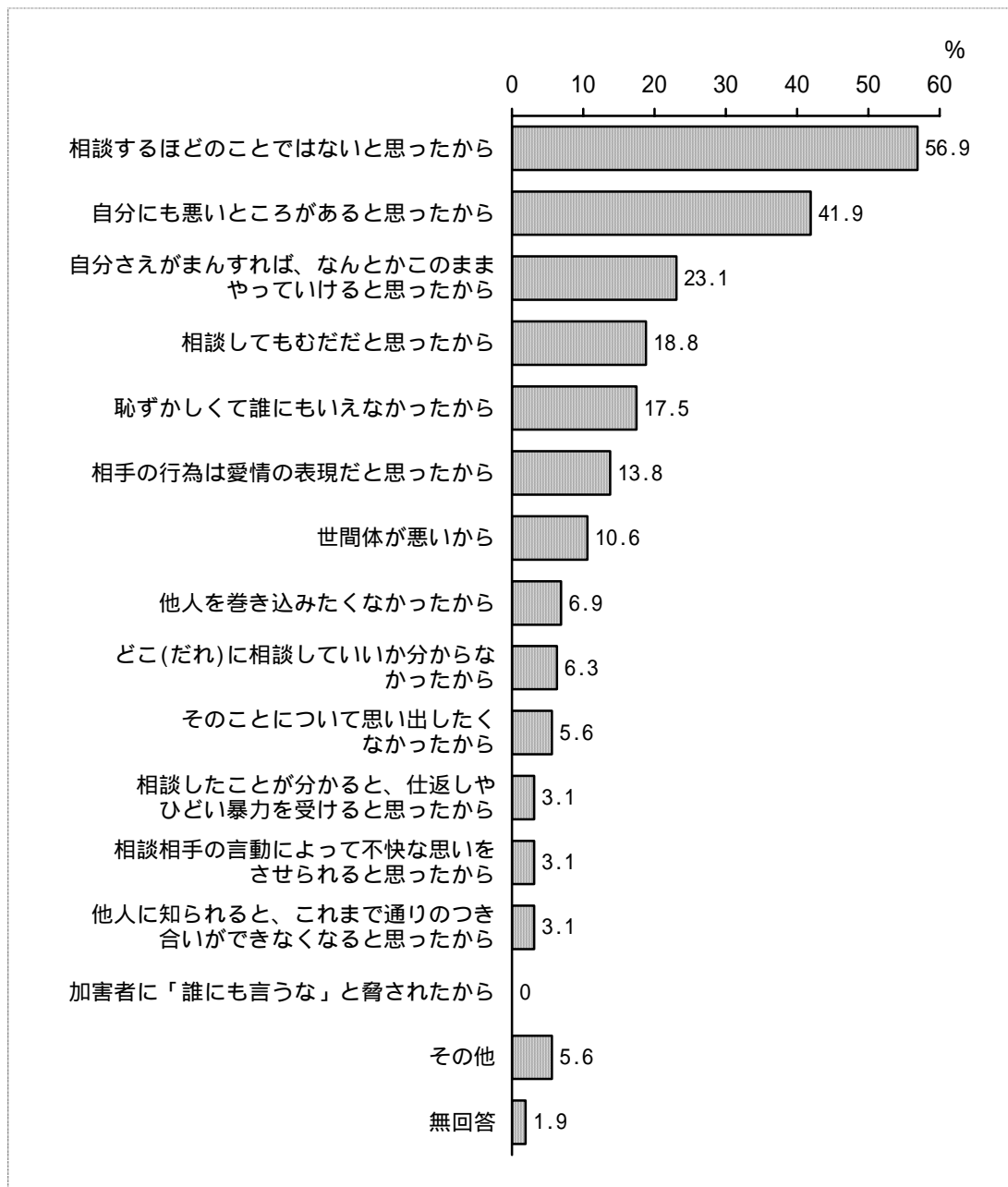


図 3-53 【内閣府調査】相談しなかった理由

平成18年4月の内閣府調査の類似質問と比較すると、本区調査、内閣府調査ともに、「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけると思ったから」が上位を占めています。

問21 あなたは、配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などからの暴力の防止や被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

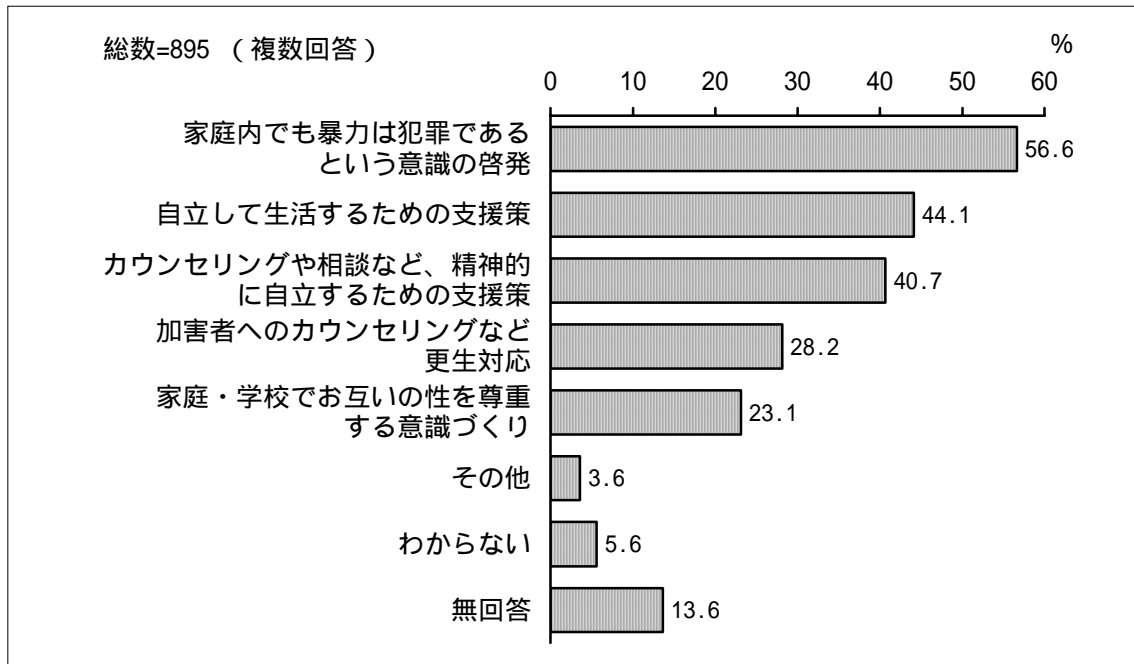


図3-54 ドメスティック・バイオレンス防止のために必要なこと

ドメスティック・バイオレンス防止のために必要なことについて調査したところ、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」が56.6%で過半数に達しており、次いで「緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援策」が44.1%、「カウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援策」が40.7%で続いています。

◆ 男女別でみると、「緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援策」「カウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援策」が男性より女性の方が10ポイント程度高くなっています。特に女性20歳代以下～50歳代では過半数を占めています。

◆ 性・世帯の働き方別でみると、女性・共働きで「緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援策」が61.7%と6割を上回っています。

		犯罪内でも暴力は 意識の啓発	自立して生活する ための支援策	精神的に自立する ための支援策	セリ 害者へのカウ ンセリングなど の対応	加害者へのカウ ンセリングなど の対応	家庭・学校でお互 いの性を尊重する 意識づくり	その他	わからない	無回答
全体(N=895)		56.6	44.1	40.7	28.2	23.1	3.6	5.6	13.6	
性別	男性(n=382)	57.6	39.3	37.2	26.4	24.3	5.2	5.2	14.1	
	女性(n=492)	56.5	48.6	44.1	29.9	22.8	2.4	5.7	12.4	
	無回答(n= 21)	42.9	28.6	23.8	19.0	9.5	-	9.5	33.3	
性・年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	65.7	45.7	42.9	31.4	28.6	11.4	8.6	-
		30歳代(n= 54)	59.3	44.4	38.9	29.6	29.6	11.1	9.3	5.6
		40歳代(n= 69)	58.0	49.3	39.1	24.6	23.2	8.7	4.3	4.3
		50歳代(n= 65)	60.0	43.1	41.5	38.5	27.7	1.5	3.1	9.2
		60歳代(n= 94)	59.6	30.9	38.3	19.1	25.5	3.2	3.2	23.4
		70歳代以上(n= 64)	46.9	29.7	25.0	21.9	14.1	-	6.3	29.7
	女性	20歳代以下(n= 61)	57.4	44.3	60.7	44.3	24.6	6.6	3.3	1.6
		30歳代(n= 82)	64.6	67.1	51.2	42.7	20.7	1.2	1.2	-
		40歳代(n= 74)	62.2	56.8	52.7	32.4	23.0	2.7	4.1	4.1
		50歳代(n= 90)	68.9	61.1	51.1	32.2	27.8	1.1	2.2	3.3
		60歳代(n= 92)	54.3	43.5	35.9	19.6	23.9	3.3	9.8	17.4
		70歳代以上(n= 93)	34.4	21.5	21.5	15.1	17.2	1.1	11.8	40.9
	無回答(n= 22)		40.9	27.3	22.7	18.2	9.1	-	9.1	36.4
	全体(N=564)		57.1	44.7	39.7	27.3	25.4	2.3	6.0	12.2
性・世帯の働き方別	男性	共働き(n=110)	54.5	44.5	39.1	29.1	29.1	3.6	6.4	8.2
		それ以外(n=150)	59.3	34.7	34.0	26.0	23.3	2.7	6.0	17.3
	女性	共働き(n=133)	60.9	61.7	47.4	24.1	21.8	1.5	6.0	4.5
		それ以外(n=152)	55.9	40.1	41.4	30.3	30.3	1.3	5.3	15.1
	無回答(n= 19)		36.8	42.1	21.1	26.3	5.3	5.3	10.5	26.3

表 3-47 ドメスティック・バイオレンス防止のために必要なこと/性別/性・年齢別/性・世帯の働き方別

問22 テレビ、DVD、インターネット、映画、新聞、雑誌、広告などのメディアにおける性・暴力表現について、あなたは日ごろどのように感じていますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

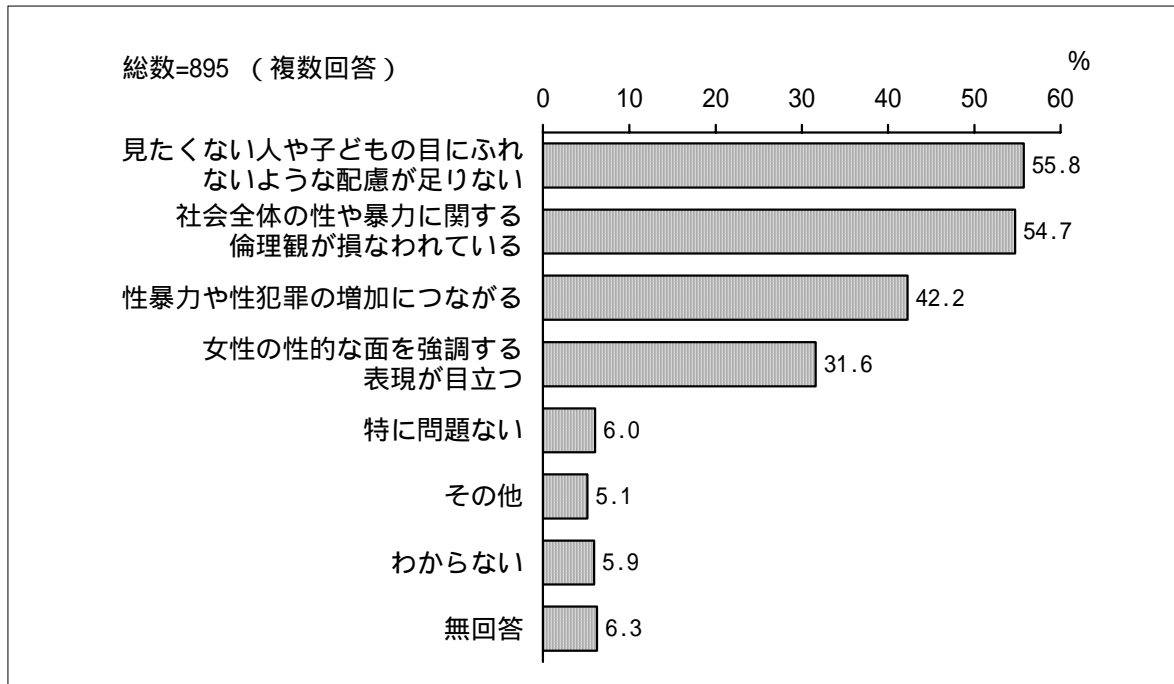


図3-55 メディアにおける性・暴力の表現について

メディアにおける性・暴力の表現について調査したところ、「性・暴力表現を見たくない人や、子どもの目にふれないような配慮が足りない」が55.8%で最も多く、次いで「社会全体の性や暴力に関する倫理観が損なわれている」が54.7%、「性暴力や性犯罪の増加につながる」が42.2%で続いています。

男女共同参画について

問 23 男女共同参画社会をめざす行動計画「北区アゼリアプラン」をご存知ですか。

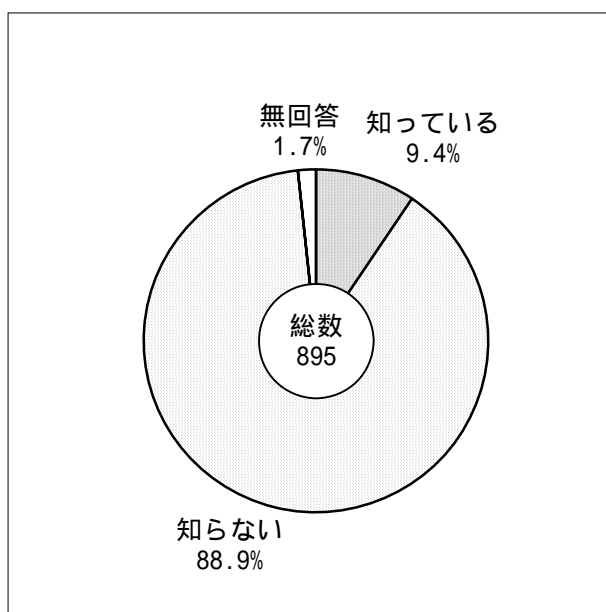


図 3-56 「北区アゼリアプラン」の認知度

「北区アゼリアプラン」の認知度は、「知らない」が 88.9%、「知っている」が 9.4% でした。

問 24 北区では平成 18 年 6 月に「北区男女共同参画条例」を制定しましたが、この条例についてご存知ですか。

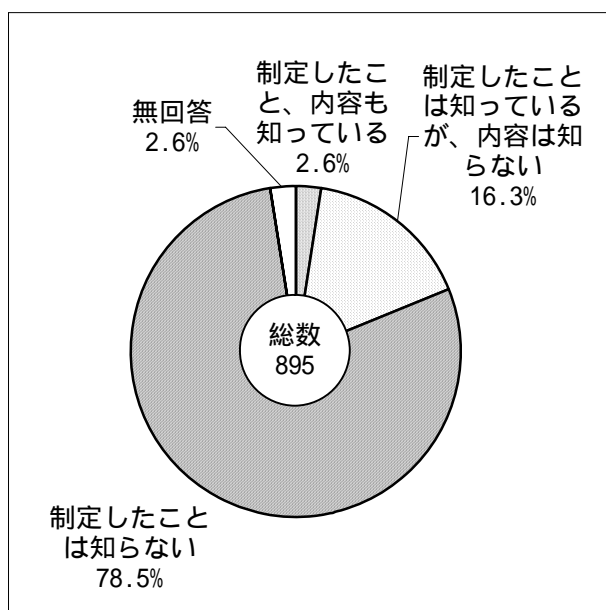
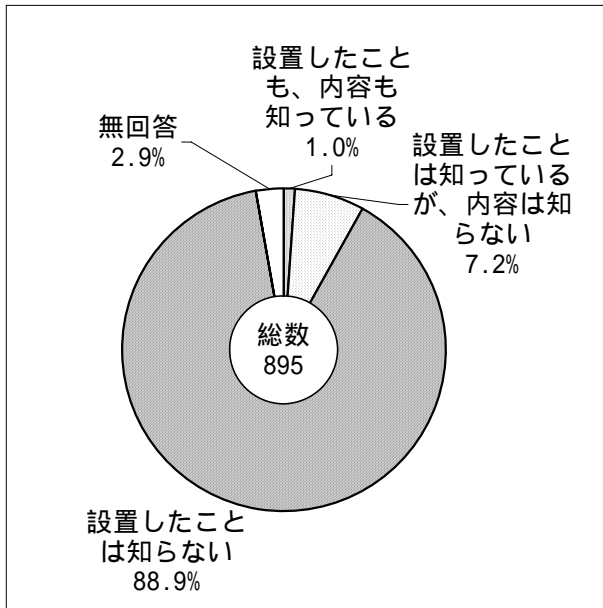


図 3-57 「北区男女共同参画条例」の認知度

「北区男女共同参画条例」の認知度は、「条例を制定したことは知らない」が 78.5%でほぼ 8 割を占めており、「条例を制定したことは知っているが、条例の内容については知らない」が 16.3%、「条例を制定したことも、条例の内容についても知っている」は 2.6%にとどまっています。

問 25 北区男女共同参画条例に基づき、「北区苦情解決委員会」を設置していますがご存知ですか。



「北区苦情解決委員会」の認知度は、「北区苦情解決委員会を設置したことは知らない」が88.9%でほぼ9割を占めており、「北区苦情解決委員会を設置したことは知っているが、内容については知らない」が7.2%、「北区苦情解決委員会を設置したことも、内容についても知っている」は1.0%にとどまっています。

図 3-58 「北区苦情解決委員会」の認知度

問 26 男性と女性があらゆる分野に共同で参画することを推進するために、北区は今後どのような施策に力を入れると良いと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

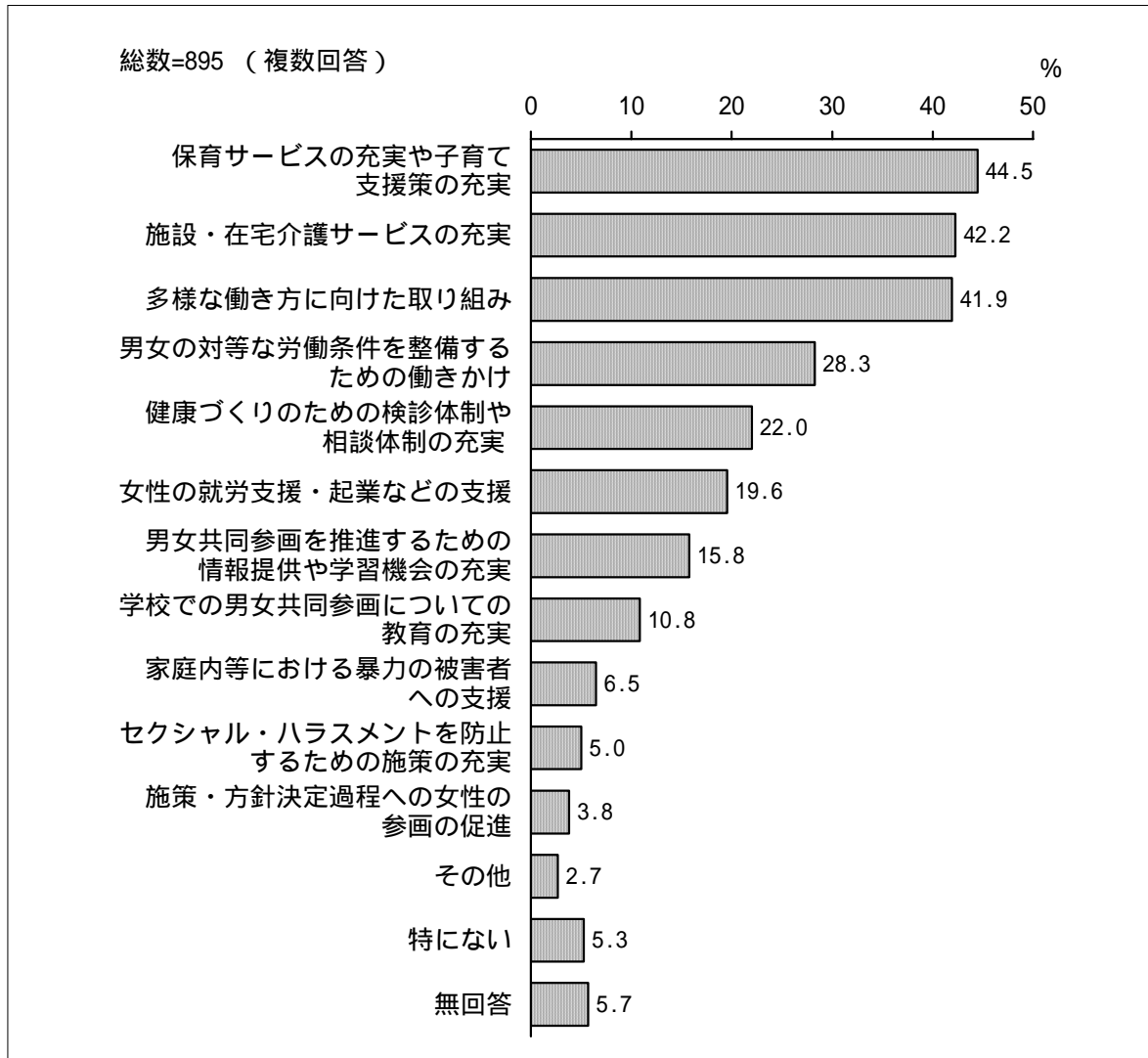


図 3-59 北区が今後力を入れるべき施策

男性と女性があらゆる分野に共同で参画することを推進するために、北区は今後力を入れるべき施策は、「保育サービスの充実や子育て支援策の充実」が 44.5%で最も多く、「施設・在宅介護サービスの充実」が 42.2%、「育児・介護休業制度の普及など多様な働き方に向けた取り組み」が 41.9%と続いています。

◆ 性・年齢別で見ると、男女ともに 20 歳代以下～40 歳代では「育児・介護休業制度の普及など多様な働き方に向けた取り組み」「保育サービスの充実や子育て支援策の充実」と回答した人が多くなっています。また、女性・50 歳代～60 歳代では「施設・在宅介護サービスの充実」がほぼ 6 割となっています。

◆ 子どもの有無で見ると、子どもがいる人は「施設・在宅介護サービスの充実」が 45.6%ですが、子どもがいない人は 36.8%とやや少なくなっています。

		女性の就労支援・ 起業などの支援	男女の対等な労働 条件を整備する ための働きかけ	多様な働き方に 向けた取り組み	保育サービスの 充実や子育て 支援策の充実	施設・在宅介護 サービスの充実	家庭内等における 暴力の被害者への 支援	セクシャル・ハラ スメントを防止する ための施策の充実	
全体(N=895)		19.6	28.3	41.9	44.5	42.2	6.5	5.0	
性・ 年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	17.1	28.6	37.1	51.4	25.7	17.1	14.3
		30歳代(n= 54)	11.1	22.2	51.9	53.7	14.8	7.4	11.1
		40歳代(n= 69)	14.5	30.4	40.6	55.1	44.9	7.2	7.2
		50歳代(n= 65)	10.8	33.8	40.0	46.2	47.7	7.7	9.2
		60歳代(n= 94)	16.0	31.9	37.2	39.4	43.6	4.3	3.2
		70歳代以上(n= 64)	17.2	23.4	28.1	23.4	45.3	3.1	7.8
	女性	20歳代以下(n= 61)	26.2	37.7	55.7	63.9	19.7	11.5	6.6
		30歳代(n= 82)	23.2	23.2	58.5	65.9	31.7	8.5	1.2
		40歳代(n= 74)	27.0	29.7	55.4	44.6	39.2	8.1	4.1
		50歳代(n= 90)	25.6	26.7	38.9	44.4	58.9	4.4	3.3
		60歳代(n= 92)	22.8	23.9	35.9	39.1	54.3	3.3	2.2
		70歳代以上(n= 93)	19.4	28.0	32.3	26.9	49.5	4.3	2.2
無回答(n= 22)		13.6	31.8	27.3	18.2	59.1	4.5	-	
全体(N=895)		19.6	28.3	41.9	44.5	42.2	6.5	5.0	
有無 子ども	子どもがいる(n=568)	19.4	26.4	41.9	45.6	45.6	4.0	3.3	
	子どもがいない(n=321)	19.6	31.2	42.1	43.0	36.8	10.9	8.1	
	無回答(n= 6)	33.3	50.0	33.3	16.7	16.7	-	-	

		健康づくりのた めや相談の充 実	学校での男女共 同参加について の教育の充実	男女共同参画を推 進するための情 報提供や学習機 会の充実	施策・方針決定 過程への女性の 参画の促進	その他	特 に な い	無 回 答	
全体(N=895)		22.0	10.8	15.8	3.8	2.7	5.3	5.7	
性・ 年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	14.3	11.4	8.6	2.9	2.9	11.4	2.9
		30歳代(n= 54)	20.4	16.7	22.2	1.9	7.4	3.7	5.6
		40歳代(n= 69)	13.0	11.6	14.5	2.9	8.7	7.2	-
		50歳代(n= 65)	13.8	21.5	20.0	4.6	-	3.1	4.6
		60歳代(n= 94)	25.5	9.6	13.8	5.3	1.1	6.4	8.5
		70歳代以上(n= 64)	25.0	9.4	25.0	1.6	1.6	6.3	14.1
	女性	20歳代以下(n= 61)	26.2	8.2	9.8	3.3	-	6.6	-
		30歳代(n= 82)	19.5	13.4	12.2	2.4	4.9	2.4	-
		40歳代(n= 74)	13.5	9.5	12.2	6.8	2.7	2.7	6.8
		50歳代(n= 90)	23.3	5.6	21.1	6.7	1.1	2.2	2.2
		60歳代(n= 92)	27.2	10.9	16.3	5.4	1.1	5.4	6.5
		70歳代以上(n= 93)	31.2	7.5	10.8	1.1	2.2	7.5	12.9
無回答(n= 22)		27.3	9.1	22.7	-	4.5	9.1	9.1	
全体(N=895)		19.6	28.3	41.9	44.5	42.2	6.5	5.0	
有無 子ども	子どもがいる(n=568)	24.3	10.0	17.3	3.7	2.8	4.9	5.5	
	子どもがいない(n=321)	18.4	11.5	12.8	4.0	2.5	5.9	5.9	
	無回答(n= 6)	-	50.0	33.3	-	-	-	16.7	

表 3-48 北区が今後力を入れるべき施策/性・年齢別/子どもの有無

＊ 内閣府調査との比較⑦ 〔男女共同参画に関する世論調査：平成19年8月
全国20歳以上の男女5,000人 調査員による個別面接聴取〕

問. 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

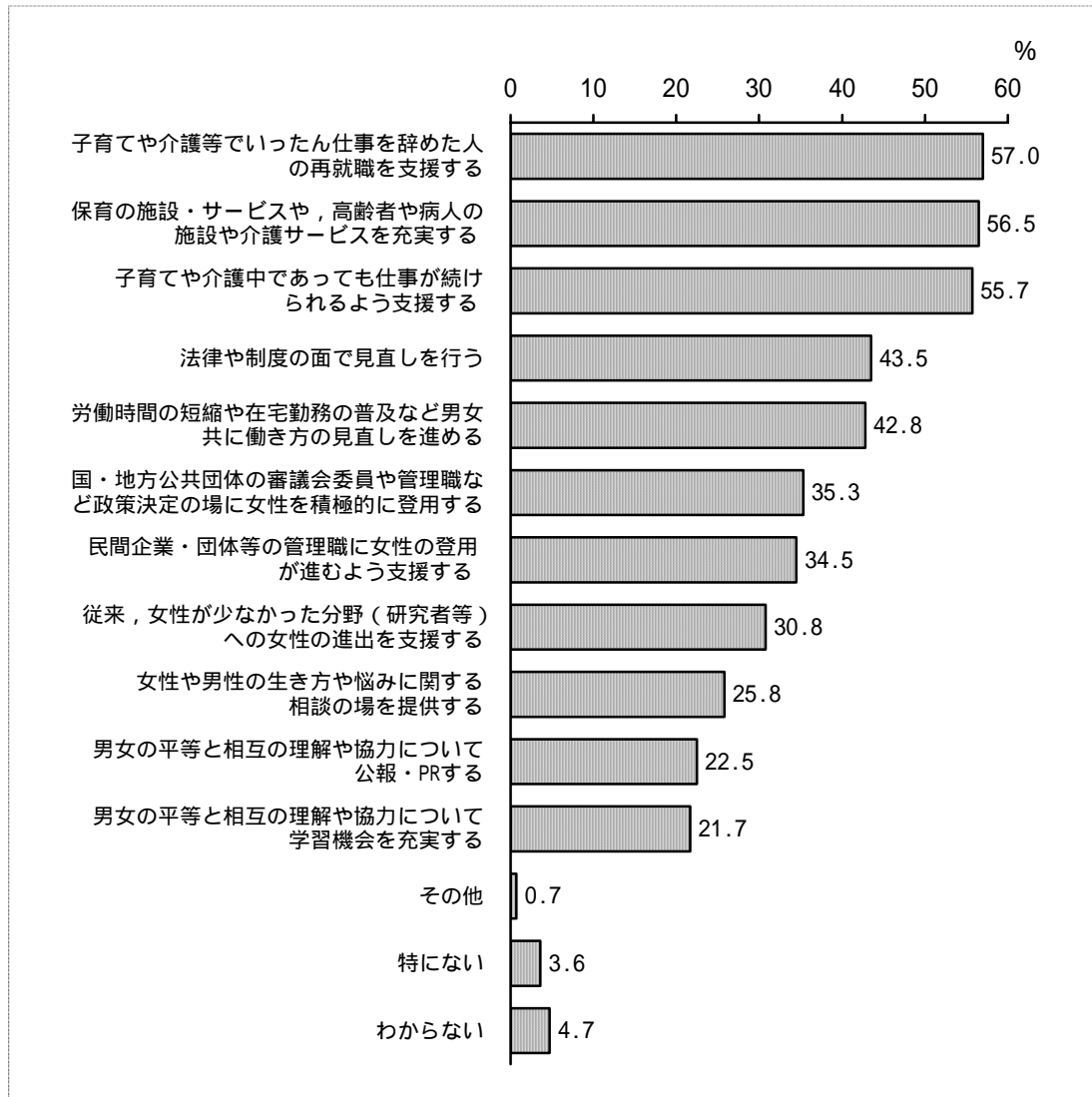


図3-60 【内閣府調査】行政が力を入れるべきこと

平成19年8月の内閣府調査の類似質問と比較すると、本区調査では「保育サービスの充実や子育て支援策の充実」が44.5%で最も多く、「施設・在宅介護サービスの充実」が42.2%、「育児・介護休業制度の普及など多様な働き方に向けた取り組み」が41.9%とでした。

一方、内閣府調査では、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が57.0%で最も多く、「保育施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が56.5%、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」が55.7%でした。

男女共同参画センターについて

問27 北区男女共同参画センター（スペースゆう）を利用したことがありますか。

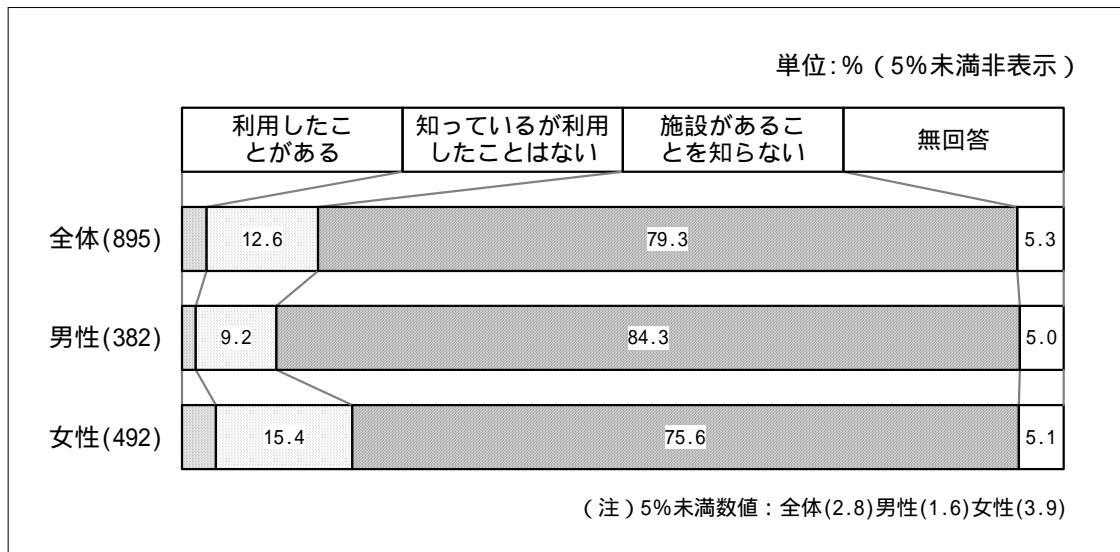


図3-61 北区男女共同参画センターの利用状況/性別

北区男女共同参画センターの利用状況は、「施設があることを知らない」が79.3%でほぼ約8割を占めており、「知っているが利用したことはない」が12.6%、「利用したことがある」は2.8%にとどまっています。

◆ 男女別で見ると、「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」と回答した人を合わせると、男性が10.8%なのに対し、女性は19.3%で10ポイント程度高くなっています。

問 27-1 問 27 で「1. 利用したことがある」とお答えした方にお聞きします。どのような目的で利用されましたか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

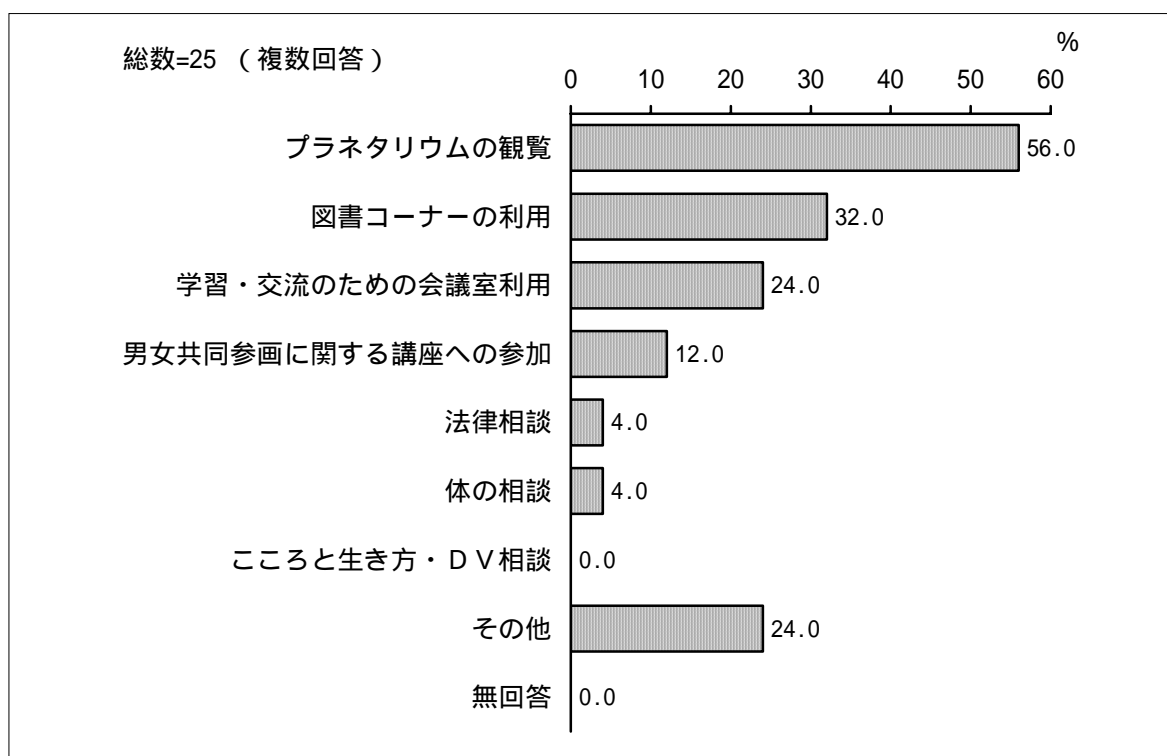


図 3-62 北区男女共同参画センターの利用目的

北区男女共同参画センターを利用したことがあると回答した人に対して、利用目的を調査したところ、「プラネタリウムの観覧」が 56.0%で過半数を占めており、次いで「図書コーナーの利用」が 32.0%、「学習・交流のための会議室利用」が 24.0%となっています。

◆ 性・年齢別でみると、女性・30歳代～50歳代が多く利用していることわかります。

		講 男 座に女 へ関共 のす同 参参 加画	法 律 相 談	体 の 相 談	方 こ こ ろ と D V 相 談 生 き	図 書 コ ー ナ ー の 利 用	学 習 ・ 交 流 の た め の 会 議 室 利 用	プ ラ ネ タ リ ウ ム の 観 覧	そ の 他	無 回 答	
全体 (N= 25)		12.0	4.0	4.0	-	32.0	24.0	56.0	24.0	-	
性・年齢別	男性	20歳代以下 (n= -)	*	*	*	*	*	*	*	*	
		30歳代 (n= 1)	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
		40歳代 (n= -)	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		50歳代 (n= -)	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		60歳代 (n= 2)	-	-	-	-	-	50.0	100.0	50.0	-
		70歳代以上 (n= 3)	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3	-	-
	女性	20歳代以下 (n= -)	*	*	*	*	*	*	*	*	*
		30歳代 (n= 4)	25.0	-	-	-	50.0	25.0	75.0	50.0	-
		40歳代 (n= 4)	-	-	-	-	25.0	50.0	75.0	25.0	-
		50歳代 (n= 6)	16.7	-	-	-	33.3	33.3	33.3	16.7	-
60歳代 (n= 2)		-	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	
70歳代以上 (n= 3)	-	33.3	-	-	66.7	-	66.7	-	-		
無回答 (n= -)		*	*	*	*	*	*	*	*	*	

表 3-49 北区男女共同参画センターの利用目的/性・年齢別

問28 北区男女共同参画センターで、今後どのような事業に力を入れていくとよいと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

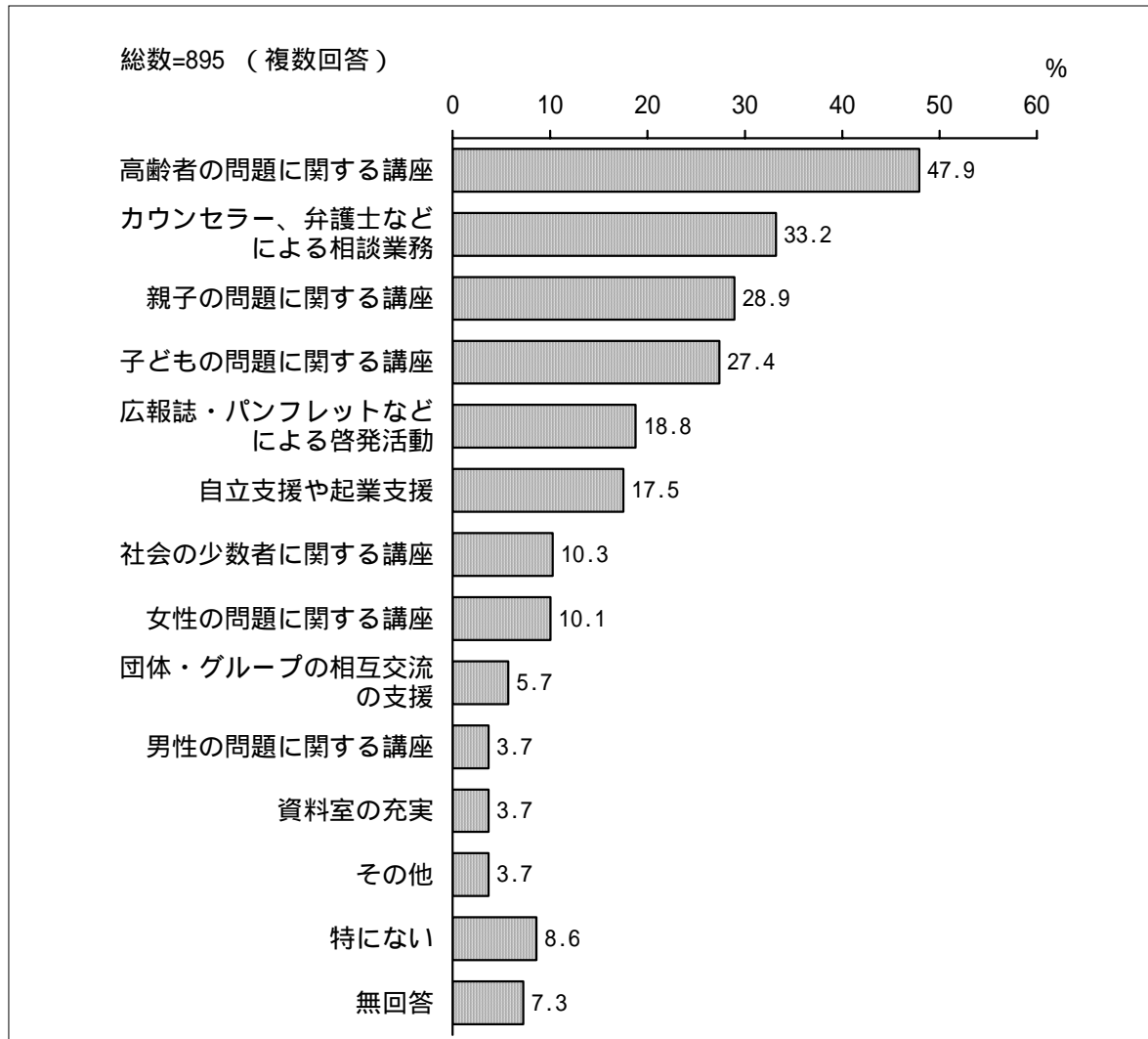


図3-63 北区男女共同参画センターで力を入れて欲しいこと

北区男女共同参画センターで今後力を入れるべき事業について調査したところ、「高齢者の問題に関する講座」が47.9%でほぼ半数に達しており、次いで「カウンセラー、弁護士などによる相談業務」が33.2%、「親子の問題に関する講座」が28.9%が続いています。

◆ 子どもの有無でみると、子どもがいる人は「子どもの問題に関する講座」「親子の問題に関する講座」「高齢者の問題に関する講座」に特に関心があることがわかります。

また、子どもの有無に関係なく、「カウンセラー、弁護士などによる相談業務」と30%近くの人が回答しています。

◆ 性・世帯の働き方別でみると、共働きの世帯では「子どもの問題に関する講座」に関心があり、女性・それ以外では46.1%が「親子の問題に関する講座」と回答しています。

また、男性・共働きでは22.7%が「自立支援や起業支援」と回答しています。

		女性の問題に関する講座	男性の問題に関する講座	子どもに関する講座	親子の問題に関する講座	高齢者の問題に関する講座	社会の少数者に関する講座	団体・グループの相互交流の支援	
全体(N=895)		10.1	3.7	27.4	28.9	47.9	10.3	5.7	
性・年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	14.3	8.6	34.3	17.1	14.3	8.6	5.7
		30歳代(n= 54)	7.4	5.6	38.9	27.8	31.5	14.8	3.7
		40歳代(n= 69)	7.2	2.9	34.8	24.6	42.0	13.0	11.6
		50歳代(n= 65)	12.3	4.6	26.2	26.2	50.8	16.9	1.5
		60歳代(n= 94)	8.5	4.3	18.1	18.1	53.2	11.7	7.4
		70歳代以上(n= 64)	3.1	1.6	20.3	20.3	60.9	3.1	4.7
	女性	20歳代以下(n= 61)	14.8	6.6	34.4	26.2	27.9	13.1	6.6
		30歳代(n= 82)	9.8	3.7	36.6	25.6	32.9	11.0	4.9
		40歳代(n= 74)	14.9	4.1	36.5	31.1	40.5	5.4	2.7
		50歳代(n= 90)	12.2	3.3	21.1	40.0	58.9	10.0	7.8
		60歳代(n= 92)	13.0	4.3	21.7	33.7	57.6	13.0	4.3
70歳代以上(n= 93)		5.4	-	19.4	43.0	66.7	3.2	5.4	
無回答(n= 22)		9.1	-	27.3	31.8	63.6	13.6	9.1	
全体(N=895)		10.1	3.7	27.4	28.9	47.9	10.3	5.7	
子ども有無	子どもがいる(n=568)		9.3	3.3	31.0	33.1	51.8	8.5	5.5
	子どもがいない(n=321)		11.5	4.4	21.2	21.8	41.7	13.7	5.9
	無回答(n= 6)		-	-	16.7	16.7	16.7	-	16.7
全体(N=564)		8.7	3.0	30.9	32.3	50.4	9.6	5.9	
性・世帯の働き方別	男性	共働き(n=110)	7.3	1.8	32.7	22.7	45.5	10.9	5.5
		それ以外(n=150)	7.3	2.7	25.3	25.3	49.3	10.0	6.0
	女性	共働き(n=133)	12.8	6.0	37.6	30.1	54.1	9.8	5.3
		それ以外(n=152)	7.2	2.0	28.9	46.1	48.7	7.2	6.6
	無回答(n= 19)		10.5	-	31.6	47.4	73.7	15.8	5.3

表 3-50 北区男女共同参画センターで力を入れて欲しいこと①
/性・年齢別/子どもの有無/性・世帯の働き方別

		自立支援や起業支援	広報誌・パンフレットなどによる啓発活動	資料室の充実	カウンセラー、弁護士などによる相談業務	その他	特にない	無回答	
全体(N=895)		17.5	18.8	3.7	33.2	3.7	8.6	7.3	
性・年齢別	男性	20歳代以下(n= 35)	22.9	22.9	-	22.9	-	22.9	5.7
		30歳代(n= 54)	18.5	16.7	3.7	16.7	9.3	7.4	11.1
		40歳代(n= 69)	17.4	13.0	-	42.0	4.3	10.1	2.9
		50歳代(n= 65)	24.6	23.1	6.2	38.5	6.2	3.1	4.6
		60歳代(n= 94)	17.0	25.5	5.3	24.5	3.2	12.8	8.5
		70歳代以上(n= 64)	7.8	26.6	4.7	32.8	6.3	6.3	14.1
	女性	20歳代以下(n= 61)	24.6	18.0	8.2	36.1	1.6	18.0	1.6
		30歳代(n= 82)	7.3	13.4	2.4	53.7	6.1	7.3	2.4
		40歳代(n= 74)	23.0	24.3	4.1	43.2	1.4	5.4	5.4
		50歳代(n= 90)	26.7	21.1	2.2	33.3	1.1	5.6	3.3
		60歳代(n= 92)	18.5	12.0	3.3	34.8	5.4	6.5	9.8
70歳代以上(n= 93)		8.6	11.8	4.3	20.4	1.1	6.5	14.0	
無回答(n= 22)		13.6	22.7	-	13.6	-	9.1	13.6	
全体(N=895)		17.5	18.8	3.7	33.2	3.7	8.6	7.3	
有無	子どもがいる(n=568)	15.5	18.5	3.7	31.9	3.5	7.7	6.7	
	子どもがいない(n=321)	20.6	18.7	3.7	36.1	4.0	10.3	7.8	
	無回答(n= 6)	50.0	50.0	-	-	-	-	33.3	
全体(N=564)		16.5	19.3	3.5	32.4	4.1	7.8	5.7	
働き世帯の働き方別	男性	共働き(n=110)	22.7	20.0	2.7	34.5	5.5	8.2	6.4
		それ以外(n=150)	12.7	23.3	5.3	25.3	5.3	10.0	8.0
	女性	共働き(n=133)	16.5	17.3	2.3	39.1	1.5	6.0	3.8
		それ以外(n=152)	16.4	17.8	3.9	34.2	3.9	7.2	3.9
	無回答(n= 19)		10.5	10.5	-	15.8	5.3	5.3	10.5

表 3-51 北区男女共同参画センターで力を入れて欲しいこと②
/性・年齢別/子どもの有無/性・世帯の働き方別

問29 北区の男女共同参画の推進施策について、ご意見・ご要望を自由にご記入ください。

一部抜粋：117

No	【自由意見】①北区の施策について	性別	年齢
1	男女共同参画の推進施策の活動は見えない。	男性	60歳代
2	①男女共同参画についての条例や委員会・センター設置を行っている事は理解できます。ただ、これらは税金を使って行っている事なので、区民の方に対して、直接、実績(行った内容に関して)・効果が明らかになっていないと思いますので、理解しやすく、説明して欲しい。②男女共同参画、その物の目的は？時代の流れから来ているものなのか？今一つの様な。	男性	30歳代
3	毎日ご苦勞様です。この大事な推進ですが、一般の人にはその目的(将来)や、その効果の展望が、今一つ明確でないように思われます。老人の為、読解力がないと思いますが、一部の方の自己満足で終わらせないようにお願い致します。良い企画ですから。失礼致しました。	男性	70歳代以上
4	男女共同参画の推進施策の、存在自体知らなかったので、広く認知されるようなPRをして下さい。	男性	30歳代
5	「スペースゆう」を初めて知りました。どの様な仕事なのか、今後どの様に進みたいのか理解できません。男女の考え方の違いは、まだ大きいと思います。男女というより、人間としての考えの方向になっていって欲しいです。安心して住める北区に。子供から老人まで、色々な年齢層が集まって、話し合う事も良い事だと思います。	女性	70歳代以上
6	今後は共同参画推進についてももっと興味を持って接していきたいと思っています。共同参画条例など北とびあの壁面に大きな垂れ幕で宣伝しないと広く知ってもらえないと思います。	男性	50歳代
7	全然この計画などは未知だった。何をやっているかなど、目的や主旨を明確にして広めて我々が関心を持ってもらえる様に企画してもらいたい。	女性	60歳代
8	北区は素晴らしいです。小さな頃から転居したり、仕事柄他の地域のことも知っています。ずっと住みたいと思える地域活動の充実ぶりです。これからも頑張ってください！	女性	20歳代
9	この点(北区の男女共同参画の推進施策)をもっと広報すべきである。共同参画という言葉は聞いた事があるが、内容までは分からない人が多いのではないかな？	男性	30歳代
10	北区ニュースは毎回目を通すようにしているのですが、男女共同参画についてあまり認識をしていませんでした。北区民としてもっと意識を持っていきたいと思っています。又、生活環境別のアンケートもあつては良いのではないかと思います。	女性	40歳代
11	北区民自らで行う施策と東京都、近隣県(埼玉県)との連携で行う施策など、行政の効率化による効果的な施策と広報で、充実した事業をお願いします。	男性	30歳代
12	北区にこんな施設(北区男女共同参画センター)があるなんて初めて知りました。施設の場所、利用の仕方、内容などを、もっと区民に知ってもらうのが先決ではないですか？	女性	40歳代
13	男女共同参画の推進施策について、存在すら知りませんでした。このアンケートで初めて知りました。私のように一人暮らしだと、あまり地域活動に参加せず、知人などが近くにいるわけでもないのに、情報を手にいれにくいと思います。もっと誰でも情報が入手しやすくするとよいと思います。	女性	20歳代
14	男女共同参画社会「アゼリアプラン」男女が平等に地域社会に参画し、実行した事は地域社会において、意義のある大切なものであると思います。男女共同参画の推進をどう計画し、どのように実行するのか、又、北区住民に対し、その活動を通してどのように貢献していくのが重要な課題になっていくと思います。地域社会と一体になって発展していくことを期待しています。	男性	60歳代
15	北区だけで独自のものを考える事は悪くないが、どうしても大々的に行う力は足りない事になる恐れがあると思います。他区、都などと連携して効果的な事業が行われて、そのうえで独自の施策が取れば、限られた予算、マンパワーも有効に使えるのではないかと思います。他区、都などの広域的協力体制はあることと思いますが、なお一層効果的に推進出来るよう頑張ってください。	男性	50歳代
16	推進施策について、全く知っておらず、申し訳ありません。今回、偶然このような機会を頂き、考えさせられました。図書館だけはよく利用させて頂いて居ります。このような公共施設を通じて、活動などを知れる事が出来ればと思います。	女性	20歳代
17	「男女共同参画」の文字は、北区ニュースで目にしますが、その成り立ち、内容等は、殆ど知識がありません。「北区アゼリアプラン」を、一から勉強致します。	男性	60歳代
18	今回のアンケートで、北区の取組みを、全くと言っていい程、知らない事に、気付きました。私が、余りにも関心を持たなかった事も悪いのですが、10代の若者にも、関心を持って貰うような取組みをして頂きたいと思っています。	女性	10歳代
19	「男女共同参画」という言葉を、初めて聞いたので戸惑いました。これから、発展していく事を願います。素晴らしい北区になりますように！	女性	60歳代
20	殆ど知らなかったので、存在(今回のアンケート)に気付いただけでも良かったと思いました。今後、少しでも関心を持っていきたい。	男性	40歳代

No	【自由意見】①北区の施策について（つづき）	性別	年齢
21	北区は、どちらかと言えば、恵まれた区だと思います。	女性	70歳代以
22	物事は急激に変化する事は有りません。地道さを要求される事かと思えます。今後ともまい進して下さい。今回のアンケートを通して、初めて行動計画や参画センターの事を知りました。インターネットで調べ始めたばかりですが、私同様に、存在を知らない人が少なくないと思えます。区の広報には目を通しているつもりでしたが、特集などでもっと存在をアピールしては如何なものでしょうか。	男性	30歳代
23	①「男女共同参画」という文言は何処から出てきたのか不思議だ！「男女共同参画」と言いながら、行政自身が男女を差別しているからこそ、このような文言が出てきたのではないのか！②問 28-12でも記入したように、行政が「男女差別」をしないような、施策を行えば良いのではないのか。何故なら、日本国憲法で「男女平等」は保障されているのだから！③結論的に言えば、「男女共同参画」の推進事業は、無用ではないか？よって「アゼリアプラン」は必要ないのではないのか！要は男女の区別のない、北区の「行政」の推進が必要であると思えます。	男性	60歳代
24	この北区の男女共同参画の推進施策を、知らない人が沢山いると思えます。私も実際に、この調査票が来たから、駅に貼ってあるポスターに目を向け知る事が出来ました。もっと内容を知って貰う活動をした方が良いと思えます。本当に悩んでいる人がいると思うから、その人達の役に立てるよう、頑張ってください。	女性	30歳代
25	広報や啓発より先に、環境面の整備を優先的に行って欲しい。託児所・保健所の充実、親や地域住民の方が、育児手助け出来やすい制度の充実。最後に、このアンケートに協力したのものには、その意図と結果を伝えて欲しい。	男性	20歳代
26	男女共同参画について、知らない事が多かったので、これから北区内の情報に関心を持ち、接して行きたいと思えます。	男性	40歳代
27	「男女共同参画」という言葉自体を知らなかった。高齢と言えども、勉強しなくては行けないと思った。	女性	70歳代以上
28	高齢になると、知らない気が付かない事が多くなるので、広報だけでなく、個別に声を掛ける活動を望みます（特に一人世帯）。	女性	60歳代
29	男女共同参画センターでどのような活動をしているのか、各家庭に知らせて欲しい。	男性	70歳代以上
30	今回、このようなアンケートで、具体的に区が行動してくれる事を望みます。正直このアンケートを見て「暇なんだな」と感じてしまいました。そんな事は無い事を見せて下さい。	女性	40歳代
31	北区に住んでいるが、一人暮らしでバイトや学校で忙しくて、全然参加できない。それに何をしているのかも解らない。	男性	10歳代
32	申し訳ありませんが、施策内容を全く知らないで、コメント・アンケートに対してお力になれませんでした。	男性	50歳代
33	北区がどのような施策をしているか全く知らないで、意見をすることができない。ただ、度を越えた性教育など、現在の学校で教えている内容がメディアの言う通りなら問題だと思う。男女は平等であっても、同じではないし、下手に女性を持ち上げようとする動きは、男性差別だと思う。ジェンダーやフェミニズムなど、大学で一通り講義を受けたが、全ての考え方を受け入れるのはおかしと思う。男性らしさ、女性らしさを認め、なおかつ個々の趣味嗜好を否定しない社会を画策して頂きたい。	女性	30歳代
34	「参画：計画（の立案）に加わる」と広辞苑にあるが、何の計画（の立案）に加われればよいのか漠然とすざぎていてよくわからないと思う。説明を加えるか、別の表現にしてみるなど、関心を持てるようにしてもらえたらいい。	男性	40歳代
35	男女共同参画だけでなく、区で取り組んでいることをもっと分かりやすく区民に広報していただきたいです。色々な問題に直面したときに何処に相談したらよいのか、区ではどんな支援をしてくれるのか、分からない人が大勢いると思えます。せっかく区で取り組んでいても、それを知らずに利用できなければ意味がないと思えます。	女性	30歳代
36	実施していることを知らない。知る機会もないのでなんともいえません。	男性	30歳代
37	男女共同参画というテーマは、区政でなんとかなるものではなく、本来は国政で行うべきものだと思う。北区って共同参画に力入れてるよねー！と言われるような区に。	女性	40歳代
38	男女共同参画については間雲に反対するつもりはありませんが、この法律の下に国家予算が数兆円使われていることに対しては、普段から憤りを感じています。	男性	60歳代
39	全てにおいて、個々の状況や性格によって必要なことが変わるということを忘れず、押し付けではない施策を望みます。	男性	30歳代
40	そもそも男女共同参画について全く知らない。他にもそのような人はいると思う。推進のためのアンケートなのだから、アンケートをするついでに内容を知ってもらう工夫をするべきなのではないだろうか。そういうことが皆に知ってもらう、理解してもらう1つのきっかけになるような気がしてならない。センターを利用したくても、行きにくかったり、働いていてセンターを利用できる時間が取れなかったり、という人のための対応とか。	女性	30歳代

No	【自由意見】①北区の施策について（つづき）	性別	年齢
41	まずは「北区アゼリアプラン」「北区男女共同参画条例」を知らなかったので、広めて欲しい。また、これからは企業も協力し、意識を持たなければいけないと思います。	女性	50 歳代
42	もっと情報を充実させて下さい。子育て支援と老人介護の支援を充実させて下さい。	男性	30 歳代
43	全く知らないの、何をやっているかもわからない。もっとアピールをした方がいいと思う。誰でもわかるように説明して欲しい。男女共同参画という言葉が難しいため、全く意味不明。これに関わっている人たちだけが自己満足でやっているなら、意味がないと感じました。それよりも北区民がもっと一団となるようなことをして欲しい。北区の魅力を引き出してください。	女性	20 歳代
44	女性に対する社会全体のフォローが遅れていると感じます。もっと女性が参加できる、または取り組める区政づくりをお願いします。また、北区の男女共同参画の推進施策は良いと思いますが、もっと区民に趣旨を理解するようアピールする必要があると思います。	女性	40 歳代
45	ご苦労様です。北区ニュースを読んでおります。区内での催しはかなりあるなど感心しております。北区の男女共同参画の推進施策についてはあまり記憶に残っておりませんでしたので、今後は記事に注目をして、参加できることがあればしていきたいと思います。今回のようなアンケート調査も大変良い事と思いますので、今後もぜひ取り入れて運営に役立てていってください。	女性	30 歳代
46	このような区の企画や取組みについて、積極的に参加する人は限られた、同じ人が多いような気がします。区民全体がもっと興味を持ち、生活等が良くなるようになればうれしいと思います。	女性	50 歳代

No	【自由意見】②男女共同参画社会について	性別	年齢
1	男女平等、即男女に「差はない」という考えがあると思うが、男女に性差はあることは事実であって、何でも「平等」という考え方はかえって不自然であると思う。男女の身体的性差があうということを踏まえた上で、いわれのない社会的な男女差別の撤廃に務めるべきであると思う。「差がない」から平等なのではなく、「差があっても」どちらが上とか下とかということではなく平等なのであると思う。	男性	20 歳代
2	男女平等は勿論ですが、身体が違うように、細かいところは女性、力仕事は男性と、身体と共に仕事にも違いがあるとあります。それを踏まえた上で、男女平等を考えて欲しい。	女性	70 歳代以上
3	男女は同権ではあるが、同質ではない。それを踏まえる事は差別ではなく、重要な事。	女性	50 歳代
4	女性の社会進出、地位向上には基本的には賛成だが、行き過ぎた男女平等には、大反対！	男性	30 歳代
5	この企画をしている人は、男女共同参画の直すべき事があるのは理解するが、行き過ぎてはならない。悪弊を生むからである。君たちに、限界点は不明であろう。現在哲学(自由主義)の改善だからである。動物行動学から、理性の価値を見直すべきである。アメリカのグローバル哲学は、自ら種族を維持する為の策略なのであり、欲望社会の確立が、権力者として一人勝ちできるからである。「種族維持的合目的指向性」を考えるべきである。	男性	60 歳代
6	人が男女平等というが生まれた時から平等でない。自然の原理で役割があり、かならずしもすべて平等という訳にはない。男の仕事が女には向かず、女の仕事は男には向かない。	男性	30 歳代
7	現在は「女性の時代」と思っています。すべての機関の中核の全てを女性にするべきだと思っています。	男性	50 歳代
8	男女平等の理念の立派なのは良いですが、本当に少子化対策としての具体的な行動が必要だと思えます。幸せな家庭こそが社会の基礎となっているので実効性のある企画で頑張ってください。	男性	40 歳代
9	「男女平等」と言っているが、最近の世の中は、女性に媚を売っているようで矛盾を感じる。	男性	20 歳代
10	男と女は違うもの。すべてを平等にするのではなく、お互いへアイデンティティーを持ち、共有・平等化するべき。	男性	30 歳代
11	男女ともに等しく機会の与えられる社会であるべきと思いますが、それは今までの男が働き、女が家事をする行き方を否定するのではなく、もっと多様な行き方と認め、受け入れてゆくことが大切だと感じます。何かを規制するのではなく、誰かを支援するような施策になることを望みます。	男性	20 歳代
12	男女は同一ではないので、性差を十分教えた上での施策。基本は人権に男女差はない事を忘れないですすめてほしいです。	女性	60 歳代
13	「共同」とか「平等」という言葉が一人歩きしないように、本質がどこにあるのかが明確になる様なものを望みます。性別や能力に関係なく同じ事をするのが平等・共同と考える様な教育・活動では意味がない。適材適所で皆が幸せに暮らせる社会・意識作りが出来ると思いますね。	男性	30 歳代

No	【自由意見】②男女共同参画社会について（つづき）	性別	年齢
14	何でも平等ならそれで良いという訳ではなく、各々の事情に即したやり方というのがあろうかと。ただそれも難しいと思いますし…。やはり一つ一つの事案を細かく見直していくのが良いのでしょうか？我が家は夫婦で話し合ってそれなりにうまくやっていますが、そういう一家庭単位からしっかり見つめ直していけるときっと一番の早道なのではないでしょうか？	女性	50歳代
15	ことさら男女平等を訴える事ではなく、それぞれ異なる性別であるからこそ、出来る事、出来ない事、共同で行う事など啓発していくことが大事なのでは？特に小学生への男女共同での着替えや同宿など教員の考えは異常なのではないでしょうか？「男女共同参画」という主旨からは離れてしまいますが…。	女性	30歳代
16	男女平等と言っているが、必要以上に意識する必要はないと思う。男性には男性のできる事、または得意な事、女性には女性の得意なことをお互い助け合ってやっていくことが重要で、どちらが多くつらいことをやっているなど考える事がおかしい。又、男性、女性にかぎらず個人として得意な事を一生懸命行い、できないことを互いに補うことが重要である。であるから、このアンケートの主旨である男女平等については推進する必要が感じられない。	男性	20歳代
17	税金は他に有効な使い方をして下さい。男女共同参画なんて絵空事でしかないと思います。	男性	20歳代
18	今の日本、何もかも平等で、という事は間違っていると思う。私は女性ですが、主人には感謝していますし、子供は主人を尊敬するように育ててきました。又、それに答え、主人は、私や子供に愛情を掛けてくれます。自己主張は、やはりそこにお互いを思いやるという、大事な事が前提になければならないと思います。むしろ、周りを見渡すと、女性の強い家庭が非常に多いと思います。今、驚くような事件が多いですが、女性の役割は大切だと思います。	女性	50歳代
19	今回のアンケートは、「問」の内容が女性側に立った視点と見受けられました。北区として、本質的に男女共同参画を考えて頂く事を望みます。	男性	50歳代
20	人それぞれ立場が違うのですから、物事はケースバイケースだと思います。	男性	40歳代
21	設問内容が女性向きだと思います。これが男女共同参画か？	男性	50歳代
22	男女共同参画に関する活動が、一部の「意識の高い」人たちに独占され、かえってその趣旨に対する誤解がされたり、多くの人から自らの問題として捉えない原因にもなっているのではないかと。本来この問題は生活と密接に結びついているものであり、個々人の意見を変えていくためにも事実上一部の人しか参加しないセミナーのようなものをやるより、より自然な形で多くの人に考えが伝わるような取組みの工夫、実施がむしろ効果的ではないかと。また区役所自身も含め、ポジティブ・アクションと、それを支える働き方の改善に注力すべきと思われる。	男性	30歳代
23	あまり積極的な考えも持っていないし、希望も特になし	女性	40歳代
24	男女共同参画の推進は大変良いことと思いますが、男女平等、人権をあまり振りかざさない自然体が望ましいと思います。ありがとうございました。	女性	60歳代
25	男女平等、男女共同というと、男性と女性を同一視しすぎているような気がします。男性は男性、女性は女性で本質が異なることを理解したうえでないと、問題は解決しません。そういう意味からすれば、男女平等、男女共同ではなく、住民平等、住民共同なのでしょう。男女の役割をきちんと考えなければいけないと思います。少子化の問題も女性の社会進出が進み、収入を得られるようになったことも一因です。女性が社会に出ることによって、日本家庭の文化が引き継がれなかったようです。もう一度社会全体で考え直すべきでしょう。	男性	50歳代
26	「男」「女」という主語を必要としない社会になること。取って代わって、「人間」とか「子ども」とか「親」のように、性別ではなく、立場としての人間のあり方を話し合い、より良い社会ができることを望みます。それと、障害者も同じ土俵での話し合いができる社会になる事を望みます。「老若男女＝同じ人間」という社会が理想郷です。	男性	50歳代
27	私は外資系に勤めているためか、あまり男女の不平等を気にしたことがありません。逆に女性は優遇されています。要はどちらでもよく、向いている方が向いていることをこなせばよいのではないのでしょうか。→成果が目に見えるようになれば、不均等はなくなると思います。DVについては例外です。この設問があるということは、北区内にもDVでお悩みの方が増えているのでしょうか。	男性	40歳代
28	男女は同権であるべきだと思うが、全く差がないわけではない(容姿、平均寿命も異なる)その違いを無視して意識的に差を否定するような政策(例えば小学生での性教育、男女同室での着替え、男らしさ・女らしさの否定的態度)には反対する。	男性	30歳代
29	今回のこの調査票の間はあまりに広い見方で問で答えを選びにくく、もう少し違う見方を入れた間を作らないと一方向的な結果しか得られない。又、男女に関して言えば女性からの視点での問が多く答えにはめられない。最初から男女別に調査票を作り送ったほうが良いのでは？	男性	40歳代

No	【自由意見】③意識改革・啓発について	性別	年齢
1	北区男女共同参画について全く知らなかった。駅や商店などで活動内容を知ることができるような場がほしい。若い年代で区の広報をしっかりと読む人は少数だと思うので、普段の生活の中で情報に触れる機会が増えるといい。	女性	20歳代
2	介護や育児については、当事者にならないと分からないので、啓蒙活動には賛成。但し制度も充実して欲しい。	男性	40歳代
3	もっと、昔の様に近所付き合いが出来るような、スペースやイベントを行って欲しい。	男性	20歳代
4	若い世代の人は、この様な事を知らない人が多いと思います。なので、もっと知って頂いた方が良くはないかと思えます。地域交流も、小学生くらいで、中高生や大学生には、参加しづらいと思えます。	女性	10歳代
5	少子化対策として企業の経営者の意識改革を進めて欲しい。大手は欧米の女性のための施策(施設)の充実企業をみならってほしい。優良企業をマスコミなどで取り上げ経済大国の日本がいくら遅れをとっているのか経営者や人事部(人事考課の影響)に訴えてほしい。精神的、肉体的にバランスよく働けて地域活動にも参画出来る社会全般の底上げが必要(福祉更生費、税金)。	男性	60歳代
6	「北区は男女共同参画宣言の街」ですなどの情報の看板があってもよい。	男性	70歳代以上
7	何かの時に利用できるように、センターなどの広報を充実させて、利用して困難を乗り切れるように。そこを思い出すように、定期的に広報されるとよいのではないかと思います。	女性	60歳代
8	義務教育において文科省の弱腰な姿勢から一歩踏み込んだ「子供をしかる」ことや「文のみち」(倫理)をたたきこむことが重要。「三つ子の魂100までも」のごとくそこがゆるんでいるから、大きくなって信じられない事件が起こっているように感じる。家庭の教育普及も大事。※アゼリアプランの概要版を添付してアンケートすべきではありませんか。参考になる意見を導けないように思えます。	男性	40歳代
9	「何でも相談室」を設け、弁護士が常駐し、月～金・毎日・9～4時、場所を明確に決め、広報紙に載せ、家庭に配布して下さい。	男性	70歳代以上
10	北区ニュース、北区広報紙で、広く区民に知らせる事を望む。	男性	70歳代以上
11	学校教育でいくら男女平等と教えても、家庭や社会は実際そうっていない。だからこそその現実を受け入れた上で、「その差別をなくすにはどうすればいいのか」を子どもの頃からきちんと一人ひとり考えていけるような教育が必要。男女差別は突き詰めれば「弱い者いじめ」です。今の日本は「弱い者いじめ」が多く悲しい。だからこそ、行政はきちんとした「平等社会にするための啓蒙活動」が必要です。	女性	40歳代
12	大人になってから役所・その他団体が推進の意見・施策を言うより、小・中学生の頃からの教育が大切だと思います。		70歳代以上
13	家庭という核に囲まれての中での暴力が子供や弱い妻などに振るわれているのは悲しいことである。暴力は絶対にいけないと親の意識改革に力を入れるべき。学校での教育、広報誌などで強くアピールすべきである。	女性	70歳代以上

No	【自由意見】④家庭生活、就業、社会参加について	性別	年齢
1	これまで「スペースゆう」の存在を知りませんでした。男女がお互いを尊重し合って、生きていく心を小さい時から育てて行く事が、大切だと思います。「家庭や子供より、自分の事だけが大切」という家庭からは、家庭内暴力やその他の問題に直面する子供が、多くなります。幼稚園・保育園・小学校などで将来の事を考える事、他人を尊重する心を養う様な、イベントを催したら良いと思います。	女性	60歳代
2	性に男女があるのですから、その違いはとても大切で意味があり、お互いの性を尊重し(人を人として尊重) 同じことを同じようにすることが平等とはいえないと思っていますので、平等の意味、平等とはどういうことかをしっかり考え、これからの成人(子どもたち)へ教えていかななくてはいけないのではないのでしょうか。家庭は男・女の基本スタート地点であり、お互いが愛情を持って、思いやりをもって暮らしていけるなら、きっと男女の関係も良い方向に向かっていくと思います。少子化になってきていますし、新しい生命は大事に育てていかないと、孤独で自分本位の人を家庭も社会もつくってってしまうのではないのでしょうか。成人は成人としての男女関係を考え、子どもたちには未来ある社会を大人が導いていけば、相互理解も出来るのではないのでしょうか。	女性	40歳代
3	仕事と家庭の両立が出来るよう、企業側も意識改革して欲しい。地域の中で生涯教育や、趣味・ボランティア活動など、入りやすい場が多く有れば良いと思う。	女性	50歳代
4	女性が子育てをしながら、働きやすい社会にはなっていますが、娘が、総合職で就職した大手企業では、女性でも帰社が夜9時以降になる事が多く、仕事量も大変なもので、男女平等とは難しいものと感じました。その会社ではうつ病になってしまう、社員もいました。	女性	50歳代

No	【自由意見】④家庭生活、就業、社会参加について（つづき）	性別	年齢
5	こんな事に取り組んでいた事自体知らなかったです。北区のニュースなどは、どちらかというと結構観ている方だと思うのですが・・・なぜでしょうか？男性は仕事で、女性は家事とは思っていませんが、主人はサラリーマンで朝早く、夜遅くまで働き休みの日はぐったり休んでしまって、ほとんど家の用事に手を出さず、毎週ケンカをしています。家事に協力する気はあるようですが、気力と体力がなくなっているようです。なのに、収入は減ってきていておかしいと思っています。	女性	40 歳代
6	言論の自由の名の下に、子供に対して、社会的に悪い情報が多い。親も(若い)、自分たちの為の時間を、子供中心の時間に変えた方が良いと思う(ゴルフ・釣りなど)。	男性	60 歳代
7	職場や地域も、もっと女性やシニアに関して、仕事や地域に馴染みやすく。特に、団地は閉鎖的であるので、誰でも楽しく伸び伸びと、生きがいを持って暮らしていけるような社会が欲しい。	女性	70 歳代以上
8	共働きの世帯には、なかなか利用する機会・時間もないし、土日は自分の用事で終わってしまう。平等に参加、又は利用できる内容だと良いと思います。	女性	40 歳代
9	パート先の会社の体質が古く、男女の時給にかなりの差があります。20 年就労している女性より、今日入った男性のが高い状況です。まず、経営者の意識改革が必要だと思います。	女性	40 歳代
10	フルタイムで仕事をしているので、子供が小学生になったら、学童に入れなくてはならないと思います。保育園には延長がありますが、学童は確か 18:15 迄です。小学校 1 年生は、まだまだ子供。今後、安心して預けて、働けるよう、何とか検討して頂けないでしょうか？宜しくお願い致します。	女性	40 歳代
11	娘がおりますが、将来結婚して出産してもまた元の職場に戻れるよう育児休暇の充実と仕事に復帰した場合の保育園の施設などの充実を希望しています。又、夫婦二人で老後生活をしている場合、退職後の夫の何か参加できるセミナーなどを開催してほしい。例えば男の料理教室とか日曜大工とか・・・夫婦二人で地域住民とふれ合いができるような日帰り旅行や地域の歴史を学ぶセミナーなども興味があります。	女性	40 歳代
12	私は男性です。退職後はボランティア活動をしています。交流会などで、気付く事は、男性の姿が少ない事です。定年後の男性の啓発によって、男性パワーをもっと地域に活かせる方法はないものかと、考えます。高齢化が進む北区では、男性が生き生き活動できる場があれば、もっと明るい町づくりが出来るような気がします。	男性	60 歳代
13	幼児に対する保育環境やサービスは充実していると思います。小学校になると、急にサービスが低下し、学童クラブも 18 時までという状態・・・。学校に行かなくてはならない事も多く、全て負担は女性にかかります。現在の学童環境では、仕事を継続できない方も多いと思います。学童に対するサービスの向上を節に望みます。又、地域によってはサービスのメリットを感じられない場所があります。	女性	30 歳代
14	育児休業について、中小企業では認められる所が少ない。こういう人達にも有効な制度にすべきと思う。	女性	20 歳代
15	現在の自分の立場ではあまり関係の少ないことのように思いますが、これから若い世代の人にとっては、共働き、育児等数々の問題が起こってくると思われれます。少しでもみなさんが生活しやすい環境、住みよい北区をつくり上げるために知恵を出しあえたらと思っています。	男性	50 歳代
16	私はサッカーのシニアリーグに加盟しておりますが、仕事以外の付き合い、また若い世代との交流など、日々仕事のストレスを発散できる環境にあります。他の方々も男女問わず、スポーツに参加できる環境、施設及び情報の提供等を行っていただければと思います。そのような交流の中で、個々の持つ悩みなどを相談できる友人、知人ができれば、問題解決につながるのではないかと考えます。	男性	40 歳代
17	北区が老人天国になるよう、宜しくお願いします。孤独な老人が 1 人でも生きていける、介護サービス、法律的相談、医療相談が老人の家で行われるように、自宅に来てくれるサービスをお願いします。		50 歳代
18	結婚当初は、どうして妻ばかり責任、家庭内の仕事が 24 時間休みなくあるんだろうと思った時期もありましたが、主人も毎日会社勤め。持ちつもたれつなんだなあと思うようになり、相手のことをいたわることもお互いするようになりました。月日を重ねたからでしょうか。	女性	50 歳代
19	男女とも働きすぎで、家庭や自分の時間が持たなくて、人間らしい生活ができない。また、働いても賃金が安く、その上税金やその他、お金がかかりすぎて安心して生活ができないことが、暴力にもつながると思います。公的な機関が企業に働きかけて、区民の暮らしを守るようにして欲しい。また、女性が産後も安心して就労等を選択できるように、きちんと公的に支援すべき。男だからとか、女だからとか、障害の有無に関係なく、ひとりの人間として認め合い、助け合っていける価値観を育てることが大切だと思います。	女性	20 歳代

No	【自由意見】⑤その他	性別	年齢
1	一人ひとり生き生きと毎日が充実した日々を送りたいと願って生きています。時としてスムーズに行かない問題をかかえ、またつまづいて初めていろいろな助けがほしいと自覚すると思います。そんな時こそヒントや手がかりが得られるような仕組みや助言をしてもらえる場所や人が充実していることと、それを皆認知している事、そんな北区であってほしいと思います。	女性	50歳代
2	行事に参加したり、相談したりする場合、開催場所が遠方の場合、参加しにくくなる。駅や商業施設等に近い場合は参加しやすいと思う。家とは建物ではなく、家族であると同様に北区の諸施設ではなく、区民の生活の身近に活動があることが望まれます。	女性	60歳代
3	私自身は、薬剤師としての仕事は出来ませんでしたが、64才まで自身の店を、経営する事が出来ました。仕事、主人の母、実母、夫の看病、育児、家事を一人でこなして参りましたが、この様な、区の広報企画はとても大切な事だと思います。女性は心強く感じる事と思えますし、男性も自分でやらなければと思い始めるでしょう。	女性	70歳代以上
4	本誌には余り関係ないのですが、私の住居周辺には、病院がなく、住居周辺には年寄りが多く心配です。	女性	60歳代
5	A市の男女共同参画推進委員として勉強会を開催し、イベントなども計画しましたがどうしても一部の市民だけのものになってしまうことを実感しました。ごくわずかに男性の推進委員もおりましたが、どうしても男性の意識が低い、ということは否めませんでした。市民同士の横のつながりを深めることでDVやセクシャルハラスメントに悩む方達を支えられる一面もあるようです。		50歳代
6	商店街に、歩行者が多くて自転車の邪魔で通れない。人が通りやすい道幅にして欲しい。	男性	60歳代
7	男女共同参画センターの最終的な目的＝達成(到達)すべき目標を明確にし、そこに辿り着く迄の課題を挙げ、機関を設定し、分野別に目標を作り、その為のプログラムを作成すべき。その他意見。DVや子供への虐待など、被害者側の救済をするだけでは、全く解決しない。加害者側の心や就労環境など、ストレス要因を取り除くような支援を行うべき。そうしないと絶対に無くならない。	女性	40歳代
8	アンケートの結果を基に実施されることを望みます。期待しています。	男性	60歳代
9	小生は既に後期高齢者であり、残念ながら本アンケートの回答者としては不适当であると思います。戦前の道德教育を受け、高度成長期を体験してきたものとしては、現在の社会風潮には馴染めないところがあり、答えとしてはあまり参考にはならないと思います。	男性	70歳代以上
10	自営業者は健康診断を受ける機会がないので、区で受けられるようにして欲しい。特に結婚している人は無料で年齢に関係なく受けられると、もっと北区に若い夫婦が住みやすくなると思います。パパが参加できる子どもセミナーがあるといいと思います。子どもが安全に遊べる芝生の公園があるといいと思います。	女性	30歳代

第 4 章

調査結果【企業経営者】

第4章 調査結果【企業経営者】

事業所について

F1 業種をお答えください。

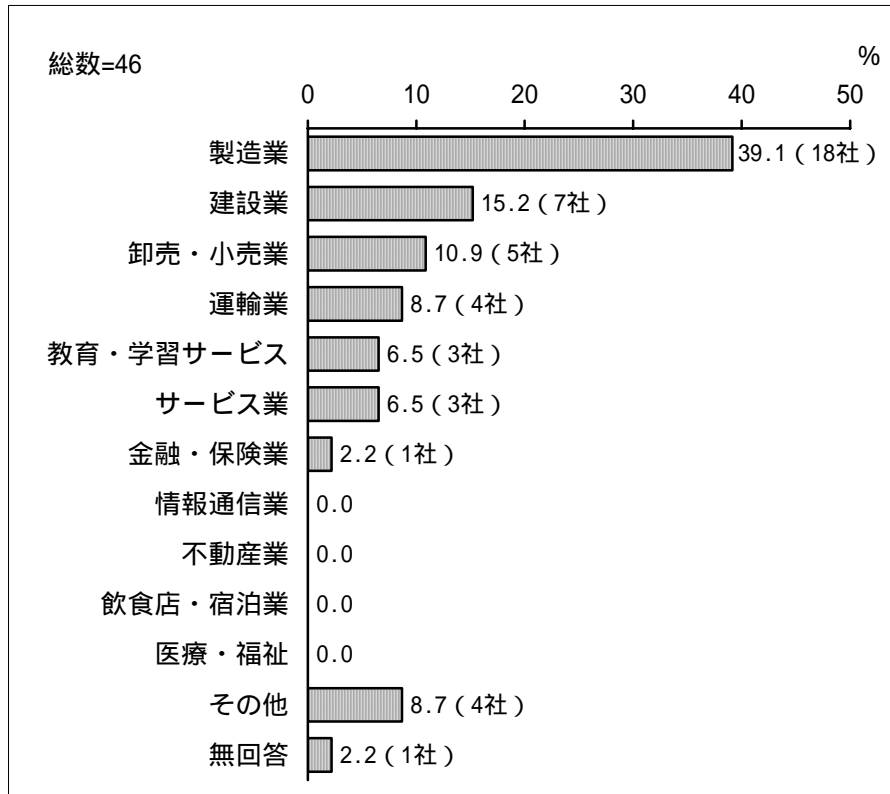


図4-1 業種

回答者の業種は「製造業」が39.1%で最も多く、以下「建設業」が15.2%、「卸売・小売業」が10.9%で続いています。

F2 常用従業者数をお答えください。

【正社員】

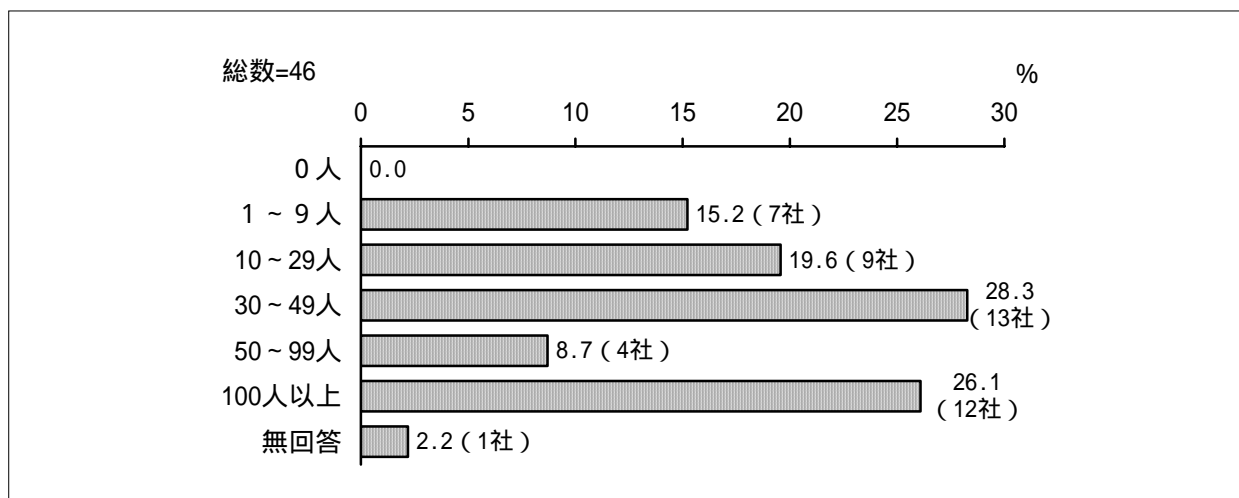


図4-2 正社員・合計

正社員数は、「30～49人」が28.3%で最も多く、次いで「100人以上」が26.1%、「10～29人」が19.6%で続いています。

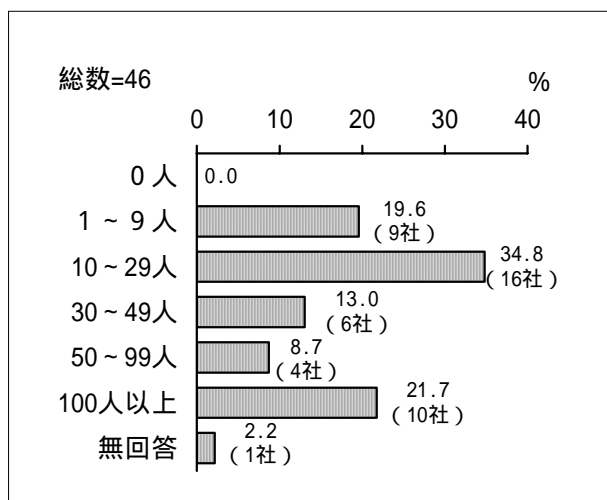


図4-3 正社員・男性

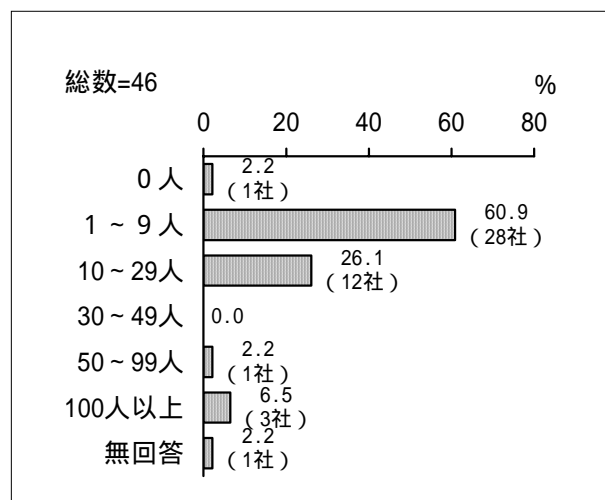


図4-4 正社員・女性

男女別の正社員数は、男性は「10～29人」が34.8%で最も多く、次いで「100人以上」が21.7%、「1～9人」が19.6%となっています。

一方、女性は「1～9人」が60.9%で過半数を占めており、以下「10～29人」が26.1%、「100人以上」が6.5%となっています。

【パート従業員】

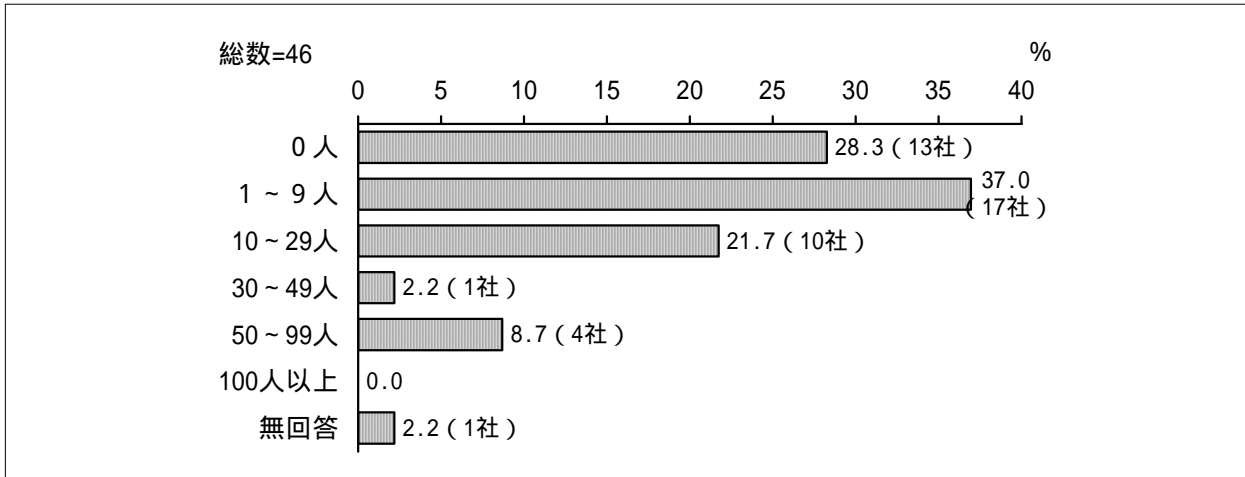


図 4-5 パート従業員・合計

パート社員数は、「1～9人」が37.0%で最も多く、以下「0人」が28.3%、「10～29人」が21.7%と続いています。

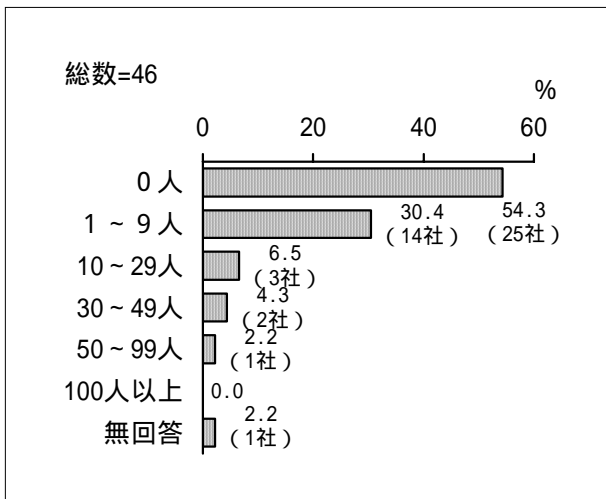


図 4-6 パート従業員・男性

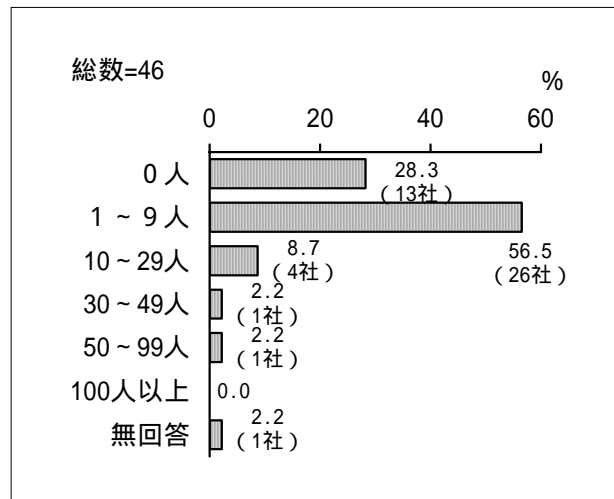


図 4-7 パート従業員・女性

男女別のパート従業員数は、男性は「0人」が54.3%で過半数を占めており、以下「1～9人」が30.4%、「10～29人」が6.5%となっています。

一方、女性は「1～9人」が56.5%で過半数を占めており、以下「0人」が28.3%、「10～29人」が8.7%となっています。

F3 平均年齢および、平均勤続年数をお答えください。

【平均年齢】

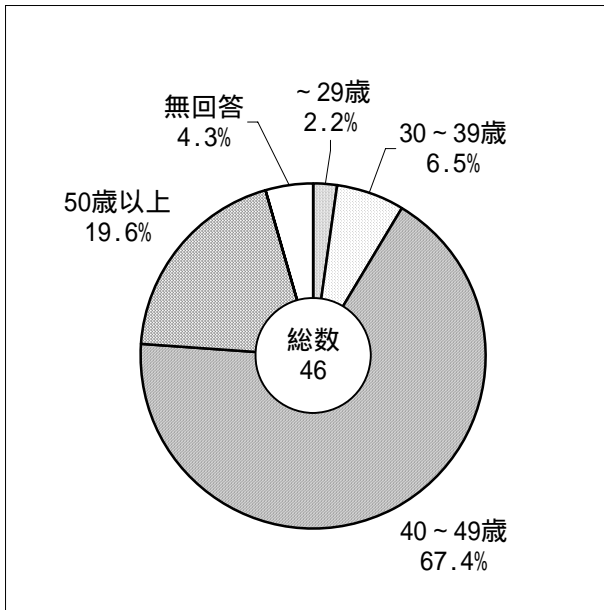


図 4-8 平均年齢・男性

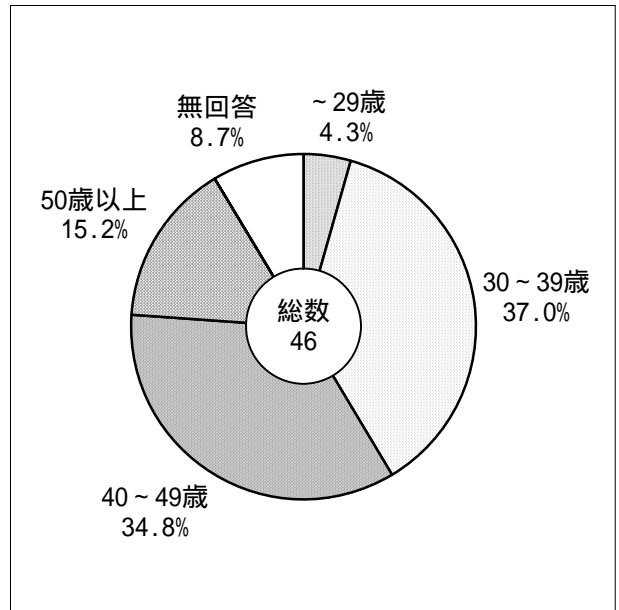


図 4-9 平均年齢・女性

【平均勤続年数】

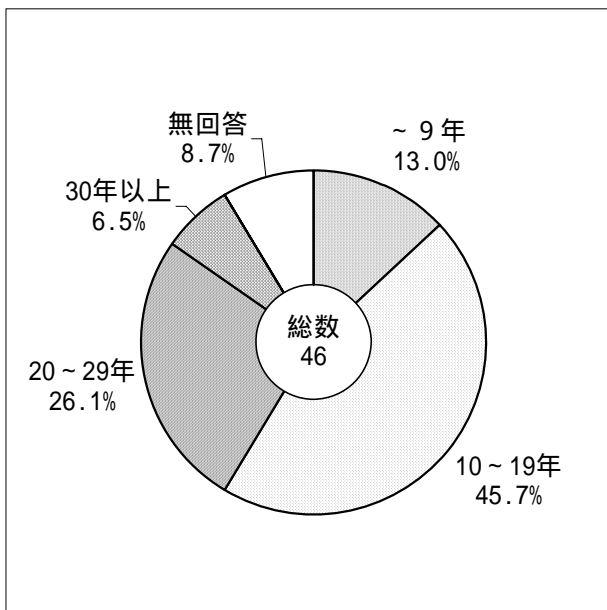


図 4-10 平均勤続年数・男性

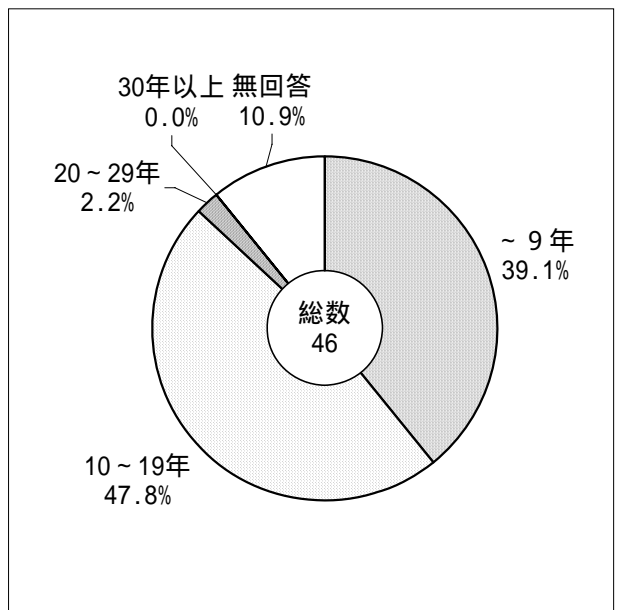


図 4-11 平均勤続年数・女性

単位：歳

	男性	女性
全体	45.8	40.3
20人以下 (10)	48.5	42.2
21人以上 (33)	44.9	39.8

図 4-12 平均年齢/正社員合計人数別

単位：年

	男性	女性
全体	17.0	10.0
20人以下 (10)	18.2	10.1
21人以上 (32)	16.6	10.0

図 4-13 平均勤続年数/正社員合計人数別

F4 事業所の性格をお答えください。

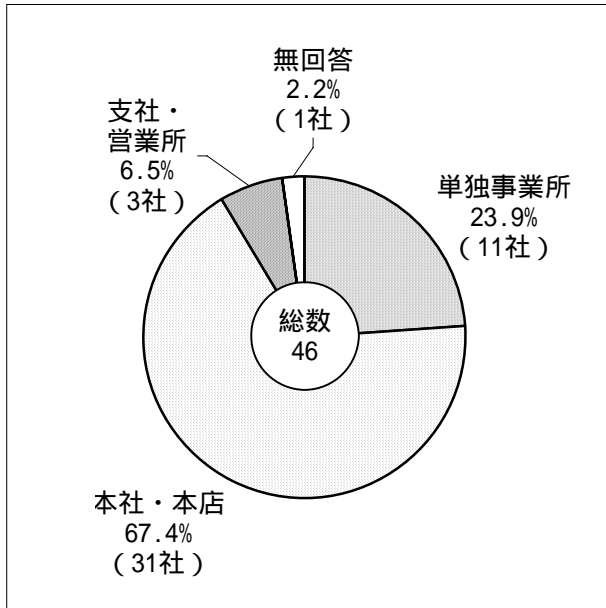


図 4-14 事務所の性格

F5 労働組合の有無をお答えください。

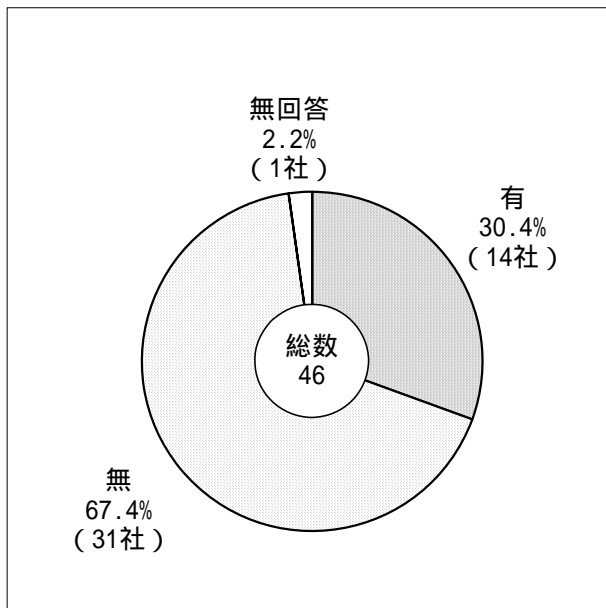


図 4-15 労働組合の有無

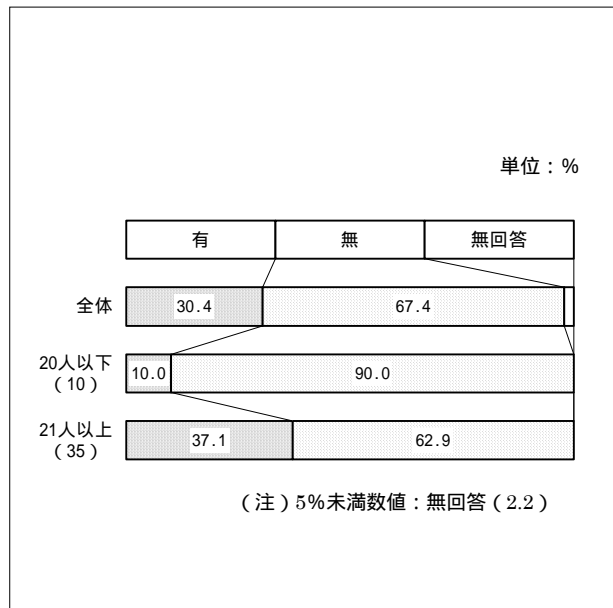


図 4-16 労働組合の有無/正社員合計人数別

女性の役職者について

問1 貴事業所では、役職者は何人いますか。うち女性役職者についてもお答えください。

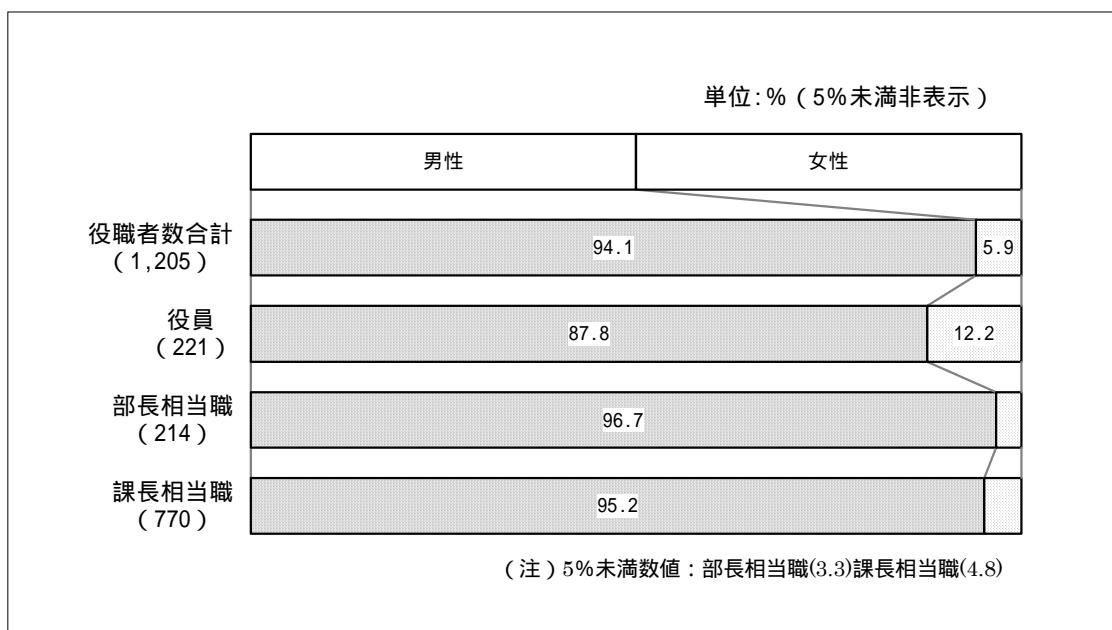


図 4-17 性別/役職別合計人数

全企業の役職者数合計を出し、うち女性の割合をみると、「役職者数合計」は1,205人で、うち女性の割合は5.9%（71人）でした。

同様に「役員」は221人で、うち女性の割合は12.2%（27人）、「部長相当職」は214人で、うち女性の割合は3.3%（7人）、「課長相当職」は770人で、うち女性の割合は4.8%（37人）となっています。

全体の平均役職者数は、「役職者数合計」が27.4人、うち女性数は1.6人。「役員」が5.0人、うち女性数は0.6人。「部長相当職」が4.9人、うち女性数は0.2人。「課長相当職」が17.5人、うち女性数は0.8人でした。いずれの項目も女性数は2人を下回っています。

単位：人

	役職者 /平均数計	役員 /平均	部長 /平均相当職	課長 /平均相当職	女性 役職者 計/平均	女性 役員 /平均	女性 部長 相当職 /平均	女性 課長 相当職 /平均
全体(N= 44)	27.4	5.0	4.9	17.5	1.6	0.6	0.2	0.8
合計 正社員 人数	20人以下(n= 10)	6.1	3.2	1	1.9	1	-	0.5
	21人以上(n= 34)	33.6	5.6	6	22.1	1.8	0.2	0.9

表 4-1 役職者数・平均人数/正社員合計人数別

問1-1 問1で女性の役職者が少ない(1割未満)あるいは、全くいない役職区分が1つでもある場合、それはどのような理由からだと思えますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

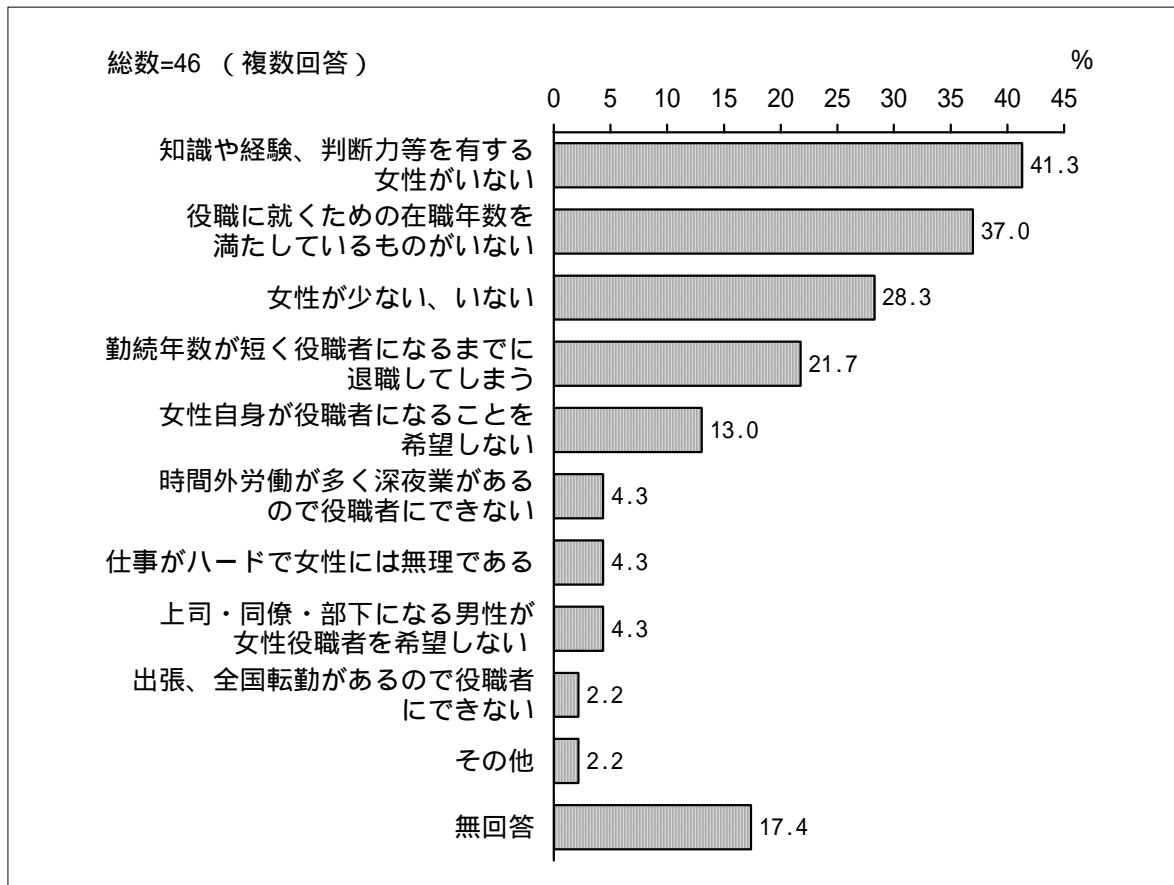


図 4-18 女性の役職者が少ない・いない理由

女性の役職者が少ないあるいは、全くいないと回答した人に対し、その理由を調査したところ、「必要な知識や経験、判断力等を有する女性がいない」が 41.3%で最も多く、次いで「将来役職者に就く可能性のある女性はあるが、現在役職に就くための在職年数を満たしているものがない」が 37.0%、「女性が少ない、いない」が 28.3%と続いています。

◆ 正社員合計人数別でみると、20人以下の事業所に比べ、21人以上の事業所では「将来役職者に就く可能性のある女性はあるが、現在役職に就くための在職年数を満たしているものがない」「女性自身が役職者になることを希望しない」が高い割合を示しています。

	知識や経験、判断力等を有する女性がいない	役職に就くための在職年数を満たしているものがない	勤続年数が短く役職者にならない	時間外労働が多く深夜業があるので役職者できない	出張、全国転勤があるので役職者できない	仕事がハードである女性	女性自身が役職者を希望しない	上司・同僚・部下になる男性が女性役職者を希望しない	女性がいない、いない	その他	無回答
全体(N= 46)	41.3	37.0	21.7	4.3	2.2	4.3	13.0	4.3	28.3	2.2	17.4
合計人数 正社員	20人以下(n= 10)	30.0	40.0	10.0	-	-	10.0	-	40.0	-	30.0
	21人以上(n= 35)	45.7	37.1	25.7	5.7	2.9	14.3	5.7	25.7	-	14.3
	無回答(n= 1)	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-

表 4-2 女性の役職者が少ない・いない理由/正社員合計人数別

ワークライフバランスについて

問2 ワークライフバランスについてどの程度関心がありますか。

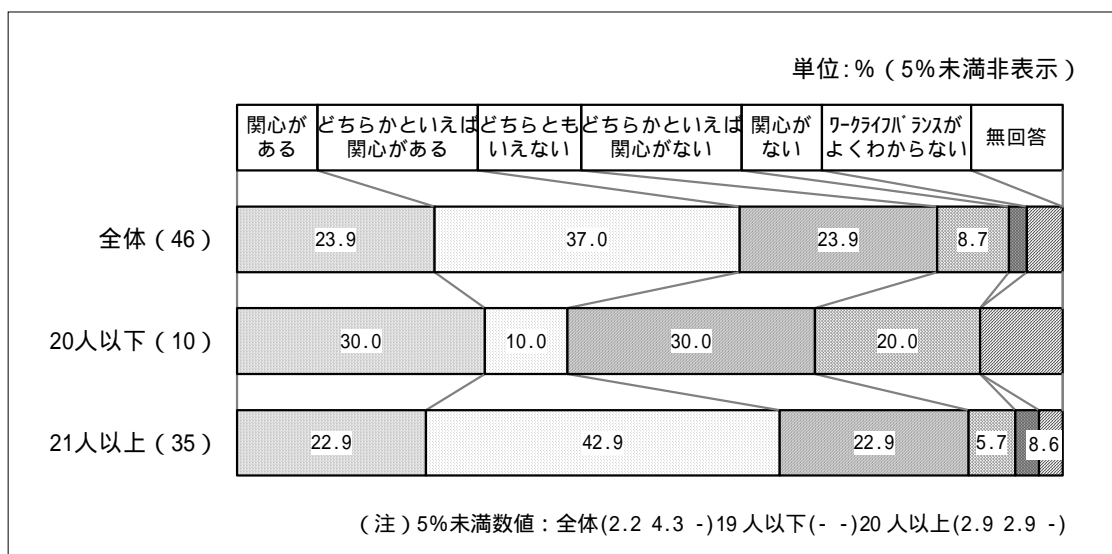


図4-19 ワークライフバランスの関心度/正社員合計人数別

ワークライフバランスの関心度は、「どちらかといえば関心がある」が37.0%、「関心がある」が23.9%になっており、合わせて6割程度が関心があると回答しています。一方、「どちらかといえば関心がない」は8.7%、「関心がない」は2.2%にとどまっています。

◆ 正社員合計人数別で見ると、20人以下の事業所では「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人は4割ですが、21人以上の事業所では6割を超えています。

問3 貴事業所でのワークライフバランスの取組み状況についてお聞きします。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

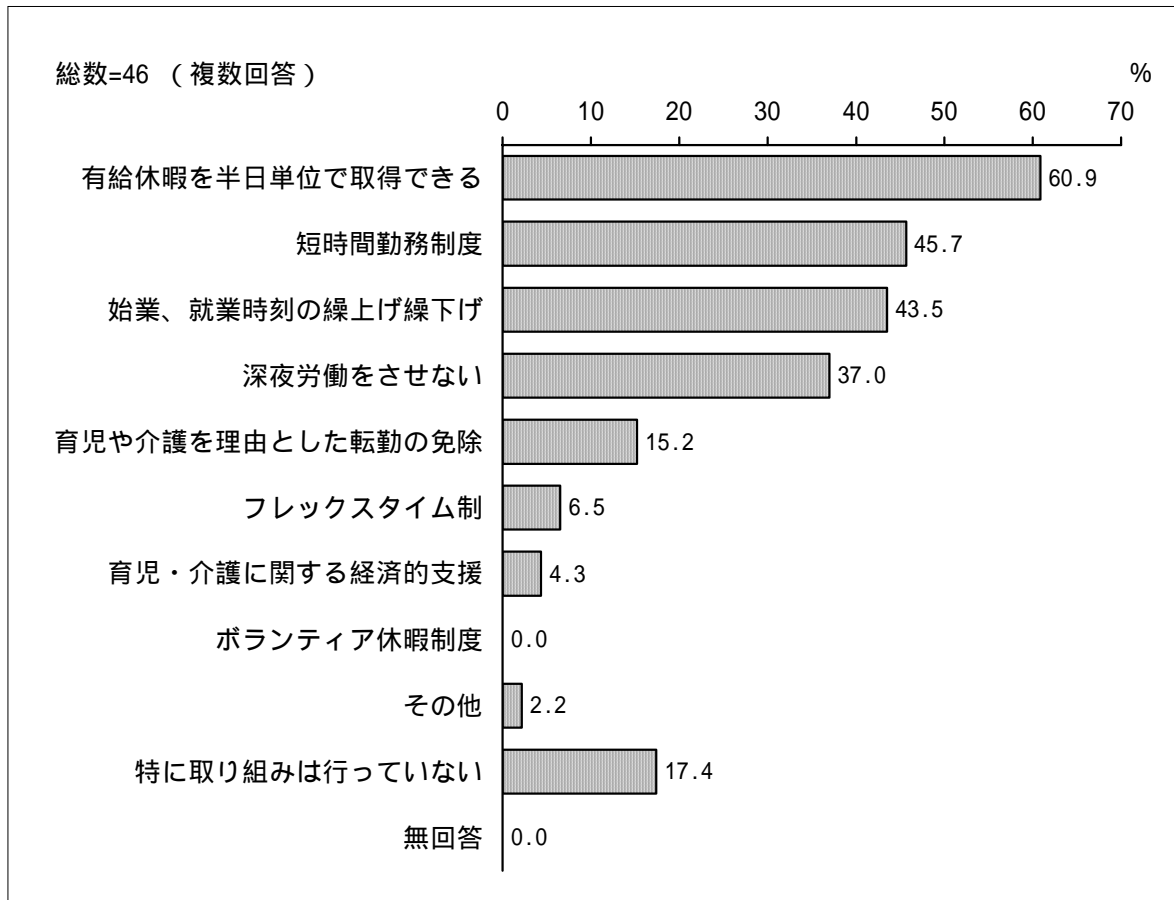


図 4-20 ワークライフバランスの取組み状況

ワークライフバランスの取組み状況は、「有給休暇を半日単位で取得できる」が 60.9%で最も多く、次いで「短時間勤務制度」が 45.7%、「始業、就業時刻の繰上げ、繰下げ」が 43.5%となっています。

◆ 正社員合計人数別で見ると、21 人以上の事業所では「短時間勤務制度」は半数、「有給休暇を半日単位で取得できる」は 6 割を上回っています。20 人以下の事業所では「有給休暇を半日単位で取得できる」が半数に達しています。

一方、「特に取組みは行っていない」は 20 人以下の事業所が 40.0%なのに対し、21 人以上の事業所では 8.6%となっており、30 ポイント程度の差があります。

	フレックスタイム制	始業、就業時刻の繰上げ繰下げ	短時間勤務制度	育児・介護に関する経済的支援	有給休暇を半日単位で取得できる	深夜労働をさせない	ボランティア休暇制度	育児や介護を理由とした転勤の免除	その他	特に取組みは行っていない	無回答
全体 (N= 46)	6.5	43.5	45.7	4.3	60.9	37.0	-	15.2	2.2	17.4	-
合計人数 正社員	20人以下 (n= 10)	-	30.0	-	50.0	30.0	-	10.0	-	40.0	-
	21人以上 (n= 35)	8.6	48.6	51.4	5.7	65.7	-	17.1	2.9	8.6	-
	無回答 (n= 1)	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-

表 4-3 ワークライフバランスの取組み状況/正社員合計人数別

問4 ワークライフバランスを推進する上で一番重要なことは何だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

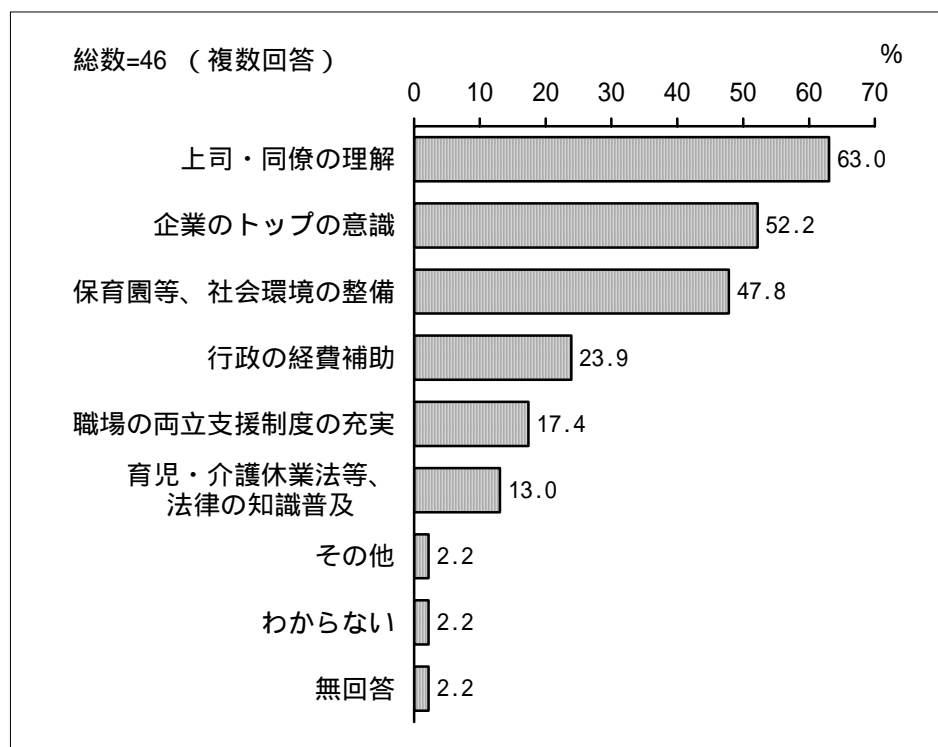


図 4-21 ワークライフバランスの推進のために重要なこと

ワークライフバランスの推進のために重要なことについて調査したところ、「上司・同僚の理解」が63.0%で最も多く、次いで「企業のトップの意識」が52.2%、「保育園等、社会環境の整備」が47.8%で続いています。

◆ 正社員合計人数別でみたときの正社員合計人数が20人以下の事業所と21人以上の事業所で大きな差がある項目は、「企業のトップの意識」が21人以上では60.0%、20人以下では30.0%になっており、30ポイント程度の差があります。同様に、「上司・同僚の理解」でも21人以上の事業所の方が30ポイント程度高くなっています。

	企業のトップの意識	上司・同僚の理解	行政の経費補助	職場の両立支援制度の充実	保育園等、社会環境の整備	育児・介護休業法等、法律の知識普及	その他	わからない	無回答
全体(N= 46)	52.2	63.0	23.9	17.4	47.8	13.0	2.2	2.2	2.2
合計人数 正社員 20人以下(n= 10)	30.0	40.0	30.0	-	40.0	30.0	-	10.0	-
21人以上(n= 35)	60.0	71.4	22.9	20.0	51.4	8.6	2.9	-	2.9
無回答(n= 1)	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-

表 4-4 ワークライフバランスの推進のために重要なこと/正社員合計人数別

問5 育児休業・介護休業制度についてお聞きます。あてはまる番号に○をつけてください。

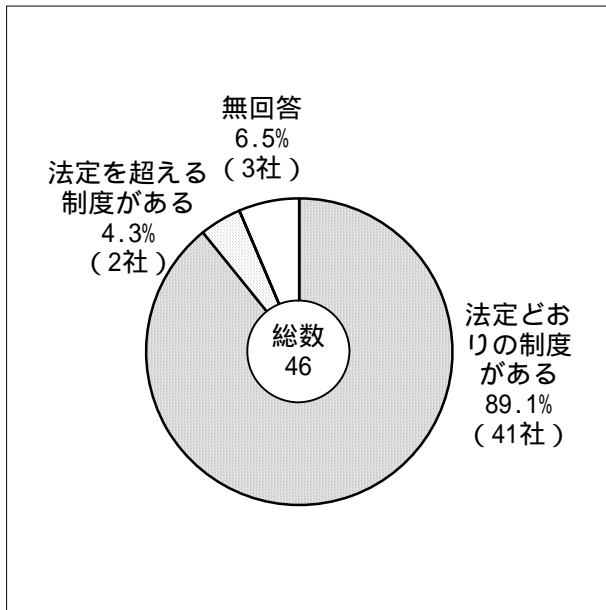


図 4-22 育児休業制度の有無

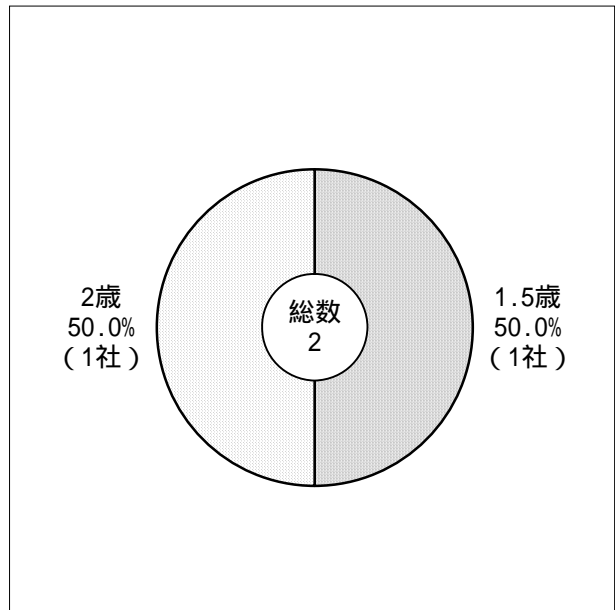


図 4-23 法定を超える場合の子どもの年齢

育児休業制度の有無は、「法定どおりの制度がある」が 89.1%、「法定を超える制度がある」が 4.3%になっています。

また、法定を超える制度があると回答した人に対し、その場合の子どもの年齢について調査したところ、「1.5歳」「2歳」がともに1社でした。

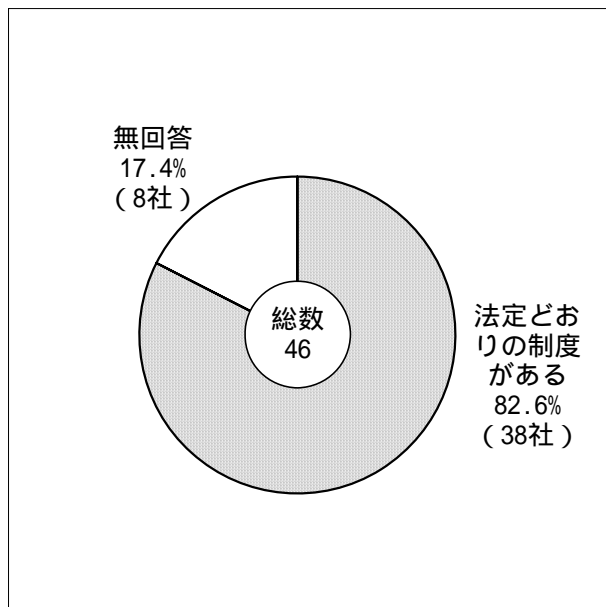


図 4-24 介護休業制度の有無

介護休業制度の有無は、「法定どおりの制度がある」は 82.6%になっていますが、「法定を超える制度がある」と回答した人はいませんでした。

問6 19年度中で育児休業制度の対象者はいましたか。
 (平成19年4月～平成20年3月31日)

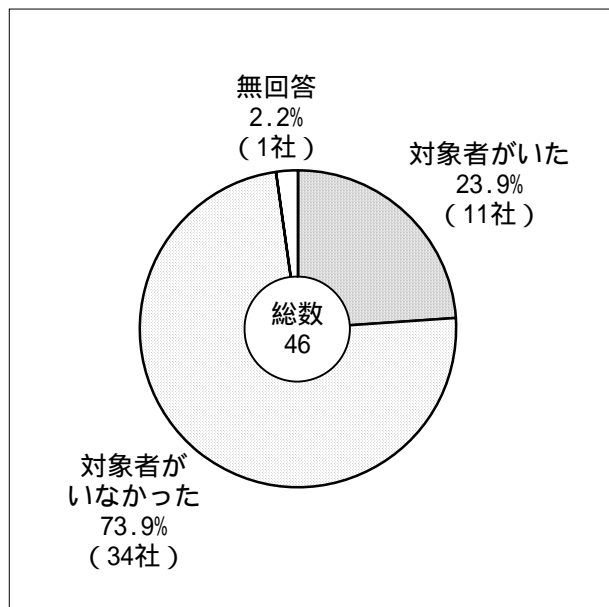


図4-25 育児休業制度の対象者の有無(19年度)

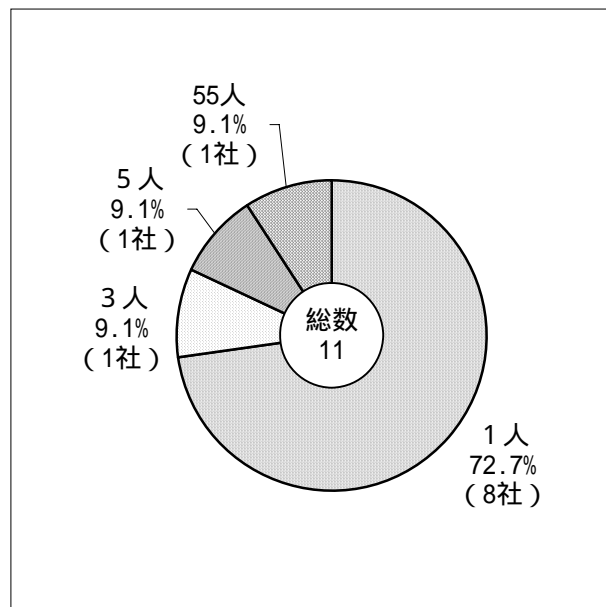


図4-26 育児休業制度の対象者数(19年度)

平成19年度の育児休業制度の対象者の有無は、「対象者がいた」が23.9%、「対象者がいなかった」が73.9%になっています。

また、対象者がいたと回答した人に対し、その場合の対象者数について調査したところ、「1人」が72.7%で最も多く、次いで「3人」「5人」「55人」がともに9.1%でした。

問6-1 問6で「1. 対象者がいた」とお答えした方にお聞きします。対象者は育児休業制度を利用しましたか。

平成19年度の育児休業制度対象者がいたと回答した人に対し、その場合の利用者の有無を調査したところ、全員が「利用者がいた」と回答しました。

そのうち育児休業制度の利用者数は、「1人」が72.7%で最も多く、次いで「3人」「5人」「12人」がともに9.1%でした。

また、育児休業制度の利用者数を男女別で見ると、女性は「1人」が72.7%で最も多く、次いで「3人」「5人」「12人」がともに9.1%なのに対し、男性の利用者はいませんでした。

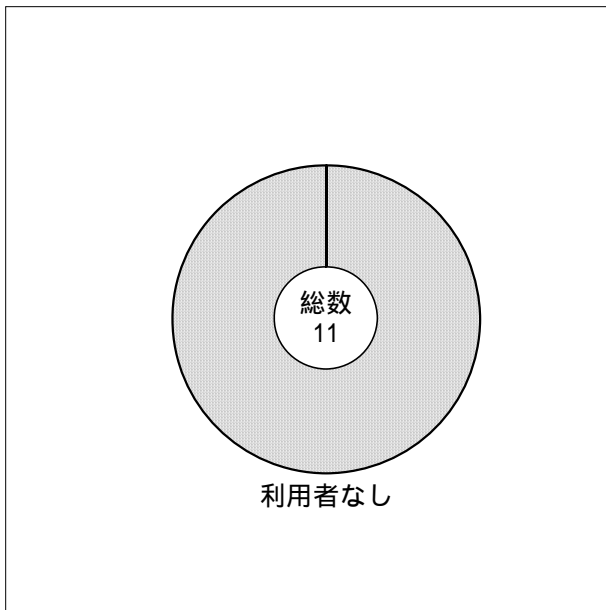


図4-27 育児休業制度の利用者数・男性

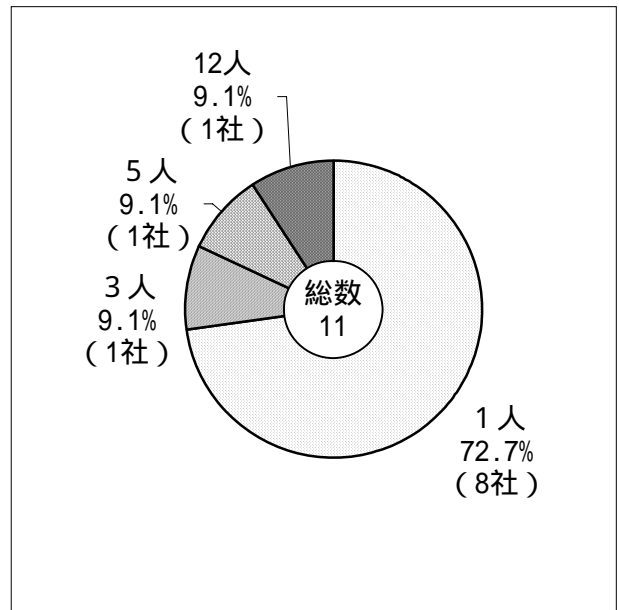


図4-28 育児休業制度の利用者数・女性

問6-2 問6-1で「利用した」と回答した場合、その従業員の代替要員はどうしましたか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

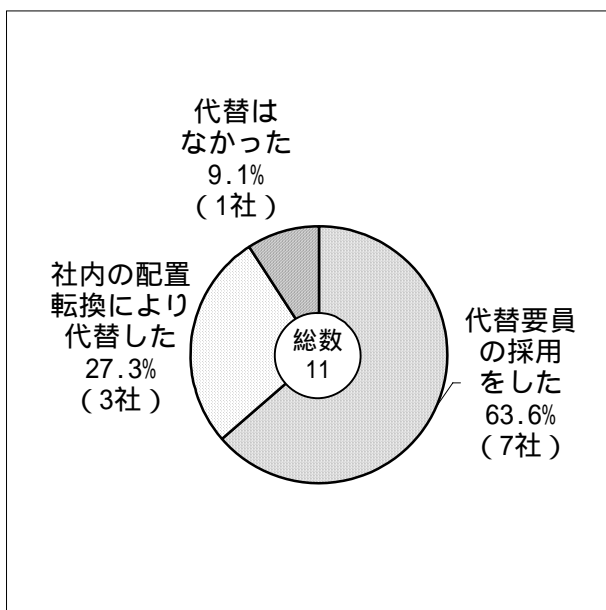


図4-29 育児休業制度を利用した場合の代替要員

育児休業制度を利用したと回答した人に対し、その場合の代替要員の有無を調査したところ、「代替要員の採用をした」が63.6%で最も多く、次いで「社内の配置転換により代替した」が27.3%、「代替はなかった」が9.1%になっています。

問7 19年度中で介護休業制度の対象者はいましたか。
(平成19年4月～平成20年3月31日)

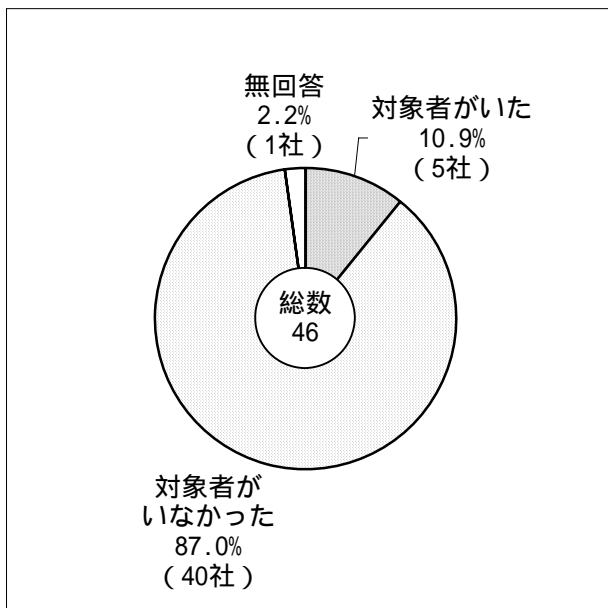


図4-30 介護休業制度の対象者の有無(19年度)

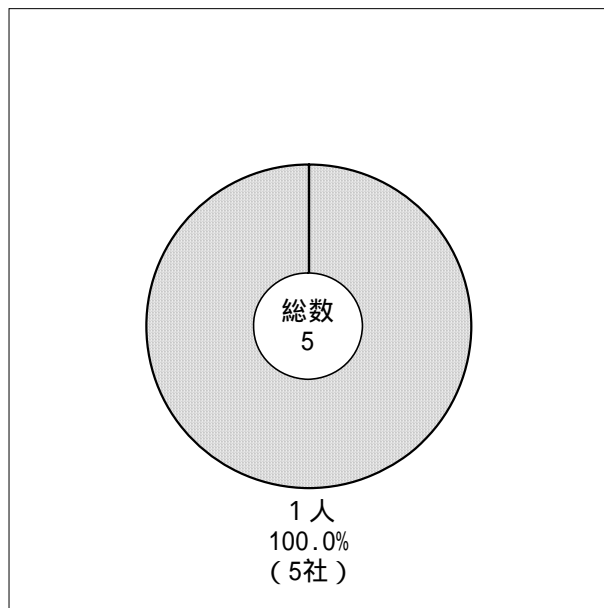


図4-31 介護休業制度の対象者(19年度)

平成19年度の介護休業制度の対象者の有無は、「対象者がいた」が10.9%、「対象者がいなかった」が87.0%になっています。

また、対象者がいたと回答した人に対し、その場合の対象者数について調査したところ、全員が「1人」と回答しました。

問7-1 問7で「1. 対象者がいた」とお答えした方にお聞きします。対象者は介護休業制度を利用しましたか。

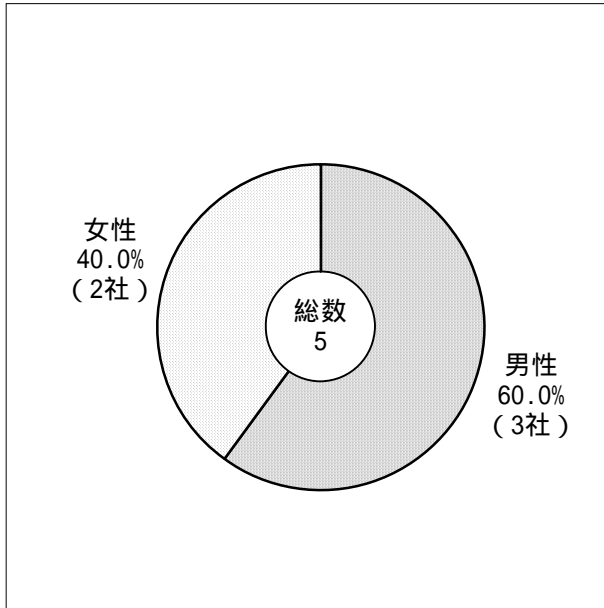


図 4-32 介護休業制度の利用者

平成 19 年度の介護休業制度対象者がいたと回答した人に対し、その場合の利用者の有無を調査したところ、全員が「利用した」と回答し、利用者は男性が 3 社、女性が 2 社でした。

問7-2 問7-1で「利用した」と回答した場合、その従業員の代替要員はどうしましたか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

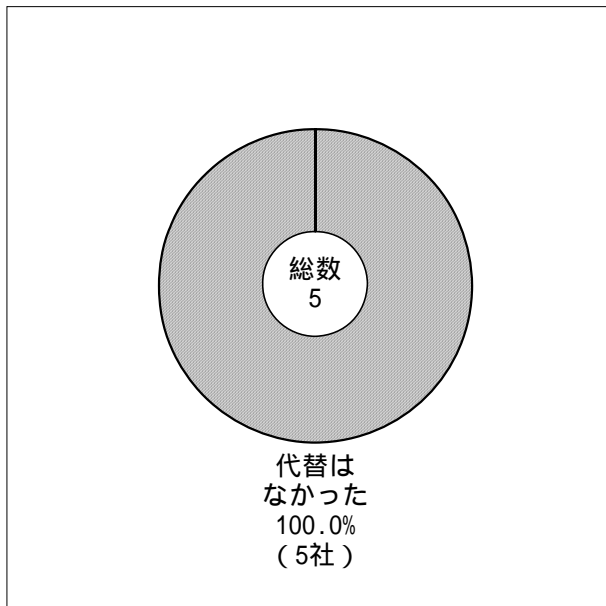


図 4-33 介護休業制度を利用した場合の代替要員

介護休業制度を利用したと回答した人に対し、その場合の代替要員の有無を調査したところ、全員が「代替はなかった」と回答しました。

問8 配偶者出産休暇制度はありますか。

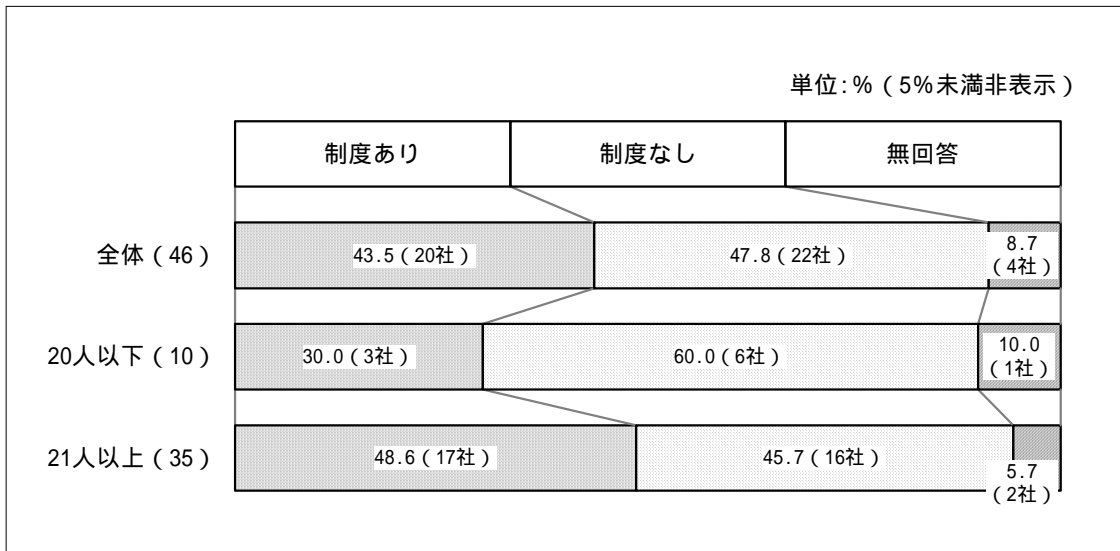


図 4-34 配偶者出産休暇制度の有無/正社員合計人数別

配偶者出産休暇制度の有無を調査したところ、「制度あり」が43.5%、「制度なし」が47.8%でした。

◆ 正社員合計人数別で見ると、20人以下の事業所では「制度なし」が6割を占めています。一方、21人以上の事業所では「制度あり」「制度なし」ともに半数には達していません。

また、制度ありと回答した人に対し、その場合の日数について調査したところ、「3日」が30.0%で最も多く、次いで「2日」が20.0%、「98日」が10.0%と続いています。

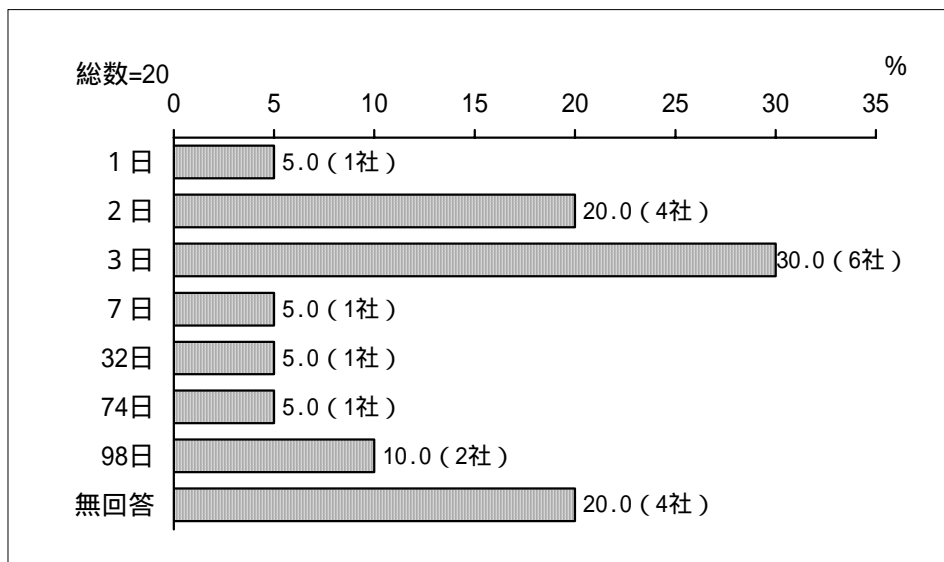


図 4-35 配偶者出産休暇制度の日数

問8-1 問8で「1. 制度あり」とお答えした方にお聞きします。19年度中で利用者はいましたか。(平成19年4月～平成20年3月31日)

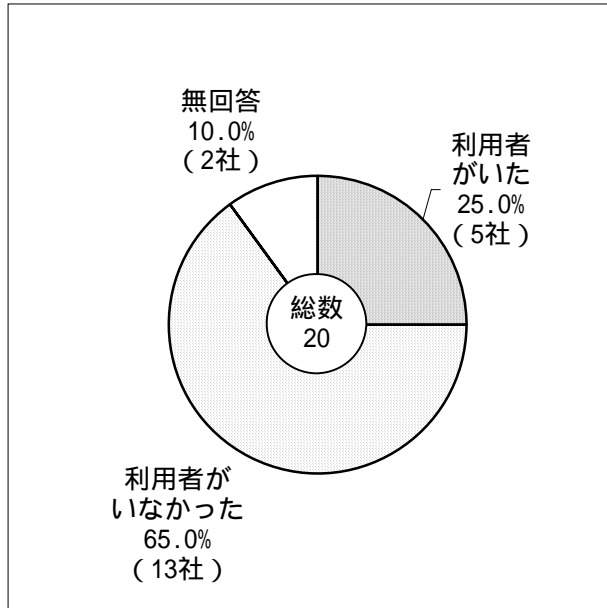


図 4-36 配偶者出産休暇制度の利用者の有無

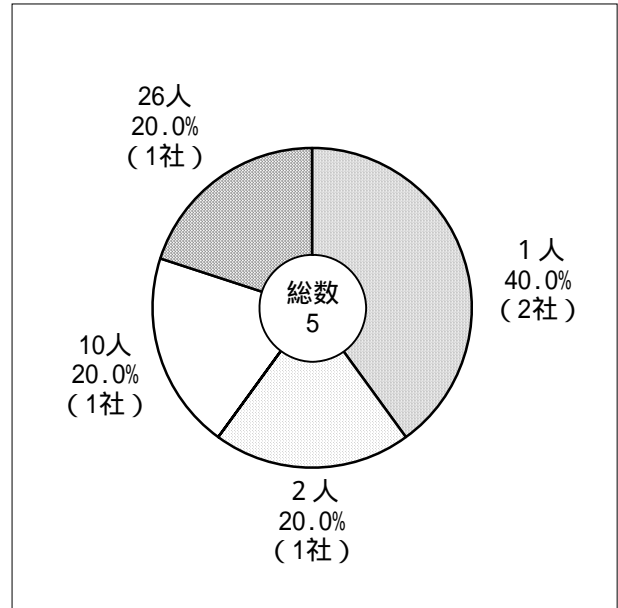


図 4-37 配偶者出産休暇制度の利用者数(19年度)

配偶者出産休暇制度について制度があると回答した人に対し、平成19年度の利用者の有無を調査したところ、「利用者がいた」が25.0%、「利用者がいなかった」が65.0%でした。

また、利用者がいたと回答した人に対し、その場合の利用者数について調査したところ、「1人」が40.0%で、「2人」「10人」「26人」が20.0%になっています。

問9 看護休暇制度はありますか。

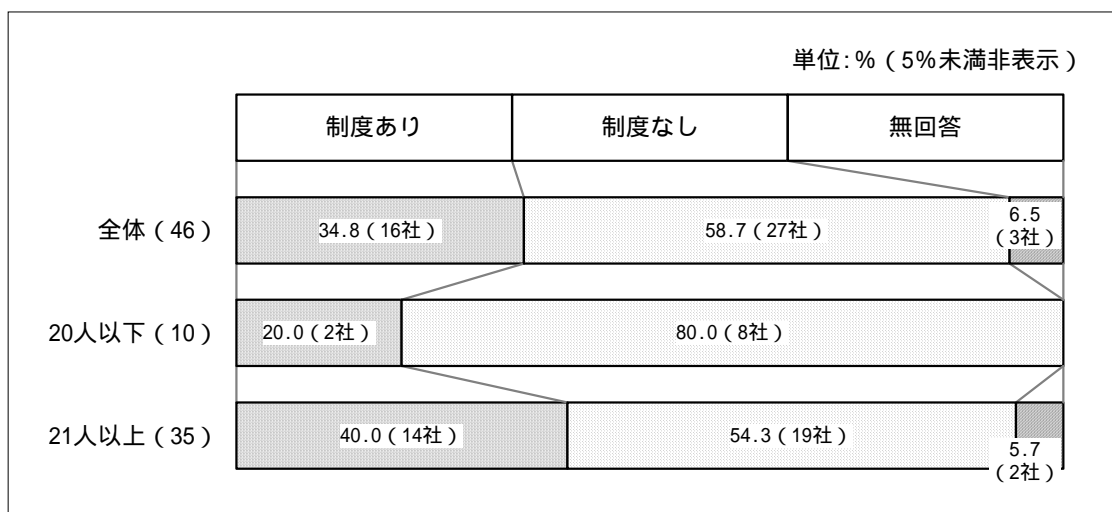


図 4-38 看護休暇制度の有無/正社員合計人数別

看護休暇制度の有無を調査したところ、「制度あり」が34.8%、「制度なし」が58.7%でした。

◆ 正社員合計人数別で見ると、20人以下の事業所では「制度なし」が8割を占めており、21人以上の事業所でも半数に達しています。

また、制度ありと回答した人に対し、その場合の日数について調査したところ、「5日」が56.3%で最も多く、「3日」「90日」「93日」「98日」が6.3%になっています。

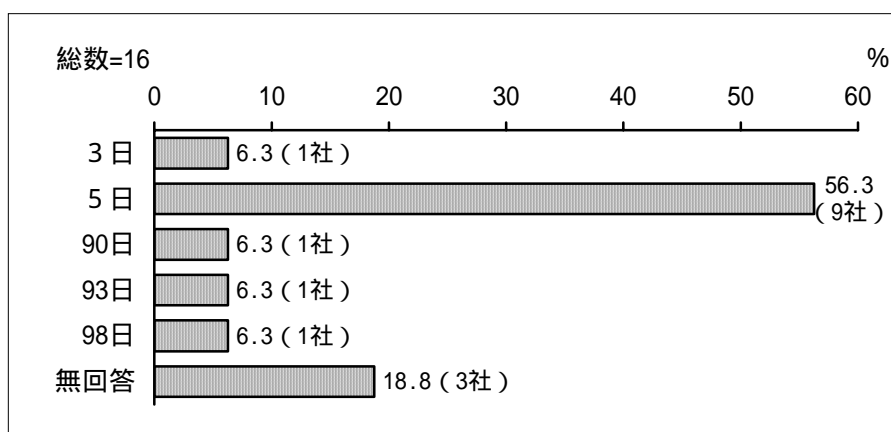


図 4-39 看護休暇制度の利用者数（19年度）

問9-1 問9で「1. 制度あり」とお答えした方にお聞きします。19年度中で利用者はいましたか。(平成19年4月～平成20年3月31日)

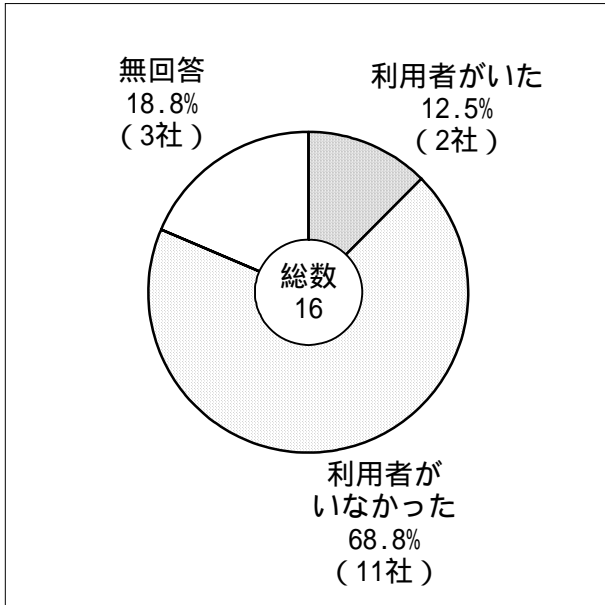


図4-40 看護休暇制度がある場合、看護休暇制度の利用者の有無(19年度)

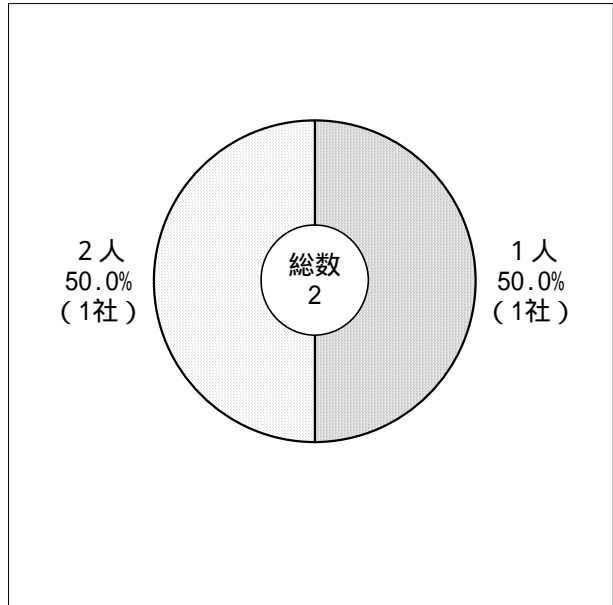


図4-41 看護休暇制度の利用者数(19年度)

看護休暇制度について制度があると回答した人に対し、平成19年度の利用者の有無を調査したところ、「利用者がいた」が12.5%、「利用者がいなかった」が68.8%でした。

また、利用者がいたと回答した人に対し、その場合の利用者数について調査したところ、「1人」「2人」がともに50%でした。

セクハラ及びパワハラについて

問 10 セクシャル・ハラスメント防止の取り組み状況についてお聞きします。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

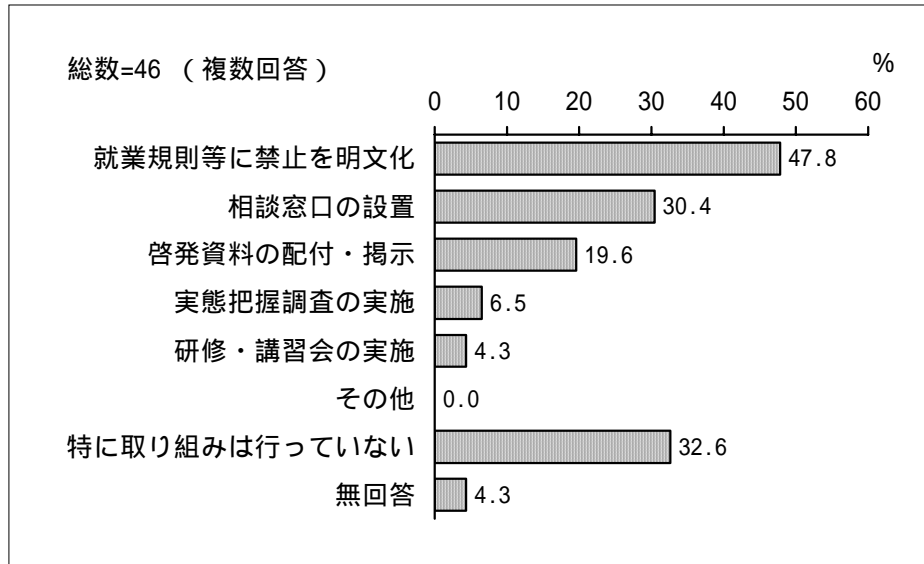


図 4-42 セクシャル・ハラスメント防止の取り組み状況

セクシャル・ハラスメント防止の取り組み状況は、「就業規則等に禁止を明文化」が 47.8%で最も多く、以下「特に取り組みは行っていない」が 32.6%、「相談窓口の設置」が 30.4%、「啓発資料の配付・掲示」が 19.6%で続いています。

◆ 正社員合計人数別で見ると、21人以上の事業所では「就業規則等に禁止を明文化」が 54.3%、と過半数を占めています。一方、20人以下の事業所では「特に取り組みは行っていない」が 40.0%で最も多くなっています。

		就業規則等に禁止を明文化	啓発資料の配付・掲示	相談窓口の設置	研修・講習会の実施	実態把握調査の実施	その他	特に取り組みは行っていない	無回答
全体(N= 46)		47.8	19.6	30.4	4.3	6.5	-	32.6	4.3
合計人数 正社員	20人以下(n= 10)	30.0	20.0	20.0	10.0	10.0	-	40.0	-
	21人以上(n= 35)	54.3	20.0	34.3	2.9	5.7	-	31.4	2.9
	無回答(n= 1)	-	-	-	-	-	-	-	100.0

表 4-5 セクシャル・ハラスメント防止の取り組み状況/正社員合計人数別

問 11 パワー・ハラスメント防止の取組み状況についてお聞きします。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

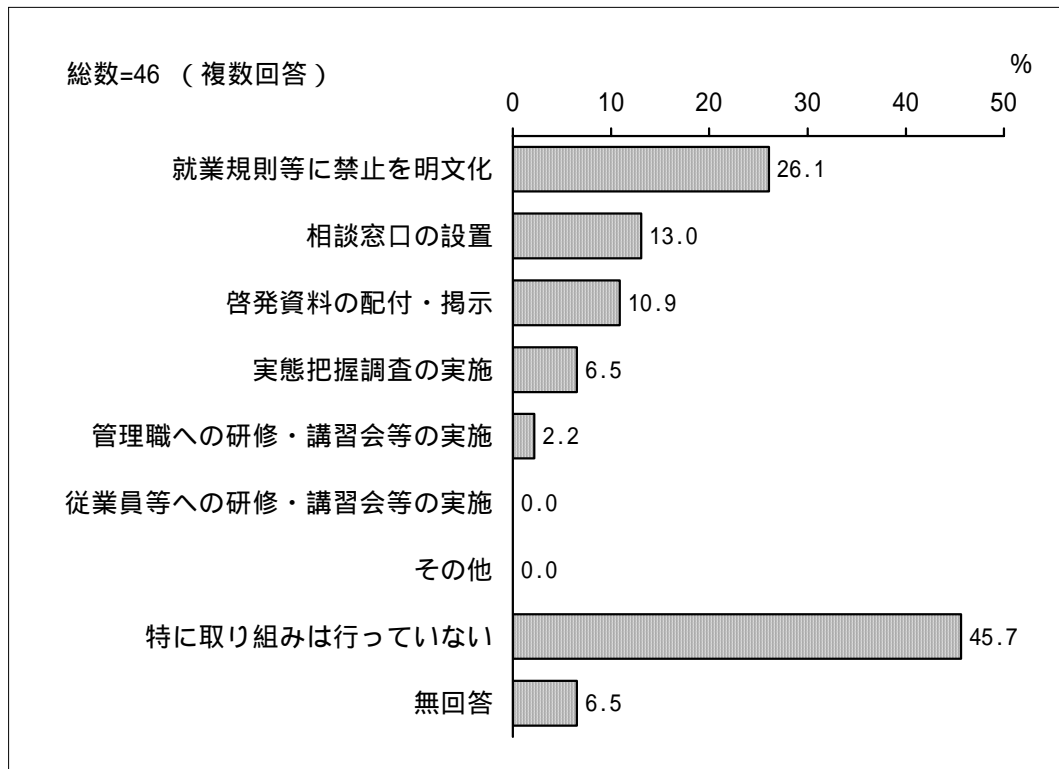


図 4-43 パワー・ハラスメント防止の取組み状況

パワー・ハラスメント防止の取組み状況は、「特に取組みは行っていない」も 45.7%で最も多く、以下「就業規則等に禁止を明文化」が 26.1%、「相談窓口の設置」が 13.0%、「啓発資料の配付・掲示」が 10.9%が続いています。

問 12 「次世代育成支援対策推進法」に規定している、一般事業主行動計画の策定についてご存知ですか。

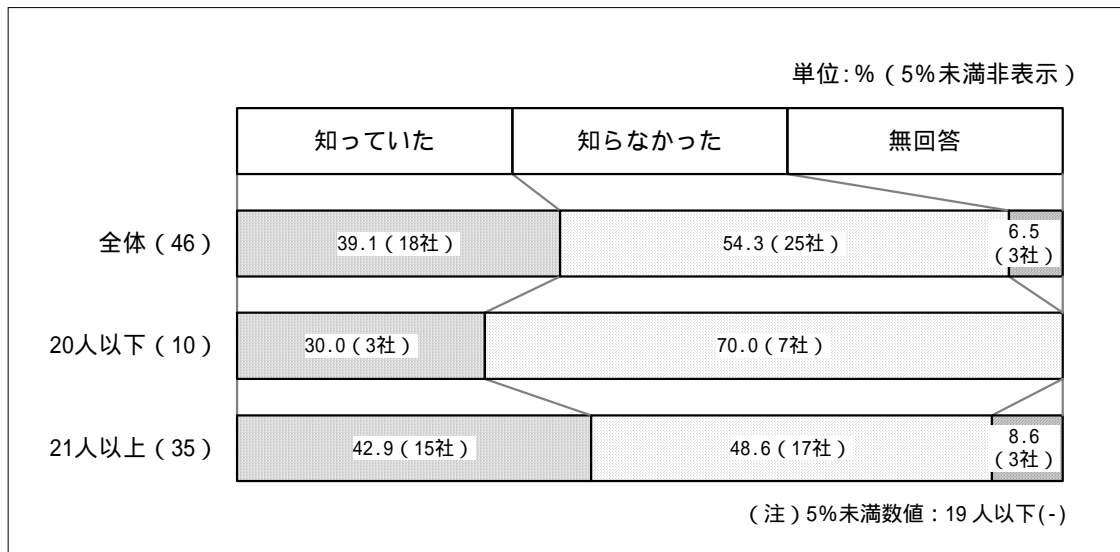


図 4-44 一般事業主行動計画の策定について/正社員合計人数別

一般事業主行動計画の策定について調査したところ、「知っていた」が39.1%、「知らなかった」が54.3%でした。

◆ 正社員合計人数別で見ると、20人以下の事業所では「知らなかった」が7割を占めており、21人以上の事業所でも約半数を占めています。

問 13 貴事業所では一般事業主行動計画を策定されていますか。

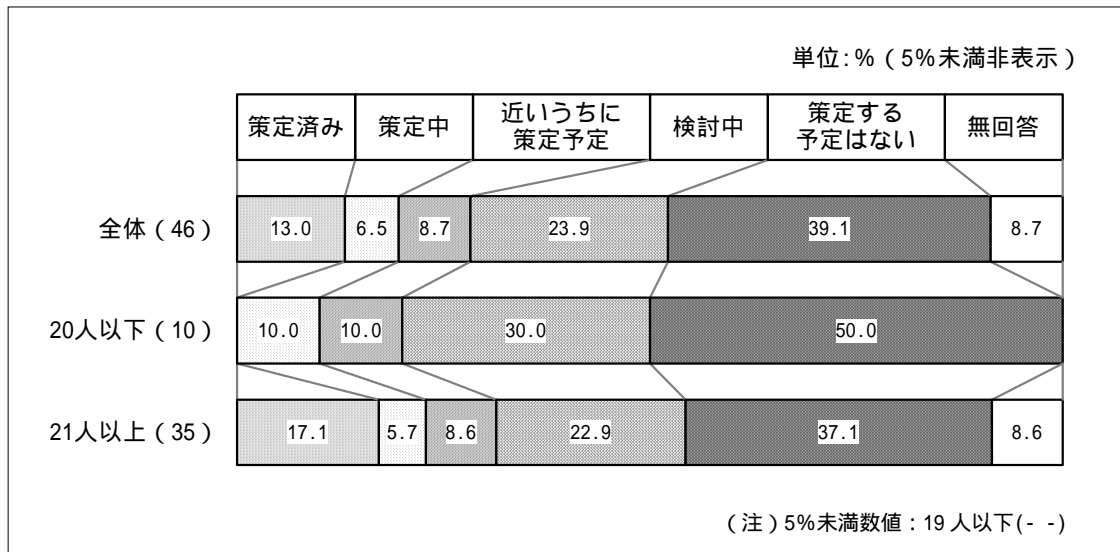


図 4-45 一般事業主行動計画を策定の有無/正社員合計人数別

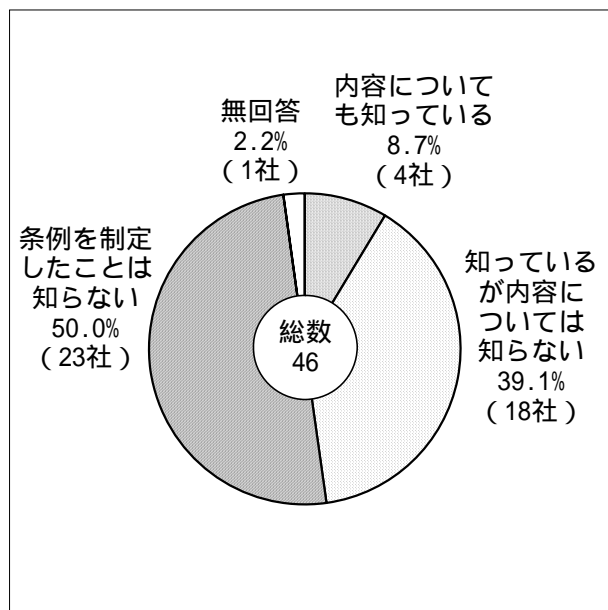
一般事業主行動計画を策定の有無について調査したところ、「策定する予定はない」が 39.1%で最も多く、次いで「検討中」が 23.9%が続いています。

「策定済み」が 13.0%、「策定中」が 6.5%、「近いうちに策定」が 8.7%で、策定に前向きに取り組んでいる事業所は 3 割弱にとどまっています。

◆ 正社員合計人数別で見ると、20 人以下の事業所では「検討中」が 30.0%、「策定する予定はない」が 50.0%で、合わせて 8 割を占めています。

また、21 人以上の事業所では「策定済み」が 17.1%なのに対し、20 人以下の事業所では「策定済み」と回答した人はいませんでした。

問 14 北区では平成 18 年6月に「北区男女共同参画条例」を制定しましたが、この条例についてご存知ですか。



北区男女共同参画条例の認知度は、「条例を制定したことは知らない」が 50.0%で最も多く、「条例を制定したことは知っているが、内容については知らない」が 39.1%、「条例を制定したことも、内容についても知っている」が 8.7%になっています。

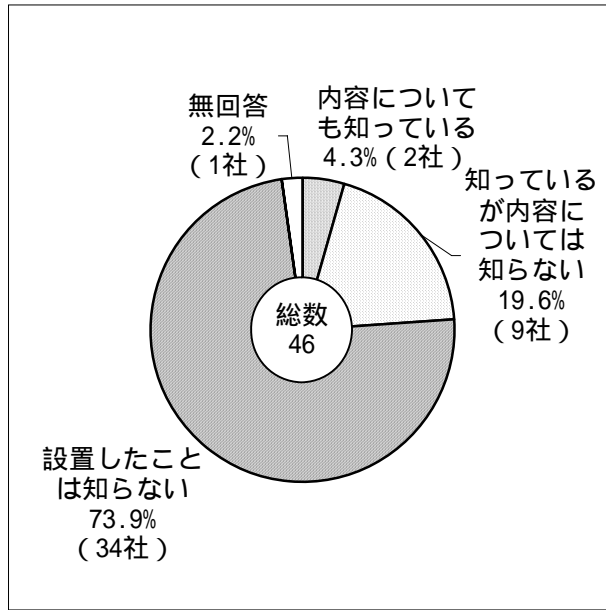
図 4-46 北区男女共同参画条例の認知度

◆ 正社員合計人数別で見ると、21人以上の事業所では「条例を制定したことも、内容についても知っている」が 11.4%なのに対し、20人以下の事業所ではそのように回答した人はいませんでした。

		も内 知容 つに てつ いい るて	は内知 は容つ 知らに ないて いるが	た条 こ例 なを いは 知定 らし	無 回 答
全体 (N= 46)		8.7	39.1	50.0	2.2
合 計 正 社 員 人 数	20人以下 (n= 10)	-	50.0	50.0	-
	21人以上 (n= 35)	11.4	37.1	48.6	2.9
	無回答 (n= 1)	-	-	100.0	-

表 4-6 北区男女共同参画条例の認知度/正社員合計人数別

問 15 北区男女共同参画条例に基づき「北区苦情解決委員会」を設置していますがご存知ですか。



北区苦情解決委員会の認知度は、「北区苦情解決委員会を設置したことは知らない」が73.9%で最も多く、「北区苦情解決委員会を設置したことは知っているが、内容については知らない」が19.6%、「北区苦情解決委員会を設置したことも、内容についても知っている」が4.3%になっています。

図 4-47 北区苦情解決委員会の認知度

◆ 正社員合計人数別で見ると、20人以下の事業所では「北区苦情解決委員会を設置したことは知らない」が9割に達しています。一方、「北区苦情解決委員会を設置したことも、内容についても知っている」と回答した人はいませんでした。

また、21人以上の事業所でも「北区苦情解決委員会を設置したことは知らない」が6割を上回っています。

		も内容についても知っている	知っているが内容については知らない	た条例などを制定し	無回答
全体 (N= 46)		4.3	19.6	73.9	2.2
合計人数 正社員	20人以下 (n= 10)	-	10.0	90.0	-
	21人以上 (n= 35)	5.7	22.9	68.6	2.9
	無回答 (n= 1)	-	-	100.0	-

表 4-7 北区苦情解決委員会の認知度/正社員合計人数別

問 16 北区の男女共同参画の推進対策についてご意見・ご要望を自由にご記入ください。

記述総数：3

No	【自由意見】
1	中小零細で家族的な経営をしています。困ったときはお互い様なので、相互理解はあり、特段の問題は抱えていない。
2	北区男女共同参画推進対策については、残念ながら知らなかった。もっと分かりやすく説明すべきだ。役所の言葉の説明は不明で分かりにくい。本当に必要ならば、もっと一生懸命に宣伝するべきです。一番利用したい人々にもっと分かりやすく利用できるように実施してください。
3	「ワークライフバランス」ですが、役所の人は何でこんなに横文字が好きなんですかね。主婦ではなく主夫が増えると、こんなことは大して問題にならないと思いますが、現実にはまだまだ専業主婦という形が多い。

第 5 章

調査結果【町会・自治会】

第5章 調査結果【町会・自治会】

あなた自身について

F1 あなたの性別をお答えください。

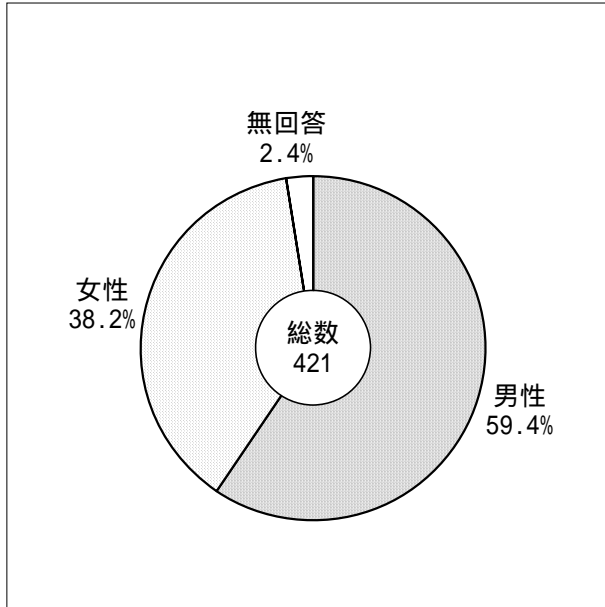


図 5-1 性別

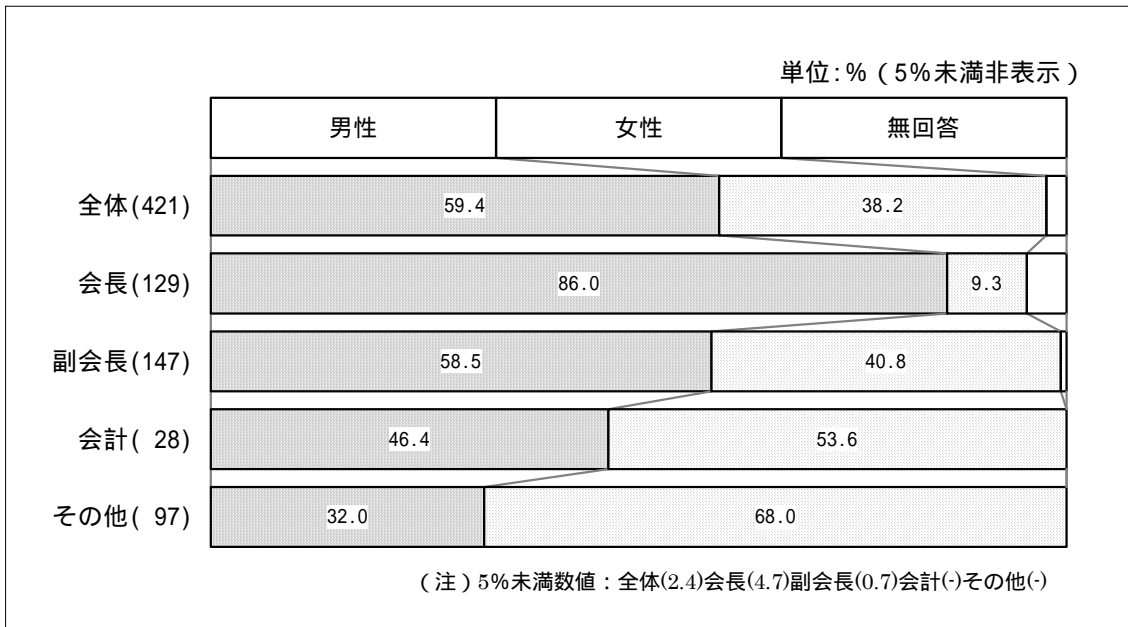


図 5-2 性別/役職別

F2 あなたの年齢はおいくつですか。

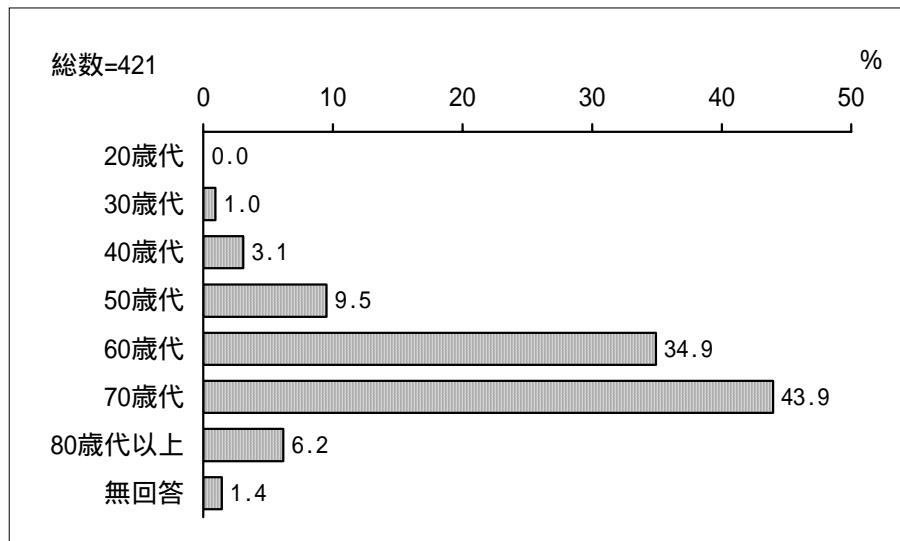


図 5-3 年齢

F3 あなたの職業をお答えください。

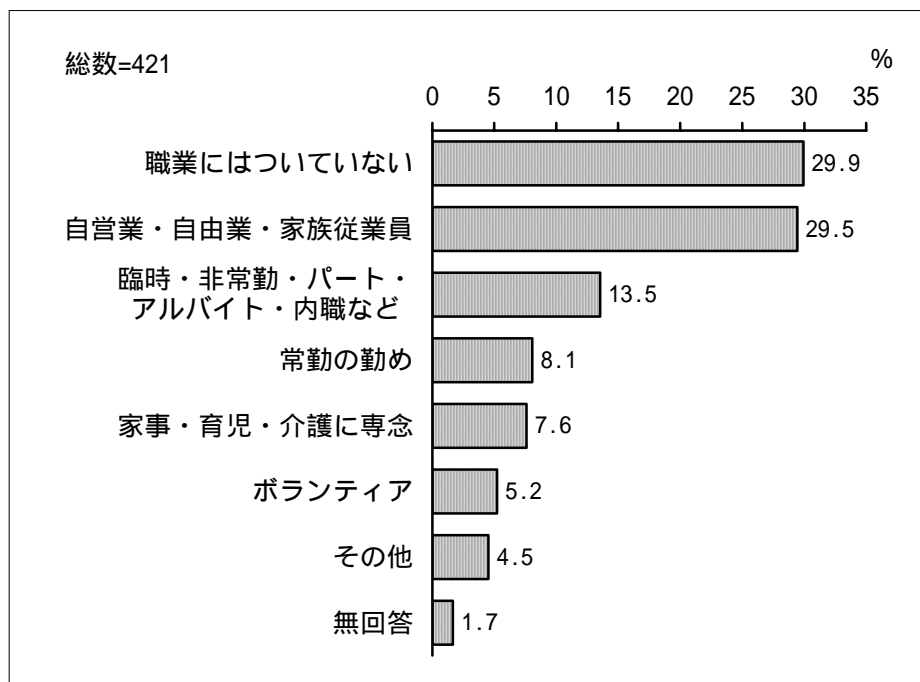


図 5-4 職業

F4 あなたの役職をお答えください。

F5 あなたのお住まいはどちらですか。

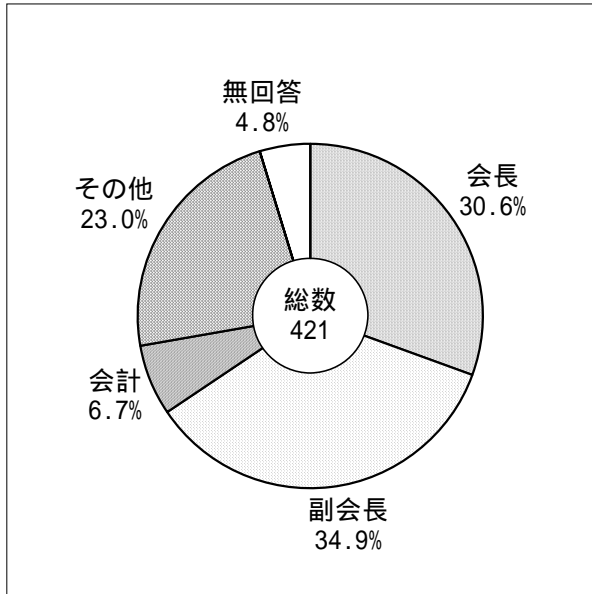


図 5-5 役職

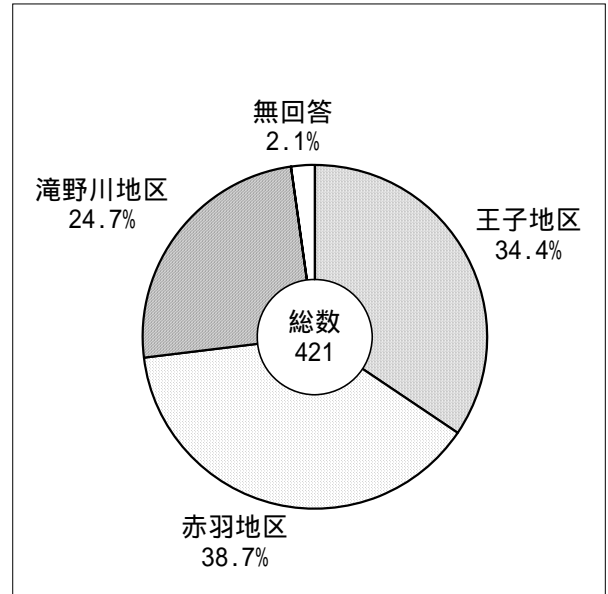


図 5-6 住まい

団体構成について（会長のみ回答）

問1 平成20年5月1日現在、町会・自治会に加入している世帯数を教えてください。

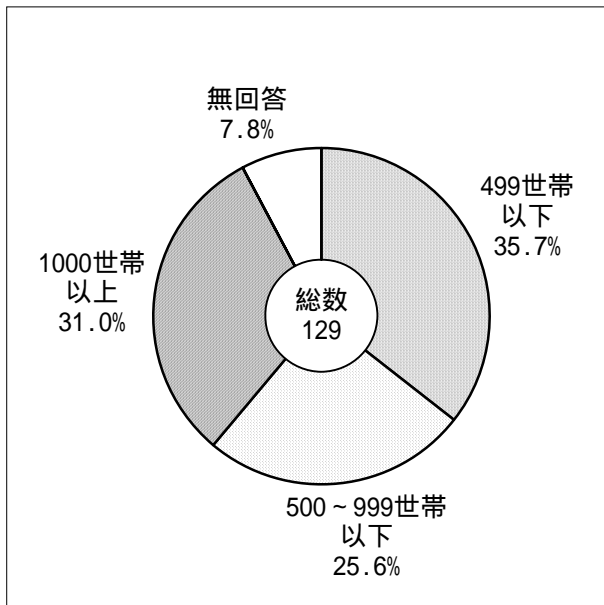


図 5-7 世帯数

会長のみに対し、町会・自治会に加入している現在の世帯数を調査したところ、「499 世帯以下」が 35.7%で最も多く、「1000 世帯以上」が 31.0%、「500～999 世帯以下」が 25.6%となっています。

問2 副会長の男女数を教えてください。

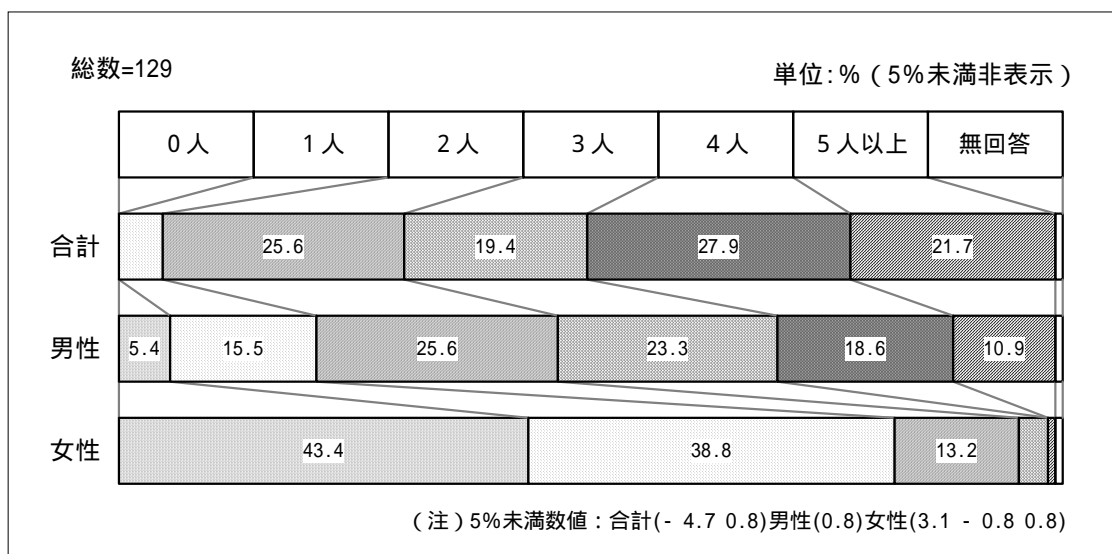


図 5-8 副会長の人数/性別

会長のみに対し、副会長の人数を調査したところ、「4人」が27.9%と最も多く、次いで「5人以上」が21.7%となっており、4人以上が約半数を占めています。

◆ 男女別でみると、男性は「2人」が25.6%で最も多く、以下「3人」が23.3%、「4人」が18.6%が続いています。一方、女性は「0人」が43.4%と最も多く、次いで「1人」の38.8%になっています。男性は2人以上が約8割を占めているのに対し、女性は2割を下回っています。

また、今回の調査での回答者（会長/副会長）の性別の割合は以下のとおりです。

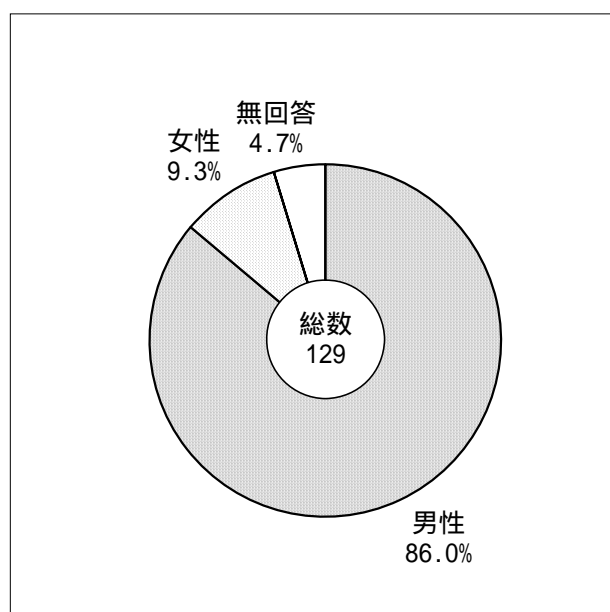


図 5-9 会長の性別

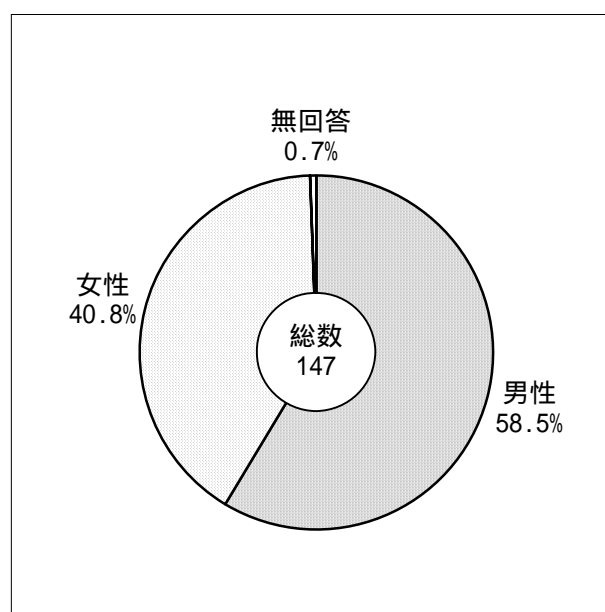


図 5-10 副会長の性別

問3 役員の選出方法を教えてください。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

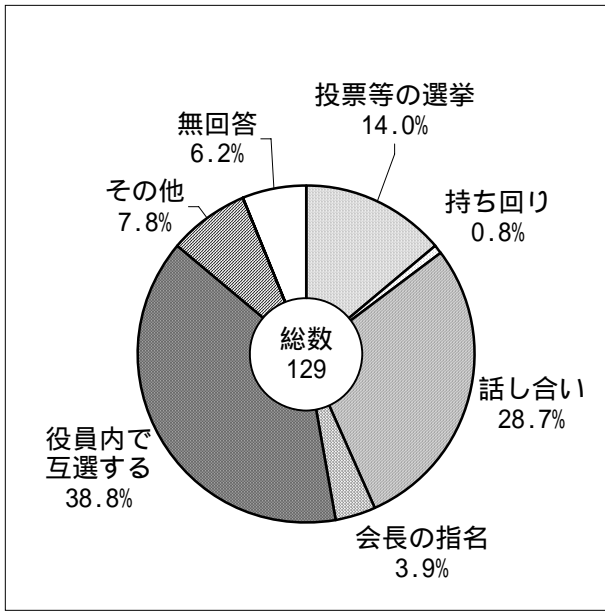


図 5-11 役員の選出方法・会長

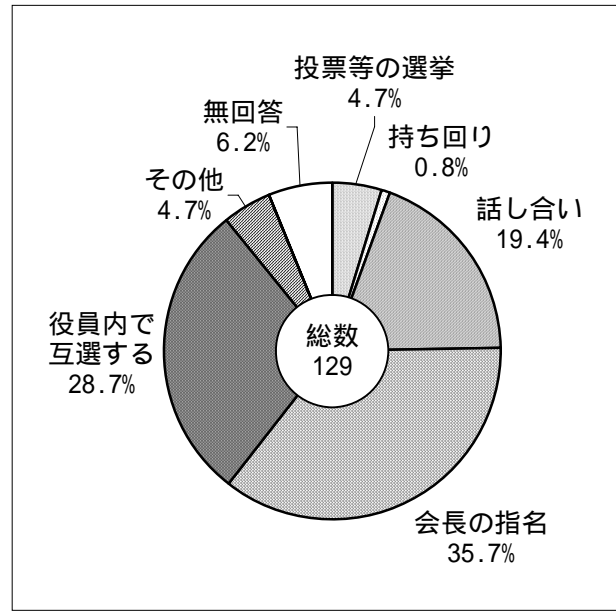


図 5-12 役員の選出方法・副会長

会長のみに対し、役員の選出方法を調査したところ、会長の選出方法は、「役員内で互選する」が 38.8%で最も多く、「話し合い」が 28.7%、「投票等の選挙」が 14.0%で続きます。

また、副会長の選出方法は「会長の指名」が 35.7%で最も多く、「役員内で互選する」が 28.7%、「話し合い」が 19.4%で続きます。

問4 役員会の構成員が各町会・自治会で異なると思いますが、役員会に参加する役員の年代別の男女数をわかる範囲で教えてください。

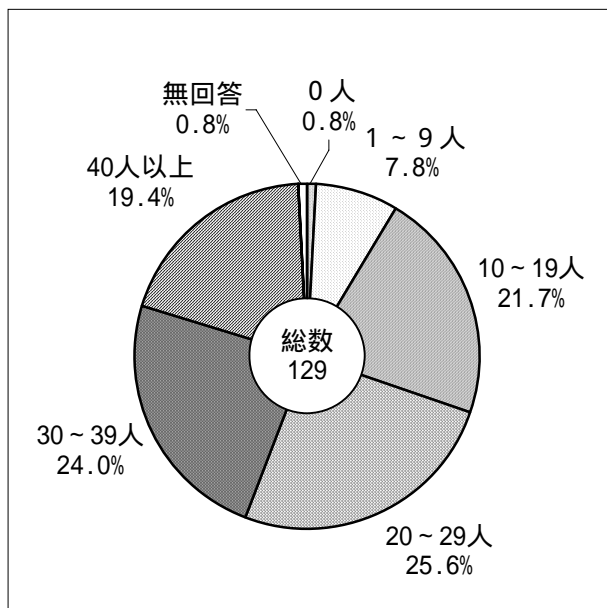


図 5-13 役員数・合計：男女

会長のみに対し、役員の人数を調査したところ、全体の合計では「20~29人」が 25.6%で最も多く、以下「30~39人」が 24.0%、「10~19人」が 21.7%が続いています。

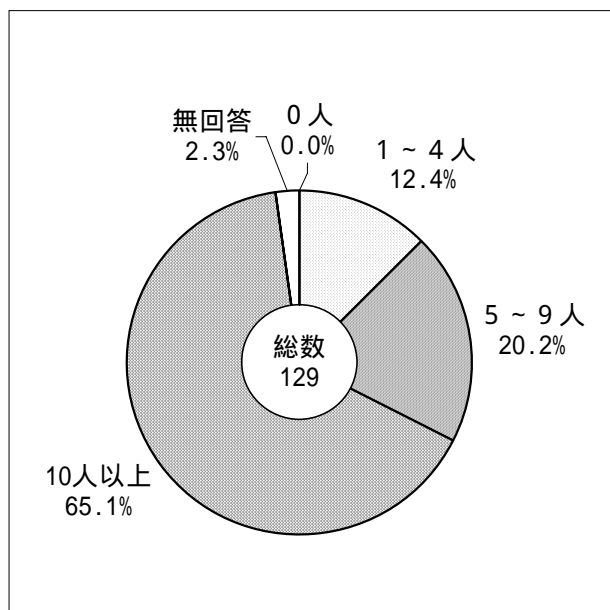


図 5-14 役員数・合計：男性

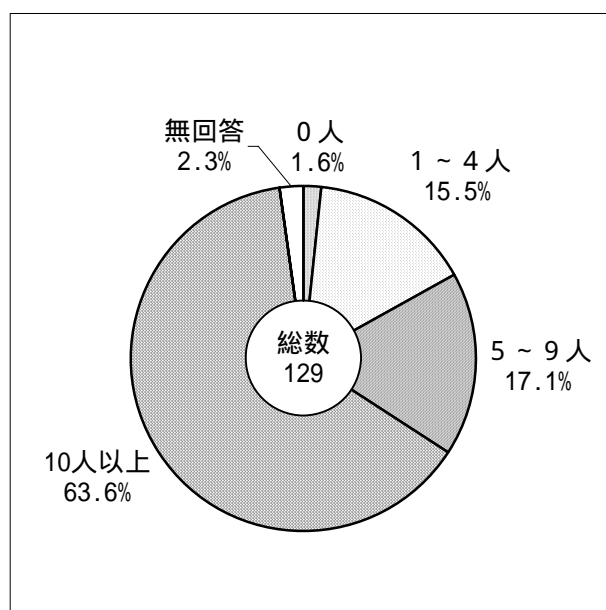


図 5-15 役員数・合計：女性

役員の人数の合計を男女別で見ると、男女とも「10人以上」が最も多く約6割を占めています。次いで「5～9人」、「1～4人」と続いており、男女の割合の大きな差はありません。

◆ 役員の数別人数を男女別にみると、男性の20～40歳代は「0人」という回答が最も多く、約半数を占めています。50～60歳代は「10人以上」という回答が最も多く4割程度を占めており、70～80歳代では「1～4人」が半数を占めています。

また、女性も男性と同様に、20～40歳代は「0人」という回答が最も多く、約半数を占めています。50～60歳代は「10人以上」という回答が最も多く4割程度を占めており、70～80歳代では「1～4人」が約半数を占めています。

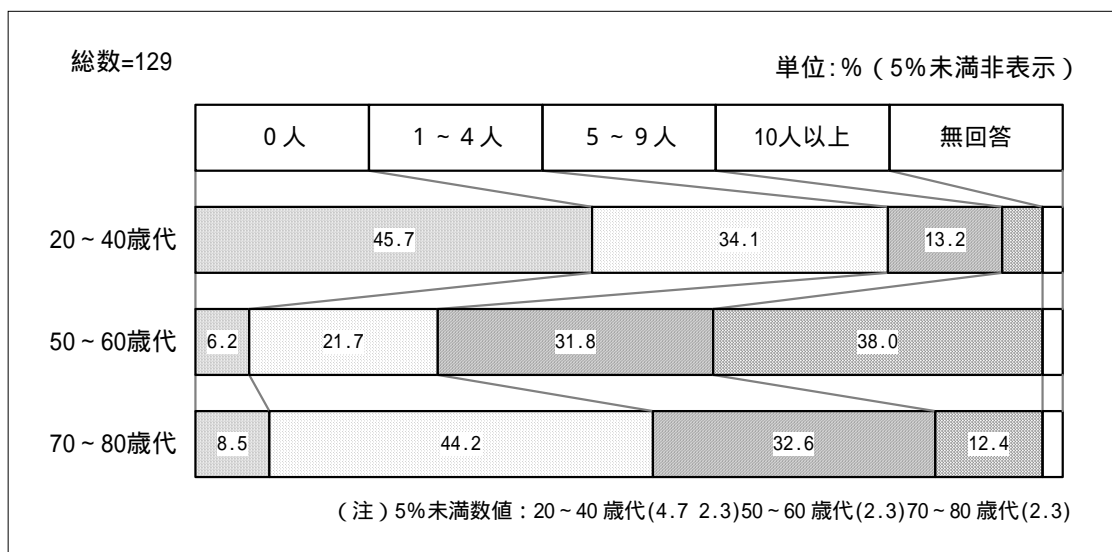


図 5-16 役員の数別人数/男性

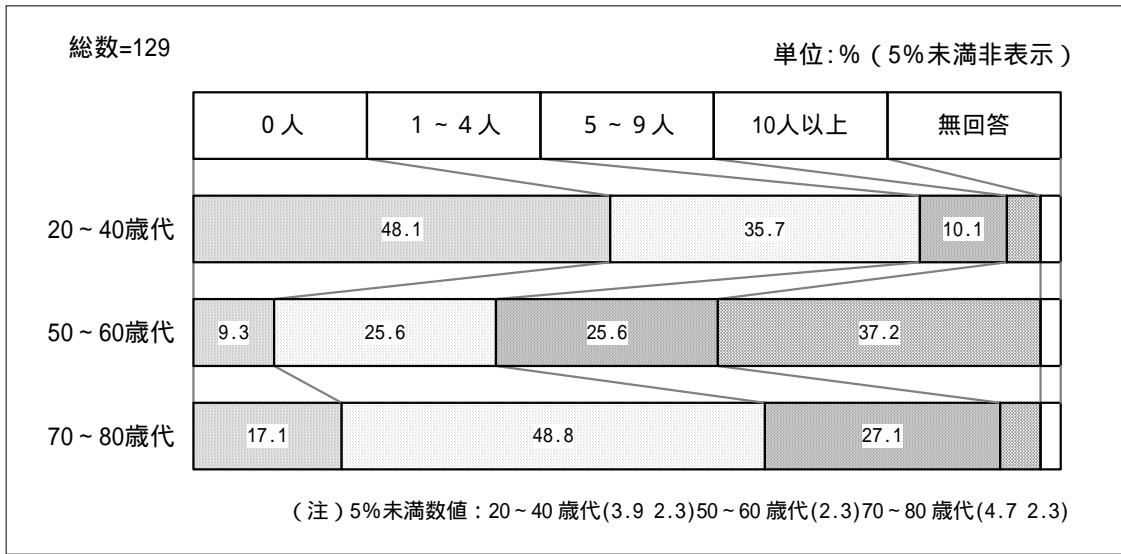


図 5-17 役員の数別年代別人数/女性

問5 町会・自治会活動では、活動の主体が女性となっても、会長や副会長等のリーダーには、まだまだ女性が少ない傾向が見られます。その主な原因は何だと思いますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

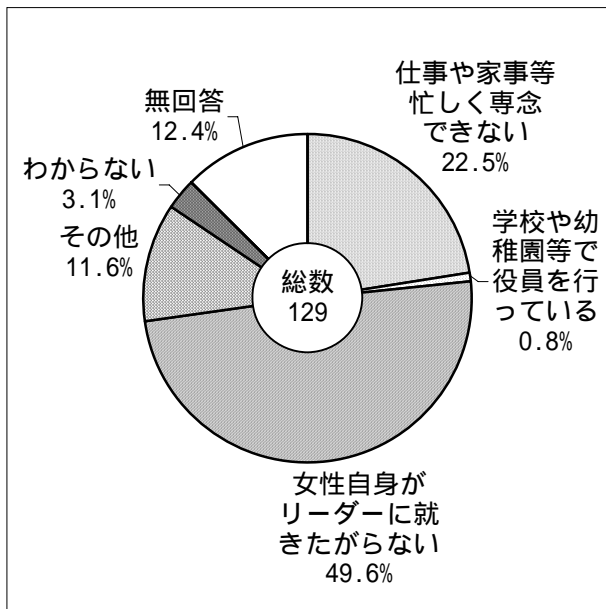


図 5-18 女性リーダーが少ない原因

会長のみに対し、女性リーダーが少ない原因は何だと思いかを調査したところ、「女性自身がリーダーに就きたがらないから」が49.6%で最も多く、約半数を占めています。次いで「仕事や家事、育児が忙しく、地域活動に専念できないから」が22.5%、「学校や幼稚園等で役員を行っているから」が0.8%となっています。

男女共同参画について（全員が回答）

問6 北区では、平成18年6月に「北区男女共同参画条例」を制定しましたが、この条例についてお答えください。

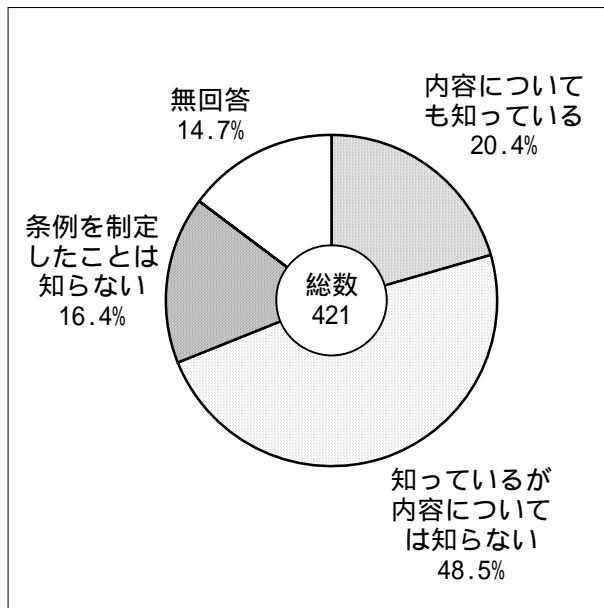


図 5-19 北区男女共同参画条例の認知度

北区男女共同参画条例の認知度は、「条例を制定したことは知っているが、内容については知らない」が48.5%と最も多く、約半数を占めています。次いで「条例を制定したことも、条例の内容についても知っている」が20.4%で、約7割の人が北区男女共同参画条例を制定されたことを知っているということが分かります。

一方、「条例を制定したことは知らない」と回答した人は16.4%となっています。

問6-1 問6で「1. 条例を制定したことも、条例の内容についても知っている」「2. 条例を制定したことは知っているが、内容については知らない」と答えた方にお聞きします。条例は何で知りましたか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

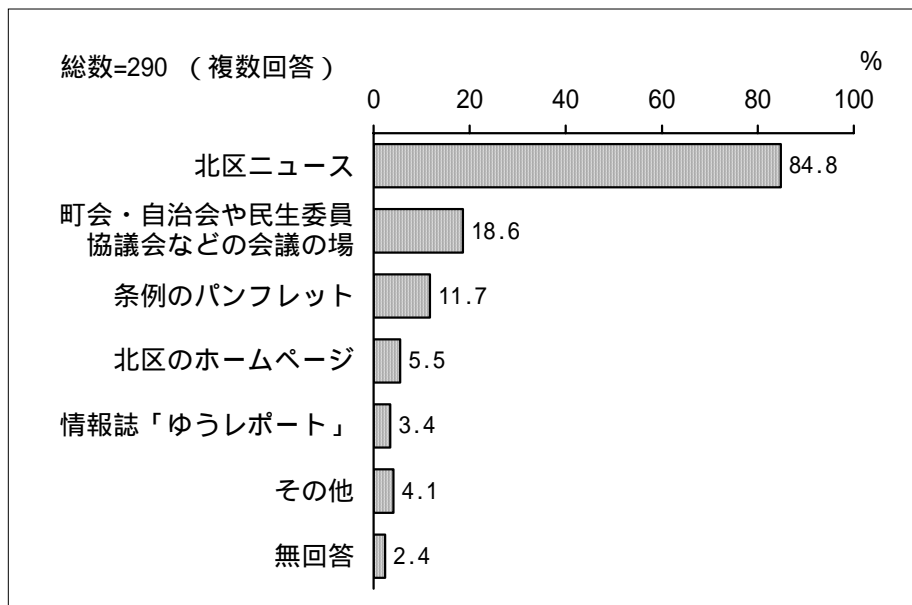


図 5-20 条例を知った方法

北区男女共同参画条例を制定されたことを知っていると回答した人に対し、条例を何で知ったかを調査したところ、「北区ニュース」が84.8%と最も多く、8割に達しています。以下「町会・自治会や民生委員協議会などの会議の場」が18.6%、「条例のパンフレット」が11.7%と続いています。

問7 条例に基づき「北区苦情解決委員会」を設置していますがご存知ですか。

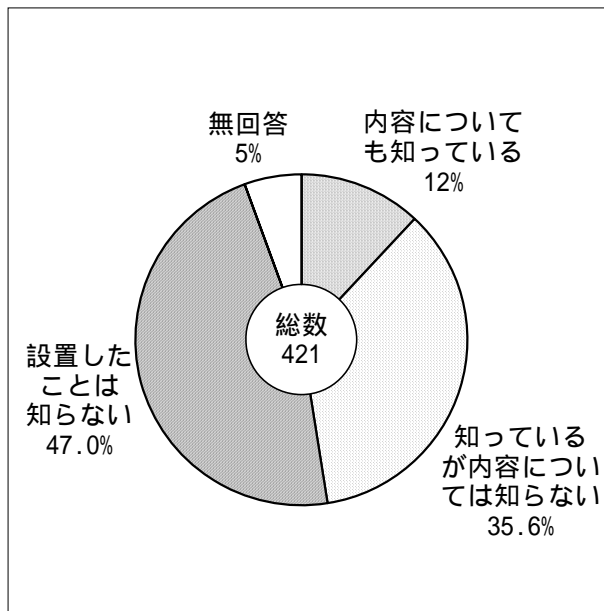


図 5-21 北区苦情解決委員会の認知度

北区苦情解決委員会の認知度は、「北区苦情解決委員会を設置したことは知らない」が 47.0%で最も多く、約半数を占めています。次いで「北区苦情解決委員会を設置したことは知っているが、内容については知らない」が 35.6%、「北区苦情解決委員会を設置したことも、内容についても知っている」が 12.0%となっています。

問8 町会・自治会の研修や懇談会で男女共同参画について話し合いをしたことがありますか。
あてはまる番号にすべて○をつけてください。

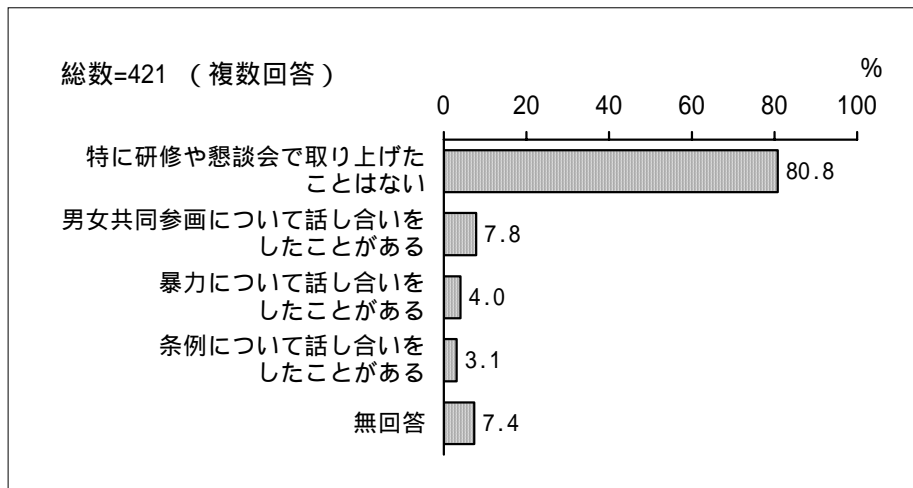


図 5-22 男女共同参画についての話し合い

男女共同参画について話し合いをしたことがあるかを調査したところ、「特に研修や懇談会で取り上げたことはない」が 80.8%で最も多く、8割を占めています。次いで「男女共同参画について話し合いをしたことがある」が 7.8%、「女性の人権や配偶者やパートナーのような親密な関係にある人からの暴力について話し合いをしたことがある」が 4.0%、「北区男女共同参画条例について話し合いをしたことがある」が 3.1%となっていますが、話し合いをしたことがあるという項目はいずれも 10%未満にとどまっています。

問9 男女共同参画を推進するために、町会・自治会として既に取り組まれていることはどのようなことですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

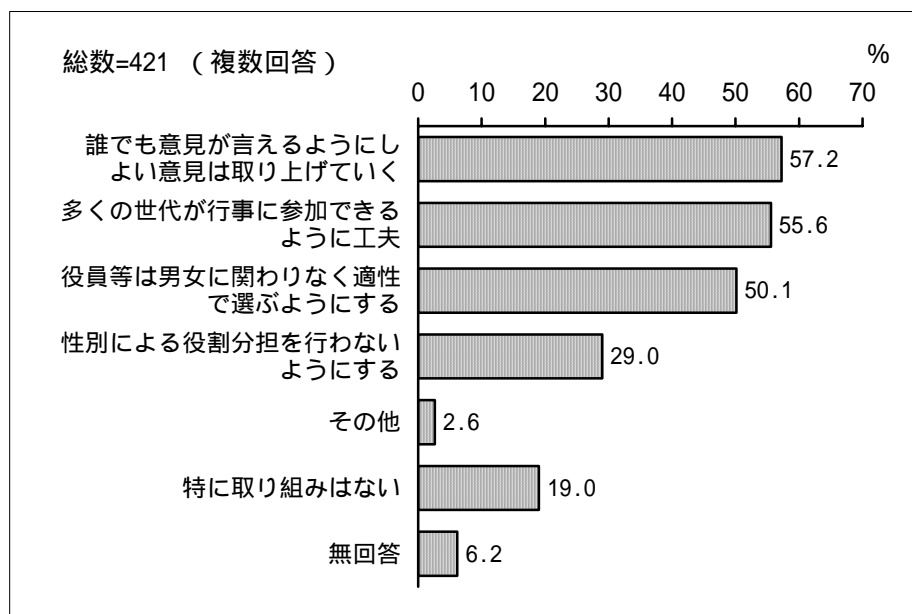


図 5-23 男女共同参画推認のために取り組まれていること

男女共同参画を推進するために、町会・自治会として既に取り組まれていることについて、「男女に関わらず、誰でも意見が言えるようにし、よい意見は取り上げていく」が 57.2%で最も多く、次いで「男女に関わりなく、できるだけ多くの世代が行事に参加できるように工夫する」が 55.6%、「役員等は、男女に関わりなく適性で選ぶようにする」が 50.1%で続いており、いずれの項目も過半数を占めています。

問 10 北区の男女共同参画の推進施策についてご意見・ご要望を自由にご記入ください。

記述総数：121

No	【自由意見】①男女の特性について
1	女性を優遇しすぎる施策は、逆に差別につながりかねないので、注意する必要がある。
2	男女の枠を超えて、特技等、力のある人は世の中に広く活躍し、また生活の中でも互いに助け合い、男だから女だからと言うことではなく、潜在能力の可能性を信じ自覚し、そんな姿勢が家庭の中でも子どもたちの手本となるよう、努力・協力して、明るい社会を築いていきたい。
3	自治会活動も男子の一部の方ばかりが毎年役員を繰り返し、会計以外は何年でも同じ役員であるのが実態である
4	男女共同参画という言葉を目にすると、男女は全てにおいて平等と考えがちだが、本来すべて平等ということには有り得ない。男女の特性が違うということを認めた上で、それぞれの特性が機能するように施策推進に当たるべきだと思います。
5	男女共同参画については賛意を表しますが、男女が同質でないことは自明の理。
6	男女共同参画は実質的に無理があるように思うから、男性側が理解を深めるような方向に希む。対等の立場は難しい。
7	人権の平等はすばらしいことだと思います。男女関係なく持っている“力”を発揮できる場所が増えれば良いと思います。
8	男女の差別はいけないが、格差はどうしてもあると思う。
9	男女間で役割分担をしないようにするのはケースバイケースであって、男性側よりも女性側に役割配分を設けようとするケースが多い。つまり、女性が責任をとろうとしない。どうしたら責任を取らせることができるのか、これが大問題です。
10	特に女性リーダーが悪いとはいえないが、男性的な考え方がないと自治会役員は無理である。
11	男女に関わらず、個性を生かせたらと思います。
12	今は男性も女性も自立が必要だと思いますし、家庭・地域においても助け合って、協力も大事なことと思っています。
13	まだまだ町会においては、戦後の体制のまま、新しく取組みしようと思うと男性役員より阻止されることが現状です。命令するのは男性、面倒なことは女性。
14	13年前に青年部の部長になったときは、「女のくせに」で泣かされた。今は会長代行をしているので、女性でも仕事のできる人は役付きにして働いてもらえる。まだ男性向き・女性向きの仕事があるので、多少は区別する。
15	男女ともにそれぞれ特徴・特技を持ち合い、話し合っ、町会・自治会の運営に貢献できたらと思います。
16	性別による役割分担(適正)はある。これをどうみるか。まだまだ男性優先の気質はある。性別にこだわっているほどの余裕はない。
17	男でなければできない部所に女性は参画させない。また、女性だからできることは、女性に任せるようにしている。

No	【自由意見】②女性の起用について
1	北区の施策に色々な審議会への女性の参加率をもっと高めるべきだと思う。
2	最近の自治会の問題でも男性が少なく、役員の選出にも苦労しています。
3	女性リーダーを育成したいが、仕事や家事が優先となり、地域活動に手が回らない。従って女性役員(リーダー)は70歳以上となる。
4	男女共同参画が理想であるが、地域がら女性は地域のリーダーにつきたがらない。
5	政府は2020年に女性の管理職の割合を30%に上げる計画を立てているとのことですが、あらゆる面でまだまだ…これからだと思います。
6	男女共同参画の推進施策は指導する立場にある方自身の考えが違うので、役員等男女に関わりなく、適正で選ぶのは夢のまた夢である。
7	政策自体はまだまだ平等になっていないと思います。これからも女性の起用をして頂きたいと思います。
8	自治会・PTAは女性が多くの部分を担っている。
9	伝統的に役割分担ができあがっている。絶対に婦人部の人数が少なく、これを何人かでも増やすことが良いことかと思う。
10	「自治会の役員になってください」というと、たいてい奥様の方が出てくる。結果、役員ははるかに女性が多い。
11	男女共同参画について、私自身は分かっており、地域でもという思いがありますが、町会では男尊女卑の感じが強く、どうしても男性が主になっています。
12	当自治会では女性が多く役員の3分の2が女性である。女性参画なくして自治会は成り立たないと思います。
13	女性の進出は、社会に平和をもたらすので結構なことである。(女性は平和主義である。)
14	旧来の自治会の役員選出方法で決定されており、女性が役員につくことはあまり多く考えられていないように思います。このあたりのところを自治会役員会などでお話しして頂きたい。

No	【自由意見】②女性の起用について（つづき）
15	現在の会長・副会長は男性3名、女性1名なので、男女同数にすることで何事も取組みやすくなると思います。
16	女性は婦人部の役員程度で、他の役員はほとんど男性が占めているのが現状。
17	今では町内会長・PTA 会長などさまざまな組織で女性が長になられることも、普通のこととなっています。能力のある方が力を発揮できることは、当然のことと考えます。
18	研修などに参加したことがあります。働く女性の地位向上、環境改善が強く出され、家庭で家事・育児・介護に専念している多くの女性の置き去りを感じています。働く女性と同様の向上、改善にも力をいれ女性全体の平等を願うばかりです。

No	【自由意見】③意識改革・啓発・PRについて
1	男女共同参画の委員の人に、直接あって色々話を聞いてみたい。
2	座談会などがあれば参加したいので、何らかの方法で知らせて欲しい。
3	講習会を開催して欲しい。自治会としてできることがあるかも知れないので。
4	委員会の実際の活動ぶりや内容件数等をもっと北区ニュース等でPRして欲しい。
5	北区苦情解決委員会について、詳しく知りたいと思います。
6	男女共同参画については北区ニュース等で報じられている程度しか知られていない。
7	一般の方に理解してもらうには、内容を詳しく知ることが大切だと思います。多くの方々に知ってもらうにはもっとアピールが必要だと思います。
8	これからこの条例の様々なPRをしていき、男女に関係なく、多くの世代の交流を深め、これから町会、地域の発展に努めていただきたい。
9	20代、30代、40代の若い男女が参画できるよう、北区としてPRに努めてもらいたい。
10	一般にPR不足を感じる。
11	さらに理解できるようにしてください。
12	男女共同参画についての内容がもっと具体的に分かりやすく書いてあるパンフレットが欲しいと思っている。人に聞かれてもうまく説明できない。
13	こういう条例や北区の催しをもっとPRしてください。知らない人も多いと思います。
14	時間がかかる内容ですが、あらゆる機会を捉えて積極的に周知してほしいです。
15	小さいときからの啓発活動が必要だと思いますので、教育の場で男女共同参画の視点を踏まえた教育・啓発活動に力を入れていただけたらと思います。
16	男女共同参画を広め、実施するお手本を区職員の役職階級をお手本として実施すべきです。
17	研修や座談会を行い、特に男女に関わりなく積極的に女性自身が行事、その他に参加して頂きたい。まだ尻込みする傾向がある。
18	具体的に内容が見えていない。
19	「男女共同参画」ということばがなんとなくかたい印象を与えるのではないかな。
20	男女共同参画推進課などが、積極的に出前講座などを町会・自治会の研修会などで進めてもらったらいいかながでしょうか。
21	町会として具体的にどのように会員に知らせたらよいか分からないので、これから町会長さん等と話し合ってみたくと思います。
22	「男女共同参画」ということば自体が堅苦しく、とっつきにくい。違うことばを考えて欲しい。
23	もっと懇談会や話し合いの場を持って、意識的方向づけを数多く持つていくのも大事だと思う。
24	街のあちこちにアピールが必要だと思う。北区の場合は、目につくことがないくらいです。
25	この件についての事例等を説明してもらいたい。
26	掲示板への掲示、回覧等による広報が必要である。
27	北区ニュースを通じ見ていました。北とびあ中心で行っているようですが、高齢者、障害を持っている者は近くの（地域）会館で行われないか、と思っています。
28	女性の進出も多くなりましたが、苦情解決委員会のことを北区ニュースで知らせて欲しい。
29	アンケート用紙を見て、にわかには勉強した次第です。男女共同参画条例を制定したことは、広報誌で分かっていましたが、内容は皆知らないのです。私のような区民は多いと思います。そこで条例制定の目的、必要性など、より一層の啓発が必要と考えます。
30	条例を制定したことを知っている人は多いですが、具体的内容までは知らない。
31	北区苦情解決委員会については、ほとんどの方が知らない。北区ニュースで報告されているようですが、私どもに意識がなかったので反省しています。
32	私どもの自治会では、高齢者が過半数を占めています。従って老年者にも理解できる、周知方法の検討を願う。
33	住民は年寄りが多く、ほとんどの人が分かっていないと思います。もっと皆が分かるようにアピールすべきだと思うし、何をすることが必要か、何のためにこのようなことが立ち上がったのか等を知らせる方がよいと思う。役所が勝手にやっているくらいにしか、皆は考えていないと思います。
34	男女共同参画には子どもとの教育、または子どもとのスポーツを通じての育成、育てることが大切だと思います。

No	【自由意見】④高齢化/さまざまな世代の参加について
1	できるだけ多くの世代が行事に参加できるよう工夫しているが、平日の行事は無理がある。
2	町内に若い人が少ないのが残念です。(都営の団地が多いのでみんな出てしまい、老人だけになっている。)何か方法を考えねば、と思っている。
3	良い施策だなと思いつつ、まだまだ浸透していない場面にたびたび出会う。若者が建設的な意見を述べても、年功序列や事例がないと取り入れられず進展しないことが多々ある。若い活力や能力をもっと取り入れるべき。
4	自治会役員も高齢化が進み、若手の男性・女性の参加ができるように、意見を取り入れていきたい。
5	平均年齢が高齢なので、若年層に声をかけていますが、なかなか実現しませんので困っております。
6	男女共同参画の推進施策が必要なのはよくわかりますが、現在で一番大事なのは、町会役員のなり手が不足し、高齢化で存続が危ぶまれていることです。女性の会長の出現などは、その後の問題でしょう。
7	若い方はサラリーマンが多く、年齢的に補充できないのが現状です。ますます女性の進出を希望し、町会存続の要として進出してくれるのが希望です。
8	私たちの年代(50代)ではどうにか切り替えができていますと思いますが、60歳以上の方々ではまだ共同参画ということがしっくりこない方が多いように思われます。
9	企画には大賛成です。人員不足のため、役職が重複する者が数名おりますが、若手の募集に力を入れていきます。
10	役職間での厚壁、特に女性の間では部長・副部長間、老若等多々目にします。協力して行動するように話すのですが…。若い人が入って来にくいのも、このような要因が大きいかと思います。若い人たちが参加できる町会・役員会であるように改善したいと思う。
11	定年退職後の男性はとにかく人間関係で苦労したことから、家に閉じこもる傾向が強く、女性のような社交性に欠ける。わずらわしい人間関係を嫌い、町会活動に非協力的。
12	共働きの家庭が多く、なかなか協力してくれる男女がいません。現役員は他の部署の役員を兼任しているのが実態。急増しているマンションにも協力を呼びかけお願いしていますが、難しい状況です。
13	共同参画といっても、現役員が高齢化しており、若い人たちは仕事・育児などに追われ、容易に参加してもらえない。少しずつでもPRして、参加してもらうことが先決ではないかと思う。
14	男女差別はありませんが、役員の方はほとんど60歳以上の男性です。私たちのまちは各委員会の行事が多く充実していると思いますが、もっと若い方に来て欲しいと願っています。
15	70歳の女として、まだまだ参加できると自分では思っているが、若い人から見るとどうか。しかし知恵はたくさん持っていると思う。年を取った男女・若い男女と共同で参画推進していけるとよいと思います。
16	若い人の参画を望みますが、会社などが忙しくて参加できない。

No	【自由意見】⑤特に問題ない
1	何も問題はない。「女性のくせに」とか、差別を受けたこともない。
2	特に男女と意識して取り上げなくても、前から当然のように男女共同参画がなされている。
3	町内では男女共同参画の推進を図るような問題はおきていない。
4	男女共同参画として特に意識はしていないが、町会役員会には女性が半数近く出席している。暗黙のうちに、共同参画がなされている様子である。
5	日頃、意識せずに男女平等の行動をしている。
6	特に意見はありません。私の町会では、男女に関係なく役割分担が行われていると思います。会計になったときは、選挙で選ばれました。副会長には、会長の推薦です。
7	男女共同参画についてはあまり知りませんが、自治会は役員を含めて、結果として実行していると思う。
8	当自治会は特にこれといったこともなく、和気あいあいとやっております。
9	男女共同参画は当たり前で、自然の流れだと思います。当町会には女性部があります。
10	今後、具体的な提案が必要です。ただし、現在困っていることもないのも確かです。

No	【自由意見】⑥その他
1	「男女共同参画」など、いちいち大げさに取り上げること自体が古い。
2	勉強不足だったので、今後はこのことについて知ってほしいと思います。
3	これから積極的に推進していきたい
4	強制的でなく、自然に広く参加できる雰囲気をつくる必要があると思われる。
5	役職をお受けしたのを機に、少しでも進捗するよう、心がけます。
6	人権が尊重されることは当然だと思いますが、その裏側の義務をもっと声を大きくして頂きたい、と常日頃思っております。
7	町会としてもまだ取り組んでいないので、それ程関心がないです。勉強不足で申し訳ありません。
8	勉強不足で知らなかった。これから関心を持って会合にです。
9	ボランティアには積極的に参加しているが、男女共同参画についても勉強して行きたいと思います。
10	仕事という大きな課題があるために、自治会の行事をこなすことしかできません。仕事ではないので、協調・協力をしていくことができる限りのお手伝いだと思います。
11	男女共同参画について、自治会としても取り組むよう、努力したいと思います。
12	町会役員のボランティアの負担は大きい。特に女性は家事との両立が難しく、年齢も含めいつまでやっていけるか心配。
13	町会役員にはまだ男性が多いと思いますが、実際に動いているのは女性が多い気がします。
14	従来、本件についてあまり関心事ではなかったが、男女共同参画基本法の趣旨を自治会会員全員によく説明し、理解を得て、積極的に運用・活用できるように実行したいと思います。
15	やはり日本の社会では「父親は外で働き、母親は家を守る」という考え方が根本的にあるのではないかと思います。そこで、町会の仕事は女性がするもの、と思っている人が多いのではないかと思います。
16	海外には、男女共同参画といっても宗教心からの考え方もあるので、よくよく日本の文化伝統も考慮して運営して頂きたいと思います。
17	自治会活動においては、ほとんどが奥様任せで、ご主人が参加したがないのが現状です。男性が消極的。
18	男女に関わりなく、会長・副会長につきたがらない傾向があります。無関心、面倒、大変等々。
19	先日、スペースゆうで男女共同参画交流会に参加しました。多くの団体と交流を持ちましたが、私の知らない分野のことが少し分かり、勉強になりました。
20	少なくとも私の周りでは苦情のうわさを聞いていないので、認識に欠け反省している。
21	状況や事情、組織によって共同参画は賛成です。
22	アンケートを見て初めて知ったことが多く、もっと勉強、内容を知りたいと思いました。
23	私が思うに、男女共同参画はまず家庭からである。家庭環境がつかれるように、企業・区・国がどんどん施さなければならない。
24	4・50代の役員の方が少ないことで、今後町会を維持する上で問題が起きないか気になります。そのためにもしっかりとした組織づくりが必要だと思います。
25	性格的なものもありますが、何事にも興味を持つことです。自分のできることに積極的に参加・協力すればいいと思います。あまり他人と自分を比較しないことも大切かと。
26	地域のあらゆる人たちが文化的、かつ健康的に参加できる企画として、みんなの交流と生活の向上に寄与することを期待します。

第 6 章

調査結果【区立中学校 2 年生男女】

第6章 調査結果【区立中学校2年生男女】

あなた自身について

F1 あなたの性別をお答えください。

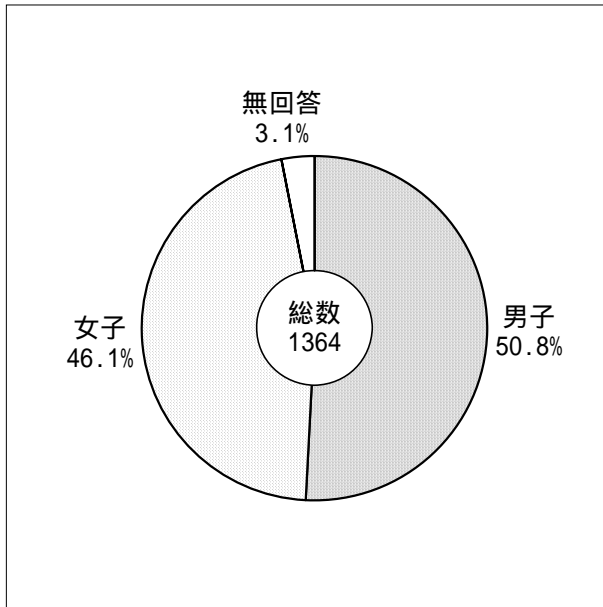


図 6-1 性別

F2 あなたは現在、どなたと一緒に住んでいますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

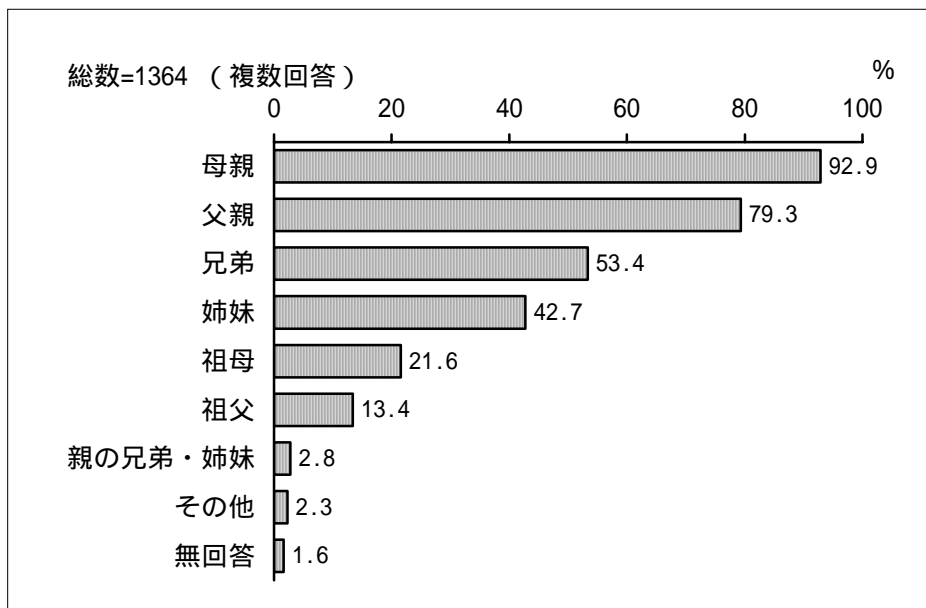


図 6-2 一緒に住んでいる人

家庭での生活について

問1 あなたの父・母についてお聞きします。

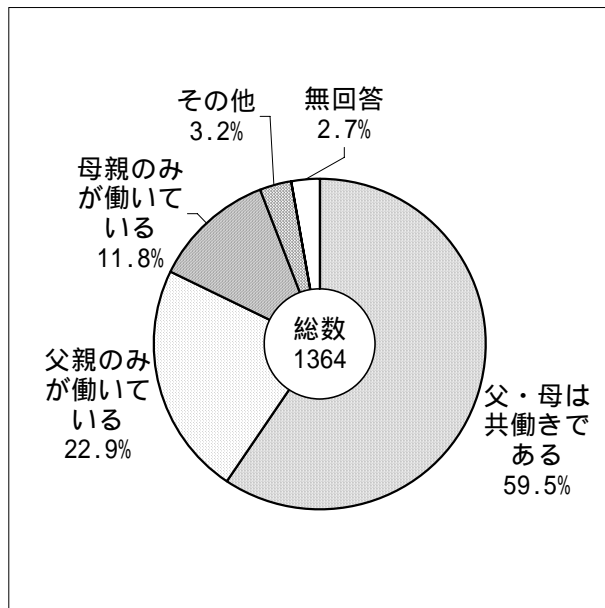


図 6-3 父・母の就労状況

回答者の父・母の就労状況は「父・母は共働きである」が 59.5%で最も多く、次いで「父親のみが働いている」が 22.9%、「母親のみが働いている」が 11.8%となっています。

問2 あなたが家でしている、あるいはすることがある仕事はなんですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

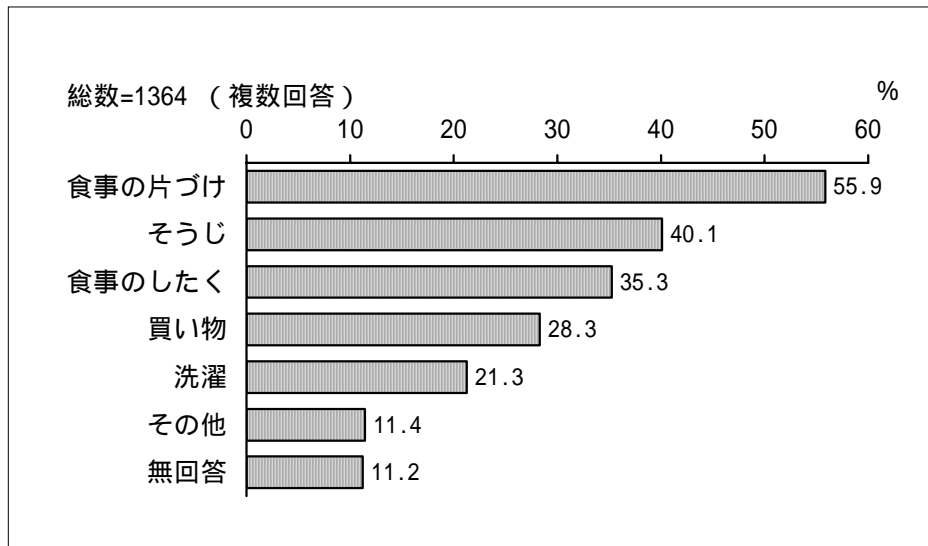


図 6-4 家でしている仕事

家庭でしている仕事は、「食事の片づけ」が 55.9%で最も多く、以下「そうじ」40.1%、「食事のしたく」35.3%と続いています。

◆ 家庭でしている仕事について、男女別で見ると、「洗濯」は女子の 27.2%が選んでいるのに対し、男子は 16.5%と 10 ポイント程度低くなっています。

一方、「買い物」は男子が 29.9%、女子が 26.7%で男子の方が多くなっていますが、買い物以外の項目はすべて女子の方が多くなっています。

		食事のしたく	食事の片づけ	そうじ	洗濯	買い物	その他	無回答
全体 (N=1364)		35.3	55.9	40.1	21.3	28.3	11.4	11.2
性別	男子 (n= 693)	34.1	53.7	38.0	16.5	29.9	10.8	12.1
	女子 (n= 629)	38.2	59.9	43.1	27.2	26.7	12.2	7.9
	無回答 (n= 42)	11.9	31.0	31.0	11.9	26.2	9.5	45.2

表 6-1 家でしている仕事/性別

学校での生活について

問3 リーダー（生徒会の会長やいろいろな係の責任者など）についてお聞きします。リーダーにふさわしいと思う人について、あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

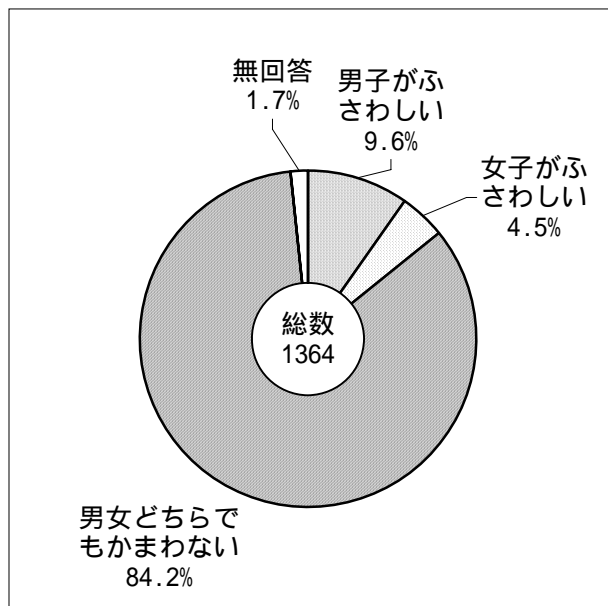


図 6-5 リーダーにふさわしいと思う人

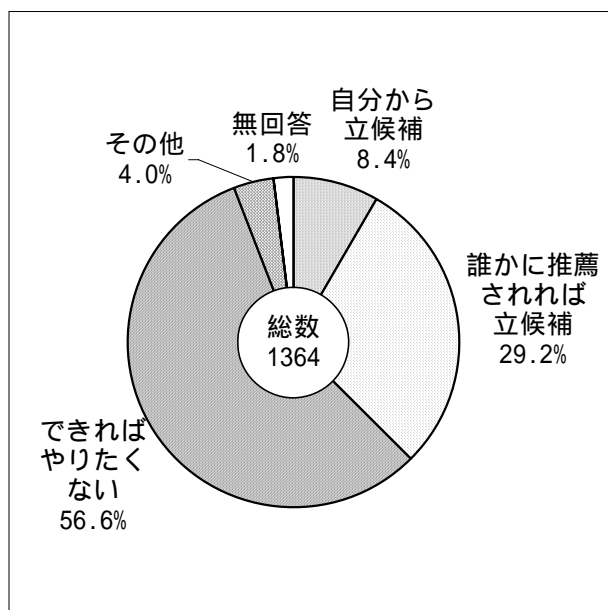
リーダーにふさわしいと思う人については、「男女どちらでもかまわない」が84.2%で最も多く、以下「男子がふさわしい」が9.6%、「女子がふさわしい」が4.5%となっています。

◆ リーダーにふさわしいと思う人について、男女別で見ると、「女子がふさわしい」と回答した女子が7.8%なのに対し、「男子がふさわしい」と回答した男子は15.9%となっています。男女ともに「男女どちらでもかまわない」という回答が8割を超えていますが、男子の方がより同性がリーダーにふさわしいと考えていることがわかります。

		男子が しがい ふさわ	女子が しがい ふさわ	も男 か女 まど わち なら いで	無 回 答
全体(N=1364)		9.6	4.5	84.2	1.7
性別	男子(n= 693)	15.9	1.9	81.2	1.0
	女子(n= 629)	2.9	7.8	89.0	0.3
	無回答(n= 42)	7.1	-	59.5	33.3

表 6-2 リーダーにふさわしいと思う人/性別

問4 あなたはクラスのリーダーを決めるときに、どうしますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。



クラスのリーダーを決めるとき、「できればやりたくない」が56.6%で最も多く、以下「誰かに推薦されれば、立候補する」が29.2%、「自分から立候補する」が8.4%となっています。

図 6-6 クラスのリーダーを決めるとき

		自分から立候補	誰かに推薦されれば立候補	できればやりたくない	その他	無回答
全体 (N=1364)		8.4	29.2	56.6	4.0	1.8
性別	男子 (n= 693)	8.9	27.3	58.7	4.5	0.6
	女子 (n= 629)	8.1	32.3	54.7	3.8	1.1
	無回答 (n= 42)	2.4	14.3	50.0	-	33.3

表 6-3 クラスのリーダーを決めるとき/性別

問5 あなたのクラスの様子について、あてはまる番号にすべて○をつけてください。

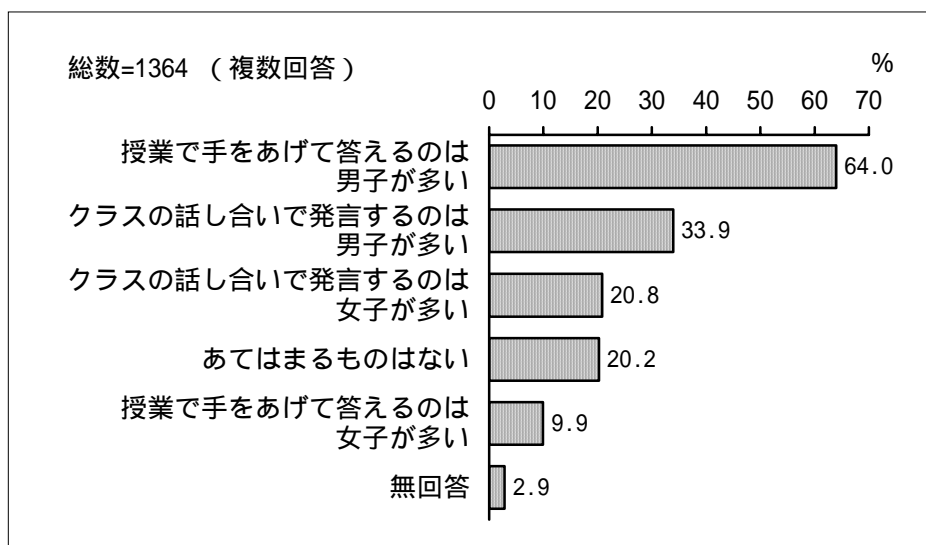


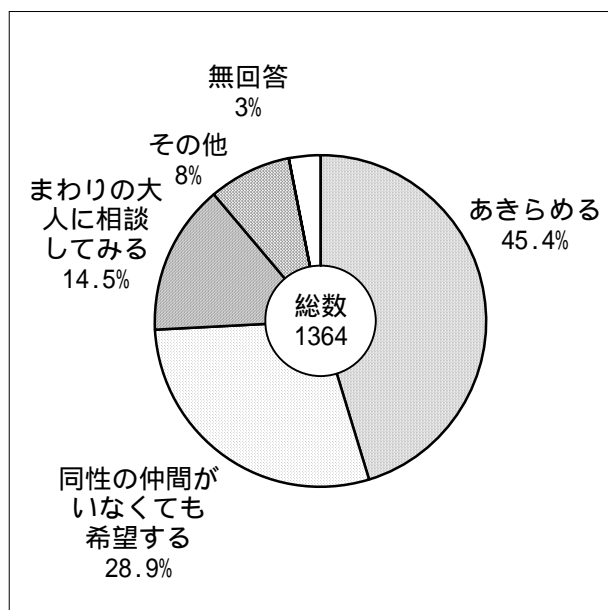
図 6-7 クラスの様子

クラスの様子について、「授業で手をあげて答えるのは男子が多い」が64.0%で最も多く、次いで「クラスの話し合いで発言するのは男子が多い」が33.9%となっています。

		授業で手をあげて答えるのは男子が多い	授業で手をあげて答えるのは女子が多い	クラスの話し合いで発言するのは男子が多い	クラスの話し合いで発言するのは女子が多い	あてはまるものはない	無回答
全体 (N=1364)		64.0	9.9	33.9	20.8	20.2	2.9
性別	男子 (n= 693)	62.6	10.4	33.9	18.6	22.9	2.5
	女子 (n= 629)	66.0	9.7	33.5	24.0	17.3	3.2
	無回答 (n= 42)	57.1	4.8	40.5	9.5	19.0	4.8

表 6-4 クラスの様子/性別

問6 あなたが入りたいと思う部活動に同性の仲間がない場合、あなたはどうしますか。(男女で部が分かれている場合は除きます) あてはまる番号に1つ〇をつけてください。



部活動に同性の仲間がない場合、「あきらめる」が 45.4%で最も多く、次いで「同性の仲間がいなくても希望する」が 28.9%、「まわりの大人（親・先生など）に相談してみる」が 14.5%と続いています。

図 6-8 部活動に同性の仲間がない場合

◆ 男女別でみると、「あきらめる」「同性の仲間がいなくても希望する」は男子の方が多く、「まわりの大人（親・先生など）に相談してみる」は女子の方が多くなっています。

		あきらめる	同性の仲間がいなくても希望する	まわりの大人に相談してみる	その他	無回答
全体 (N=1364)		45.4	28.9	14.5	8.1	3.1
性別	男子 (n= 693)	48.6	31.0	10.8	6.5	3.0
	女子 (n= 629)	41.7	26.7	18.4	10.0	3.2
	無回答 (n= 42)	47.6	26.2	16.7	7.1	2.4

表 6-5 部活動に同性の仲間がない場合/性別

問7 あなたがストレスを感じることはどんなことについてですか。特にあてはまる番号に1つ○をつけてください。

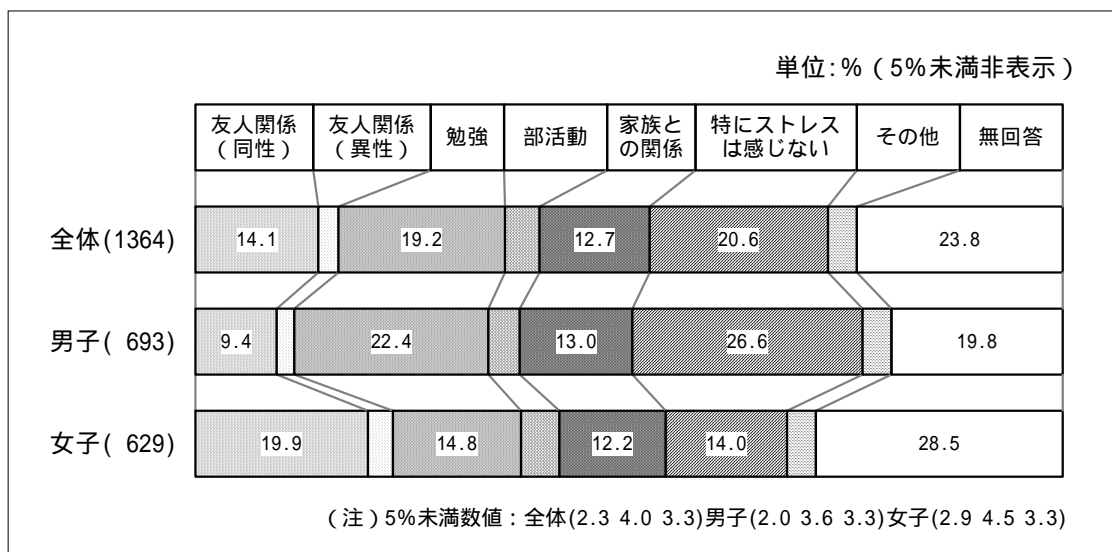


図6-9 ストレスを感じること/性別

ストレスを感じていることについて調査したところ、「特にストレスは感じない」が20.6%で最も多く、次いで「勉強」が19.2%、「友人関係（同性）」が14.1%となっています。

◆ 男女別で見ると、男子は「特にストレスは感じない」が26.6%で最も多く、次いで「勉強」が22.4%となっています。一方、女子は「友人関係（同性）」が19.9%と最も多くなっています。

問7-1 問7で「ストレスを感じている」とお答えした方にお聞きします。あなたはストレスを感じたとき、どのように過ごしますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

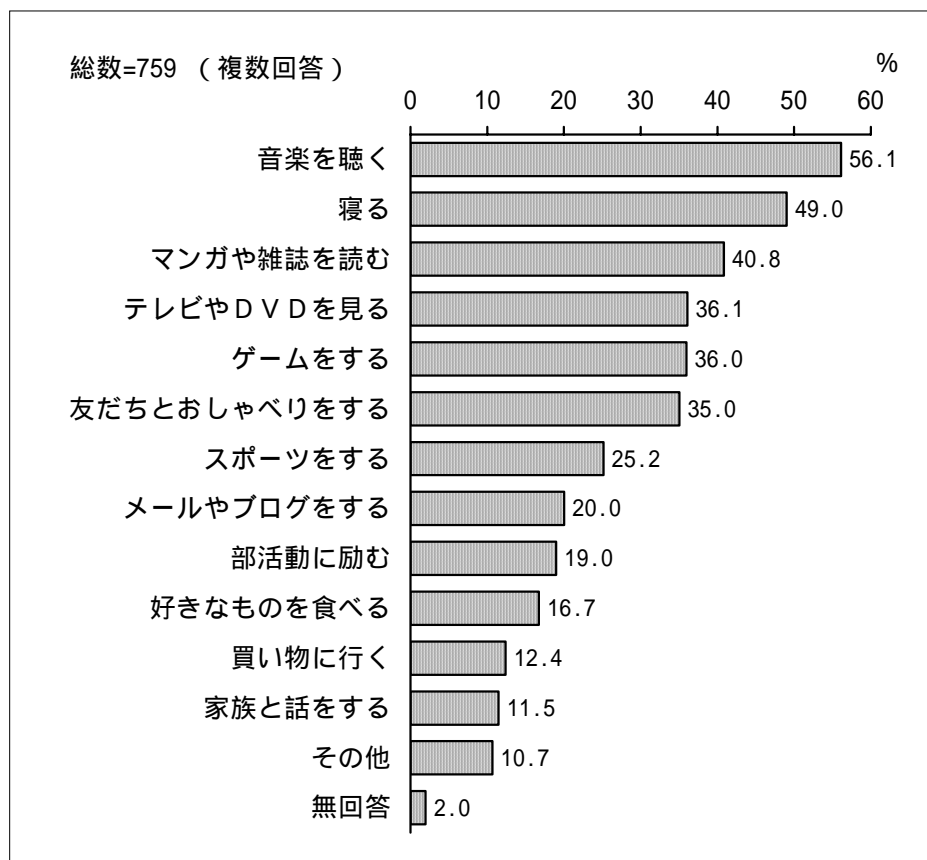


図6-10 ストレスを感じたときの過ごし方

ストレスを感じたときの過ごし方は、「音楽を聴く」が56.1%で最も多く、以下「寝る」が49.0%、「マンガや雑誌を読む」が40.8%が続いています。

◆ 男女別でみると、男子は「寝る」が47.8%で最も多く、次いで「ゲームをする」が46.5%、「音楽を聴く」が45.4%が続いています。一方、女子は「音楽を聴く」が68.8%で最も多く、次いで「友達とおしゃべりをする」が51.9%、「マンガや雑誌を読む」が43.6%が続いています。

また、男女の割合の差を項目ごとに見ると、「スポーツをする」「ゲームをする」は男子の方が15ポイント以上高く、「買い物に行く」「友達とおしゃべりをする」「メールやブログをする」「音楽を聴く」「家族と話をする」は女子の方が15ポイント以上高くなっています。

		買い物に行く	友達としゃべりする	メールやブログをする	好きなものを食べる	音楽を聴く	家族と話をする	マンガや雑誌を読む
全体(N=759)		12.4	35.0	20.0	16.7	56.1	11.5	40.8
性別	男子(n=372)	5.1	19.1	11.8	10.8	45.4	3.5	38.7
	女子(n=362)	20.4	51.9	29.0	22.9	68.8	19.6	43.6
	無回答(n= 25)	4.0	28.0	12.0	16.0	32.0	12.0	32.0

		V D を見る	スポーツをする	ゲームをする	部活動に励む	寝る	その他	無回答
全体(N=759)		36.1	25.2	36.0	19.0	49.0	10.7	2.0
性別	男子(n=372)	33.1	33.6	46.5	20.2	47.8	8.1	2.2
	女子(n=362)	39.2	17.1	24.9	18.8	51.4	12.7	1.7
	無回答(n= 25)	36.0	16.0	40.0	4.0	32.0	20.0	4.0

表 6-6 ストレスを感じたときの過ごし方/性別

問8 あなたは「男(女)だから〇〇しなさい。」と言われることがありますか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

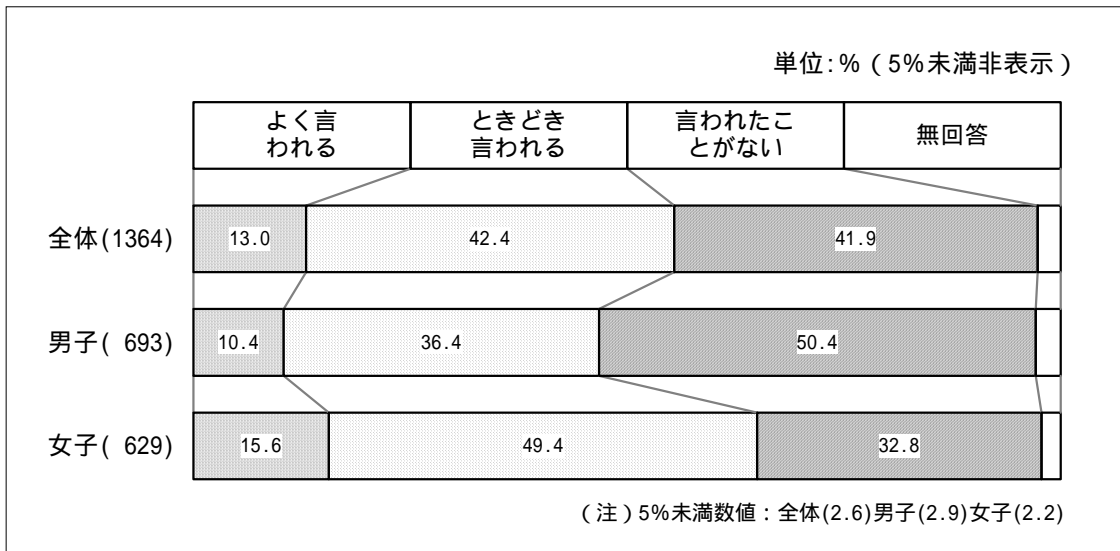


図 6-11 「男(女)だから〇〇しなさい」と言われること

「男(女)だから しなさい。」と言われることについて調査したところ、「ときどき言われる」が 42.4%、「言われたことがない」が 41.9%でともに多くなっています。

◆ 男女別で見ると、男子は「言われたことがない」が 50.4%で最も多く、女子は「ときどき言われる」が 49.4%で最も多くなっています。

問8-1 問8で「1. よく言われる」「2. ときどき言われる」に○をした人にお聞きします。
誰から言われたことがありますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

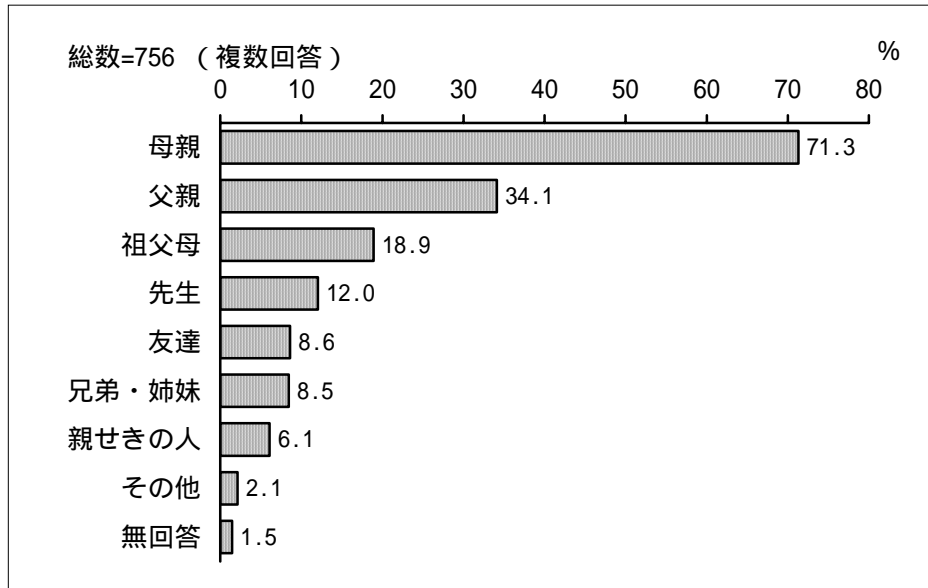


図 6-12 言った人

「男(女)だから 下さい。」ということについて「よく言われる」「ときどき言われる」と回答した人に対し、誰から言われたことがあるかを調査したところ、「母親」が71.3%で最も多くなっています。以下「父親」が34.1%、「祖父母」が18.9%と続いています。

◆ 男女別でみると、「祖父母」は女子が23.0%選んでいるのに対し、男子は13.6%となっています。

		父親	母親	兄弟・姉妹	祖父母	友達	先生	親せきの人	その他	無回答
全体(N=756)		34.1	71.3	8.5	18.9	8.6	12.0	6.1	2.1	1.5
性別	男子(n=324)	38.3	62.7	8.6	13.6	10.5	13.3	5.2	1.9	2.5
	女子(n=409)	31.3	78.2	8.1	23.0	6.6	11.0	6.8	2.4	0.7
	無回答(n=23)	26.1	69.6	13.0	21.7	17.4	13.0	4.3	-	-

表 6-7 言った人/性別

問8-2 そう言われたとき、どのように思いましたか。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

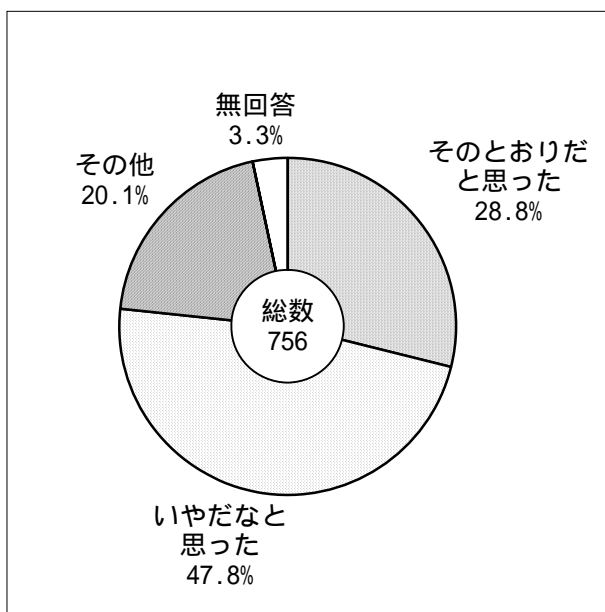


図 6-13 言われたときに思ったこと

「男(女)だから しないで。」ということについて「よく言われる」「ときどき言われる」と回答した人に対し、言われたときどのように思ったかを調査したところ、「いやだなと思った」が47.8%、「そのとおりだと思った」が28.8%となっています。

		その と 思 つ お り だ	と い や つ だ な	そ の 他	無 回 答
全体(N=1364)		28.8	47.8	20.1	3.3
性別	男子(n= 693)	33.3	45.4	17.9	3.4
	女子(n= 629)	25.4	49.6	22.0	2.9
	無回答(n= 42)	26.1	47.8	17.4	8.7

表 6-8 言われたときに思ったこと/性別

問9 あなたは次のことについて注意されたことがありますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

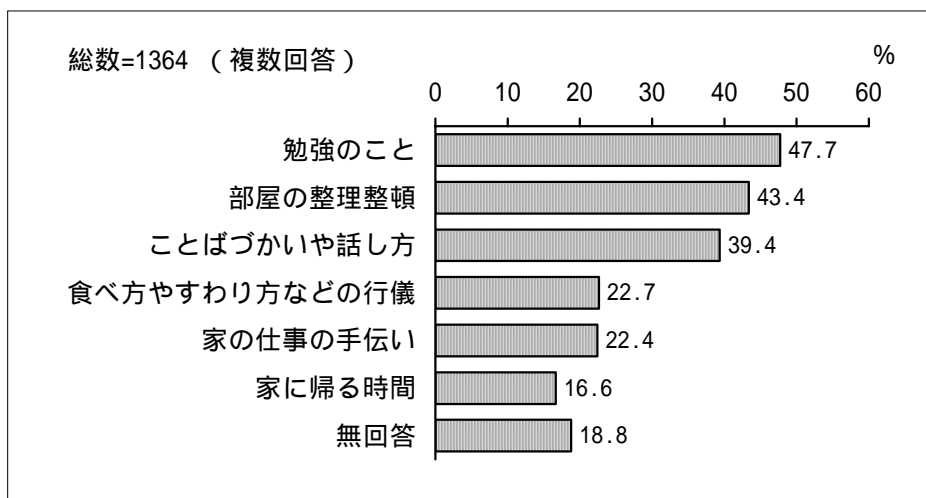


図 6-14 注意された内容

注意された内容は、「勉強のこと」が 47.7%で最も多く、次いで「部屋の整理整頓」が 43.3%、「ことばづかいや話し方」が 39.4%となっています。

◆ 男女別で見ると、男子は「勉強のこと」が 54.5%で最も多く、女子が 41.0%なのに対し 10 ポイント以上高くなっています。一方、女子は「ことばづかいや話し方」が 47.4%で最も多く、男子が 32.6%なのに対し 15 ポイント程度高くなっています。

		ことばづかいや話し方	部屋の整理整頓	家の仕事の手伝い	食べ方やすわり方などの行儀	勉強のこと	家に帰る時間	無回答
全体 (N=1364)		39.4	43.4	22.4	22.7	47.7	16.6	18.8
性別	男子 (n= 693)	32.6	44.6	18.8	22.1	54.5	16.6	15.9
	女子 (n= 629)	47.4	42.1	26.2	23.1	41.0	17.2	21.8
	無回答 (n= 42)	31.0	42.9	26.2	26.2	35.7	9.5	21.4

表 6-9 注意された内容

問10 あなたは将来、どのような職業につきたいと思っていますか。自由にご記入ください。

記述のあった回答（N=916：未定・特にない・わからないなどの記述、無回答を除く。）を、“具体的な職業”と“職種・条件”の大きく2種類に分類し、全体・男女別に比較しました。

“具体的な職業”は、全体では「プロのスポーツ選手」が16.6%で最も多く、次いで「保育士/幼稚園の先生」が11.8%、「医者・看護師・薬剤師」が6.1%となっています。

◆ 男女別でみると、男子は「プロのスポーツ選手」が29.6%で最も多く、以下「大工などの職人・技術者」が7.2%、「会社員・OL」が6.3%となっています。

一方、女子は、「保育士/幼稚園の先生」が21.3%で最も多く、以下「医者・看護師・薬剤師」が8.8%、「美容師・理容師」が7.1%となっています。

“職種・条件”は、全体では「人の役に立つ仕事」が13.2%で最も多く、次いで「スポーツ関係の仕事」が12.7%、「動物関係の仕事」が9.1%となっています。

◆ 男女別でみると、男子は「スポーツ関係の仕事」が20.2%で最も多く、次いで「人の役に立つ仕事」が11.3%、「ある程度の収入がある仕事」が6.4%となっています。

一方、女子は、「動物関係の仕事」が14.7%で最も多く、次いで「人の役に立つ仕事」が14.3%、「スポーツ関係の仕事」「音楽関係の仕事」がともに6.7%となっています。

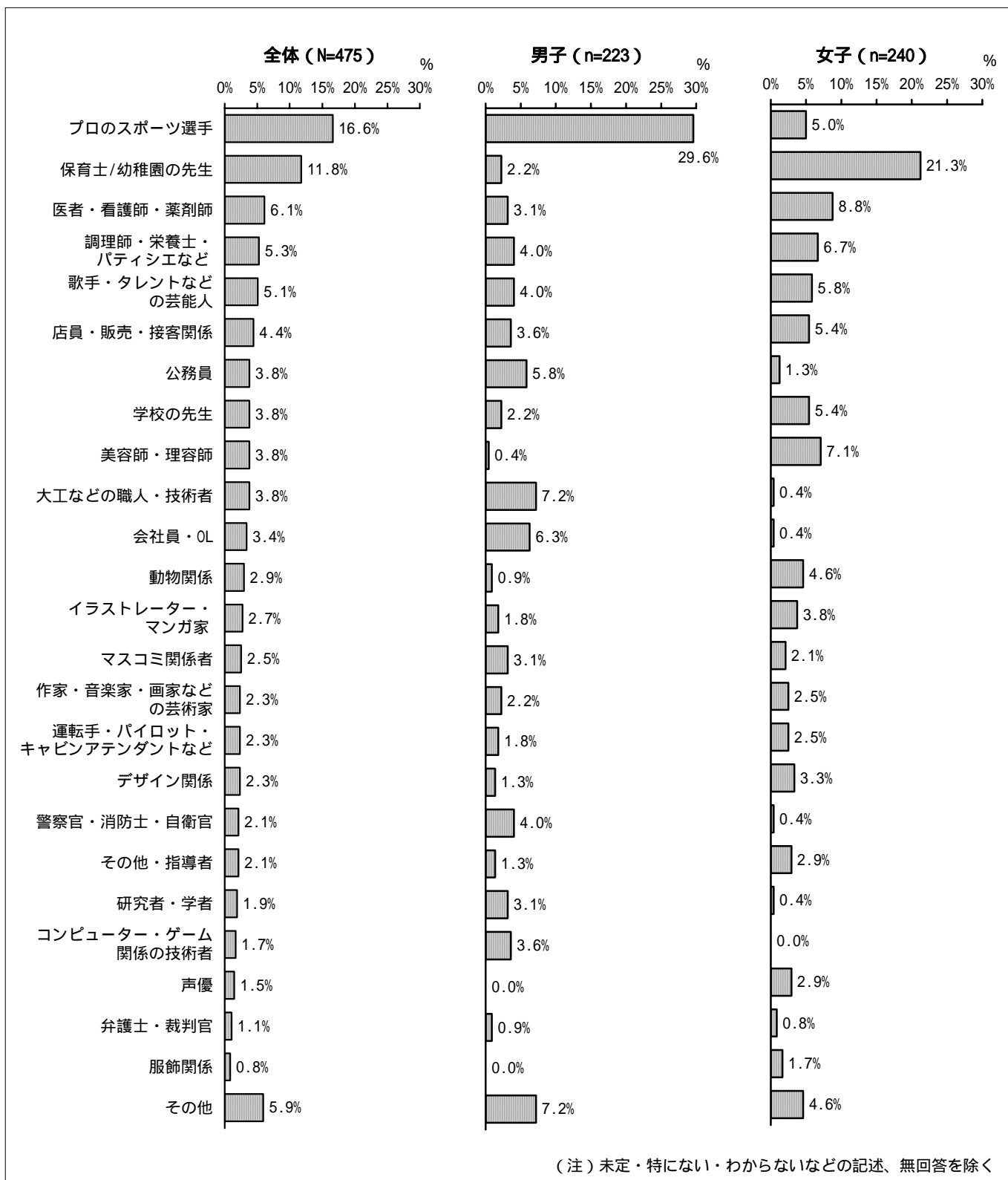


図 6-15 将来就きたい職業（具体的な職業）

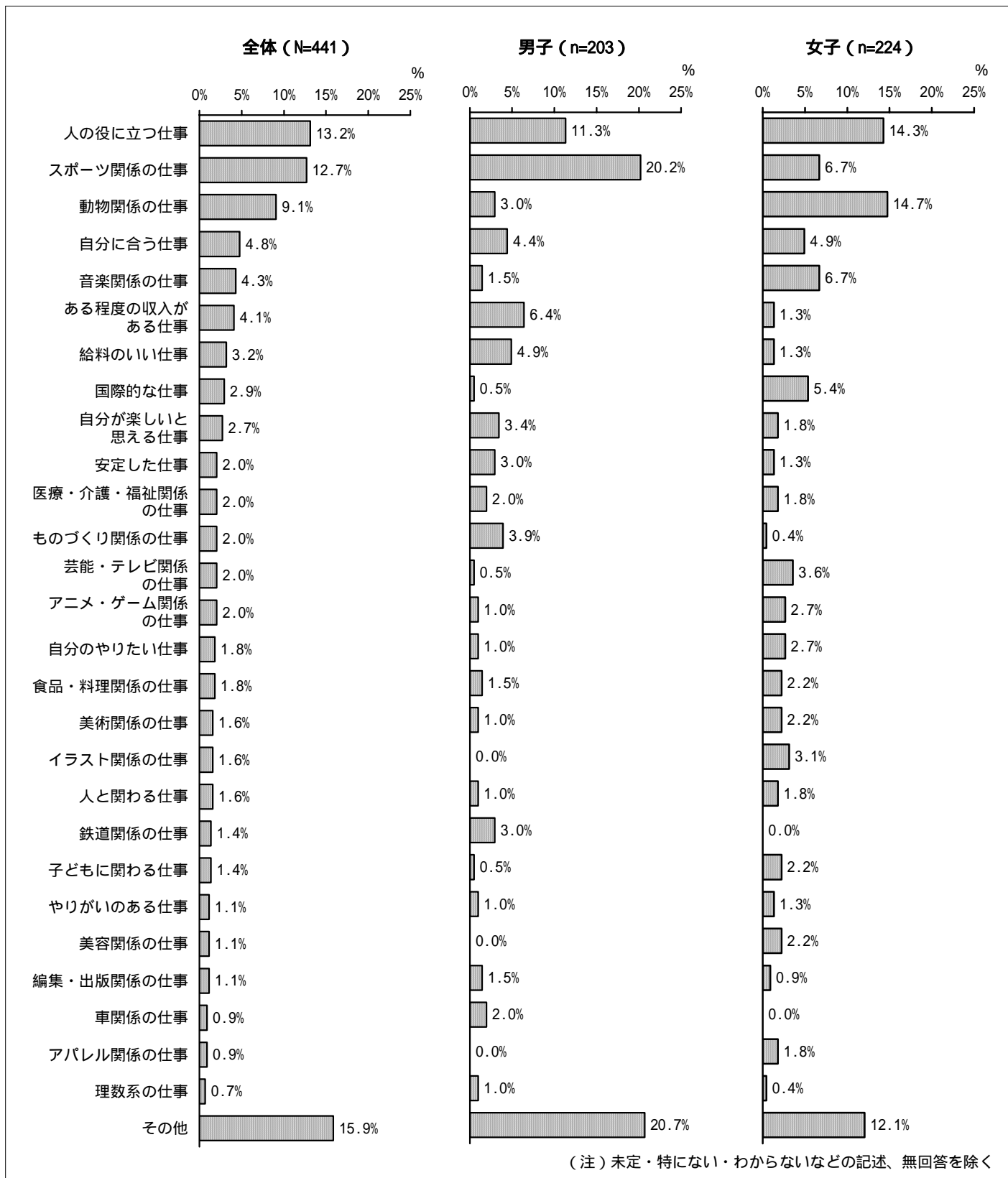


図 6-16 将来就きたい職業（職種・条件）

問 11 あなたは女性が働くことについてどう考えますか。あなたの考えにあてはまる番号に1つ〇をつけてください。

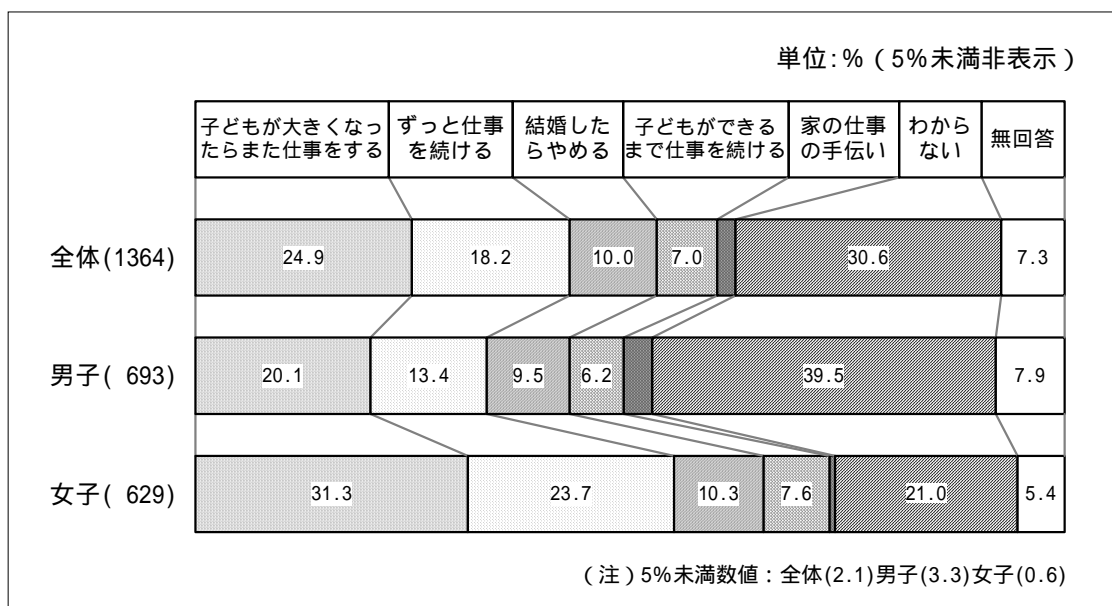


図 6-17 女性が働くことについて/性別

女性が働くことについて調査したところ、「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったらまた仕事をする」が 24.9%で最も多く、次いで「結婚したり子どもができて、ずっと仕事を続ける」が 18.2%、「結婚するまでは仕事をして、結婚したらやめる」が 10.0%となっています。

◆ 男女別でみると、「結婚したり子どもができて、ずっと仕事を続ける」「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったらまた仕事をする」ともに男子より女子の方が 10 ポイント程度高くなっています。

問 12 あなたは「男女共同参画」ということばを知っていましたか。

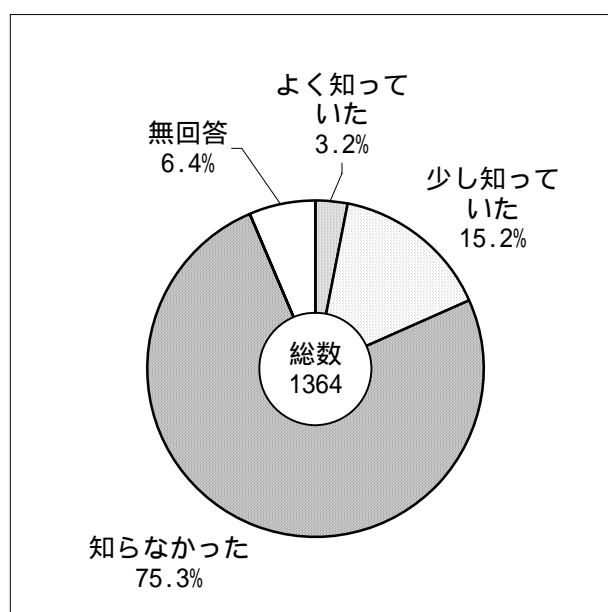


図 6-18 男女共同参画の認知度

男女共同参画の認知度は、「知らなかった」が 75.3%で圧倒的に多くなっています。「よく知っていた」「少し知っていた」は合わせて 20%未満となっています。

【参考資料】

男女共同参画に関する意識・意向調査

【調査ご協力をお願い】

日頃より、区政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

このたび、区民の皆さまが日頃、男女共同参画について、どのように感じていらっしゃるのかをお伺いし、今後の区の施策や、男女共同参画社会をめざす行動計画「アゼリアプラン」の見直しにあたっての基礎資料とさせていただくため、この調査を実施することといたしました。

調査の実施にあたりまして、住民基本台帳から無作為に2000人を抽出したところ、あなた様をお願いすることになりました。

記入につきましては無記名でお願いし、調査結果は統計的な数値として取りまとめ、ご回答いただきました内容は調査目的以外には使用いたしません。プライバシーに関わる内容が公表されることは一切ございませんので、ぜひ率直なご意見をおきかせください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年6月

北区長 花川與惣太

ご記入にあたってのお願い

- 1 調査の回答は必ずあて名のご本人さまがお答えください。
- 2 質問ごとにあてはまる回答の番号を選び、直接その番号を○で囲んでください。
- 3 質問によって、○をつける数を「1つ」「すべて」などと指定しておりますので、その範囲内でお答えください。
- 4 選択肢の中の「その他()」にあてはまる場合は、()内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。
- 5 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や「ことわり書き」をよくお読みください。
- 6 ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。

ご記入いただきました調査票は、同封の回収用封筒（切手を貼る必要はありません）に入れ、7月6日(日)までにご投函ください。

【調査についてのお問い合わせ先】

北区子ども家庭部男女共同参画推進課

☎03-3908-9307（直通）

あなた自身について

F1 あなたの性別をお答えください。

- 1 . 男性 2 . 女性

F2 あなたの年齢はおいくつですか。（平成 20 年 6 月 1 日現在でお答えください）

- 1 . 10 歳代 3 . 30 歳代 5 . 50 歳代 7 . 70 歳代以上
2 . 20 歳代 4 . 40 歳代 6 . 60 歳代

F3 あなたは今、結婚していますか。

- 1 . している（事実婚を含む） 3 . していない（未婚）
2 . していない（離別・死別など）

F3-1 F3で「1. している（事実婚を含む）」とお答えの方にお聞きします。あなたの世帯の働き方を教えてください。

- 1 . 共働き 3 . 妻だけ働いている
2 . 夫だけ働いている 4 . 夫婦とも無職

F4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

- 1 . いない 2 . 1 人 3 . 2 人 4 . 3 人 5 . 4 人以上

F5 あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。

- 1 . ひとり暮らし 4 . 親と子ども夫婦（2 世代家族）
2 . 夫婦のみ 5 . 親と子どもと孫（3 世代家族）
3 . 親と独身の子ども（2 世代家族） 6 . その他（ ）

家庭生活について

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. そう思う | 4. そう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 6. わからない |

問2 家庭での男女の役割について、次のうちどれが望ましいと思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 男性が仕事、女性は家事・育児を分担する
2. 男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性がする
3. 男女とも仕事をし、家事・育児は男女が分担する
4. 男女とも仕事をし、家事・育児は主に男性がする
5. 女性が仕事、男性は家事・育児を分担する
6. その他()
7. わからない

問3 あなたのご家庭では、次にあげる家事は主にどなたが行っていますか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

	1 父	2 母	3 自分	4 配偶者	5 子ども	6 みんなで交代	7 その他	8 サービスの利用
a) 食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7	8
b) 食事の後片付け	1	2	3	4	5	6	7	8
c) 掃除	1	2	3	4	5	6	7	8
d) 洗濯	1	2	3	4	5	6	7	8
e) 日用品の買い物	1	2	3	4	5	6	7	8
f) ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	7	8
g) 子どもの世話	1	2	3	4	5	6	7	8
h) 介護	1	2	3	4	5	6	7	8
) 町会・自治会等の地域活動	1	2	3	4	5	6	7	8

職業・職場について

問6 あなたの職業は次のうちどれですか。

- | | |
|---------------------|-----------|
| 1. 自営業・自由業・家族従業員 | 5. 学生 |
| 2. 常勤の勤め | 6. 無職 |
| 3. パート・アルバイト・内職等の勤め | 7. その他() |
| 4. 家事・育児・介護に専念 | |

問6-1 問6で「1. 自営業・自由業・家族従業員」「2. 常勤の勤め」「3. パート・アルバイト・内職等の勤め」とお答えした方にお聞きします。あなたが働いている理由は主にどのようなことですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 生計を維持するため
2. 生活費補助のため
3. 将来に備えて貯蓄するため
4. 自分で自由になる収入がほしいため
5. 自分の能力、技能、資格を活かすため
6. 働くことが好きだから
7. 視野を広めたり、友人を得るため
8. 社会的な信用を得るため
9. 働くのがあたりまえだと思うから
10. 家業だから
11. 時間的に余裕があるから
12. その他()

問7 女性が仕事をする事について、あなたが望ましいと思うのは次のうちどれですか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 結婚するまでは仕事をするが、結婚後はしない
2. 子どもができるまでは仕事をするが、その後はしない
3. 子育ての時期だけ一時やめて、その後はまた仕事をする
4. 結婚・出産に関わらず、ずっと仕事をする
5. 女性は仕事に就かない方がよい
6. その他()
7. わからない

問 8 仕事をやめた女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 出産・育児などで退職しても、同一企業に採用されるようにすること
2. 求人情報を入手しやすくすること
3. 再就職のためのセミナー・講習会を実施すること
4. 技術や技能の習得の機会を多くすること
5. パート労働条件の向上させること
6. 就職に対する相談体制を充実させること
7. 保育所等の施設を整備すること
8. その他（)
9. わからない

問 9 あなたは仕事と私生活の両立について、どのように考えますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 仕事を優先する
2. どちらかという仕事を優先する
3. 仕事と私生活をバランスよく両立させる
4. どちらかという私生活を優先する
5. 私生活を優先する
6. その他（)
7. わからない

問 10 育児休業は男性も女性も取ることができる制度ですが、あなたは男性が育児休業を取得することについてどのように思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 取ったほうがよい
2. どちらかという取ったほうがよい
3. どちらかという取る必要はない
4. 取る必要はない
5. その他（)
6. わからない

問 11 育児休業を男性が取りやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

- 1．職場に利用しやすい雰囲気があること
- 2．以前に取得した人の例があること
- 3．上司や同僚などの理解や協力があること
- 4．賃金や手当などの経済的支援があること
- 5．昇進や昇格に影響がないこと
- 6．育児休業中の代替要員が確保されること
- 7．復帰後の仕事が保障されること
- 8．その他()
- 9．取得者を増やす必要はない

問 12 女性も男性も働きやすい職場にしていくために、どのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

- 1．労働時間を選べるようにすること
- 2．短時間勤務や在宅勤務など多様な働き方の仕組みが整うこと
- 3．男女とも残業や休日出勤を減らすこと
- 4．育児・介護休業などの両立支援制度が整うこと
- 5．職場内保育所などの保育環境が整うこと
- 6．男女の雇用機会や昇進、待遇の格差がなくなること
- 7．女性管理職を積極的に登用すること
- 8．社員の能力を適正に評価する仕組みが整うこと
- 9．契約・派遣社員などの労働条件が向上すること
- 10．仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること
- 11．その他()
- 12．わからない

地域活動について

問 17 あなたは、現在住んでいる地元のどのような地域活動に参加していますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 町会や自治会の活動
2. 保護者会やPTA活動
3. 子ども会や青少年のスポーツの指導や世話
4. 趣味・学習・スポーツ活動
5. NPO、ボランティアなどの区民活動
6. その他()
7. 参加している活動はない

問 17-1 問 17 で「7. 参加している活動はない」とお答えした方にお聞きします。地域活動に参加していない理由はなんですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 家事や仕事が忙しいから | 6. 参加したい活動がないから |
| 2. 育児や家族の介護が忙しいから | 7. 地域活動には関心がないから |
| 3. 自分の健康上の理由から | 8. 地域活動に関する情報が少ないから |
| 4. ひとりでは参加しにくいから | 9. その他() |
| 5. 人間関係がわずらわしいから | |

問 18 男性も女性も地域活動に参加しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 参加しやすい日時や場所を設定する
2. 性別により活動内容の区別をしない
3. 男性が地域団体の活動に関心や積極性を持つ
4. 女性が地域団体の活動に関心や積極性を持つ
5. 地域団体の取り組みの広報
6. 労働時間の短縮やボランティア休暇など、就労環境を整備する
7. 活動拠点を充実させる
8. その他()
9. わからない

問 20-3 問 20-1 で「2. 相談しなかった（できなかった）」とお答えした方にお聞きします。だれ（どこ）にも相談しなかった、できなかった理由はなんですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. どこに相談してよいかわからなかったから
2. 恥ずかしかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談することによって、不快な思いをすと思ったから
5. 自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけると思ったから
6. 世間体が悪いから
7. 被害を受けたことを忘れたいから
8. 自分にも悪いところがあると思ったから
9. 相談するほどのことではないと思ったから
10. その他（)

問 21 あなたは、配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などからの暴力の防止や被害者支援のために、どのような対策が必要だと思えますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発
2. 緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援策
3. カウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援策
4. 加害者へのカウンセリングなど更生対応
5. 家庭・学校において、お互いの性を尊重する意識づくり
6. その他（)
7. わからない

問 22 テレビ、DVD、インターネット、映画、新聞、雑誌、広告などのメディアにおける性・暴力表現について、あなたは日ごろどのように感じていますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 女性の性的な面を強調する表現が目立つ
2. 性暴力や性犯罪の増加につながる
3. 社会全体の性や暴力に関する倫理観が損なわれている
4. 性・暴力表現を見たくない人や、子どもの目にふれないような配慮が足りない
5. 特に問題ない
6. その他（)
7. わからない

男女共同参画について

問 23 男女共同参画社会をめざす行動計画「北区アゼリアプラン」をご存知ですか。

- 1 . 知っている
- 2 . 知らない

問 24 北区では平成 18 年6月に「北区男女共同参画条例」を制定しましたが、この条例についてご存知ですか。

- 1 . 条例を制定したことも、条例の内容についても知っている
- 2 . 条例を制定したことは知っているが、条例の内容については知らない
- 3 . 条例を制定したことは知らない

問 25 北区男女共同参画条例に基づき、「北区苦情解決委員会」を設置していますがご存知ですか。

- 1 . 北区苦情解決委員会を設置したことも、内容についても知っている
- 2 . 北区苦情解決委員会を設置したことは知っているが、内容については知らない
- 3 . 北区苦情解決委員会を設置したことは知らない

問 26 男性と女性があらゆる分野に共同で参画することを推進するために、北区は今後どのような施策に力を入れると良いと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

- 1 . 女性の就労支援・起業などの支援
- 2 . 男女の対等な労働条件を整備するための働きかけ
- 3 . 育児・介護休業制度の普及など多様な働き方に向けた取り組み
- 4 . 保育サービスの充実や子育て支援策の充実
- 5 . 施設・在宅介護サービスの充実
- 6 . 家庭内等における暴力の被害者への支援
- 7 . セクシャル・ハラスメントを防止するための施策の充実
- 8 . 健康づくりのための検診体制や相談体制の充実
- 9 . 学校での男女共同参画についての教育の充実
- 10 . 男女共同参画を推進するための情報提供や学習機会の充実
- 11 . 施策・方針決定過程への女性の参画の促進
- 12 . その他 ()
- 13 . 特にない

問 29 北区の男女共同参画の推進施策について、ご意見・ご要望を自由にご記入ください。



アンケート調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。
ご記入いただきました調査票は同封の回収用封筒に入れポストに投函してください。

男女共同参画に関する意識・意向調査

ご記入にあたってのお願い

- 1 調査の回答は必ず事業所の経営者・責任者ご本人さまがお答えください。
- 2 この調査は事業所を単位として行っています。各設問については、貴事業所に限ったお答えをご記入ください。
- 3 質問ごとにあてはまる回答の番号を選び、直接その番号を○で囲んでください。
- 4 質問によって、○をつける数を「1つ」「すべて」などと指定しておりますので、その範囲内でお答えください。
- 5 選択肢の中の「その他()」にあてはまる場合は、()内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。
- 6 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので矢印や「ことわり書き」をよくお読みください。
- 7 特にことわりのない限り、平成 20 年 4 月 1 日現在でご記入ください。
- 8 ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。

ご記入いただきました調査票は、同封の回収用封筒（切手を貼る必要はありません）に入れ、7月6日(日)までにご投函ください。

【調査についてのお問い合わせ先】

北区子ども家庭部男女共同参画推進課

☎03-3908-9307（直通）

事業所について

F1 業種をお答えください。

- | | |
|-----------|---------------------|
| 1. 建設業 | 7. 不動産業 |
| 2. 製造業 | 8. 飲食店・宿泊業 |
| 3. 情報通信業 | 9. 医療・福祉 |
| 4. 運輸業 | 10. 教育・学習サービス |
| 5. 卸売・小売業 | 11. サービス業 |
| 6. 金融・保険業 | 12. その他（上記に含まれない業種） |

F2 常用従業者数をお答えください。

	男 性	女 性
正社員数	人	人
パート従業員	人	人

F3 平均年齢および、平均勤続年数をお答えください

	男 性	女 性
平均年齢	歳	歳
平均勤続年数	年	年

F4 事業所の性格をお答えください。

1. 単独事業所 2. 本社・本店 3. 支社・営業所

F5 労働組合の有無をお答えください。

1. 有 2. 無

女性の役職者について

問1 貴事業所では、役職者は何人いますか。うち女性役職者についてもお答えください。

役職者には、企業の組織系列の各部署において、配下の係員を指揮・監督する役職の他、専門職、スタッフ管理職と呼ばれている役職を含みます。

部長・課長等の役職名を採用していない場合や次長等役職欄にない職については、貴事業所の実態により、どの役職に該当するか適宜判断してください。

登用状況 区分	役職者数				内女性			
	役員				人			
部長相当職				人				人
課長相当職				人				人

問1-1 問1で女性の役職者が少ない(1割未満)あるいは、全くいない役職区分が1つでもある場合、それはどのような理由からだと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

1. 必要な知識や経験、判断力等を有する女性がいらない
2. 将来役職者に就く可能性のある女性はあるが、現在役職に就くための在職年数を満たしているものがない
3. 勤続年数が短く、役職者になるまでに退職してしまう
4. 時間外労働が多い、または深夜業があるので役職者にできない
5. 出張、全国転勤があるので役職者にできない
6. 仕事がハードで女性には無理である
7. 女性自身が役職者になることを希望しない
8. 上司・同僚・部下になる男性が女性役職者を希望しない
9. 女性が少ない、いない
10. その他()

ワークライフバランスについて

ワークライフバランスとは：

個人が子育て期、中高年期といった生涯の各段階に応じて、仕事と家庭・地域生活の調和が図れるよう働く環境を整備すること

問2 ワークライフバランスについてどの程度関心がありますか。

- 1．関心がある
- 2．どちらかといえば関心がある
- 3．どちらともいえない
- 4．どちらかといえば関心がない
- 5．関心がない
- 6．ワークライフバランスということがよくわからない

問3 貴事業所でのワークライフバランスの取り組み状況についてお聞きします。あてはまる番号にすべて○をつけてください

- 1．フレックスタイム制
- 2．始業、就業時刻の繰上げ、繰下げ
- 3．短時間勤務制度
- 4．育児・介護に関する経済的支援
- 5．有給休暇を半日単位で取得できる
- 6．深夜労働をさせない
- 7．ボランティア休暇制度
- 8．育児や介護を理由とした転勤の免除
- 9．その他（)
- 10．特に取り組みは行っていない

問4 ワークライフバランスを推進する上で一番重要なことは何だと思えますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

- 1．企業のトップの意識
- 2．上司・同僚の理解
- 3．行政の経費補助
- 4．職場の両立支援制度の充実
- 5．保育園等、社会環境の整備
- 6．育児・介護休業法等、法律の知識普及
- 7．その他（)
- 8．わからない

問5 育児休業・介護休業制度についてお聞きします。あてはまる番号に○をつけてください。

	法定どおりの制度がある	法定を超える制度がある	
a) 育児休業制度	1	2	子が <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 歳まで
b) 介護休業制度	1	2	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 日

問6 19年度中で育児休業制度の対象者はいましたか。(平成19年4月～平成20年3月31日)

1. 対象者がいた 対象者数 人 2. 対象者がいなかった

問6-1 問6で「1. 対象者がいた」とお答えした方にお聞きします。対象者は育児休業制度を利用しましたか。

1. 利用した

	合計	男性	女性
利用人数	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 人	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 人	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 人

2. 利用しなかった

問6-2 問6-1で「利用した」と回答した場合、その従業員の代替要員はどうしましたか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 代替要員の採用をした 3. 代替はなかった
2. 社内の配置転換により代替した 4. その他 ()

問7 19年度中で介護休業制度の対象者はいましたか。(平成19年4月～平成20年3月31日)

1. 対象者がいた 対象者数 人 2. 対象者がいなかった

問7-1 問7で「1. 対象者がいた」とお答えした方にお聞きします。対象者は介護休業制度を利用しましたか。

1. 利用した

	合計	男性	女性
利用人数	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 人	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 人	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 人

2. 利用しなかった

問7-2 問7-1で「利用した」と回答した場合、その従業員の代替要員はどうしましたか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 代替要員の採用をした 3. 代替はなかった
2. 社内の配置転換により代替した 4. その他 ()

問 12 「次世代育成支援対策推進法」に規定している、一般事業主行動計画の策定についてご存知ですか。

- 1 . 知っていた
- 2 . 知らなかった

問 13 貴事業所では一般事業主行動計画を策定されていますか。

一般事業主行動計画とは：

「次世代育成対策推進法」では、国、地方公共団体とともに企業等にも仕事と家庭生活との両立が図れるよう、必要な雇用環境を整備することを求められました。ここで、「301人以上の労働者を雇用する事業主は、『一般事業主行動計画』を策定し、その旨を都道府県労働局へ届けること」を義務づけました。(300人以下は努力義務)

- 1 . 策定済み
- 2 . 策定中
- 3 . 近いうちに策定予定
- 4 . 検討中
- 5 . 策定する予定はない

問 14 北区では平成 18 年 6 月に「北区男女共同参画条例」を制定しましたが、この条例についてご存知ですか。

- 1 . 条例を制定したことも、条例の内容についても知っている
- 2 . 条例を制定したことは知っているが、内容については知らない
- 3 . 条例を制定したことは知らない

問 15 北区男女共同参画条例に基づき「北区苦情解決委員会」を設置していますがご存知ですか。

- 1 . 北区苦情解決委員会を設置したことも、内容についても知っている
- 2 . 北区苦情解決委員会を設置したことは知っているが、内容については知らない
- 3 . 北区苦情解決委員会を設置したことは知らない

問 16 北区の男女共同参画の推進対策についてご意見・ご要望を自由にご記入ください。



アンケート調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。
ご記入いただきました調査票は同封の回収用封筒に入れポストに投函してください。

男女共同参画に関する意識・意向調査

【調査ご協力をお願い】

日頃より、区政に深いご理解とご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

本調査は、町会・自治会の会長・役員の方が町会自治会活動における男女共同参画について、日頃どのような意識をもっていらっしゃるのかをお伺いし、今後の区の施策や、男女共同参画社会をめざす行動計画「アゼリアプラン」の見直しにあたっての基礎資料とすることを目的に実施するものです。

調査対象につきましては、各町会自治会会長及び各町会自治会役員合わせて3名の方をお願いしております。調査結果はすべて統計的な数値として取りまとめ、ご回答いただきました内容は調査目的以外には使用いたしません。個人あるいは町会自治会のお名前が出るなど、ご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 20 年 6 月

北区長 花川與惣太

ご記入にあたってのお願い

- 1 調査の回答は必ずご本人さまがお答えください。
- 2 質問ごとにあてはまる回答の番号を選び、直接その番号を○で囲んでください。
- 3 質問によって、○をつける数を「1つ」「すべて」などと指定しておりますので、その範囲内でお答えください。
- 4 選択肢の中の「その他()」にあてはまる場合は、()内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。
- 5 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や「ことわり書き」をよくお読みください。
- 6 ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。

ご記入いただきました調査票は、同封の回収用封筒に入れ、密封して7月7日(月)までに各町会自治会ごとに取りまとめ、各地域振興室にお渡しください。

【調査についてのお問い合わせ先】

北区子ども家庭部男女共同参画推進課

☎03-3908-9307 (直通)

問4 役員会の構成員が各町会・自治会で異なると思いますが、役員会に参加する役員の年代別の男女数をわかる範囲で教えてください。

	20～40歳代	50～60歳代	70～80歳代
男性	名	名	名
女性	名	名	名

問5 町会・自治会活動では、活動の主体が女性となっても、会長や副会長等のリーダーには、まだまだ女性が少ない傾向が見られます。その主な原因は何だと思えますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 仕事や家事、育児が忙しく、地域活動に専念できないから
2. 学校や幼稚園等で役員を行っているから
3. 女性自身がリーダーに就きたがらないから
4. その他()
5. わからない

【ここからは全員の方にお聞きします】

男女共同参画について

男女共同参画とは、男女の人権が平等に尊重され、性別に関わりなく、あらゆる分野で個性と能力が発揮できること、そして対等に社会的責任を果たしていくことをいいます。

問6 北区では、平成18年6月に「北区男女共同参画条例」を制定しましたが、この条例についてお答えください。

1. 条例を制定したことも、条例の内容についても知っている
2. 条例を制定したことは知っているが、内容については知らない
3. 条例を制定したことは知らない

問6-1 問6で「1. 条例を制定したことも、条例の内容についても知っている」「2. 条例を制定したことは知っているが、内容については知らない」と答えた方にお聞きします。条例は何で知りましたか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 北区ニュース
2. 北区のホームページ
3. 条例のパンフレット
4. 町会・自治会や民生委員協議会などの会議の場
5. 情報誌「ゆうレポート」
6. その他()

問7 条例に基づき「北区苦情解決委員会」を設置していますがご存知ですか。

苦情解決委員会は、平成19年1月に設置し、区民や区内事業者から、男女共同参画の推進に影響及び阻害するような事項に関する苦情の申出を受け付けています

1. 北区苦情解決委員会を設置したことも、内容についても知っている
2. 北区苦情解決委員会を設置したことは知っているが、内容については知らない
3. 北区苦情解決委員会を設置したことは知らない

問8 町会・自治会の研修や懇談会で男女共同参画について話し合いをしたことがありますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 男女共同参画について話し合いをしたことがある
2. 女性の人権や配偶者やパートナーのような親密な関係にある人からの暴力について話し合いをしたことがある
3. 北区男女共同参画条例について話し合いをしたことがある
4. 特に研修や懇談会で取り上げたことはない

問9 男女共同参画を推進するために、町会・自治会として既に取り組まれていることはどのようなことですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 男女に関わりなく、できるだけ多くの世代が行事に参加できるように工夫する
2. 男女に関わらず、誰でも意見が言えるようにし、よい意見は取り上げていく
3. 性別による役割分担を行わないようにする
4. 役員等は、男女に関わりなく適性で選ぶようにする
5. その他()
6. 特に取り組みはない

問10 北区の男女共同参画の推進施策についてご意見・ご要望を自由にご記入ください。

アンケート調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

平成20年6月

男女共同参画に関する意識・意向調査

中学生の皆さんへ

この調査は、中学2年生のみなさんが、男女共同参画について、現在どのように考えているかを知るために北区が行うものです。

男女共同参画とは、男性も女性も一人の人間として尊重され、社会の中で自分の個性と能力を十分に発揮して、いきいきと生きることをいいます。

調査用紙には、あなたの名前を書く必要はありません。あなたの答えは、他人にはわかりませんので、ふだん考えていることを答えてください。

記入にあたってのお願い

- 1 質問をよく読んで、あてはまるものに○をつけてください。
- 2 質問によっては、○の数が複数になることもありますので、指示にしたがってください。
- 3 答えに、「その他()」を選んだときは、その具体的な内容を()内に記入してください。
- 4 意味のわからない質問や答えたくない質問があったときは、その質問をとばして先に進んでください。
- 5 書き終わりましたら、先生に提出してください。

北区子ども家庭部男女共同参画推進課

あなた自身について

F1 あなたの性別をお答えください。

- 1．男子 2．女子

F2 あなたは現在、どなたと一緒に住まいですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

- 1．父親 4．姉妹 7．親の兄弟・姉妹（おじ・おば）
2．母親 5．祖父 8．その他（ ）
3．兄弟 6．祖母

家庭での生活について

問1 あなたの父・母についてお聞きします。

- 1．父・母は共働きである 3．母親のみが働いている
2．父親のみが働いている 4．その他（ ）

問2 あなたが家でしている、あるいはすることがある仕事はなんですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

- 1．食事のしたく 3．そうじ 5．買い物
2．食事の片づけ 4．洗濯 6．その他（ ）

学校での生活について

問3 リーダー（生徒会の会長やいろいろな係の責任者など）についてお聞きします。リーダーにふさわしいと思う人について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

- 1．男子がふさわしい 3．男女どちらでもかまわない
2．女子がふさわしい

問4 あなたはクラスのリーダーを決めるときに、どうしますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

- 1．自分から立候補する 3．できればやりたくない
2．誰かに推薦されれば、立候補する 4．その他（ ）

問8 あなたは「男（女）だから〇〇しなさい。」と言われることがありますか。
あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

- 1．よく言われる 2．ときどき言われる 3．言われたことがない

問8-1 問8で「1．よく言われる」「2．ときどき言われる」に〇をした人
にお聞きします。誰から言われたことがありますか。あてはまる番号にすべ
て〇をつけてください。

- | | | |
|---------|-------|-------------------------------|
| 1．父親 | 4．祖父母 | 7．親せきの人 |
| 2．母親 | 5．友達 | 8．その他（ ） |
| 3．兄弟・姉妹 | 6．先生 | |

問8-2 そう言われたとき、どのように思いましたか。あてはまる番号に1つ
〇をつけてください。

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 1．そのとおりだと思った | 3．その他（ ） |
| 2．いやだなと思った | |

問9 あなたは次のことについて注意されたことがありますか。あてはまる番号に
3つまで〇をつけてください。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1．ことばづかいや話し方 | 4．食べ方やすわり方などの行儀 |
| 2．部屋の整理整頓 | 5．勉強のこと |
| 3．家の仕事の手伝い
（そうじ、買物など） | 6．家に帰る時間 |

問10 あなたは将来、どのような職業につきたいと思っていますか。自由にご記
入ください。

問 11 あなたは女性が働くことについてどう考えますか。あなたの考えにあてはまる番号に1つ○をつけてください。

- 1．結婚したり子どもができて、ずっと仕事を続ける
- 2．結婚するまでは仕事をして、結婚したらやめる
- 3．子どもができるまでは仕事を続ける
- 4．子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったらまた仕事をする
- 5．女性は仕事を持たないほうがよい
- 6．わからない

問 12 あなたは「男女共同参画」ということばを知っていましたか。

- 1．よく知っていた
- 2．少し知っていた
- 3．知らなかった

アンケート調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

北区男女共同参画に関する意識・意向調査報告書

平成 20 年 10 月

発行：北区子ども家庭部男女共同参画推進課
〒114-8508 東京都北区王子本町 1-15-22
電話：03-3908-9307（ダイヤルイン）

調査分析：株式会社 社会構想研究所
〒105-0003 東京都港区西新橋 2-22-4
電話：03-6430-9277

刊行物登録番号 20 1 058
